鳥取県教育文化財団調査報告書　87

一般国道９号（東伯中山道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡東伯町

八橋第８・９遺跡

２００４

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省　倉吉河川国道事務所

鳥取県教育文化財団調査報告書 87

一般国道9号(東伯中山道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

八橋第8・9遺跡 正誤表

頁	行・挿図	誤	正
122頁	第137図下3段	銹造品	鍛造品
126頁	4行目	5㎜	6㎜
126頁	5行目	8段階	数字
126頁	23行目	精練	製練
145頁	表73左上 (5ヶ所)	試料番号	資料番号
145頁	表73中 (5ヶ所)	遺物No.	構成No.
145頁	表73右枠内 (5ヶ所)	試料	資料
163頁	12行目	椀A類 ・・・	左記の文章を削除
178頁	第153図中段の図中	SI19	SI18

鳥取県教育文化財団調査報告書　87

一般国道９号（東伯中山道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県東伯郡東伯町

八橋第８・９遺跡

２００４

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省　倉吉河川国道事務所

1．南谷部土器集中ブロック１検出状況

2．SI14遺物出土状況

巻頭図版２

１．調査後の遺跡遠景（北から　手前は別所中峯遺跡）

２．丘陵上の遺構検出状況（北が上）

序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところでありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道９号（東伯中山道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施して参りました。

そのうち、東伯町における八橋第８・９遺跡では、古墳時代後期～終末期の集落が明らかとなり、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができ、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

財団法人　鳥取県教育文化財団

理事長　**有　田　博　充**

序　文

一般国道９号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡泊村から米子市（鳥取―島根県境）までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

東伯中山道路は、東伯郡東伯町から西伯郡中山町にかけての、国道９号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成15年度は、「中尾第１遺跡」、「井図地頭遺跡」、「三林遺跡」、「笠見第３遺跡」、「久蔵峰北遺跡」、「蝮谷遺跡」、「岩本遺跡」、「八橋第８・９遺跡」、「別所中峯遺跡」、「松谷中峰遺跡」、の10遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「八橋第８・９遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成16年３月

国土交通省　倉吉河川国道事務所

所　長　**矢　田　光　夫**

例　言

1．本報告書は、一般国道９号（東伯中山道路）の改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した八橋第８・９遺跡の調査報告書である。

2．本遺跡に収載した遺跡の所在地は以下のとおりである。
八橋第８・９遺跡：東伯郡東伯町大字八橋字西二本松2263ほか

3．本報告書で示す標高は、３級水準点ＴＨ10－３－19、ＴＨ10－３－20を基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。なお、Ｘ：、Ｙ：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第Ｖ系の座標値である。

4．本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/50000地形図「大山」・「赤碕」、東伯町地形図1/5000「新農業構造改善事業（東伯地区）№1」を使用した。

5．本報告にあたり、出土石器の石材鑑定を赤木三郎氏にお願いした。また、須恵器の胎土分析を岡山理科大学自然科学研究所白石　純氏に依頼し、玉稿を賜った。記して深謝いたします。

6．本報告にあたり、鉄製品・鉄滓の金属学的分析、植物珪酸体・花粉の自然科学分析、遺跡の航空写真撮影、現地における基準点測量および調査前・調査後地形測量を専門業者に委託した。

7．本報告書に使用した実測・浄書は文化財主事・調査員、整理作業員が行った。

8．本報告で使用した遺構・遺物写真は文化財主事・調査員が撮影した。

9．発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。

10．本報告の執筆は、小口英一郎、北島大輔、原あづさの協議に基づいて分担して行った。文責は目次および各文末に記している。本書の編集は小口英一郎が担当した。

11．現地調査および報告書作成にあたっては下記の方々・機関にご指導、ご協力いただいた。記して謝意を表する次第である。
穴澤義功、阿部芳郎、泉美智子、大賀靖浩、大谷晃二、佐伯純也、芝原祐子、下高瑞哉、西尾克己、濵　隆造、樋口昇一、古谷　渉、松本岩雄（五十音順、敬称略）

凡　例

1．本報告書で用いた遺構・遺物の略号は以下の通りである。
SI：竪穴住居跡、SB：掘立柱建物跡、SK：土坑、SD：溝状遺構、P：柱穴・その他ピット

2．遺構・遺物実測図に用いたスクリーントーン及び記号は、特に説明がない限り以下のものを表す。
□ 地山　□ 硬化面　□ 貼床・焼土面　□ 赤彩・釉範囲
●、■、▲・・・・遺物出土ポイント（左から土器・土製品、石器・石製品、鉄製品）

3．遺物実測図において、須恵器は断面黒塗り、それ以外の土器・土製品は白抜きで表現した。

4．図版の縮尺については、以下のとおりである。
竪穴住居・掘立柱建物・柵列・ピット列…Ｓ＝1/60、1/80　土坑……Ｓ＝1/40
溝状遺構…Ｓ＝1/60、1/100、1/200　土器…Ｓ＝1/4　石器…Ｓ＝1/3、1/4　土玉…Ｓ＝1/3
鉄関連遺物…Ｓ＝1/2

5．法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。

目　次

巻頭図版
序
序文
例言
凡例

第１章　調査の経緯
第１節　調査に至る経緯……（小口）　1
第２節　調査の経過と方法……（小口）　2
（１）調査区の名称と調査方法……（小口）　2
（２）調査の経過……（小口）　2
第３節　調査体制……（小口）　4

第２章　遺跡の立地と環境
第１節　地理的環境……（小谷）　5
第２節　歴史的環境……（淺田・岩井・原・福井）　6

第３章　調査の成果と記録
第１節　遺跡の立地と層序……（小口・北島・原）　9
第２節　遺構の調査……（小口・北島・原）　15
（１）竪穴住居跡……（小口・北島・原）　17
（２）掘立柱建物跡……（小口・原）　70
（３）柵列・ピット列……（小口・原）　79
（４）土坑……（小口）　83
（５）溝状遺構……（小口・北島・原）　86
第３節　包含層の調査……（小口・北島）　96
（１）谷部包含層の概要……（小口）　96
（２）北谷部包含層出土遺物……（小口）　96
（３）南谷部包含層出土遺物……（北島）　98
第４節　鉄関連遺物……（北島）　126

第４章　自然科学的考察
第１節　八橋第８・９遺跡出土鉄滓・鉄製品の金属学的調査
……　九州テクノリサーチ・TACセンター　大澤正巳・鈴木瑞穂　128
第２節　植物珪酸体分析……株式会社 古環境研究所　146
第３節　花粉分析……株式会社 古環境研究所　151

第４節　八橋第８・９遺跡出土須恵器の胎土分析 …… 岡山理科大学　白石　純 155
第５章　考古学的考察
第１節　八橋第８・９遺跡における６～７世紀の土器編年 ……（小口・北島・原）161
第２節　八橋第８・９遺跡の形成過程と周辺遺跡群 ……（小口・北島・原）172

第６章　総　括 ……（小口）183

写真図版
抄録

挿図目次

第１図　調査地位置図 …… 1
第２図　遺跡位置図 …… 5
第３図　周辺遺跡分布図 …… 8
第４図　調査前地形測量図 …… 10
第５図　北谷部包含層土層断面図 …… 11
第６図　南谷部包含層土層断面図 …… 12
第７図　八橋第８・９遺跡全体図 …… 13・14
第８図　SI１ …… 15
第９図　SI１出土遺物（１）…… 16
第10図　SI１出土遺物（２）…… 17
第11図　SI１出土遺物（３）…… 18
第12図　SI２ …… 20
第13図　SI２出土遺物 …… 21
第14図　SI３ …… 22
第15図　SI３出土遺物（１）…… 23
第16図　SI３出土遺物（２）…… 24
第17図　SI４・22 …… 26
第18図　SI４出土遺物（１）…… 27
第19図　SI４出土遺物（２）…… 28
第20図　SI22出土遺物 …… 28
第21図　SI５ …… 31
第22図　SI５出土遺物 …… 31
第23図　SI６・SK11遺物出土状況…… 32
第24図　SI６・８・SK11…… 33
第25図　SI６・８ピット断面図 …… 34
第26図　SI８出土遺物 …… 34
第27図　SI６・SK11出土遺物…… 34
第28図　SI６出土遺物 …… 35
第29図　SK11出土遺物 …… 36
第30図　SI７ …… 39
第31図　SI７出土遺物 …… 39
第32図　SI９・23・24…… 40
第33図　SI９・23・24出土遺物…… 42
第34図　SI10 …… 43
第35図　SI10出土遺物 …… 43
第36図　SI11 …… 44
第37図　SI11出土遺物 …… 44
第38図　SI12 …… 45
第39図　SI12出土遺物 …… 46
第40図　SI13 …… 47
第41図　SI13出土遺物 …… 48
第42図　SI14 …… 49
第43図　SI14遺物出土状況 …… 50
第44図　SI14出土遺物（１）…… 51
第45図　SI14出土遺物（２）…… 52
第46図　SI14出土遺物（３）…… 53
第47図　SI15 …… 56
第48図　SI15出土遺物 …… 57
第49図　SI16 …… 58
第50図　SI16出土遺物 …… 58
第51図　SI17 …… 59
第52図　SI17出土遺物 …… 60
第53図　SI18 …… 61
第54図　SI18出土遺物 …… 62

第55図　SI19 …… 63
第56図　SI19出土遺物 …… 64
第57図　SI20 …… 66
第58図　SI20出土遺物 …… 67
第59図　SI21 …… 68
第60図　SI21出土遺物（1） …… 68
第61図　SI21出土遺物（2） …… 68
第62図　SI25 …… 69
第63図　SI25出土遺物 …… 69
第64図　SB1 …… 70
第65図　SB1出土遺物 …… 70
第66図　SB2 …… 71
第67図　SB3 …… 72
第68図　SB3出土遺物 …… 72
第69図　SB4 …… 73
第70図　SB4出土遺物 …… 73
第71図　SB4－SK1 …… 74
第72図　SB4－SK1出土遺物 …… 74
第73図　SB4－SK2 …… 74
第74図　SB4－SK2出土遺物 …… 74
第75図　SB5 …… 75
第76図　SB6 …… 76
第77図　SB6出土遺物 …… 76
第78図　SB7 …… 77
第79図　SB8 …… 78
第80図　SB9 …… 78
第81図　柵列1 …… 80
第82図　柵列1ピット6 …… 80
第83図　ピット群1 …… 80
第84図　柵列2 …… 80
第85図　柵列3 …… 81
第86図　ピット列1 …… 81
第87図　ピット列2 …… 81
第88図　ピット列3 …… 82
第89図　ピット列4・5 …… 82
第90図　SK1 …… 83
第91図　SK2 …… 83
第92図　SK3 …… 83
第93図　SK4 …… 83
第94図　SK5 …… 83
第95図　SK6 …… 83
第96図　SK7 …… 84
第97図　SK7出土遺物 …… 84
第98図　SK8 …… 84
第99図　SK9 …… 84
第100図 SK9出土遺物 …… 84
第101図 SK10 …… 85
第102図 SK10出土遺物 …… 85
第103図 SD配置図（1） …… 86
第104図 SD配置図（2） …… 86
第105図 SD1（1） …… 88
第106図 SD1（2） …… 89
第107図 SD1出土遺物 …… 89
第108図 SD2・3・4 …… 90
第109図 SD4出土遺物 …… 90
第110図 SD5・6・7 …… 91
第111図 SD6出土遺物 …… 91
第112図 SD8 …… 92
第113図 SD9・10 …… 93
第114図 SD11・12・13・14・15 …… 94
第115図 SD13出土遺物 …… 95
第116図 SD16 …… 95
第117図 北谷部包含層出土遺物（1）…… 96
第118図 北谷部包含層出土遺物（2）…… 97
第119図 南谷部第Ⅰ層出土遺物 …… 98
第120図 南谷部第Ⅱ層出土遺物（1）…… 99
第121図 南谷部第Ⅱ層出土遺物（2）……100
第122図 南谷部第Ⅱ層出土遺物（3）……101
第123図 南谷部第Ⅲ層出土遺物（1）……102
第124図 南谷部第Ⅲ層出土遺物（2）……103
第125図 南谷部第Ⅲ層出土遺物（3）……104
第126図 南谷部第Ⅲ層出土遺物（4）……105
第127図 南谷部第Ⅲ層出土遺物（5）……106
第128図 南谷部第Ⅳ層出土遺物（1）……107
第129図 南谷部第Ⅳ層出土遺物（2）……108
第130図 南谷部第Ⅳ層出土遺物（3）……109

第131図 南谷部第Ⅳ層出土遺物（4）……110
第132図 南谷部土器集中ブロック1
出土遺物（1）……111
第133図 南谷部土器集中ブロック1
出土遺物（2）……112
第134図 南谷部土器集中ブロック2
出土遺物 ……112
第135図 南谷部土器集中ブロック3
出土遺物 ……113
第136図 北谷部・南谷部包含層出土遺物 114
第137図 鉄関連遺物構成図1 ……122
第138図 鉄関連遺物構成図2 ……123
第139図 南谷部包含層出土
鉄製品・鉄滓（1）……124
第140図 南・北谷部包含層出土
鉄製品・鉄滓（2）……125
第141図 八橋第8・9遺跡における
植物珪酸体分析結果 ……149
第142図 遺跡内での胎土の比較
（K－Ca 散布図） ……158
第143図 遺跡内での胎土の比較
（Rb－Sr 散布図） ……158
第144図 器種別による胎土の比較
（K－Ca 散布図） ……159
第145図 器種別による胎土の比較
（Rb－Sr 散布図） ……159
第146図 各生産地との比較
（K－Ca 散布図） ……160
第147図 各生産地との比較
（Rb－Sr 散布図） ……160
第148図 6～7世紀の土器編年1
（須恵器） ……164
第149図 6～7世紀の土器編年2
（土師器） ……165
第150図 八橋第8・9遺跡の掘立柱建物群 174
第151図 周辺地域の掘立柱建物集成 ……176
第152図 八橋第8・9遺跡における
遺構変遷図（1）……177
第153図 八橋第8・9遺跡における
遺構変遷図（2）……178
第154図 八橋第8・9遺跡における
遺構変遷図（3）……179
第155図 八橋第8・9遺跡における
6～7世紀の道具の組成 ……184

挿表目次

表1 SI1出土土器観察表…… 19
表2 SI1出土有孔土玉・有孔石玉観察表 19
表3 SI1出土鉄関連遺物観察表…… 19
表4 SI1出土石器観察表…… 20
表5 SI2出土土器観察表…… 21
表6 SI3出土土器観察表…… 24・25
表7 SI3出土有孔土玉観察表…… 25
表8 SI3出土石器観察表…… 25
表9 SI4・22出土土器観察表 …… 30
表10 SI4・22出土有孔土玉観察表 …… 30
表11 SI4・22出土鉄関連遺物観察表 … 30
表12 SI4・22出土石器観察表 …… 31
表13 SI5出土土器観察表…… 31
表14 SI6・8・SK11出土
土器観察表…… 37・38
表15 SI6・8・SK11出土
有孔土玉観察表…… 38
表16 SI6・8・SK11出土
鉄関連遺物観察表…… 38
表17 SI6・8・SK11出土石器観察表 … 38
表18 SI7出土土器観察表…… 38
表19 SI9・23・24出土土器観察表 …… 42
表20 SI9・23・24出土
鉄関連遺物観察表…… 42
表21 SI9・23・24出土石器観察表 …… 42
表22 SI10出土土器観察表 …… 43

表23　SI11出土土器観察表 …… 44
表24　SI11出土石器観察表 …… 44
表25　SI12出土土器観察表 …… 46
表26　SI12出土石器観察表 …… 46
表27　SI13出土土器観察表 …… 48
表28　SI14出土土器観察表 …… 54・55
表29　SI14出土有孔土玉観察表 …… 55
表30　SI14出土石器観察表 …… 55
表31　SI15出土土器観察表 …… 57
表32　SI15出土石器観察表 …… 57
表33　SI16出土土器観察表 …… 58
表34　SI17出土土器観察表 …… 60
表35　SI17出土石器観察表 …… 60
表36　SI18出土土器観察表 …… 62
表37　SI18出土鉄関連遺物観察表 …… 62
表38　SI18出土石器観察表 …… 62
表39　SI19出土土器観察表 …… 65
表40　SI19出土石器観察表 …… 65
表41　SI20出土土器観察表 …… 67
表42　SI20出土石器観察表 …… 67
表43　SI21出土土器観察表 …… 67
表44　SI21出土石器観察表 …… 67
表45　SI25出土土器観察表 …… 70
表46　SI25出土鉄関連遺物観察表 …… 70
表47　SI25出土石器観察表 …… 70
表48　SB１出土土器観察表 …… 71
表49　SB３出土土器観察表 …… 72
表50　SB４出土土器観察表 …… 74
表51　SB４－SK１出土土器観察表…… 75
表52　SB４－SK２出土有孔土玉観察表… 75
表53　SB６出土土器観察表 …… 77
表54　SK７出土土器観察表 …… 84
表55　SK９出土土器観察表 …… 84
表56　SK10出土土器観察表 …… 85
表57　SD１出土土器観察表 …… 91
表58　SD１有孔土玉観察表 …… 92
表59　SD１鉄関連遺物観察表 …… 92
表60　SD４出土土器観察表 …… 93
表61　SD６出土土器観察表 …… 93
表62　SD13出土土器観察表 …… 95
表63　北谷部包含層出土土器観察表……115
表64　北谷部包含層出土石器観察表……115
表65　南谷部包含層出土土器観察表 115～120
表66　南谷部包含層出土有孔土玉観察表…120
表67　南谷部包含層出土石器観察表 120～121
表68　北・南谷部包含層出土
　　鉄関連遺物観察表……127
表69　供試材の履歴と調査項目……129
表70　供試材の組成……136
表71　出土遺物の調査結果のまとめ……136
表72　鳥取県下鉄関連出土遺物の化学組成137
表73　鉄関連遺物分析試料一覧表……145
表74　八橋第８・９遺跡における
　　植物珪酸体分析結果……150
表75　八橋第８・９遺跡における
　　花粉分析結果……153
表76　八橋第８・９遺跡出土
　　須恵器胎土分析値一覧表……157
表77　土器対照表……166
表78　各編年との併行関係……166
表79　竪穴住居の長軸・短軸比……173
表80　竪穴住居計測表……173
表81　東伯耆における古墳時代後期～
　　終末期の遺跡動向……180

写真目次

写真１　重機による表土剥ぎ…… 3
写真２　作業風景…… 3
写真３　現地説明会…… 3
写真４　調査を終えて１…… 3
写真５　北谷部作業風景…… 4
写真６　調査を終えて２…… 4

写真７　SI14検出状況（南西から）…… 55
写真８　SI14遺物出土状況（南から）…… 55
写真９　赤碕町から八橋狐塚古墳を望む… 60
写真10　含鉄鉄滓の顕微鏡組織……138
写真11　鉄製品の顕微鏡組織……139
写真12　含鉄鉄滓の顕微鏡組織……140
写真13　含鉄鉄滓・流動滓の顕微鏡組織…141
写真14　上段：含鉄鉄滓（YAB－１）の
マクロ組織（×10）
下段：鉄製品（YAB－２）の
マクロ組織（×10）……142
写真15　上段：含鉄鉄滓（YAB－３）の
マクロ組織（×10）
下段：含鉄鉄滓（YAB－４）の
マクロ組織（×10）……143
写真16　流動滓（YAB－５）のマクロ組織144
写真17　植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 149
写真18　花粉・胞子の顕微鏡写真……154

写真図版目次

巻頭図版１　１．南谷部土器集中ブロック１検出状況
２．SI14遺物出土状況
巻頭図版２　１．調査後の遺跡遠景（北から）
２．丘陵上の遺構検出状況

PL.１　１．調査前の遺跡遠景（東から）
２．丘陵上の遺構検出状況（東から）
PL.２　１．SI１遺物出土状況（南から）
２．SI１完掘状況（南から）
３．SI２完掘状況（南から）
PL.３　１．SI３遺物出土状況（南から）
２．SI３遺物出土状況拡大（北から）
３．SI３完掘状況（南から）
PL.４　１．SI４・22遺物出土状況（北から）
２．SI４・22完掘状況（北から）
３．SI５遺物出土状況（南から）
PL.５　１．SI６・SK11遺物出土状況（東から）
２．SI６完掘状況（東から）
３．SI６遺物出土状況（東から）
PL.６　１．SK11完掘状況（東から）
２．SK11遺物出土状況（南から）
３．SI７・26完掘状況（南から）
PL.７　１．SI９・23・24遺物出土状況（南から）
２．SI9－P2土器・鉄滓出土状況（南から）
３．SI10完掘状況（南から）
PL.８　１．SI11完掘状況（北西から）
２．SI11遺物出土状況（北西から）
３．SI12遺物出土状況（南から）
PL.９　１．SI12遺物出土状況（西から）
２．SI13遺物出土状況（東から）
３．SI13遺物出土状況（東から）
PL.10　１．SI14完掘状況（南から）
２．SI14遺物出土状況（西から）
３．SI14遺物出土状況（南から）
PL.11　１．SI15遺物出土状況（南から）
２．SI16完掘状況（東から）
３．SI16遺物出土状況（北から）
PL.12　１．SI17遺物出土状況（北から）
２．SI17遺物出土状況（西から）
３．SI18完掘状況（北西から）
PL.13　１．SI19遺物出土状況（西から）
２．SI19遺物出土状況（北西から）
３．SI19遺物出土状況（南西から）
PL.14　１．SI20完掘状況（北から）
２．SI21完掘状況（東から）
３．SI25完掘状況（北から）
PL.15　１．SB１・２・５・８完掘状況（東から）
２．SB１布堀状ピット完掘状況（西から）
３．SB１布堀状ピット完掘状況（東から）
PL.16　１．SB２・８完掘状況（北東から）
２．SB３完掘状況（南東から）
３．SB５完掘状況（東から）

PL.17　1．SB４完掘状況（南から）
　　2．SB４－SK１遺物出土状況（北から）
　　3．SB４－P７土層堆積状況（南から）
PL.18　1．SB６・７完掘状況（東から）
　　2．SB６－P10土層堆積状況（東から）
　　3．SB６－P２遺物出土状況（南から）
PL.19　1．ピット列４完掘状況（西から）
　　2．SK８完掘状況（北から）
　　3．SK９完掘状況（北から）
　　4．SK10完掘状況（南東から）
PL.20　1．SD１完掘状況（東から）
　　2．SD１完掘状況（西から）
　　3．SD４土層堆積状況（東から）
　　4．SD９土層堆積状況（北から）
PL.21　1．南谷部西半完掘状況（北東から）
　　2．南谷部東半完掘状況（北西から）
PL.22　1．南谷部土層堆積状況（西から）
　　2．南谷部土層堆積状況拡大（西から）
　　3．南谷部土器集中ブロック２（南から）
PL.23　1．北谷部遺物出土状況（南東から）
　　2．北谷部遺物出土状況（西から）
　　3．北谷部遺物出土状況（南から）
PL.24　1．調査区南東部完掘状況（南から）
　　2．八橋第８・９遺跡から別所中峯
　　遺跡を望む（南から）
PL.25　SI１須恵器
PL.26　1．SI１須恵器・土師器
　　2．SI１土師器
　　3．SI２須恵器・土師器
　　4．SI３土師器
　　5．SI３須恵器
PL.27　1．SI３須恵器
　　2．SI３土師器
PL.28　1．SI４須恵器
　　2．SI４土師器
PL.29　1．SI４須恵器
　　2．SI22須恵器
　　3．SI22土師器
PL.30　1．SK11・SI６須恵器
　　2．SI６土師器
　　3．SI11弥生土器
PL.31　1．SI14須恵器（１）
PL.32　1．南谷部（黒褐色土層）須恵器
　　2．SI14須恵器（２）
　　3．SI14土師器
PL.33　1．SI15土師器
　　2．SI16須恵器
　　3．SI17土師器
　　4．SI19土師器
　　5．SI19須恵器
　　6．SI20須恵器
　　7．SI20須恵器・土師器
PL.34　1．SI21土師器
　　2．SI25土師器
　　3．北谷部須恵器
　　4．北谷部土師器
　　5．南谷部（茶褐色土層）須恵器
PL.35　1．南谷部（暗褐色土ａ層）須恵器・土師器
PL.36　1．南谷部（暗褐色土ｂ層）須恵器・土師器
PL.37　1．南谷部（黒褐色土層）須恵器・土師器
PL.38　1．南谷部土器集中ブロック１土師器
　　2．南谷部土器集中ブロック２土師器
PL.39　1．南谷部土器集中ブロック３須恵器
　　2．北谷部撹乱土土師器
　　3．南谷部（黒褐色土層）須恵器・土師器
　　4．陶磁器
PL.40　1．北谷部（暗褐色土層）須恵器・土師器
PL.41　1．甑把手
　　2．有孔土玉
PL.42　1．鉄製品・鉄滓（遺構内出土）
　　2．鉄製品・鉄滓（遺構内出土）レントゲン
PL.43　1．鉄製品・鉄滓（遺構外出土）
PL.44　1．鉄製品・鉄滓（遺構外出土）レントゲン
　　2．鉄滓（遺構外出土）レントゲン
PL.45　1．石器

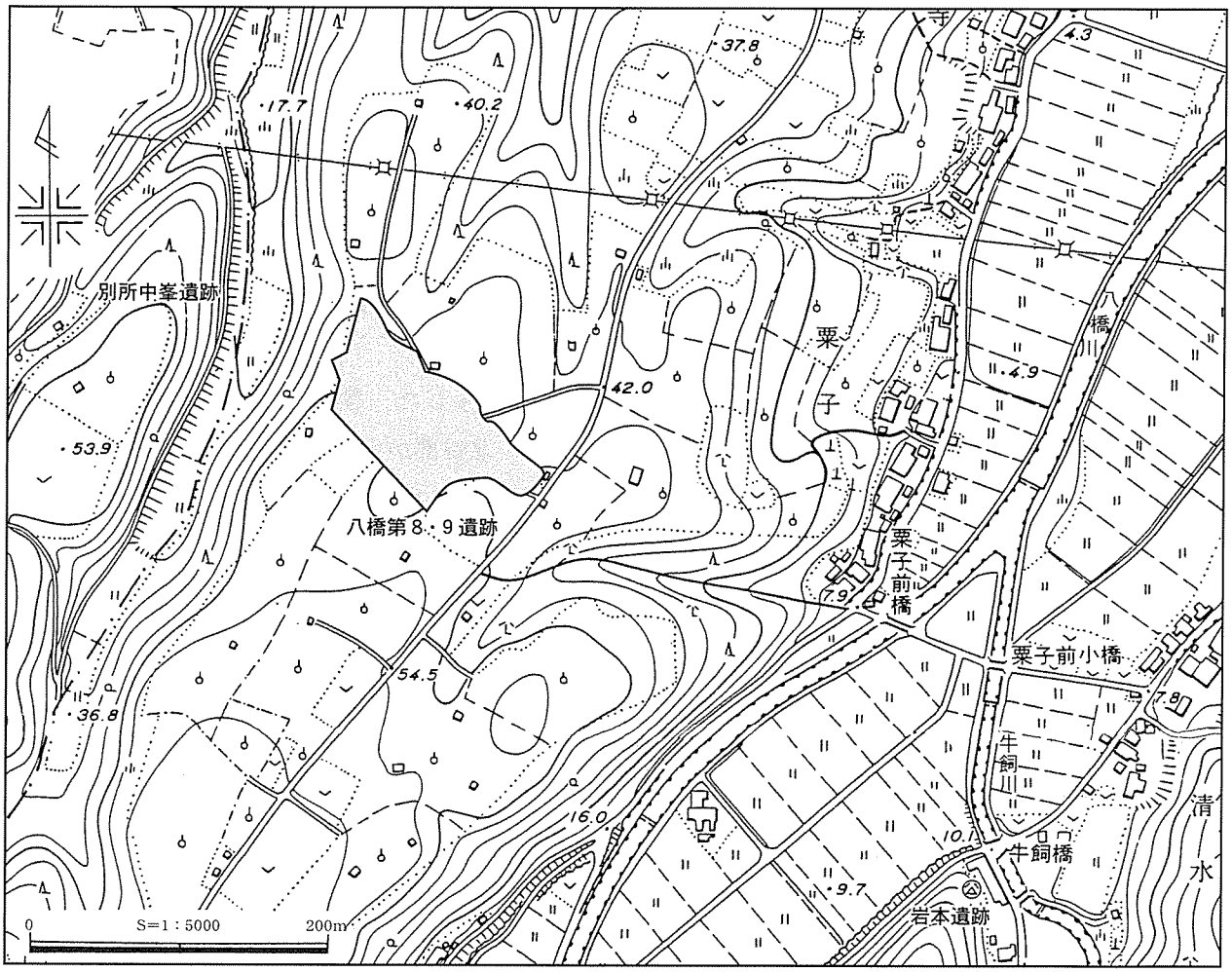
第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、国土交通省が進める一般国道９号線東伯中山道路の改築に伴い、東伯郡東伯町大字八橋字二本松地内の工事予定地に存在する埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。

山陰地方は、国道９号線の交通渋滞緩和及び将来の国土幹線道路の整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県中部地域では、東伯中山道路、北条道路、青谷羽合道路が自動車専用の高規格道路として計画・施工されている。東伯中山道路の計画予定地内である八橋地内及びその周辺では、過去に銅鐸や銅剣が出土したのをはじめ、当該地域では最大級の前方後円墳の１つである八橋狐塚古墳を代表とする多くの遺跡が存在している。これらの計画地内の遺跡及び遺構の拡がりを確認するため、東伯町教育委員会による試掘調査が平成14年度に行われた。八橋第８・９遺跡は東西方向に延びる埋没谷（以下、「南谷部」と呼称）を境として北側が第８、南側が第９遺跡に該当し、県遺跡台帳№273に登録された周知の遺跡である。

この結果を受け、国土交通省倉吉河川国道事務所は、鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の３に基づく発掘通知を行った上で、鳥取県教育委員会教育長の指示により財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のための事前調査を委託した。これにより、当財団が文化財保護



第１図　調査地位置図

法第57条に基づく発掘届を提出し、当財団埋蔵文化財センターが平成15年度の発掘調査を担当することになった。調査面積は、11,732㎡である。（小口）

第２節　調査の経過と方法

（１）調査区の名称と調査方法

八橋第８・９遺跡の調査地は、東西方向に走る埋没谷によって南北に二分されており、谷の北丘陵上から埋没谷に向かって表土剥ぎを開始し、引き続き残る丘陵北側の表土剥ぎを実施した。表土剥ぎ終了後、国土座標第Ｖ系に基づく10m間隔の基準杭を設置し、これらの杭には、南北軸にアルファベットを、東西軸には算用数字を付し、「Ａ１杭」のように呼称した（第４図）。また、東西南北軸交点の北東側杭の名称をとってグリット名とした。

検出した遺構・遺物の記録には、平板及び光波トランシットを用いた。出土遺物のうち、時期判断が可能なものについては出土位置を記録し、それ以外は遺構もしくはグリッド毎に一括して取り上げた。ただし、南谷部の包含層については10mグリッドをさらに４分割（５ｍ×５ｍ）し、北東軸から時計回りにアルファベットａ～ｄを付して、より出土位置が特定できるよう努めた。写真撮影には35㎜版と６×７版を主に用い、デジタルカメラも併用した。

（２）調査の経過

調査に先立ち、調査前航空写真撮影、地形測量・基準点測量を業者に委託した。航空写真撮影は３月24日に、地形測量は４月21日から６月23日にかけてそれぞれ行った。立木の伐採・撤去、廃土置き場用土留柵の設置などの日程から、表土剥ぎは５月２日に農道南側から開始した。同時に北丘陵上面から遺構検出作業を行い、その結果SD１～５、SI10・12・17を確認し掘り下げを実施した。一方、５月14日に丘陵北部の表土剥ぎを開始し23日に終了した。

南西から南東方向に走る取り付け道路沿いにサブトレンチを設定し、南谷部の層序を確認した。その結果、南谷部は４層の遺物包含層から構成され、各層には須恵器・土師器、土玉、磨石・敲石、石皿といった生産用具、鉄製品・鉄滓などの遺物が多く包含することが明らかとなり、谷部の利用のあり方が本遺跡の特性を解明する上で重要であるとの認識に至った。

６月から南谷部開口部および北谷部包含層の掘り下げを着手した。谷開口部からはSD11～15を検出し、近世陶磁器、寛永通宝などが出土している。また、北谷部からは古墳時代前期と後期における遺物集中部が確認され、集落の範囲が北谷縁辺部にまで及んでいることが明らかとなった。７月から８月前半にかけてSI５・７・９・13・16の本格的な遺構の調査を開始、古墳時代後期から終末期に属する住居跡の様相が明らかになった。旧盆後、南谷部包含層調査とその周辺に位置するSI６・８、丘陵上に位置するSI14・15・18～20の住居跡群の調査に取りかかった。このなかで、SI14は遺構の残存状況が良好であり、埋土中から多くの遺物が出土した。また、SI20は1辺約６ｍ×６ｍを有し、本遺跡で最大規模の住居跡であった。

９月後半から最も遺物が良好な状態で包含されている暗褐色土ｂ層～黒褐色土層の掘り下げに着手した。黒褐色土層からは古墳時代後期～終末期の３地点の遺物集中ブロックを検出した。同時に南谷部の緩斜面上に位置するSI１・２・21の調査を開始した。とくにSI21は住居のほぼ半分が包含層上に貼床を施した唯一南斜面上に位置する住居跡であり、２基の袋状土坑を含めて古墳時代後期～終末期の谷をとりまく土地利用のあり方を考える上で興味深い事例であった。10月29日に谷部包含層の

調査を終了、翌30日に委託業者による調査後航空写真撮影を行い、調査後地形測量を11月13日に終了した。また、10月25日に八橋第８・９遺跡・別所中峯遺跡合同の現地説明会を開催した。幸いにも天候に恵まれ、町の内外から70人を越える方々の参加を得ることができた。　（小口）

写真１　重機による表土剥ぎ

写真２　作業風景

写真３　現地説明会

写真４　調査を終えて１

調査日誌抄（平成15年度）

３月24日　調査前空撮
４月21日　地形・基準点測量開始
５月２日　丘陵南側重機による表土剥ぎ開始
５月12日　調査開始
５月14日　丘陵北側重機による表土剥ぎ開始（～23日）
５月27日　SI５・10・12・17、SD１～５検出
６月５日　南谷部中心部のトレンチ調査・層序確認
６月11日　南谷部開口部調査開始
６月16日　東伯町教育委員会大賀靖浩氏来跡
７月４日　SI７・SB１の調査開始
７月16日　SI５の調査開始
７月24日　SI13調査開始・北谷部包含層調査開始
８月１日　SI９調査開始
８月５日　定例業務報告会議で現地検討会
８月20日　SI６・８・SK11調査開始
８月22日　SI18・19調査開始
９月１日　SI20調査開始
９月９日　SI14調査開始
９月12日　SI15調査開始
９月22日　SI４・22調査開始
９月25日　SI11・25調査開始
９月30日　財団監査委員視察
10月７日　SI１・２・21調査開始
10月14日　SB３調査開始
10月22日　新聞記者発表
10月25日　八橋第８・９遺跡・別所中峯遺跡現地説明会
10月29日　南谷部包含層調査終了
10月30日　調査後航空写真撮影
10月31日　発掘調査の終了
11月13日　調査後地形測量の終了

第３節　調査体制

調査は、下記の体制で実施した。

○調査主体　**財団法人鳥取県教育文化財団**

理　事　長　　有田　博充
常務理事　　川口　一彦（兼・鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長　　下田　弘人

埋蔵文化財センター

所　　長　　田中　弘道（兼・鳥取県埋蔵文化財センター所長）
次　　長　　竹内　　茂
次　　長　　加藤　隆昭
調査課長（兼）　加藤　隆昭
企画調整班長　　山枡　雅美
文化財主事　　下江　健太
庶務課長（兼）　竹内　　茂
主任事務職員　　矢部　美恵
事務職員　　田中　陽子、大川　秋子、植田　恵子（９月退職）
谷垣　真寿美、小谷　有里
事務補助員　　山根　美代（11月採用）

○調査担当　埋蔵文化財センター東伯調査事務所

所　　長　　佐治　孝弐
班　　長　　牧本　哲雄（笠見第３遺跡担当）
文化財主事　　小口　英一郎
調　査　員　　北島　大輔、原　あづさ、福井　流星、鍋倉　和行
調査補助員　　山根　雅美
事務補助員　　大田　直子

○調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力　国土交通省中国地方建設局倉吉河川国道事務所、東伯町教育委員会

写真５　北谷部作業風景

写真６　調査を終えて２

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

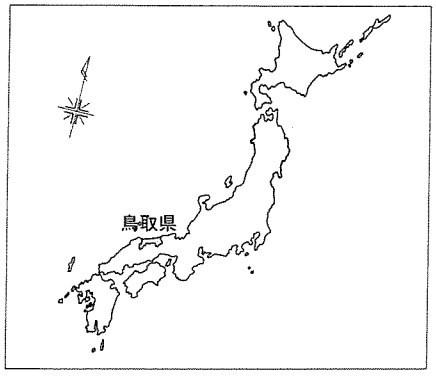
今回調査が行われた東伯町は、鳥取県中部（東伯耆）の西側に位置する。大山の連峰の烏ヶ山（1,381m）と野田ヶ山を結ぶ線を南西端とし、北東に細長い三角状に広がって北端は日本海に至る。東西15.2km、南北16.8km、総面積は約82.2km²で県面積の約2.3％を占めている。人口は約12,500人（平成15年度末）で、少子高齢化の進展で昭和期に比して減少の傾向にある。昭和29年の５町村合併により、東伯耆を意味する現町名となった。

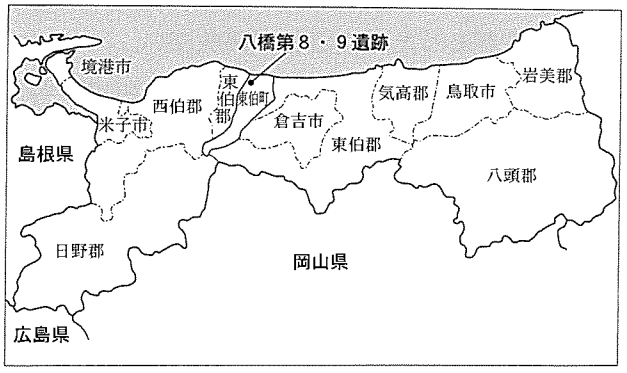
本町の南西部には大山（1,729m）が存在し、最後の噴火が約１万数千年前に認められている。その大山に源を発する加勢蛇川は洗川とともにその下流域で沖積平野を形成し日本海に注いでいる。平野部はクロボク地帯であり、西側丘陵は火山灰土の堆積した台地状地形を呈する。

遺跡は、加勢蛇川下流域右岸のなだらかな低丘陵地と、洗川左岸の丘陵台地とその山裾付近、加勢蛇川中流域に比較的多く集まっている。両河川に挟まれた扇状地には、律令時代の条里制が旧地名や地割に残る地域もあるが、加勢蛇川は近世まで氾濫を繰り返した県内屈指の荒れ川であり、概ね残りが良いとは言い難い。一方、洗川の西側には３本の小河川があり、水田として利用可能な低湿地帯は広くはないが、安定的で初期の稲作に適していたといえる。もっとも東を流れる加勢蛇川の東岸地域は、火山扇状地性台地で大小の農業用のため池がみられ、荘園が発達した平安中期ごろよりそれらから導水し、現大栄町域へも広がる稲作・畑作地帯を形成したものと考えられる。

最大の河川の加勢蛇川最上流域には大山滝があり、そこから地獄谷～大休峠付近～大山町の川床をへて大山博労座に通じる急峻な山道は、江戸時代から明治にかけて、東伯耆地方から市の立つ大山へ牛馬を運ぶ重要な短絡ルートであった。また海岸沿いの八橋地区は古代から伯耆の東と西をつなぐ交通の要衝として古代山陰道の清水駅、中世以降は八橋城が築かれるなど、交流および戦略的な活動が繰り広げられたことを物語る。

昭和20年代中期より盛んになった二十世紀梨生産は、県内でも多くの生産量を誇っていたが、現在では農家の高齢化、後継者不足による果樹園の廃園が目立っている。海岸近くを東西に走る国道９号線沿線には、近年公共・商業施設が急速に立地し、弱電、酒造、食品製造などの工場群とともに、都市機能を形成している。（小谷）





第２図　遺跡位置図

第２節　歴史的環境

旧石器・縄文時代　旧石器時代、鳥取県内では、遺構を伴う遺跡は発見されておらず、いくつかの遺物が各地域で出土するにとどまっている。この地域では赤碕町松ヶ丘、東伯町槻下で尖頭器が数点見つかっているのみである。縄文時代の遺構は、後期に入るまで明確なものは少ないが、低丘陵上および平野部において、人々の活動痕跡が確認されている。早～前期では西高尾谷奥遺跡（35）で、押型文土器とともに住居跡の可能性がある竪穴状遺構、松ヶ丘遺跡（13）、大栄町築山遺跡、森藤第２遺跡（31）などで土器片が出土している。中期では、井図地中ソネ遺跡（９）、井図地頭遺跡（10）など丘陵上の遺跡で、土器が出土している。後期になると丘陵部に定住的な集落が見られるようになる。特に森藤第２遺跡では中央に石囲い炉をもつ竪穴住居が精製・粗製土器、土器片錘、土偶とともに検出されている。その他、この時代と考えられる落し穴が福留遺跡（12）、中尾第１遺跡（11）、笠見第３遺跡（７）など多くの遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地が利用された様子が窺われる。

弥生時代　弥生時代に入り本格的に稲作が始められ、それを機軸とした文化・社会が形成される。米子市目久美遺跡では前期の水田が確認されているが、県中部では、現時点で稲作に関わる遺構は発見されていない。集落遺跡は、中期以降加勢蛇川右岸の平野部と丘陵上で確認されている。特に中期後葉から古墳時代初頭にかけて遺跡数が大幅に増加する。東伯町森藤第１・２遺跡（31）、水溜り・駕籠据場遺跡（46）、大峰遺跡（37）、田越遺跡群（23･24･25）、井図地中ソネ遺跡、笠見第３遺跡、三林遺跡（８）、久蔵峰北遺跡（６）などで集落が営まれている。赤碕町では福留遺跡で後期の竪穴住居が見つかっている。これらの遺跡の中には、集落内に玉作り工房を持つ遺跡がある。大栄町西高江遺跡では中期の工房跡が検出され、水晶の剥片とともに、製作に使用したと考えられる鉄製工具等が出土している。笠見第３遺跡では後期の工房跡が検出されており、緑色凝灰岩製の管玉未製品や剥片が出土している。現段階で当地域での数少ない生産遺跡である。墓域については、前期に大栄町青木第１遺跡・後ろ谷遺跡で土壙墓が見つかっており、中期以降赤碕町墓ノ上遺跡（14）・別所女夫岩峯遺跡で木棺墓が検出されている。井図地中ソネ遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての溝で区画された土壙墓群が供献土器とともに見つかっている。また弥生時代の祭祀を特徴づける銅鐸が、県中部では６遺跡で計７口、東伯町八橋の南方丘陵上（21）で銅鐸（扁平鈕１式）が１口見つかっている。さらに、東伯町田越の丘陵上（25）では、正確な出土状況は明らかではないが、中細形銅剣が４口、東伯町久蔵峰で銅矛が１口出土している。八橋を中心とする地域は銅剣・銅矛・銅鐸がそろって出土していることとなり、島根県神庭荒神谷遺跡と同様の組成であることから、共通した祭祀形態に関連性があったものとして興味深い。

古墳時代　古墳時代に入ると大型前方後円墳が各地に出現する。当該地域では明らかに前期に属する大型古墳は確認されていないが、前方後方墳である別所１号墳（笠取塚古墳）（16）は、墳形等の特徴から、前期に遡る可能性がある。中期から後期になって、前方後円墳の築造が見られる。別所２号墳（17）・八橋狐塚古墳（19）・笠見１号墳（22）・竜ヶ崎３号墳（28）などがある。これらは大山から日本海に延びる山麓の丘陵北縁に築造されており、日本海を見下ろす要所に位置している。中期・後期になると中・小規模の円墳が群集して築かれるようになる。中期以降の群集墳としては、大栄町妻波古墳群・瀬戸古墳群・西穂波古墳群、赤碕町出上岩屋古墳・別所古墳群（18）・箆津古墳群、

帆立貝式古墳の光１号墳などがある。また、後期以降従来の竪穴系の埋葬施設に代わって横穴式石室が採用される。このうち、大法３号墳（33）や三保６号墳（26）、大栄町上種東３号墳、上種西14号墳は竪穴系横口式石室と呼ばれる特異な構造で、八橋狐塚古墳のくびれ部西側の石室もその可能性があり、槻下古墳群（39）・塚本古墳群（45）・大高野古墳群（47）・斎尾古墳群（43）、などで後続する石室形態も同じ系譜上のものであることから加勢蛇川流域が石室形態を共通とするまとまった地域であったことを示している。東伯町大高野3号墳には横穴式石室の中に金銅製耳環・青銅製鈴・鉄刀・刀子などが、槻下5号墳（代代１号墳）には金環・鉄刀などが副葬されていた。山田１号墳（29）や出上岩屋古墳は切石積石室で、終末期の様相を示す。この時代の集落は、東伯町三保遺跡（27）、井図地中ソネ遺跡、笠見第３遺跡、八橋８・９遺跡、赤碕町太一垣遺跡・松谷遺跡（15）・別所第３遺跡などが丘陵上に営まれている。

古代　日本で最初に仏教伽藍が建立されてから約半世紀後の７世紀後半頃、山陰地方では仏教文化受容の痕跡が数多く認められる。現在県内では22ヵ所の古代寺院が見つかっているが、初期の仏教文化の姿を最もよく残しているといわれる斎尾廃寺（42）は、県内の古代寺院の多くが法起寺式伽藍配置を採用するのに対し、法隆寺式を採っていることから、山陰では唯一の国特別史跡に指定されている。塑像片・仏頭・鴟尾・鬼瓦などが出土している他、創建期の軒丸瓦には紀寺式（複弁八弁蓮華文で外縁に雷文を飾る）、軒平瓦に法隆寺式（忍冬唐草文を配する）系統をもつものを採用しており、山陰・山陽では数少ない瓦当文様で、畿内と結びつきの深い有力豪族が斎尾廃寺周辺で勢力を持っていたと推察される。斎尾廃寺の東方にある大高野遺跡（44）では、総柱礎石建物群が検出されており、正倉（郷倉）と考えられる。さらに郡衙所在地もその周辺に比定されている。伊勢野遺跡群（41）・水溜り・駕籠据場遺跡・森藤遺跡群においては、掘立柱建物を中心とする集落が見つかっている。その他、伊勢野遺跡群の南方に古瓦出土地（32）がある。当地域は伯耆国八橋郡に属し、加勢蛇川右岸が当郡の中心地であったと推察される。平安時代末期の遺構として、金屋（40）と法万（34）に経塚があり、金屋と西高尾（36）では銅経筒が出土している。また、井図地頭遺跡において「コ」の字状の溝に囲まれた方形区画遺構が見つかっている。建物跡は認められていないが、丘陵上の方形居館の可能性が指摘されている。

中世・近世　鎌倉時代に入ると、名田を多く集めた有力名主の中には荘園内に孤立した荘宅を構えるなど、武士的な性格を持つ豪士が出現する。東伯町槻下（38）には、台地に堀を巡らせた方形の一段高い敷地が並んで残り、一つには周囲に高さ２ｍの土塁が築かれた館跡がある。『伯耆民談記』には岩野弾正坊の居城であったと記述されている。

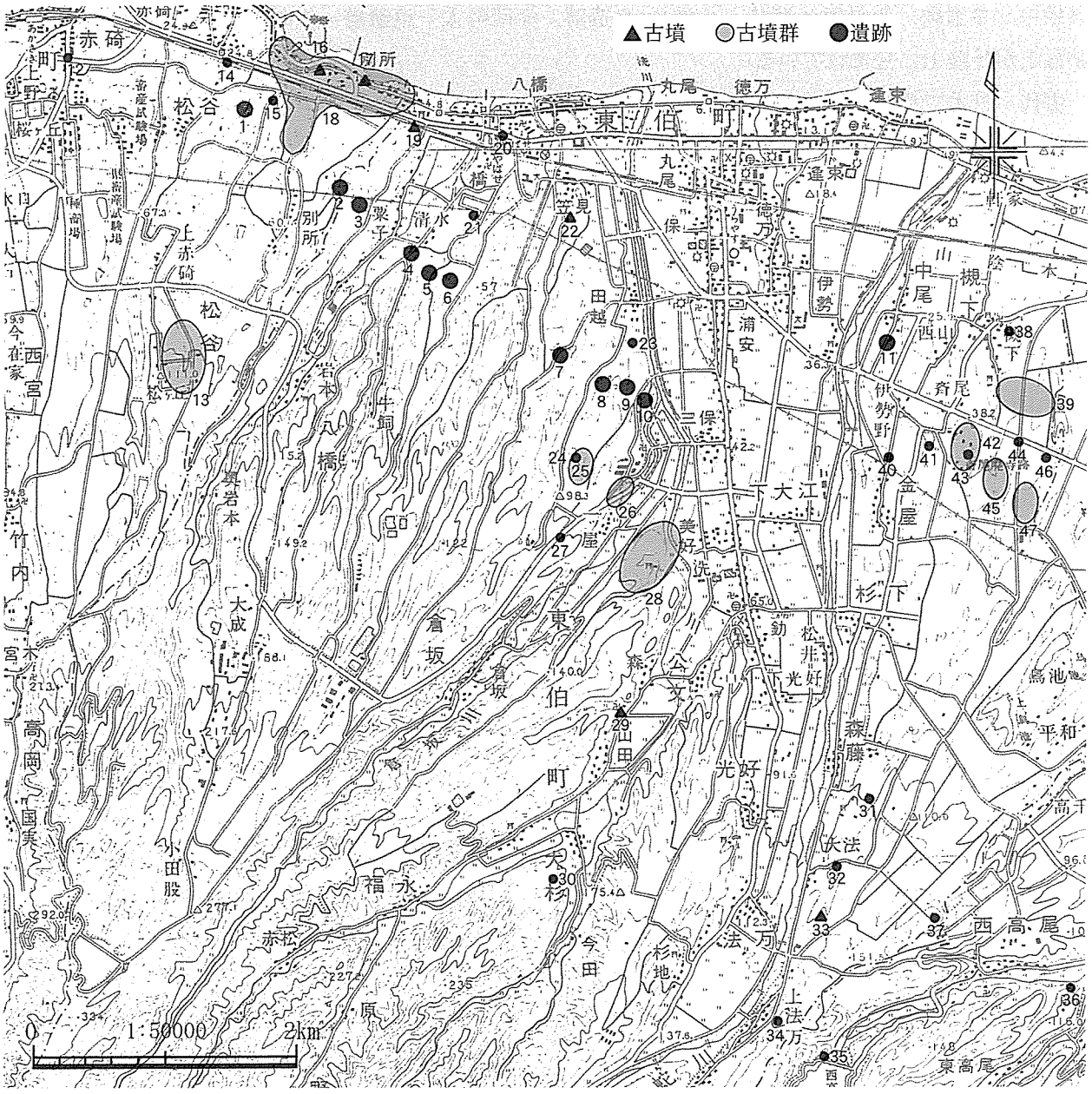
また、赤碕町海岸部から船上山にかけて、鎌倉末期の作と推定される宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせ持つ独特の形態の赤碕塔がある。現在町赤碕町内で６基確認されている。

ＪＲ山陰線八橋駅のすぐ北側の丘陵上には、八橋城跡（20）がある。八橋城は、南北朝時代に行松氏によって築造されたが、のちに尼子・毛利氏の支配下となり、西伯耆から東伯耆方面の経営拠点となった。また東伯町大杉には南条氏の出城である妙見山城跡（30）がある。赤碕町では、土塁と堀を持った箆津城（槇城）がある。1584～1585年頃の築城と推定され、海上防備の城と考えられている。他に、太一垣城・大仏山城・山川城跡が知られている。築城年代は不明であるが、『伯耆民談記』によると、吉川元春の羽衣石城（東郷町）攻撃に関与した城と考えられている。

江戸時代には東伯町逢束に伯耆街道の宿駅が置かれた。江戸時代前期寛永14年（1637年）の『因

幡伯者駄賃銀宿賃書付』に「大塚」がみられることから、この時期には宿駅として機能していたことが分かる。またこの地には鳥取藩の藩倉「大塚御蔵」がおかれていた。現在でも北側の土手の一部と火除地が残っている。　（淺田、岩井、原、福井）

【参考文献】
鳥取県教育委員会　2003『弥生時代からのメッセージ』鳥取県教育委員会
鳥取県埋蔵文化財センター編　1989『歴史時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財センター
大野哲二・君嶋俊行編　2003『井図地頭遺跡・井図地中ソネ遺跡』（財）鳥取県教育文化財団
牧本哲雄編　2003『笠見第３遺跡』（財）鳥取県教育文化財団
赤碕町教育委員会　2001『福留遺跡発掘調査報告書』赤碕町教育委員会
内藤正中・真田廣幸・日置粂左ヱ門　1997『県史31　鳥取県の歴史』（株）山川出版社
坂詰秀一編　2003『仏教考古学辞典』（株）雄山閣



１松谷中峰遺跡　２別所中峯遺跡　３八橋８・９遺跡　４岩本遺跡　５蛭谷遺跡　６久蔵峰北遺跡　７笠見第３遺跡　８三林遺跡（旧田越第４遺跡）９井図地中ソネ遺跡　10井図地頭遺跡　11中尾第１遺跡　12福留遺跡　13松谷丘遺跡　14墓ノ上遺跡　15松谷遺跡　16笠取塚古墳　17別所２号墳　18別所古墳群　19八橋狐塚古墳　20八橋城跡　21八橋銅鐸出土地　22笠見１号墳　23田越第１遺跡　24田越第２遺跡　25田越第３遺跡（銅剣出土地）　26三保古墳群　27三保遺跡群　28竜ヶ崎古墳群　29山田１・２号墳　30妙見山城跡　31森藤遺跡群　32古瓦出土地（大法廃寺跡）　33大法古墳群　34法万経塚　35西高尾谷奥遺跡　36西高尾経塚　37大峰遺跡　38槻下豪族居館　39槻下古墳群　40金屋経塚　41伊勢野遺跡群　42斎尾廃寺跡　43斎尾古墳群　44大高野遺跡　45塚本古墳群　46水溜り・駕籠据場遺跡　47大高野古墳群

第３図　周辺遺跡分布図

第３章　調査の成果と記録

第１節　遺跡の立地と層序

八橋第８・９遺跡の立地と地形　八橋第８・９遺跡は、東伯町の八橋川と赤碕町との境に走る谷に開析された丘陵上、標高約50mに所在する古墳時代後半期の集落遺跡である。遺跡北側には谷を挟んで別所中峯遺跡が、また南側の八橋川対岸には岩本遺跡がそれぞれ位置し、東方約１kmの丘陵先端部には古墳時代後期の前方後円墳である八橋狐塚古墳(全長62m)が存在する。遺跡からは、東に日本海、さらに遠く日本海に浮かぶ隠岐島を、西には大山を望むことができる。

遺跡のほぼ中心には東西方向に向かって埋没谷（「南谷部」）が縦走し、その両側に尾根が挟んで谷を取り囲んでいる。北尾根との比高差約３m、南尾根との比高差約５mを測り、遺構群が検出された北尾根から谷に向かって緩やかに傾斜している。北尾根は東側に向かって舌状を呈し、北西方向に小規模な埋没谷が抉入している（以下、「北谷部」と呼称)。

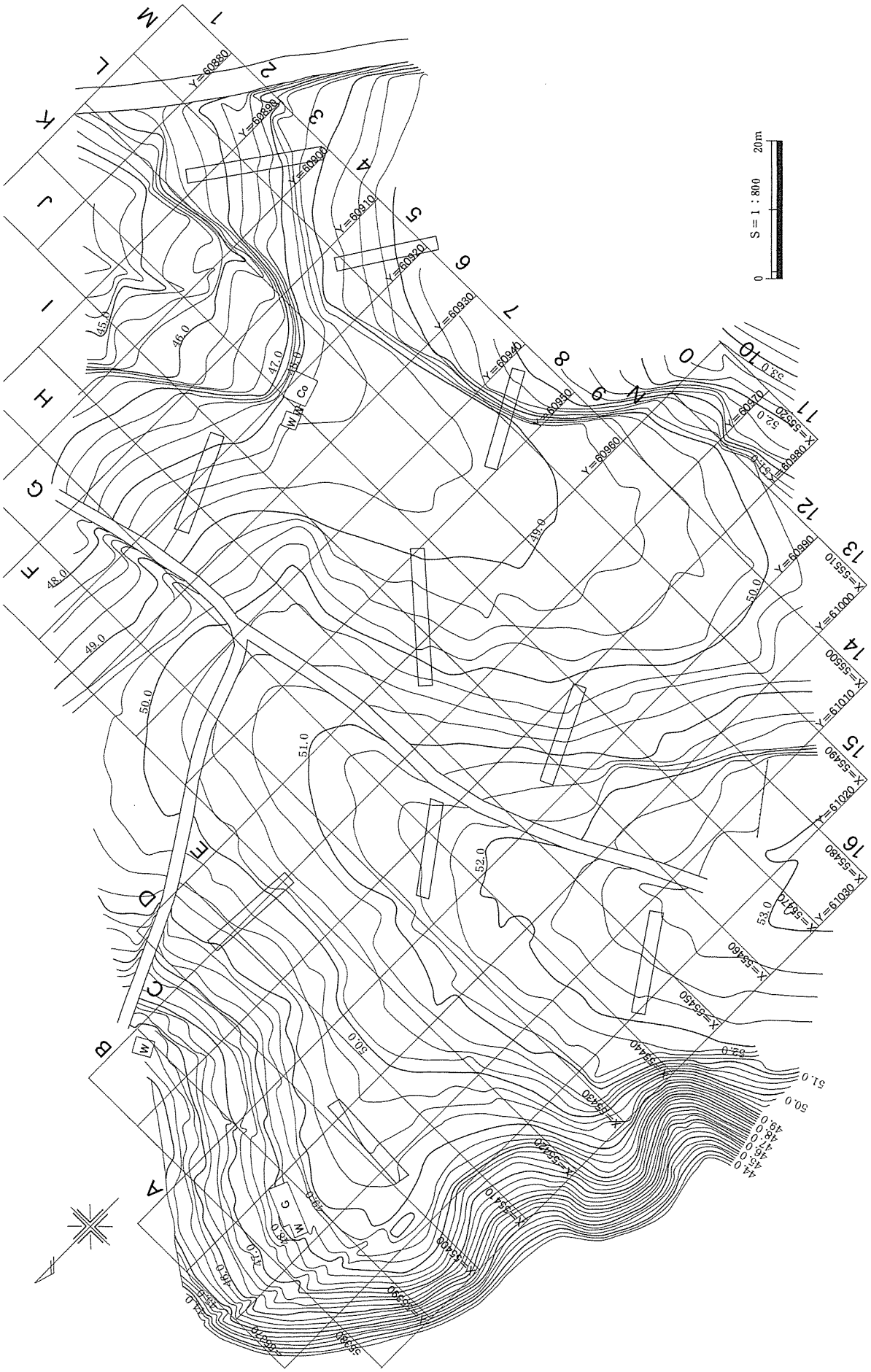
調査地内の丘陵上は、土の流出や梨の株痕・暗渠によって著しく撹乱が及んでいたため、安定的な土層堆積が認められなかった。したがって、現地表面から約20cm下の地山であるホーキ層・AT 層と一部ソフトロームが残存している範囲を遺構検出面とした。一方、北谷部および南谷部については、大きな撹乱が及んでおらず、古墳時代後半期を主体とする良好な遺物包含層が残存していた。

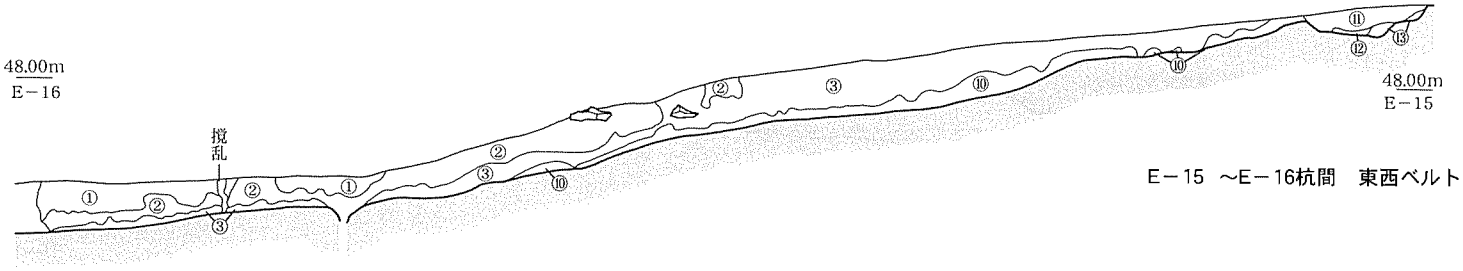
北谷部の層序　北谷部は表土下に第①層（褐色土層）が堆積していた。黄褐色ローム粒子・炭化物を含み須恵器・土師器の小片が検出されたが、本層の堆積は部分的であることから、主に南東方向の丘陵上からの流出によって形成されたものと思われる。第②層（黒褐色土層)、第③層（暗褐色土層）は北谷部において安定的に堆積し、古墳時代初頭から後期の遺物を多く包含している。第④・⑤層の褐色土層は、黄褐色ロームブロック・炭化物が混入し、わずかに遺物が認められた。前者は部分的な堆積で、第⑤層の亜層として捉えることができる。

北谷部の層序は、主に褐色・赤褐色土層と暗褐色・黒褐色土層が互層を成しており、後者は大山北麓に分布するいわゆる「黒ボク土」に比定される。また、北谷部の基盤層（地山）は基本的に大山上部火山灰層の茶褐色土層、丘陵尾根上の基盤層は AT 層に相当するとみられる。谷部堆積土の混入物のうち赤褐色ロームブロックは前者に、黄褐色ロームブロックは後者に比定され、これらが高所より流出して包含されたものであろう。

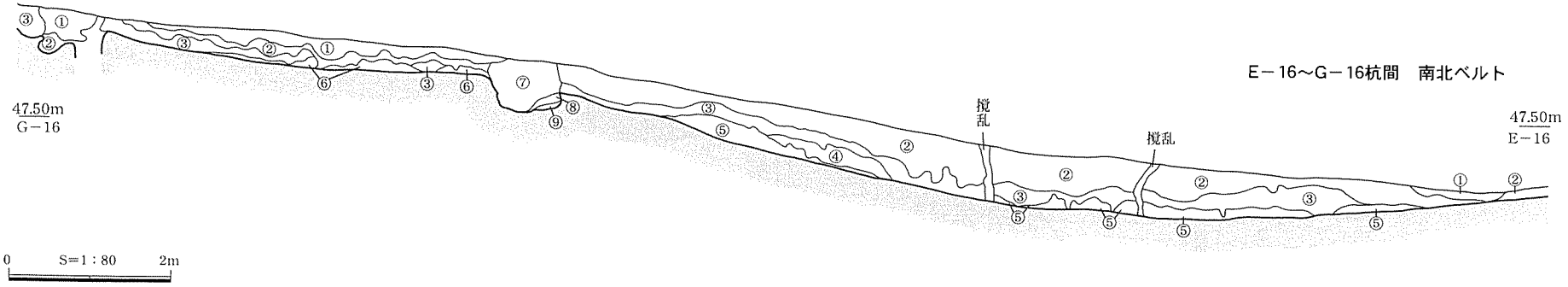
南谷部の層序　丘陵尾根の南側からは谷状地形が埋没した状態で検出され、その堆積土中から多量の遺物が出土した。この埋没谷は、大山山麓から日本海に向かう開析谷とみられ、調査区の東側に向かって次第に低くなる。丘陵尾根の標高が約51mとなるのに対し、谷底のローム層検出面の標高は46.5mとなり、４～５mの比高差がある。包含層の検出面から谷底までの深さは約２mとなる。

谷の堆積過程は、地山の直上に第Ⅶ層（黒色土層）がまず堆積した後、第Ⅵ層（暗褐色土ｃ層)、第Ⅴ層（橙褐色土層)、第Ⅳ層（黒褐色土層)、第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層)、第Ⅱ層（暗褐色土ａ層)、第Ⅰ層（茶褐色土層）の順で堆積する。谷底付近での各層の層厚は、おおむね20～30cm程度である。また、第Ⅶ層から第Ⅵ層までの間には、暗黄褐色土層（ｂ層）～黄褐色土層（ｇ層）などの間層が部分的に認められた。これらは、ロームブロックを主体とした層と有機質土層との互層をなすことから、風倒木などの自然的要因で地層が乱された結果とみられる。またａ層は、第Ⅲ層から掘り込まれたピッ

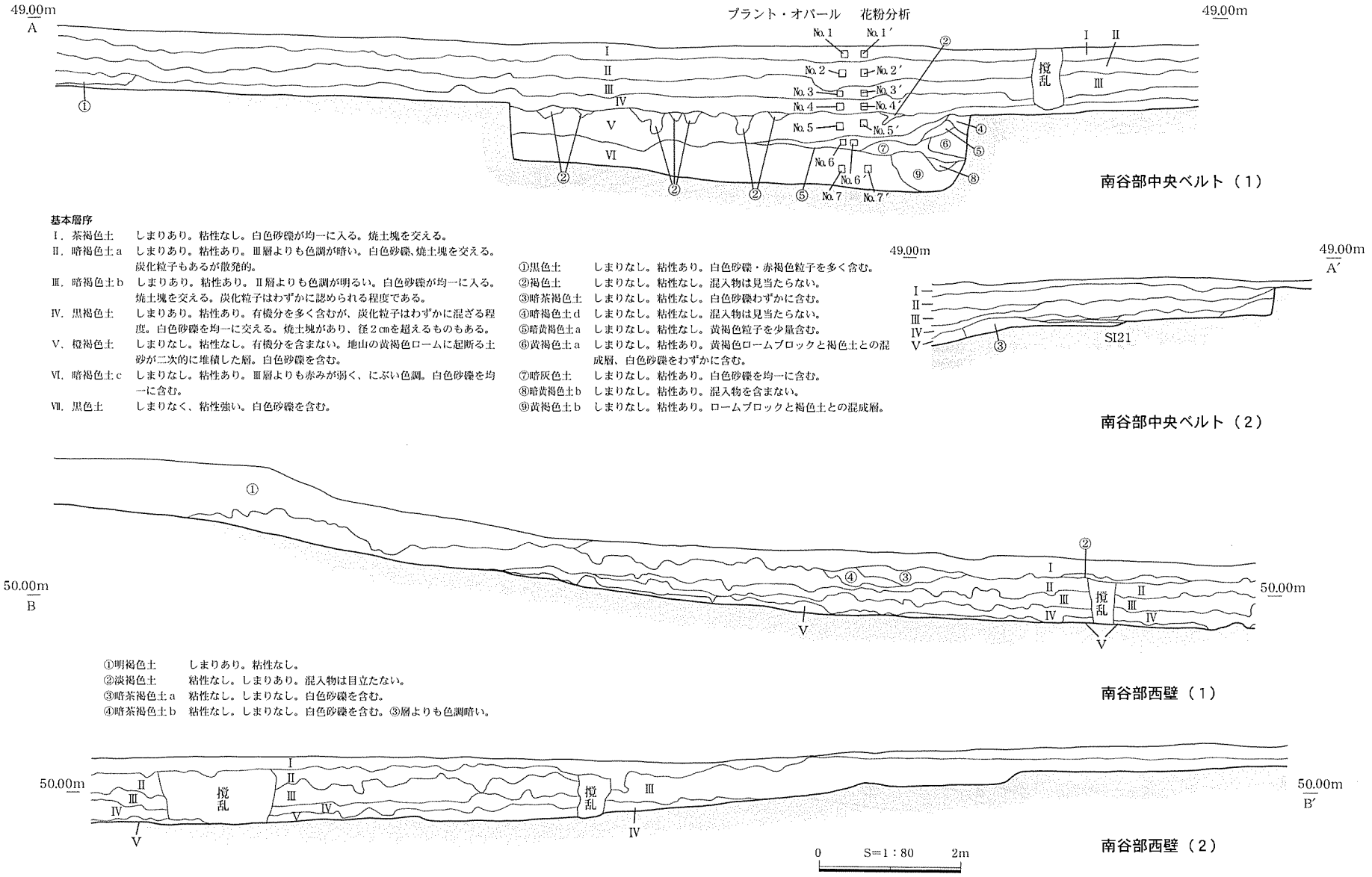

S＝1：800
0
20m
Y=60880
Y=60890
Y=60900
Y=60910
Y=60920
Y=60930
Y=60940
Y=60950
Y=60960
Y=60970
Y=60980
Y=60990
Y=61000
Y=61010
Y=61020
Y=61030
X=55410
X=55420
X=55430
X=55440
X=55450
X=55460
X=55470
X=55480
X=55490
X=55500
X=55510
X=55520
X=55530
X=55540
X=55550
X=55560
X=55570
X=55580
X=55590
X=55600
X=55610
X=55620
X=55630
X=55640
X=55650
X=55660
X=55670
X=55680
X=55690
X=55700
X=55710
X=55720
X=55730
X=55740
X=55750
X=55760
X=55770
X=55780
X=55790
X=55800



①褐色土　黄褐色ローム粒子、土器片、炭化物を含む。しまり粘性弱い。
②黒褐色土　黄褐色ローム粒子、土器片を少量含む。しまり粘性弱い。
③暗褐色土　黄褐色ローム粒子、土器片を多く含む。しまり粘性弱い。
④褐色土　黄褐色ロームブロック、土器片、炭化物を含む。しまり粘性弱い。
⑤褐色土　黄褐色ロームブロックを多く含み、土器片、炭化物を含む。しまり粘性弱い。
⑥赤褐色土　赤褐色ロームを主体とする。しまり粘性あり。
⑦褐色土　赤褐色ローム、土器片含む。しまり弱く粘性あり。（土坑の中）
⑧暗褐色土　赤褐色ロームブロック含む。しまり弱く粘性あり。
⑨暗褐色土　赤褐色ロームブロック多く含む。しまり弱く粘性あり。
⑩赤褐色土　赤褐色ロームを主体とする。しまり弱く粘性あり。
⑪褐色土　赤褐色ロームブロック、土器片含む。しまりあり粘性弱い。
⑫暗褐色土　赤褐色ロームブロック含む。しまり粘性弱い。
⑬暗褐色土　赤褐色ロームブロック多く含む。しまり粘性弱い。



第5図　北谷部包含層土層断面図（S＝1：80）



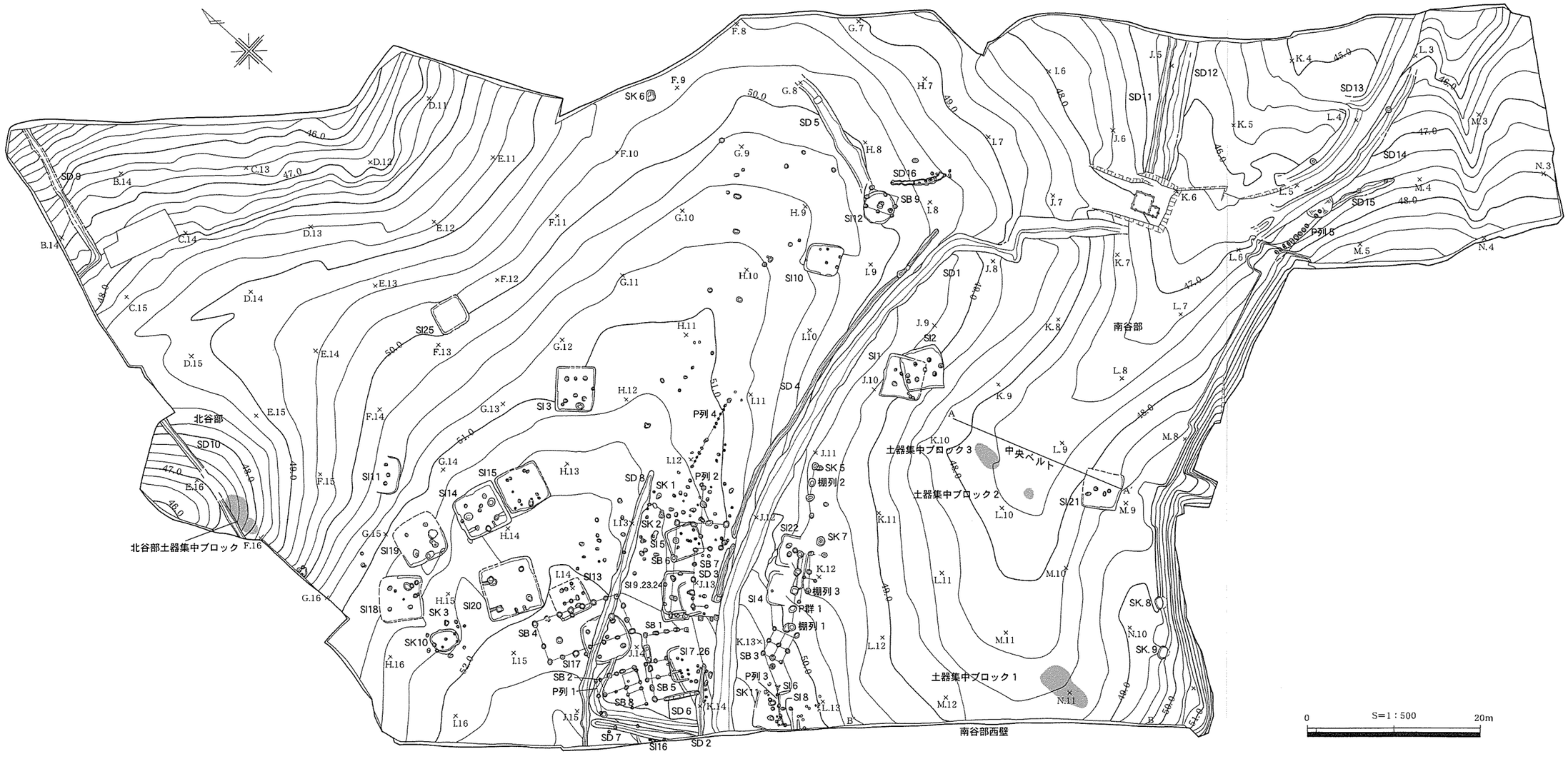
基本層序

Ⅰ．茶褐色土　しまりあり。粘性なし。白色砂礫が均一に入る。焼土塊を交える。
Ⅱ．暗褐色土a　しまりあり。粘性あり。Ⅲ層よりも色調が暗い。白色砂礫、焼土塊を交える。炭化粒子もあるが散発的。
Ⅲ．暗褐色土b　しまりあり。粘性あり。Ⅱ層よりも色調が明るい。白色砂礫が均一に入る。焼土塊を交える。炭化粒子はわずかに認められる程度である。
Ⅳ．黒褐色土　しまりあり。粘性あり。有機分を多く含むが、炭化粒子はわずかに混ざる程度。白色砂礫を均一に交える。焼土塊があり、径2cmを超えるものもある。
Ⅴ．橙褐色土　しまりなし。粘性なし。有機分を含まない。地山の黄褐色ロームに起断る土砂が二次的に堆積した層。白色砂礫を含む。
Ⅵ．暗褐色土c　しまりなし。粘性あり。Ⅲ層よりも赤みが弱く、にぶい色調。白色砂礫を均一に含む。
Ⅶ．黒色土　しまりなく、粘性強い。白色砂礫を含む。

①黒色土　しまりなし。粘性あり。白色砂礫・赤褐色粒子を多く含む。
②褐色土　しまりなし。粘性なし。混入物は見当たらない。
③暗茶褐色土　しまりなし。粘性なし。白色砂礫わずかに含む。
④暗褐色土d　しまりなし。粘性なし。混入物は見当たらない。
⑤暗黄褐色土a　しまりなし。粘性なし。黄褐色粒子を少量含む。
⑥黄褐色土a　しまりなし。粘性あり。黄褐色ロームブロックと褐色土との混成層、白色砂礫をわずかに含む。
⑦暗灰色土　しまりなし。粘性あり。白色砂礫を均一に含む。
⑧暗黄褐色土b　しまりなし。粘性あり。混入物を含まない。
⑨黄褐色土b　しまりなし。粘性あり。ロームブロックと褐色土との混成層。

①明褐色土　しまりあり。粘性なし。
②淡褐色土　粘性なし。しまりあり。混入物は目立たない。
③暗茶褐色土a　粘性なし。しまりなし。白色砂礫を含む。
④暗茶褐色土b　粘性なし。しまりなし。白色砂礫を含む。③層よりも色調暗い。

第6図　南谷部包含層土層断面図（S＝1：80）



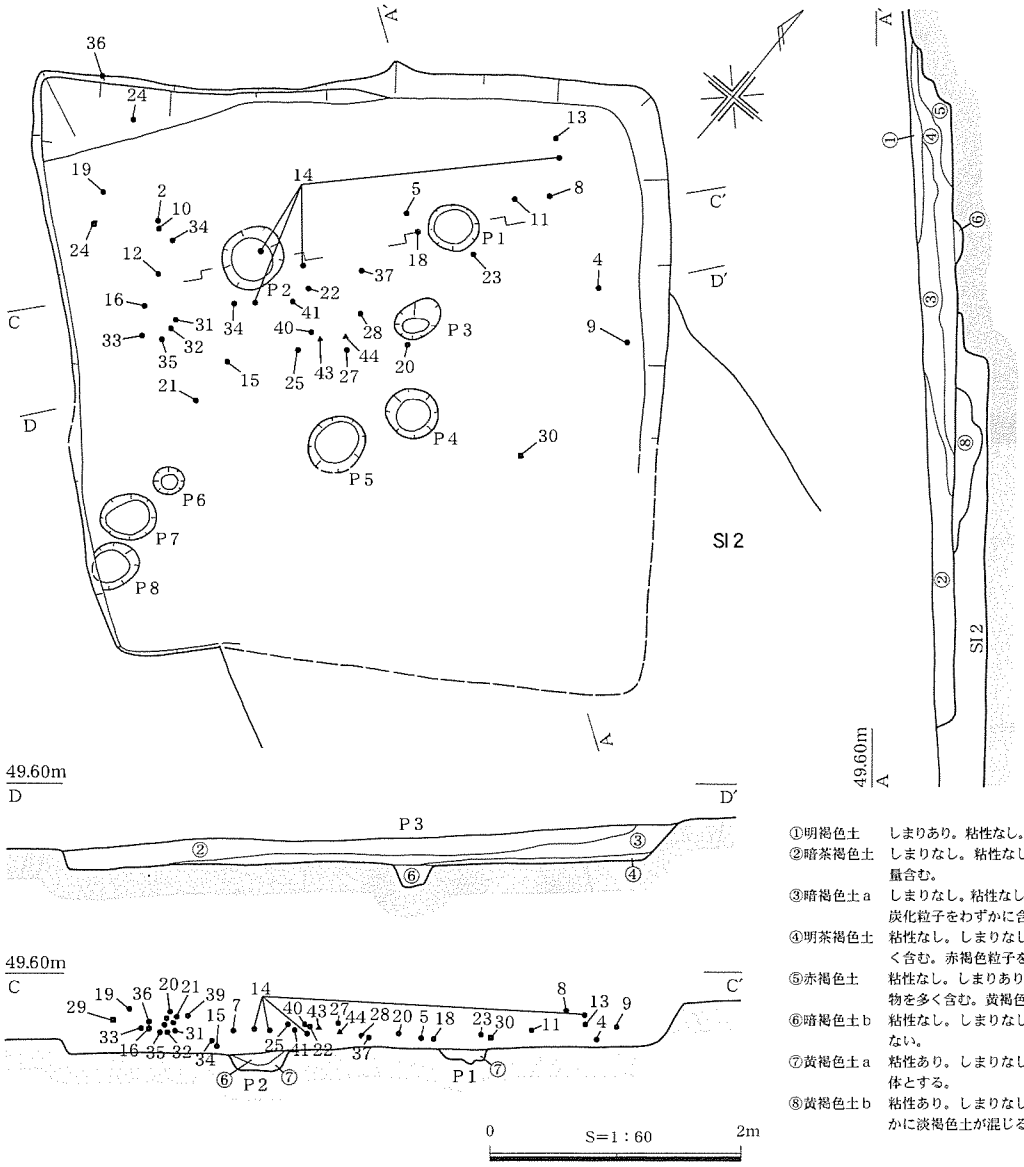
第７図　八橋第８・９遺跡全体図

トの埋土であるが、その形状は木の根等の自然的要因で形成されたとみられる。

この谷状地形からは土器などの遺物が大量に出土した。その多くは、谷の北側から投棄された生活廃材とみられる。遺物は第Ⅰ～Ⅳ層までの間で認められ、その下の第Ⅴ層から地山ローム面までの間は遺物を全く含んでいなかった。つまり、開析作用が沈静化して谷の埋没が始まっても、しばらくの間は生活の痕跡が残されなかったと判断される。そのため、今回の調査では、一部トレンチを設けてローム層検出面まで深掘りした以外は、第Ⅴ層の上面を検出した段階で調査を終了した。

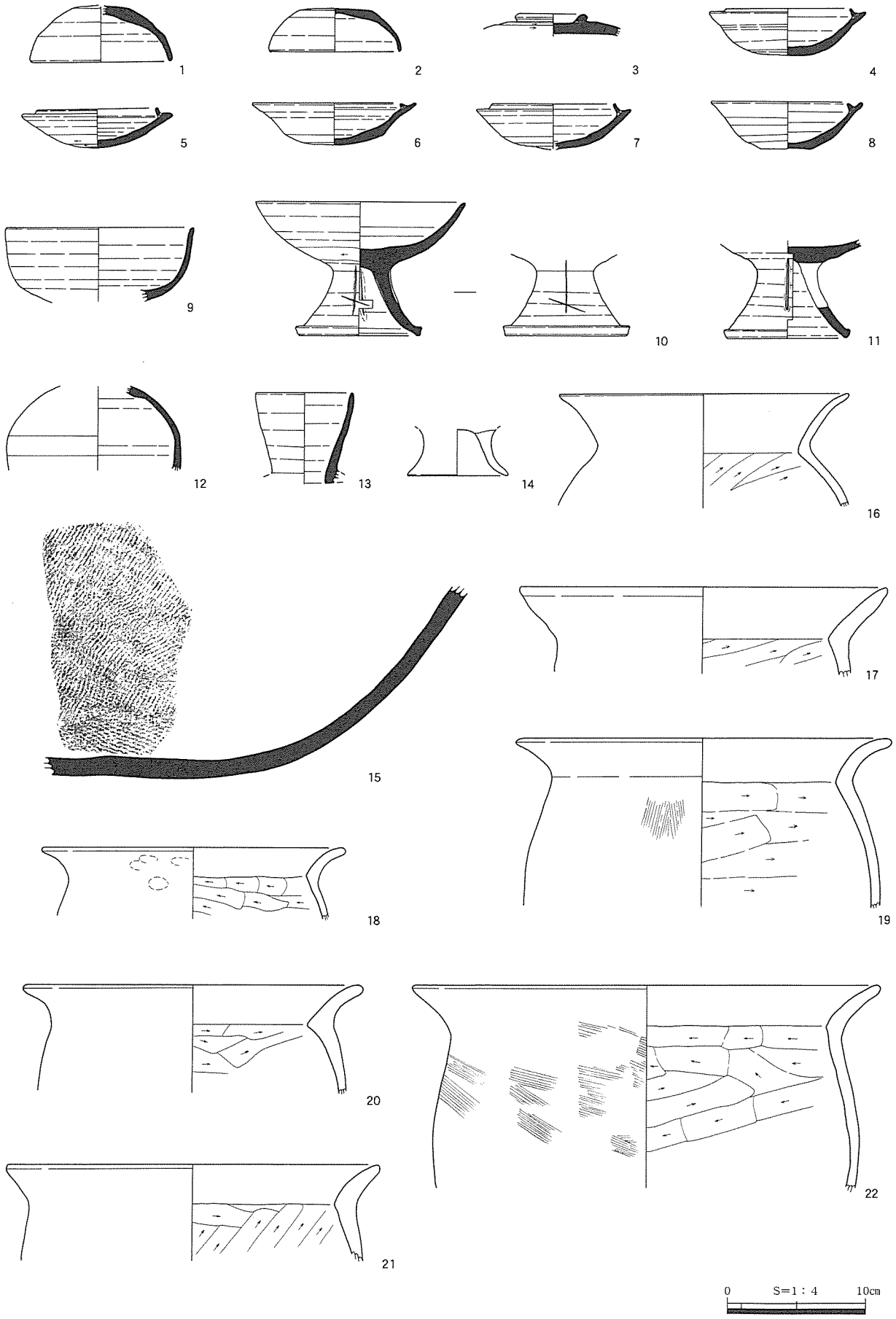
遺物は、第Ⅰ～Ⅳ層の各層で認められる。とりわけ、第Ⅲ・Ⅳ層からの出土が目立ち、古墳後半期の須恵器・土師器をはじめ、鉄製品・鉄滓・土玉・石器なども含まれていた。弥生土器（後期）や打製石鏃などもわずかに含んでいたが、これらも第Ⅳ層からの出土である。遺物包含層は有機分を多く含んではいたが、大規模な製鉄活動を示す廃滓場や炭層は検出されなかった。最上層の第Ⅰ層は古墳後半期の遺物小片とともに、近世以降の陶磁器片も一定量含まれる。　（小口・北島・原）

第２節　遺構の調査

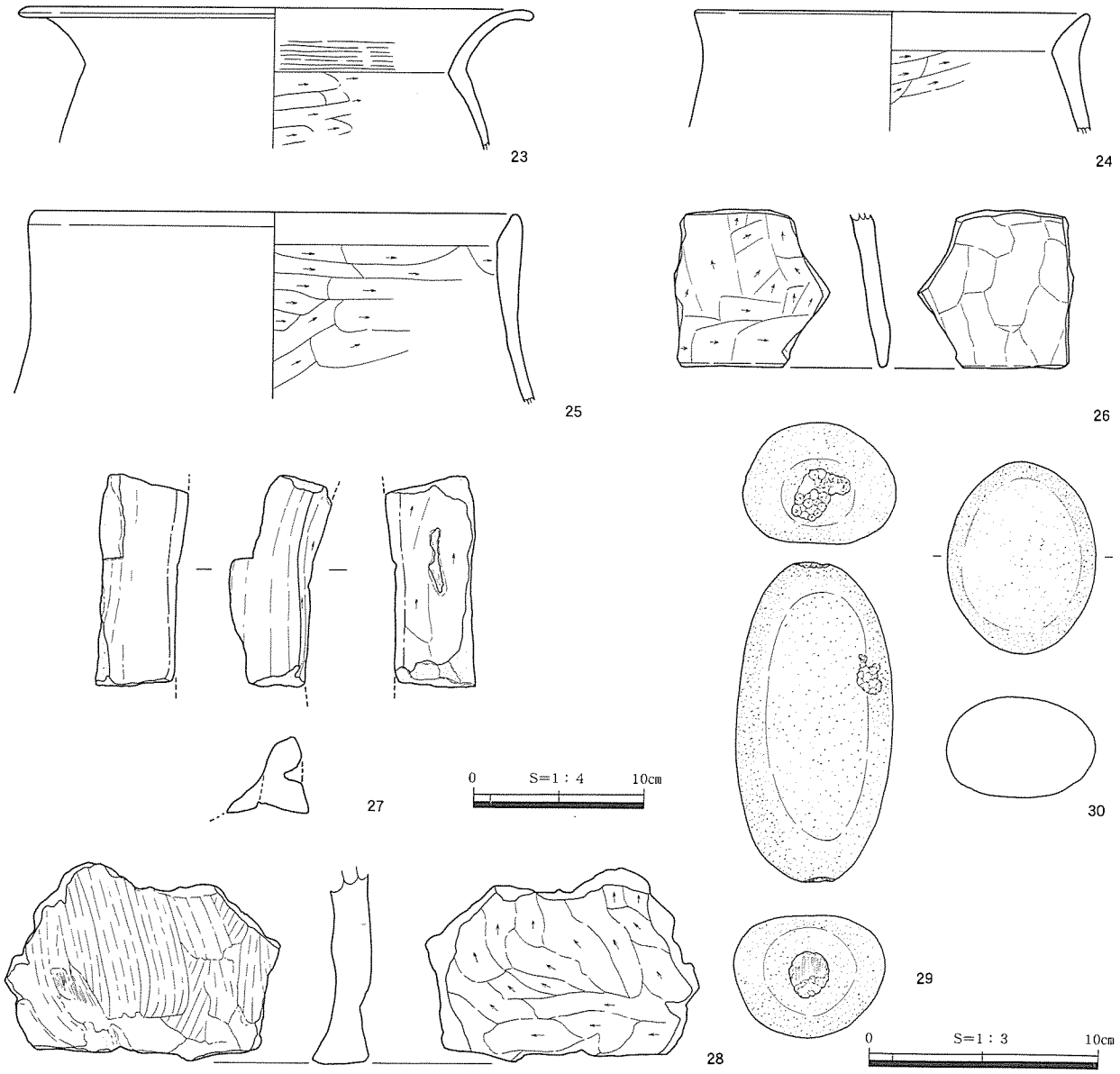


①明褐色土　しまりあり。粘性なし。黄褐色ローム粒子を少量含む。
②暗茶褐色土　しまりなし。粘性なし。黄褐色ロームブロックを少量含む。
③暗褐色土ａ　しまりなし。粘性なし。黄褐色ローム粒子少量含む。炭化粒子をわずかに含む。
④明茶褐色土　粘性なし。しまりなし。黄褐色ロームブロックを多く含む。赤褐色粒子を少量含む。
⑤赤褐色土　粘性なし。しまりあり。赤褐色粒子（焼土塊）・炭化物を多く含む。黄褐色ローム粒子少量含む。
⑥暗褐色土ｂ　粘性なし。しまりなし。混入物はほとんど認められない。
⑦黄褐色土ａ　粘性あり。しまりなし。黄褐色ロームブロックを主体とする。
⑧黄褐色土ｂ　粘性あり。しまりなし。黄褐色ロームブロックのなかに淡褐色土が混じる。

第８図　SI 1



第９図　SI１出土遺物（１）



第10図　SI１出土遺物（２）

（１）竪穴住居跡

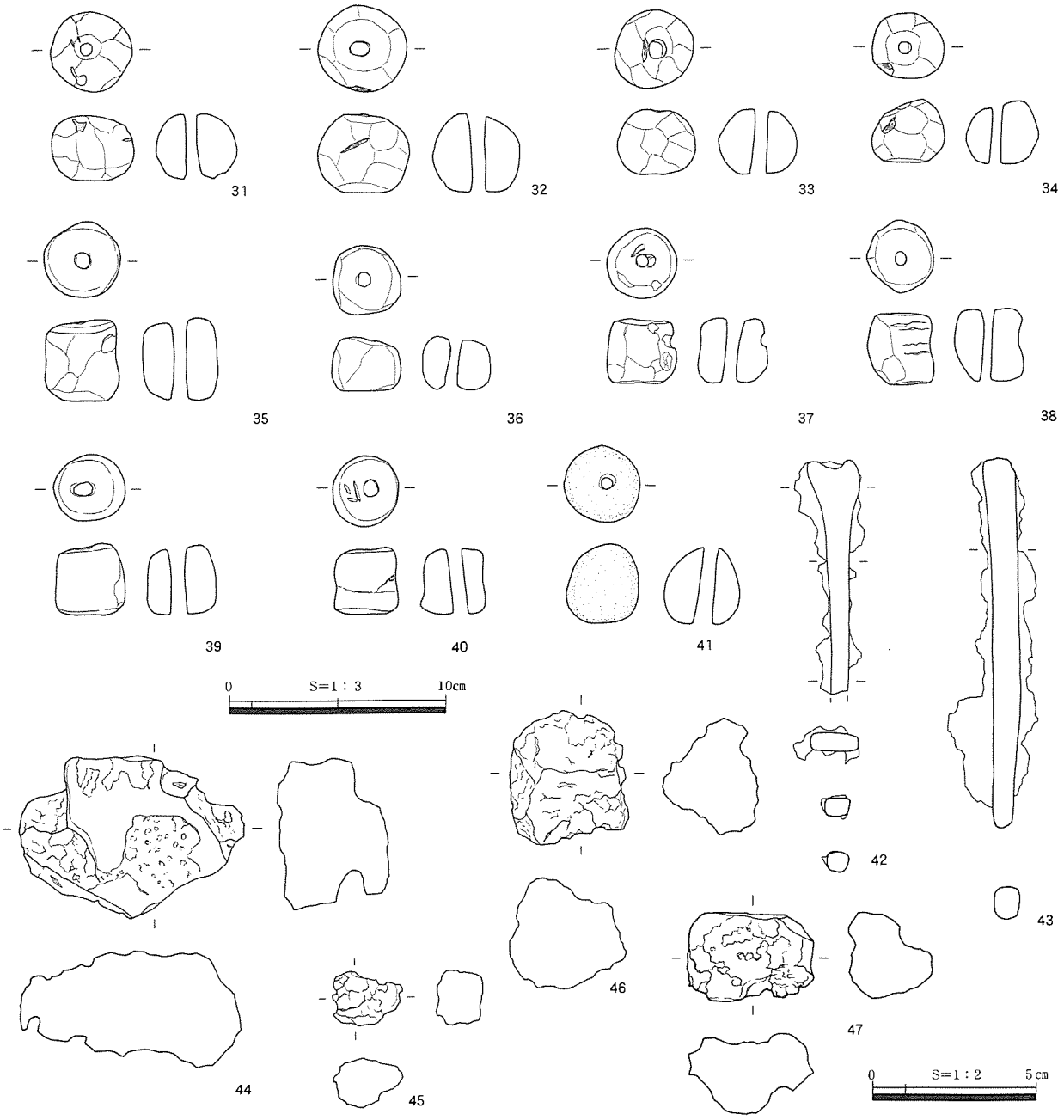
SI１（第８・９・10・11図、表１・２・３・４、PL.２・25・26・42）

位置　台地南側のＪ９グリッドの緩斜面上に立地し、主軸を北西に向ける。床面の標高は48.9～49.0mである。SI１の南半部分はSI２と重複するが、土層の切り合い関係はSI１の方が新しい。

規模と形態　建物の平面形はほぼ正方形で、南北幅4.5m、東西幅4.6mを測る。壁周溝は認められない。P１・２・４は主柱穴とみられ、４本柱建物と推定されるものの、西南の１本分は未確認である。

埋土と遺物の出土状態　SI２の埋土を掘削してSI１が建てられている。そのため、SI１の床面南半はSI２の埋土を掘り込んでおり、部分的に黄褐色ブロックを敷き詰めて貼床とする（⑧層）。SI１の廃絶後は、埋土の①～⑤層が北西側から流入・堆積する。このうち⑤層は、住居北壁の中央付近でのみ堆積が確認され、焼土塊や炭化粒子を多く含んでいた。北壁中央では、床面と壁面が高熱を受けて焼土面となっており、⑤層の形成と何らかの関連を持つとも推測される。遺物のほとんどは③・④層からの出土である。床面直上出土の遺物には須恵器坏身の４があるだけで、これも④層に属する。

出土遺物　須恵器（１～13・15）・土師器（14・16～28）のほか、石器（29・30）・有孔土玉（31



第11図　SI１出土遺物（３）

～40)・有孔石玉（41)・鉄製品（42・43)・鉄滓（44～47）がある。このうち須恵器には、坏蓋（１～３)・坏身（４～９)・高坏（10・11)・壺（12)・平瓶（13)・甕（15）などがある。坏身のカエリはいずれも短く、断面が三角形となるなど退化が著しい。小型の坏蓋とセットをなすものである。また、坏身の９は底部を欠くが、高台が付くとみられる。土師器には脚付椀（14)・甕（16～23)・甑（24～26)・竈（27・28）がある。甕は全て素口縁である。29・30は磨石である。このうち29は、上・側・下面に敲打痕が認められ、敲石としても用いられている。有孔土玉は10点が出土した。このうち、31～34の形状は球形を呈し、35～40は臼玉状となる。また、41の有孔石玉は全面を研摩し、球形に仕上げている。鉄製品は２点ともに棒状の鍛造品である。このうち42の頭部は、二又に分かれるようである。また、44～47は鉄滓だが、44は流動滓、45・47は椀形鍛冶滓、46は含鉄鉄滓である。

遺物の年代は、八橋Ⅸ期新段階とみられる（第５章第１節参照)。　（北島）

表１　SI１出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI1 埋土	須恵器 坏蓋	※10.4 4.1	1/2	外面：体部回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ 内面：回転ナデ後、静止ナデ　底部内面ヘラ記号	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・暗褐色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	SI1 埋土	須恵器 坏蓋	※9.6 3.1	1/4	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・灰褐色粒子	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
3	SI1 埋土	須恵器 坏蓋	－ △1.4	天井部1/4	外面：底部回転ヘラケズリ後、環状ツマミ接合。 内面：回転ナデ	密　3.0mmの石英、2.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
4	SI1 埋土	須恵器 坏身	11.5 3.4	1/1	外面：回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ後、ナデケシ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒・暗褐色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
5	SI1 埋土	須恵器 坏身	※11.1 2.9	1/4	外面：体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.0mmの白色砂粒・半透明砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
6	SI1 埋土	須恵器 坏身	※12.0 3.1	1/2	外面：体部回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ後ナデケシ 内面：回転ナデ、底部内面ヘラ記号「－」	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰黄色 内面：暗灰白色	堅緻	胎土分析No.4
7	SI1 埋土	須恵器 坏身	※11.2 3.3	1/2	外面：体部回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ後ナデケシ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
8	SI1 埋土	須恵器 坏身	11.3 3.4	3/4	外面：回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・黒褐色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.2
9	SI1 埋土	須恵器 坏身	※13.8 △5.4	坏部1/3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒・灰色砂粒。	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.3
10	SI1 埋土	須恵器 高坏	※15.4 9.7	焚口部 1/10	外面：坏部回転ナデ後、回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ、擬似透穴 内面：回転ナデ	密　1.0mm白色砂粒・濃灰色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.1
11	SI1 埋土	須恵器 高坏	－ △7.0	底部1/10	外面：坏部回転ナデ後、回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ、擬似透穴 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰色	堅緻	
12	SI1 埋土	須恵器 壺	－ △4.1	胴部上半 1/3	外面：胴部上半回転ナデ、胴部下半回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
13	SI1 埋土	須恵器 平瓶	※7.2 △6.5	口縁部1/1	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの灰色砂粒	外面：オリーブ灰色 内面：灰色	堅緻	
14	SI1 埋土	土師器 脚付埦	－ △3.4	脚部1/4	外面：ナデ 内面：ナデ	密　2.0～3.0mmの石英	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
15	SI1 埋土	須恵器 甕	－ △13.5	底部1/4	外面：タタキ 内面：同心円文（青海波文）タタキ	密　0.5～2.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
16	SI1 埋土	土師器 甕	※20.8 △8.1	口縁部1/5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・輝石	外面：橙色～にぶい黄橙色 内面：橙色～にぶい黄橙色	良好	
17	SI1 埋土	土師器 甕	※26.2 △6.2	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・輝石	外面：にぶい黄橙色～にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色～にぶい橙色	良好	
18	SI1 埋土	土師器 甕	※21.6 △5.1	口縁部1/6	外面：ヨコナデ、部分的にユビオサエ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0mmの白色砂粒	外面：橙色～にぶい橙色 内面：橙色～にぶい橙色	良好	
19	SI1 埋土	土師器 甕	※1903 △12.1	口縁部1/1	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5mmの長石、1.0mmの赤褐色粒子	外面：にぶい橙色～橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
20	SI1 埋土	土師器 甕	※24.0 △7.8	口縁部1/7	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0mmの白色砂粒・輝石	外面：にぶい橙色～明赤褐色 内面：にぶい橙色～明赤褐色	良好	
21	SI1 埋土	土師器 甕	※16.6 △7.1	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0mmの白色砂粒	外面：にぶい橙色～にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色～にぶい黄橙色	良好	
22	SI1 埋土	土師器 甕	※34.0 △14.7	口縁部1/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
23	SI1 埋土	土師器 甕	※28.0 △8.0	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部上半ナデ・下半ハケメ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0mmの輝石	外面：にぶい橙色～にぶい褐色 内面：にぶい橙色～にぶい褐色	良好	
24	SI1 埋土	土師器 甑	※22.6 △6.9	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5から1.0mmの白色砂粒	外面：暗灰黄色～黄灰色 内面：にぶい黄橙色～暗灰黄色	良好	
25	SI1 埋土	土師器 甑	※28.4 △10.6	口縁部～胴部上半1/5	外面：ハケメ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
26	SI1 埋土	土師器 竈	－ △9.3	底部1/10	外面：面取り 内面：ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・輝石	外面：橙 内面：橙色～にぶい橙色	良好	
27	SI1 埋土	土師器 竈	－ △12.4	焚口部 1/10	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	密　0.5～2.5mmの白色砂粒・0.5～3.0mmの褐色砂粒	外面：にぶい黄橙色～浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色～浅黄橙色	良好	
28	SI1 埋土	土師器 竈	－ △11.0	底部1/10	外面：ハケメ後、雑なナデ 内面：ケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい橙色～灰黄色 内面：灰黄褐色	良好	

表２　SI１出土有孔土玉・有孔石玉観察表

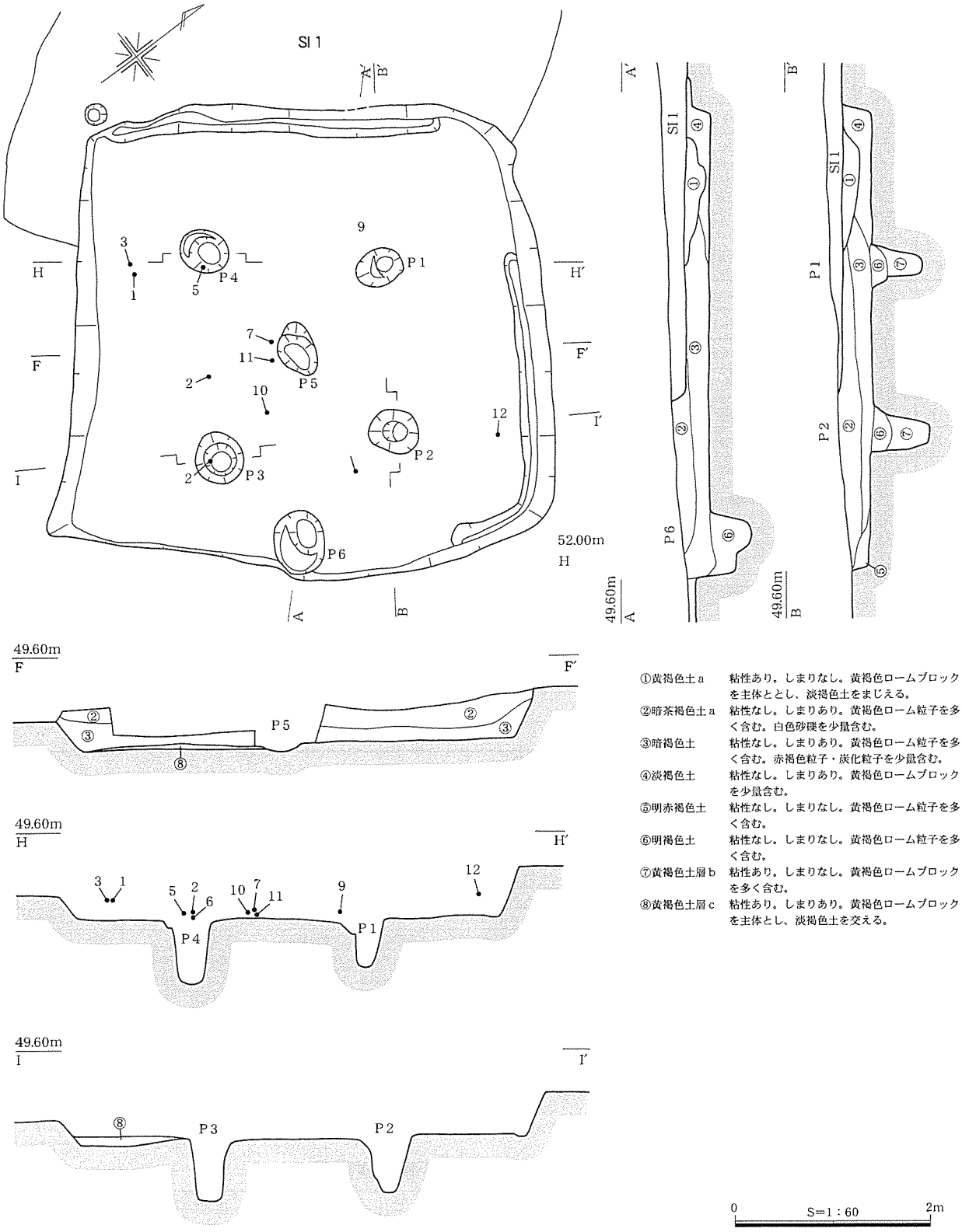
遺物No.	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
31	SI1	埋土	球状	3.0	3.7	0.5	37.6	面取り後、ナデ	0.5mmの輝石・白色砂礫を含む	黄褐色	良好	
32	SI1	埋土	球状	3.6	4.2	0.6	59.0	面取り後、ナデ	0.5mmの輝石・白色砂礫を含む	浅黄色～黒褐色	良好	
33	SI1	埋土	球状	3.0	3.6	0.6	37.4	面取り後、ナデ	0.1～0.5mmの黒色砂礫を含む	浅黄色～黒褐色	良好	黒斑あり
34	SI1	埋土	球状	2.9	3.3	0.5	27.2	面取り後、ナデ	0.1mmの白色砂粒、黒雲母を含む	灰黄色～灰色	良好	平坦面あり
35	SI1	埋土	管状	3.8	3.5	0.6	44.6	面取り後、ナデ	1mmの白色砂粒を含む	黄灰色～暗灰黄色	良好	
36	SI1	埋土	管状	2.5	3.2	0.5	26.6	ナデ	1mmの白色砂礫、石英を含む	にぶい黄色～暗灰黄色	良好	
37	SI1	埋土	管状	3.0	3.2	0.5	34.2	面取り後、ナデ	0.1～0.5mmの白色砂粒を含む	暗灰黄色	良好	
38	SI1	埋土	管状	3.2	3.1	0.4	34.8	ナデ	1mm白色砂粒を含む	黄灰色	良好	
39	SI1	埋土	管状	3.3	3.2	0.7	32.8	ナデ	0.5mmの白色砂粒を含む	にぶい黄色～黒褐色	良好	
40	SI1	埋土	管状	3.0	3.0	0.6	31.8	ナデ	0.1～0.5mmの黒色砂礫を含む	淡黄色	良好	
41	SI1	埋土	球状	3.6	3.3	0.6	44.8	全面研磨	安山岩	灰白色	－	石玉

表３　SI１出土鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	磁着度	メタル度	備考
42	SI1	埋土	鉄製品	鍛造品	13.2	7.1（6.9）	2.0（1.4）	0.5～0.7	3	L（●）	
43	SI1	埋土	鉄製品	鍛造品	36.0	11.3	2.7	2.0	6	L（●）	分析No.2（YAB－2）
44	SI1	埋土	流動滓	－	161.0	5.0	6.9	3.6	1	なし	
45	SI1	埋土	含鉄鉄滓	錆化（△）	5.9	1.7	2.2	1.5	2	錆化（△）	
46	SI1	埋土	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	65.5	4.1	3.6	3.4	2	錆化（△）	
47	SI1	埋土	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	24.0	2.7	3.9	2.5	2	錆化（△）	

表４　SI１出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層　位	器　種	石　材	法　量				備　　考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
29	SI1	埋土	磨石・敲石	安山岩	14.0	6.7	5.3	740.0	上・側・下面敲打痕
30	SI1	埋土	磨石	安山岩	8.4	6.5	4.4	300.0	



第12図　SI 2

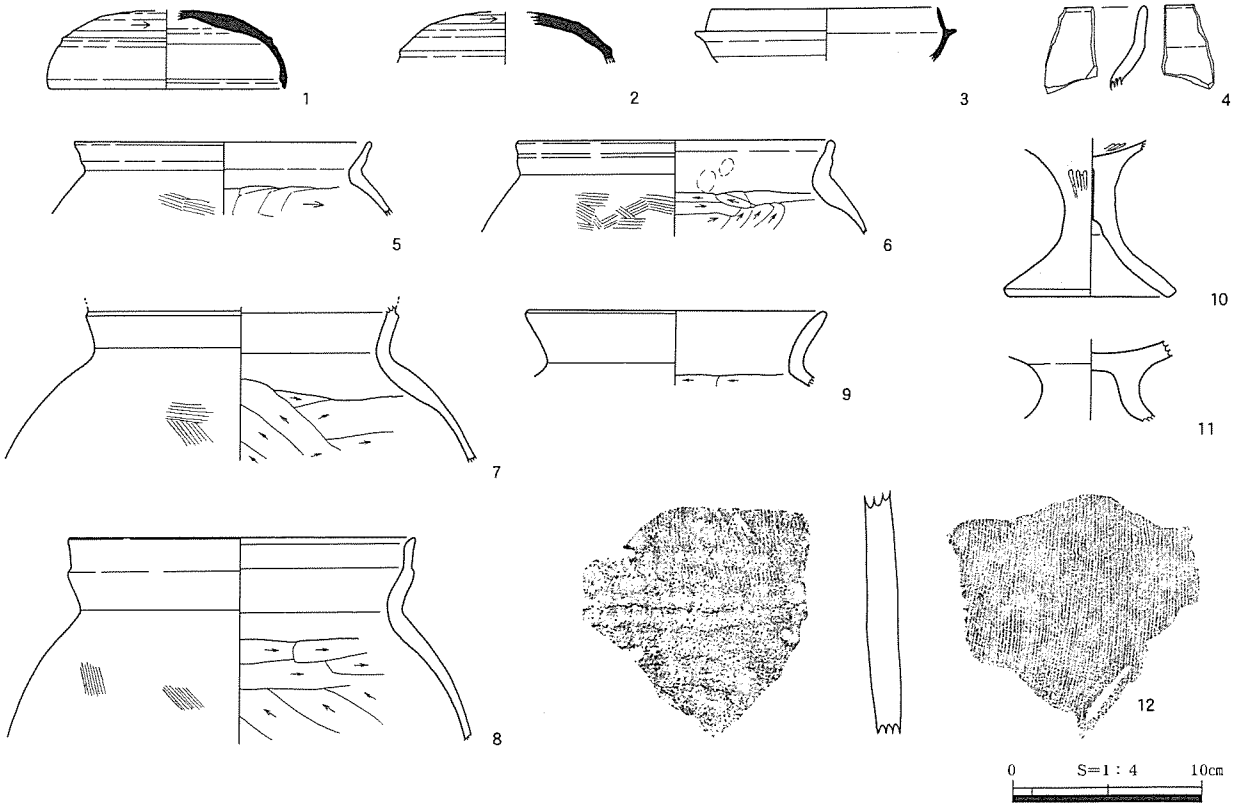
SI２（第12・13図、表５、PL.2・26）

位置　Ｊ９グリッドにあり、主軸は北西を向く。北半部はSI１と重複する。床面の標高48.7m。

規模と形態　平面形はほぼ正方形を呈する。北壁と東壁側には、断面がＵ字状の浅い壁周溝がめぐる。また、南側の床面がやや低いため、黄褐色ロームブロックを敷き詰めて貼床としている（⑧層）。

SI２に伴う遺構にはＰ１～６がある。このうち、Ｐ１～４は主柱穴とみられる。また、建物のほぼ中央にあるＰ５は、皿状に浅く窪んでいる。その底面は高熱を受けて焼土面となり、硬く焼き締まっていた。このほかにもSI２では、床面の北東側を中心に広範囲で焼土面が認められたものの、浅く窪んだ焼土面はＰ５だけである。また、Ｐ６は南壁中央付近に位置し、壁際特殊ピットとみられる。

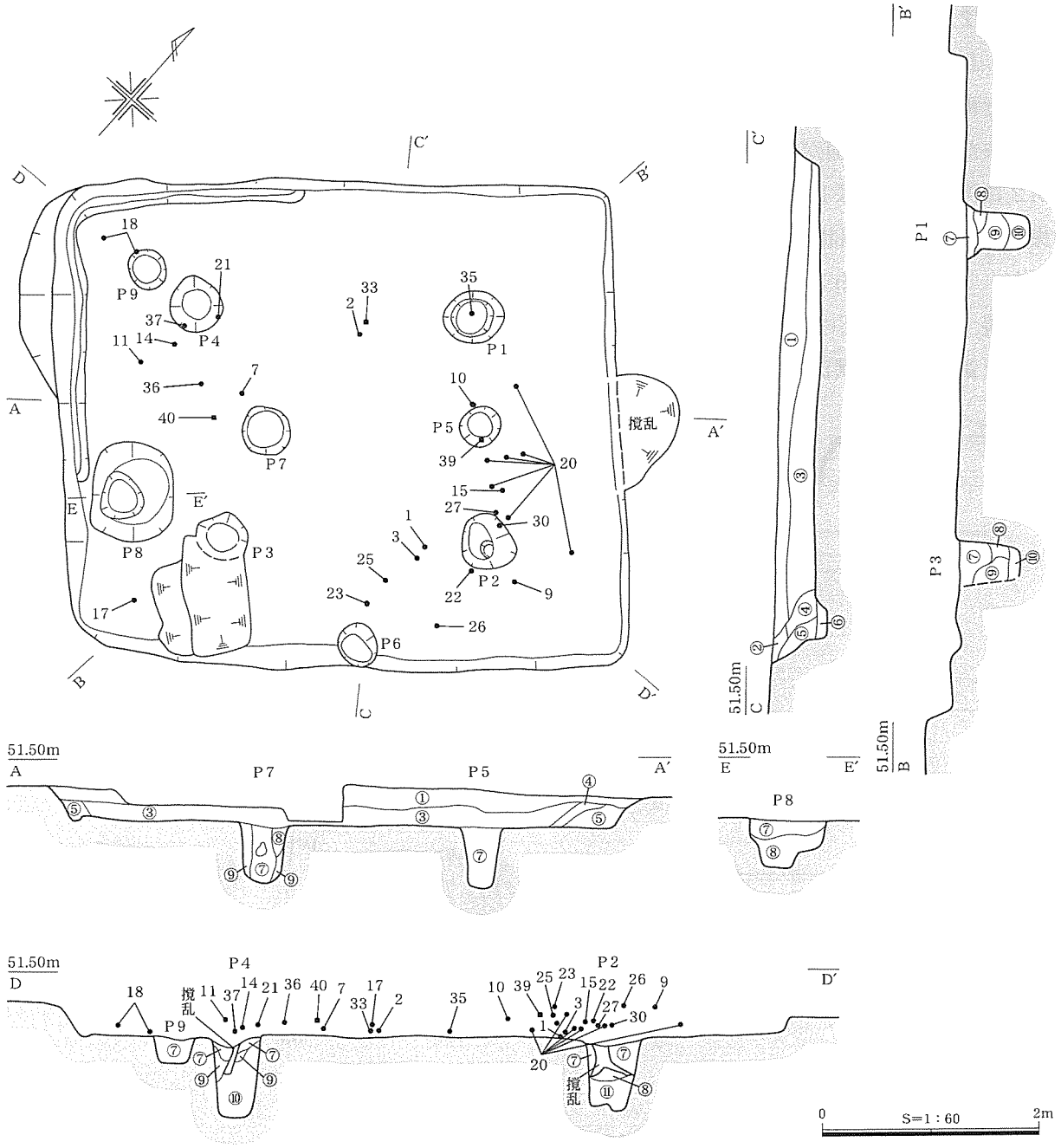
埋土と遺物の出土状況　SI２廃絶後、まず柱穴などのピットが埋没する（⑦・⑥層）。その後、住



第13図　SI２出土遺物

表５　SI２出土土器観察表

遺物No.	遺構層位	器種	口径(cm)器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI2 埋土	須恵器 坏蓋	12.8 △2.4	1/3	外面：口縁部ヨコナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0mmの白色砂粒・1.0mmの黒褐色砂粒	外面：青灰色～明青灰色 内面：	堅緻	
2	SI2 埋土	須恵器 坏蓋	最大径10.7 △3.7	1/8	外面：口縁部ヨコナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒	外面：緑灰色 内面：緑灰色	堅緻	
3	SI2 埋土	須恵器 坏身	※12.1 △2.9	口縁部1/8	外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.5 断面が紫紅色を呈す
4	SI2 埋土	土師器 甕	－ △4.4	口縁部 1/10以下	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・灰色粒子	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
5	SI2 埋土	土師器 甕	※16.0 △5.1	口縁部1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	密　0.5～2mmの砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
6	SI2 埋土	土師器 甕	※15.8 △3.7	口縁部1/6	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1～3mmの白色砂粒・1.0mmの灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい黄橙色～褐灰色 内面：にぶい黄橙色	良好	
7	SI2 埋土	土師器 甕	頸部※15.6 △8.0	頸部1/5	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3mmの灰色砂粒 0.5～2.5mmの暗褐色砂粒	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
8	SI2 埋土	土師器 甕	※18.2 △10.7	頸部1/5	外面：ナデ胴部に薄くハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	やや粗　0.5～2mmの白色砂粒0.5～2mmの赤褐色砂粒子	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
9	SI2 埋土	土師器 甕	※15.2 △4.0	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1mmの白色砂粒含む	外面：淡黄色 内面：淡黄色	良好	
10	SI2 埋土	土師器 高坏	底径※8.4 △8.3	底部1/1	外面：風化しているが所々ミガキが残る。全面赤色塗彩。 内面：風化しているが所々ミガキが残る。全面赤色塗彩。	密　0.5～4mm灰色砂粒0.5～2.5mmの赤褐色粒子0.5の長石	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
11	SI2 埋土	土師器 脚付埦	最大※9.6 △4.2	頸部3/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・0.5～2mmの灰色砂粒　0.5～2mmの赤褐色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
12	SI2 埋土	土師器 竈	－ △13.0	底部1/10 以下	外面：ハケメ 内面：上半ハケメ、下半ヘラケズリ	密　2.5mmの灰色砂粒、1.0mmの白色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	



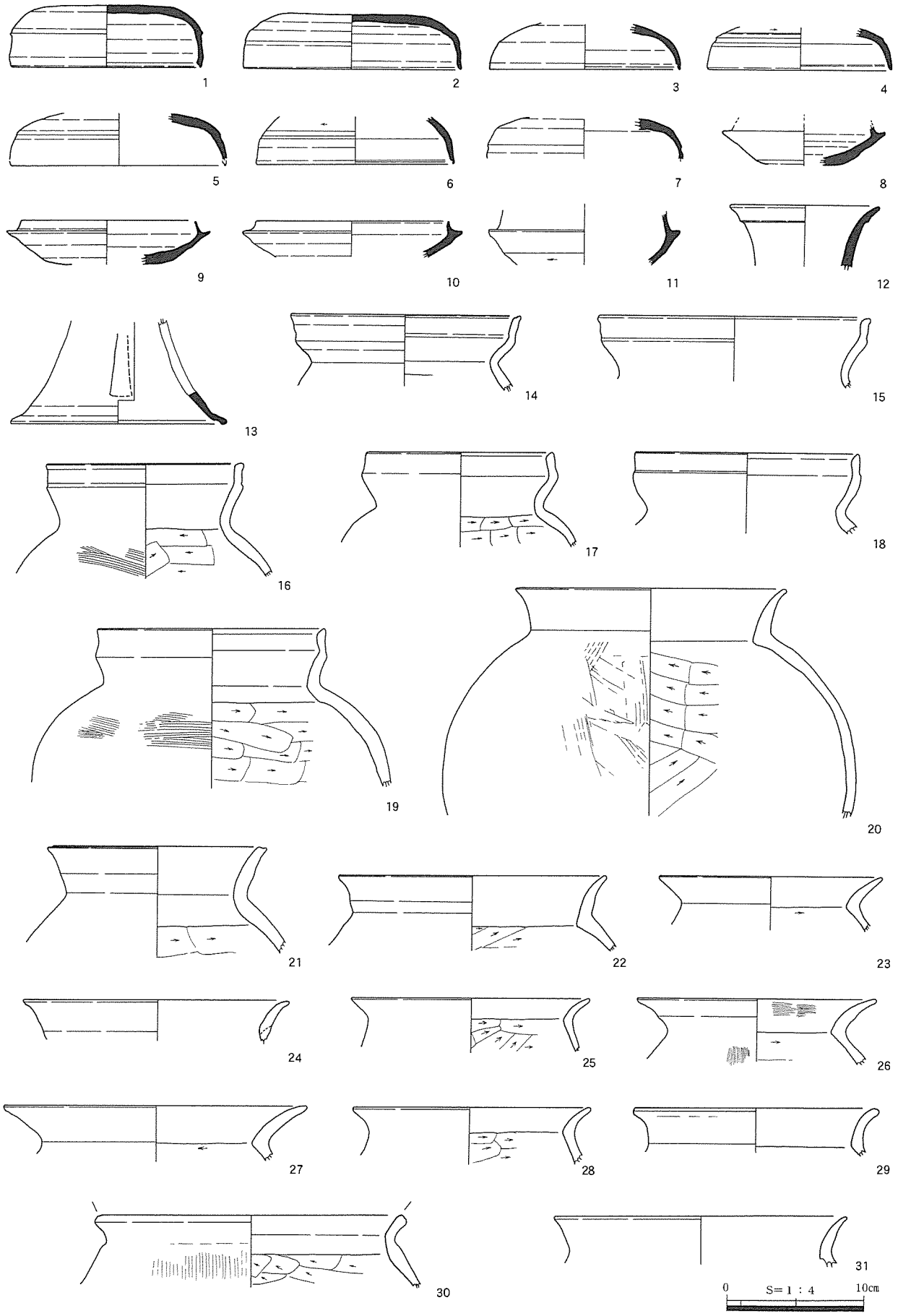
①暗褐色土　径１～２㎝の黄褐色ハードロームブロック、炭化物、赤色粒子を含む。粘性・しまり弱い。
②桃褐色土　ソフトロームと①層の混合土層。径0.5㎝の黄褐色ハードロームブロック、炭化物をわずかに含む。粘性、しまり弱い。
③暗褐色土　径１～２㎝の黄褐色ハードロームブロック、炭化物、赤色粒子を含む。粘性・しまり①層より弱く、色調も暗い。
④暗褐色土　径0.5㎝の黄褐色ハードローム粒子、炭化物を含む。粘性・しまり有り。
⑤暗褐色土　ソフトロームブロックが斑状に混入。径0.5㎝の炭化物をわずかに含む。粘性・しまり弱い。
⑥暗褐色土　径１～２㎝の黄褐色ハードロームブロック、炭化物を多く含む。粘性・しまり有り。
⑦暗褐色土　径１㎝の黄褐色ハードロームブロック、炭化物を多く含む。粘性やや有り。しまり強い。
⑧暗褐色土　径１～３㎝の黄褐色ハードロームブロック、径0.5～１㎝の炭化物を多く含む。粘性・しまり⑦層より強い。
⑨褐色土　径１～３㎝の黄褐色ハードロームブロックを多く含む。粘性・しまり強い。
⑩褐色土　径0.5㎝の黄褐色ハードロームブロックをわずかに含む。粘性・しまり強い。
⑪桃褐色粘質土　粘性・しまり強い。

第14図　SI３

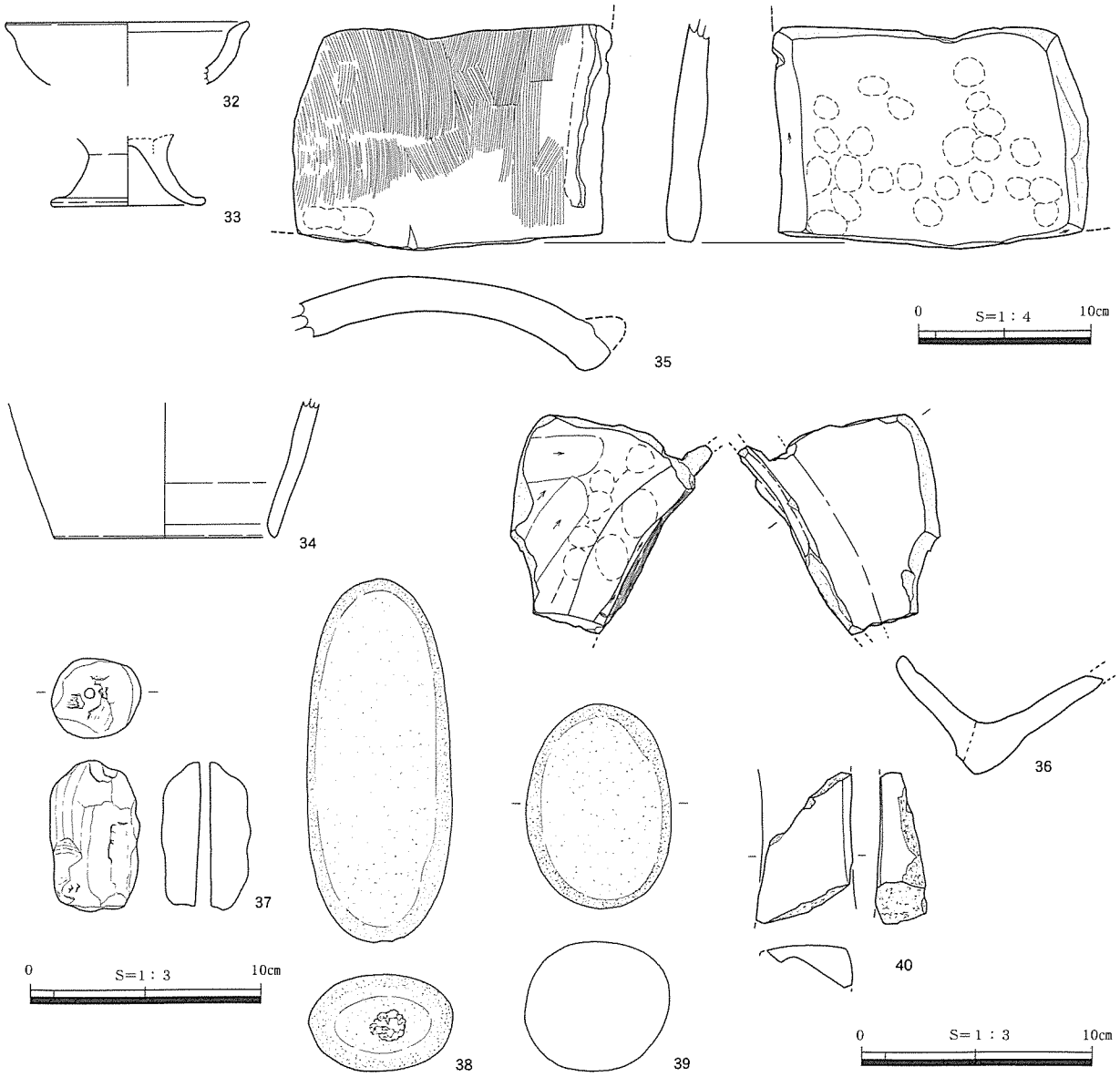
居跡の周囲から⑤・④層が床面に流入し、さらに③・②層が堆積する。その後、SI２の埋土を掘り込んでSI１が構築される。①層はSI１の貼床である。

出土遺物　遺物は、須恵器の坏蓋（１・２）・坏身（３）、土師器の甕（４～９）・高坏（10）・脚付埦（11）・竈（12）がある。量は少なく、いずれも小破片であった。甕は素口縁の９を除くと全て有段口縁で、いずれも段や屈曲が弱くなる。鉄滓・鉄製品・有孔土玉は認められず、SI１とは対照的である。

遺物が示す年代は、八橋Ⅴ期新段階とみられ、SI１出土遺物よりも古い。この年代観は、SI２の埋土を掘り込んでSI１が構築されたとする層位学的所見とも矛盾しない。（北島）



第15図　SI３出土遺物（１）



第16図　SI３出土遺物（２）

表６　SI３出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※14.0 4.6	1/4	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：明オリーブ灰～暗灰 内面：暗オリーブ灰色	堅緻	胎土分析No.10
2	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※16.0 4.0	1/2	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・1.0～2.0㎜の黒色斑状粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.6
3	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※14.0 △3.3	口縁部1/6	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ　肩部に沈線2条 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	大井窯産？
4	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※13.5 △3.2	口縁部1/6	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒・0.5～1.5㎜の灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰オリーブ色	堅緻	
5	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※15.7 △3.4	口縁部1/8	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
6	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※14.6 △3.6	口縁部1/6	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ　肩部に沈線１条 内面：回転ナデ	密　0.5～3.0㎜の白色砂粒・0.5～1.0㎜の黒褐色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
7	SI3 埋土	須恵器 坏蓋	※14.3 △2.9	肩部1/4	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	鳥越山産？
8	SI3 埋土	須恵器 坏身	※12.0 △2.9	1/6	外面：回転ナデ後、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	内面　暗青灰色 外面　青灰色	堅緻	胎土分析No.9
9	SI3 埋土	須恵器 坏身	※12.7 △3.7	1/4	外面：回転ナデ後、底部回転ヘラケズリ　口唇部にわずかに内傾端面 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
10	SI3 埋土	須恵器 坏身	※14.0 △2.6	口縁部1/6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.8
11	SI3 埋土	須恵器 坏身	最大径14.0 △4.4	口縁部1/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：灰黄色 内面：灰黄色	堅緻	
12	SI3 埋土	須恵器 甕	※11.0 △4.5	頸部1/6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：オリーブ黒 内面：灰色	堅緻	
13	SI3 埋土	須恵器 高坏	－ △7.6	脚部1/4	外面：回転ナデ後、透孔穿孔 内面：回転ナデ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒・長石	外面：暗緑灰色 内面：暗緑灰色	堅緻	胎土分析No.7
14	SI3 埋土	土師器 甕	※17.0 △5.5	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の灰色砂粒・0.5～1.5㎜の半透明砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
15	SI3 埋土	土師器 甕	※20.2 △5.0	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0㎜の長石・0.5㎜の滑石	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
16	SI3 埋土	土師器 甕	※13.0 △8.3	口縁部～胴部上半1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0㎜の白色砂粒、灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：淡黄色	良好	
17	SI3 埋土	土師器 甕	※13.4 △6.8	口縁部～胴部上半1/4	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0㎜以下の灰色砂粒・長石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
18	SI3 埋土	土師器 甕	※16.0 △5.8	口縁部1/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～1.5㎜の白色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
19	SI3 埋土	土師器 甕	※16.0 △11.5	口縁部～胴部上半1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の灰色砂粒	外面：淡黄色 内面：淡黄色	良好	
20	SI3 埋土	土師器 甕	※19.3 △16.5	口縁部～胴部下半2/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ・ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0㎜の黒色粒子・輝石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
21	SI3 埋土	土師器 甕	※14.6 △7.7	口縁部～胴部上半1/4	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の灰色砂粒	外面：淡黄色 内面：淡黄色	良好	
22	SI3 埋土	土師器 甕	※19.3 △5.4	口縁部1/10	外面：ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
23	SI3 埋土	土師器 甕	※16.0 △3.9	口縁部1/4	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0㎜の灰色砂粒・長石	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
24	SI3－pit 1 埋土	土師器 甕	※19.6 △2.9	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　2.0㎜以下の白色砂粒、1.5㎜の赤褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
25	SI3 埋土	土師器 甕	※16.8 △3.9	口縁部～胴部1/8	外面：ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
26	SI3 埋土	土師器 甕	※17.4 △4.7	1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜以下の長石、1㎜の黒色砂粒	外面：にぶい橙色～浅黄色 内面：にぶい黄橙色	良好	
27	SI3 埋土	土師器 甕	※22.1 △3.9	口縁部1/6	外面：ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
28	SI3 埋土	土師器 甕	※17.3 △4.1	口縁部1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の長石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
29	SI3 埋土	土師器 甕	※18.1 △3.2	口縁部1/10	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密0.5～1.5㎜の白色砂粒・灰色砂粒・雲母	外面：にぶい黄橙色～褐灰 内面：にぶい黄橙色	良好	
30	SI3 埋土	土師器 甕	最大径22.9 △5.1	頸部1/6	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒・石英	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
31	SI3 埋土	土師器 甕	※21.5 △3.5	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　0.5㎜の輝石	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
32	SI3 埋土	土師器 坏	※14.0 △3.6	口縁～胴部1/8	外面：風化のため不明 内面：風化のため不明	密　0.5～2.0㎜の灰色砂粒・褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
33	SI3 埋土	土師器 脚付埦	※7.6 △4.0	脚部2/3	外面：ナデ 内面：ナデ	密　1.5㎜以下の灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
34	SI3－pit 1 埋土	土師器 甑	－ △9.9	底部1/6	外面：摩滅（ナデか） 内面：摩滅（ナデか）	密　3.0㎜白色砂粒・1.5㎜の橙褐色粒子・0.5㎜の雲母	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
35	SI3 埋土	土師器 竈	－ △12.6	底部1/6	外面：ハケメ 内面：指頭圧痕、ナデ	密　1.0～3.0㎜の白色砂粒、2.0㎜以下の石英	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
36	SI3 埋土	土師器 竈	－ △12.0	焚口部	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	密　1.0～4.0㎜の灰色砂粒・橙褐色粒子	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	

表７　SI３出土有孔土玉観察表

遺物No.	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
37	SI3	埋土	管状	6.5	3.9	0.5	92.0	ケズリ・ナデ	0.1㎜の白色砂礫・輝石を含む	淡黄色～黄褐色	良好	ユビオサエあり

表８　SI３出土石器観察表

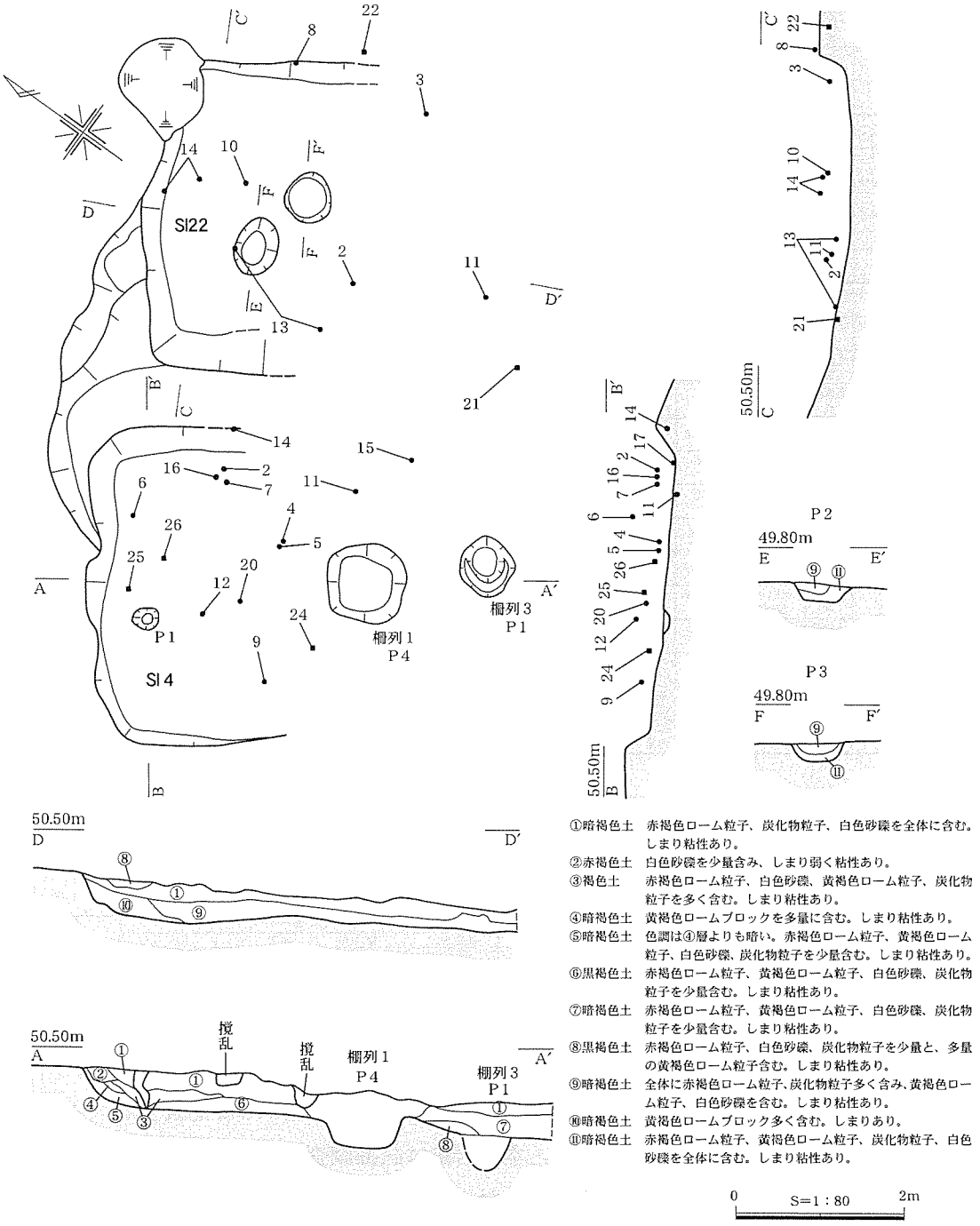
遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
38	SI3	埋土	敲石	安山岩	15.7	6.3	4.2	26.8	下面敲打痕
39	SI3	埋土	磨石	紫蘇輝石角閃石安山岩	8.9	6.3	5.6	360	
40	SI3	埋土	砥石	アプライト	6.6	4.2	1.9	40.0	砥面数2

SI３（第14・15・16図、表６・７・８、PL.３・26・27）

位置　G12グリッド、丘陵上の北東側傾斜変換点の標高約51mに位置する。主軸はやや北西側に偏り、周囲には住居が近接していない。本住居跡は試掘調査によって、その規模と良好な状態で埋土中に遺物が包含されていることが明らかとなっていたため、調査は試掘坑の土層断面を精査しながら実施した。

規模と形態　住居の北壁・東壁において一部撹乱を受けているが、平面形態は南北4.4m、東西5.1mの長方形を呈し、壁の高さは最大20cmを測る。床面は地山のローム層で構成されているが、本住居において硬化面および焼土面は確認されなかった。北壁西半および西壁北半にかけてＬ字状に、深さ10cm未満の断面Ｕ字状の周溝が存在する。

床面上で検出されたピットは計９ヶ所で、そのうちＰ１～４は主柱穴と考えられる。床面からの深さはＰ１が55cm、Ｐ２が55cm、Ｐ３が60cm、Ｐ４が55cm。また、Ｐ１とＰ２、Ｐ３とＰ４のほぼ中間に小型ピット５・７が確認された。Ｐ５：50cm、Ｐ７：50cmと主柱穴とほぼ同じ深度であることから、上屋を支える柱穴の可能性も想定されよう。さらに北西コーナー付近に深さ25cmほどのＰ９が、Ｐ３北西隣にやや規模の大きい段状を呈するＰ８が床面において検出された。Ｐ８は90×70－25cmの楕

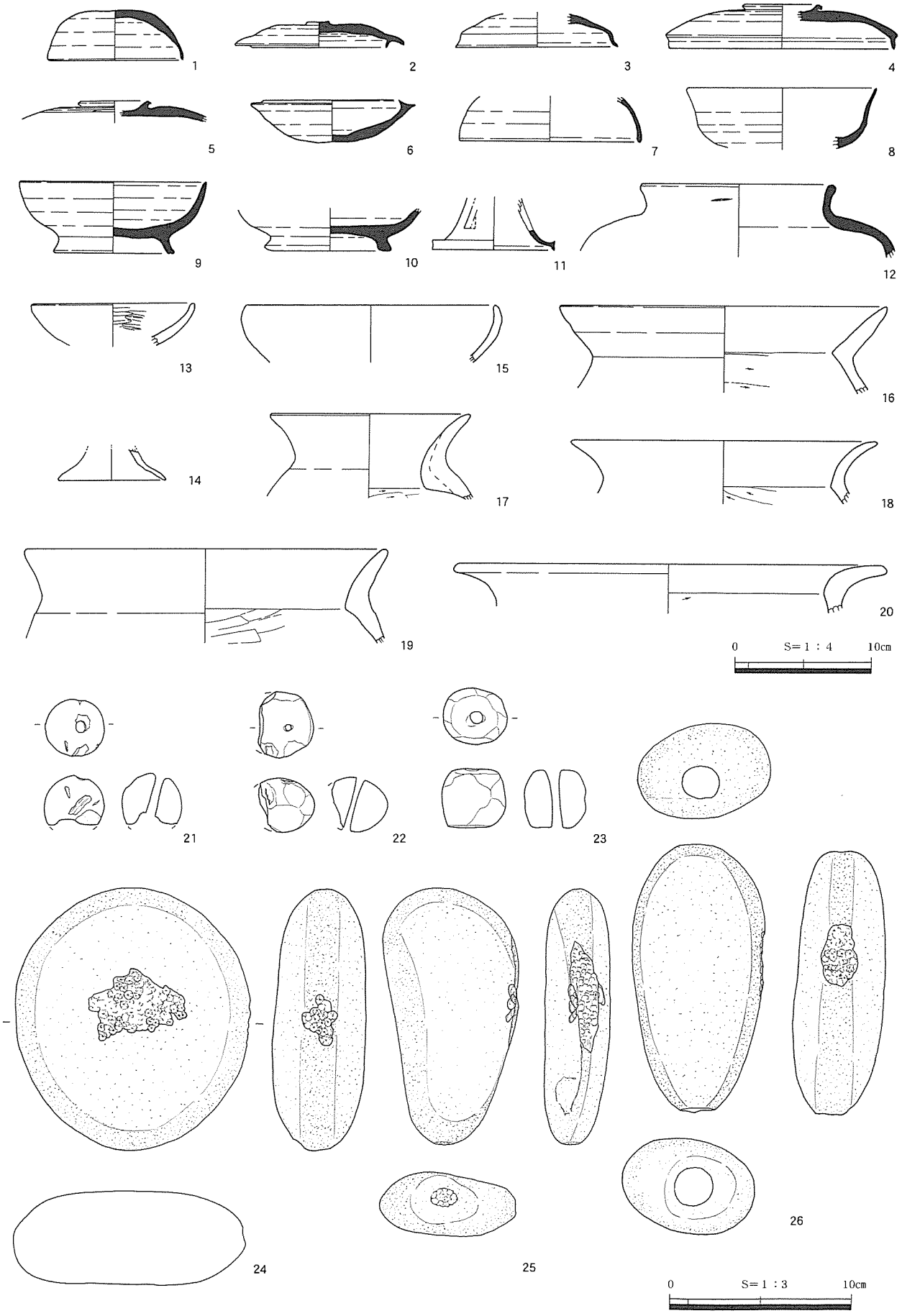


第17図　SI４・22

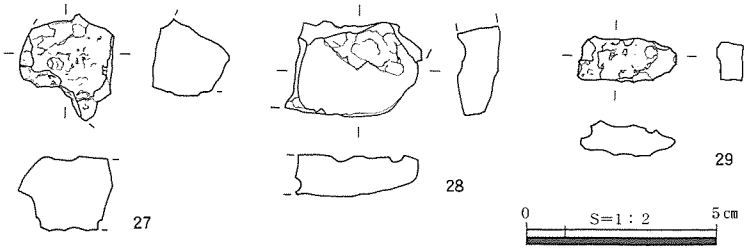
円形を呈し、内部に小ピットが穿たれている。埋土は暗褐色土の上下２層に分かれ、下底面に土師器片が出土した。本ピットはその形態や深度などから考慮すると貯蔵穴の可能性がある。P６はいわゆる特殊ピット（40×30－５cm）に該当し、南壁ほぼ中央にわずかに壁を切るように構築されている。

埋土と遺物の出土状態　埋土の状況は、①層とした暗褐色土と③層の暗褐色土が堆積し、③層上面より遺物が集中して出土している。また壁付近には、ソフトロームブロックを含む②層の橙褐色土が流れ込むように堆積し、その下層には④層の暗褐色土が壁際床面直上を覆っている。この④層は黄褐色ロームブロックと炭化物を含むことを特徴とし、側壁板が土壌化した可能性を含んでいる。

遺物は、住居東南部と北西部の２ヶ所にまとまって出土しているが、床面直上のものは少ない。

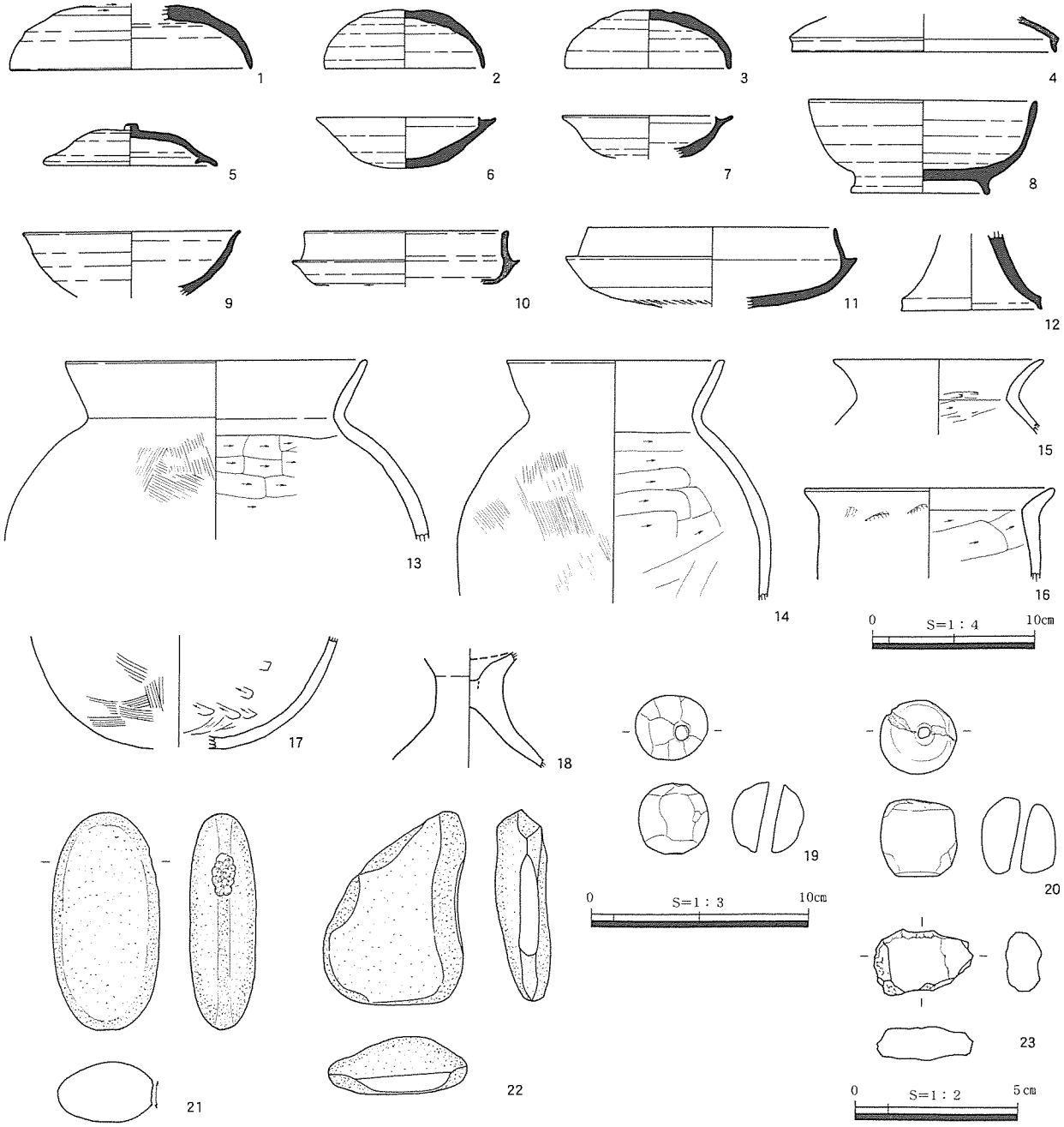


第18図　SI４出土遺物（１）



第19図　SI４出土遺物（２）

出土遺物　１～７は須恵器坏蓋である。天井部が平坦で、口縁部で屈曲して端部に至るが、口縁部との境には稜が形成されている。天井部は回転ヘラケズリ痕が認められ、肩から口縁部はナデ調整である。３・６のように端部内面には、凹線がめぐりっているものもある。８～11は坏身であり、胴部が大きく開き口縁がやや内傾している。底部はヘラケズリ、胴部がナデ調整である。13は高坏脚部であり、裾部が大きく開き、中心に透し孔が確認できる。14～19・30は有段口縁甕であり、口縁端部が欠損している30を除き口唇部が外剥ぎ状を呈している。こ



第20図　SI22出土遺物

れに対して、20～29・31は口縁部が大きく外反する素口縁甕であり、口唇部が先細りする20・22～26・31と、丸みを帯び厚い21の二者に大きく分かれる。32は土師器の坏身、33は脚付埦の脚部である。前者は口縁部が屈曲して外反する。35・36は竈裾部と焚き口部で、表面はハケメ、内面は指押え痕が残っている。37は管状を呈する大形の有孔土玉であり、表面は粗いケズリとナデ調整が施されている。40はアプライト製の砥石であり、先端・基部が欠損しているが、中心部に括れを有することからバチ形と想定される。上面と側面に研磨痕を残す。38は楕円形の敲石であり、先端に敲打痕を形成している。39は全面に磨面を有する磨石で、いずれも安山岩製である。本住居の帰属時期は、床面直上出土の須恵器坏蓋１・２の型式から八橋Ⅳ期に比定されよう。　（小口）

SI4・22（第17・18・19・20図、表９・10・11・12、PL.４・28・29・42）

位置　調査区中央部やや西側の南谷部に向かう緩斜面上、J11・12グリッドに位置する。SI４とSI22は約１ｍ離れて東西に並立する。北にはSD１が東西に走り、SD１を挟んで北側の丘陵上に位置するSI９とは、北壁のラインがほぼ平行する。

規模と形態　SI４とSI22は、南部分は削平されており、柵列１を造る際にも破壊された可能性が高い。そのため、全体の平面形態は不明であるが、２棟の住居跡は残存部分から方形状の平面形と推定される。

SI４は一辺が約3.9m、壁の高さは北壁で45cmを測る。床面部分は地山ローム層を利用している。床面上で検出されたＰ１は小型で浅い。

SI22は1辺が3.5m、壁の高さは北壁で40cmを測る。床面は住居跡北側は地山ローム層を利用している。床面上で検出されたピットは２ヶ所である。どちらも20cmほどの深さで、主柱穴であったかは不明である。また、SI４・22の間に２棟に壊される形で段状の遺構を確認した。段状遺構の壁高は38cmで、２つの段差が弧を描くように重なり合う。

埋土と遺物の出土状況　SI４の埋土の状況は、①層とした暗褐色土と②層の赤褐色土、③層の褐色土が堆積する。いずれもブロックを含まない。壁付近の④層は黄褐色ロームブロックを多量に含み、壁体の崩落によるものと考えられる。④層よりも下層に暗褐色土の⑤層と黒褐色土の⑥層が堆積する。遺物は、ほとんどが分散して出土しており、多くは埋土中から検出された。中でも、土玉が３点出土しており、本遺跡内における住居跡の中では数が多い。

SI22の埋土の状況は、SI４と同じ①層が堆積する。その下層である⑨層の暗褐色土は炭化物粒子等の混入物が多く、⑩層の暗褐色土は黄褐色ロームブロックを多く含む。⑩層は壁の崩落による埋土と推定される。土器は全体に分散して出土し、本住居跡の時期以外の混入遺物も認められる。

出土遺物　SI４の須恵器については、１・２の坏蓋・坏身が小型化の傾向をみせ、口径が10cm前後である。３は口縁部のカエリが退化する傾向が認められ、また天井部に接合痕があり、つまみが付いていたものと推測される。13は高坏の坏部で口縁端部は丸みを持つ。15も高坏の坏部で口縁は緩やかにカーブして内湾し、端部は細い。土師器の甕は大きく２つのタイプがあり16・19のように口縁部がくの字状に外反するものと18・20のように丸いカーブを描いて外反するタイプがある。16については口縁部分にナデによってわずかな段が作られている。17は頸部が細く内面のケズリがくびれ部分よりも下から入り、他と異なる。SI１・２よりも数は少ないが土玉と鉄滓が同じ住居跡から出土しており本遺跡でも珍しい。

表９　SI４・22出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI4 埋土	須恵器 坏蓋	※10.0 3.6	3/5	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ、ヘラ記号 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒色砂粒	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.17
2	SI4 埋土	須恵器 坏蓋	10.0 △2.0	4/5	外面：回転ナデ後、天井部回転ヘラケズリ、ツマミ接合 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0～3.0mmの白色砂粒	外面：口縁外周灰色、天井部橙色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.19
3	SI4 埋土	須恵器 蓋	※12.0 △2.5	口縁部1/6	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
4	SI4 埋土	須恵器 坏蓋	※17.0 △3.3	2/5	外面：回転ナデ、環状ツマミ接合 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.18
5	SI4 埋土	須恵器 坏蓋	最大※13.6 △1.6	天井部1/4	外面：回転ナデ、環状ツマミ接合 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：暗灰色 内面：暗灰色	堅緻	
6	SI4 埋土	須恵器 坏身	※10.0 △3.1	1/2	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ・ナデケシ・ヘラ記号） 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒斑状粒子・褐色粒子	外面：明褐灰色 内面：褐灰色	堅緻	胎土分析No.14
7	SI4 埋土	須恵器 坏蓋	※13.2 △3.2	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
8	SI4 埋土	須恵器 高台坏	※14 △5.7	2/3	外面：回転ナデ、底部は回転糸切り後、ナデケシ、高台接合 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
9	SI4 埋土	須恵器 高台坏	13.9 5.3	1/2	外面：回転ナデ、底部は回転糸切り後、ナデケシ、高台接合 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.13
10	SI4 埋土	須恵器 高台坏	－ △3.0	底部1/1	外面：回転ナデ、底部は回転糸切り後、ナデケシ、高台接合 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰黄色	堅緻	胎土分析No.16
11	SI4 埋土	須恵器 高坏	※9.0 △3.8	脚部1/6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	透し孔あり
12	SI4 埋土	須恵器 壺	※14.0 △5.3	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mm以下の白色砂粒	外面：口縁部黒褐色、胴部灰黄色 内面：青灰色	堅緻	断面紫紅色
13	SI4 埋土	土師器 坏	※12.0 △3.0	口縁部1/6	外面：ナデ 内面：ミガキ	密　1.0mmの長石・石英	外面：橙褐色 内面：橙褐色	良好	
14	SI4 埋土	土師器 脚付埦	－ △2.2	脚部1/5	外面：ナデ 内面：ナデ	密　3.0mm以下の長石、5.0mm以下の黒色粒子	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
15	SI4 埋土	土師器 坏	※18.0 △4.3	1/10以下	外面：摩滅のため不明　ナデか 内面：摩滅のため不明　ナデか	密　1.5mm以下の白色砂粒・黒色砂粒、1.5mm以下の長石	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
16	SI4 埋土	土師器 甕	※21.6 △4.7	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5mmの褐色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
17	SI4 埋土	土師器 甕	※14.3 △6.3	口縁部～胴部上半1/8	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄褐色	良好	
18	SI4 埋土	土師器 甕	※24.1 △6.1	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mm以下の白色砂粒、2.5mm以下の灰色砂粒、0.5mmの雲母	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
19	SI4 埋土	土師器 甕	※26.0 △6.9	頸部1/2	外面：ナデ 内面：ミガキ	密　5.0mm以下の白色砂礫、1.0mm以下の灰色砂粒・長石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
20	SI4 埋土	土師器 甕	※32.0 △3.5	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5mm以下の白色砂粒・黒色砂粒、1.5mm以下の長石	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	
1	SI22 埋土	須恵器 坏蓋	※15.0 △3.9	口縁部1/8	外面：口縁部回転ナデ、天井部ケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・0.5～1mm灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	SI22 埋土	須恵器 坏蓋	※9.5 △3.5	3/5	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ、ヘラ記号「」 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰黄色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.12
3	SI22 埋土	須恵器 坏蓋	※10.2 3.7	7/8	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ、ヘラ記号「－」 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：灰白色	堅緻	
4	SI22 埋土	須恵器 坏蓋	※16.4 △2.2	口縁部 1/10以下	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～1mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
5	SI22 埋土	須恵器 坏蓋	※8.2 △2.6	4/5	外面：回転ナデ、天井部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒色粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
6	SI22 埋土	須恵器 坏身	※10.6 △3.6	口縁部1/4	外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mm以下の白色砂粒・暗灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
7	SI22 埋土	須恵器 坏身	※11.0 △3.2	4/5	外面：回転ナデ、底部がヘラオコシ・ヘラギリ後ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：暗灰色	堅緻	
8	SI22 埋土	須恵器 高台坏	14.0 5.8	2/3	外面：回転ナデ、回転糸切り後、高台接合 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・石英・黒色斑状粒子	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.15
9	SI22 埋土	須恵器 坏身	※13.0 △4.0	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～1mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
10	SI22 埋土	須恵器 坏身	※12.6 △3.3	口縁部1/6	外面：回転ナデ、天井部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1mmの灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
11	SI22 埋土(混入)	須恵器 高坏	※15.1 △5.0	1/3	外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ、底部に刺突文が１周する 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：赤灰色 内面：にぶい赤橙色	堅緻	胎土分析No.11
12	SI22 埋土	須恵器 高坏	※8.8 4.7	脚部1/3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
13	SI22 埋土	土師器 甕	※18.3 △11.1	口縁部～胴部3/4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～4.0mmの石英・黒色粒子	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
14	SI22 埋土	土師器 甕	※13.3 △14.8	口縁部～胴部1/6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　2mmの長石・石英	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
15	SI22 埋土	土師器 甕	※13.0 △4.6	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5ミリ以下の白色砂粒、1.0～3.0mm以下の長石、5.0mm以下の黒色粒子	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙褐色	良好	
16	SI22 埋土	土師器 甕	※15.1 △5.6	口縁部～胴部上半1/4	外面：ハケメ後、ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　2mmの白色砂粒・輝石	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
17	SI22 埋土	土師器 甕	－ △7.3	底部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　8.0mm以下の白色砂礫・1.0mm以下の長石・石英・輝石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙褐色	良好	
18	SI22 埋土	土師器 高坏	最大※9.2 △7.0	脚部2/3	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　2.0mmの白色砂粒・赤褐色粒子	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	

表10　SI４・22出土有孔土玉観察表

遺物No.	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
21	SI4	埋土	球状	3.0	3.2	0.3	30.4	ナデ	0.5mmの白色砂粒・黒雲母若干含む	暗黄灰色	良好	1/4欠損
22	SI4	埋土	球状	3.2	3.3	0.5	23.4	ナデ	1mm白色砂粒を多く含む	暗黄灰色	良好	1/4欠損
23	SI4	埋土	管状	3.2	3.4	0.5	37.4	面取り後、ナデ	0.5mm の雲母片含む	にぶい黄橙色	良好	
19	SI22	埋土	管状	3.5	3.5	0.4	41.2	ナデ	0.5mmの白色砂粒、輝石を含む	暗オリーブ褐色	良好	
20	SI22	埋土	球状	3.0	3.0	0.4	31.0	面取り後、ナデ	1mm以下の白色砂粒、黒色砂粒を含む	浅黄色～暗灰黄色	良好	

表11　SI４・22出土鉄関連遺物観察表

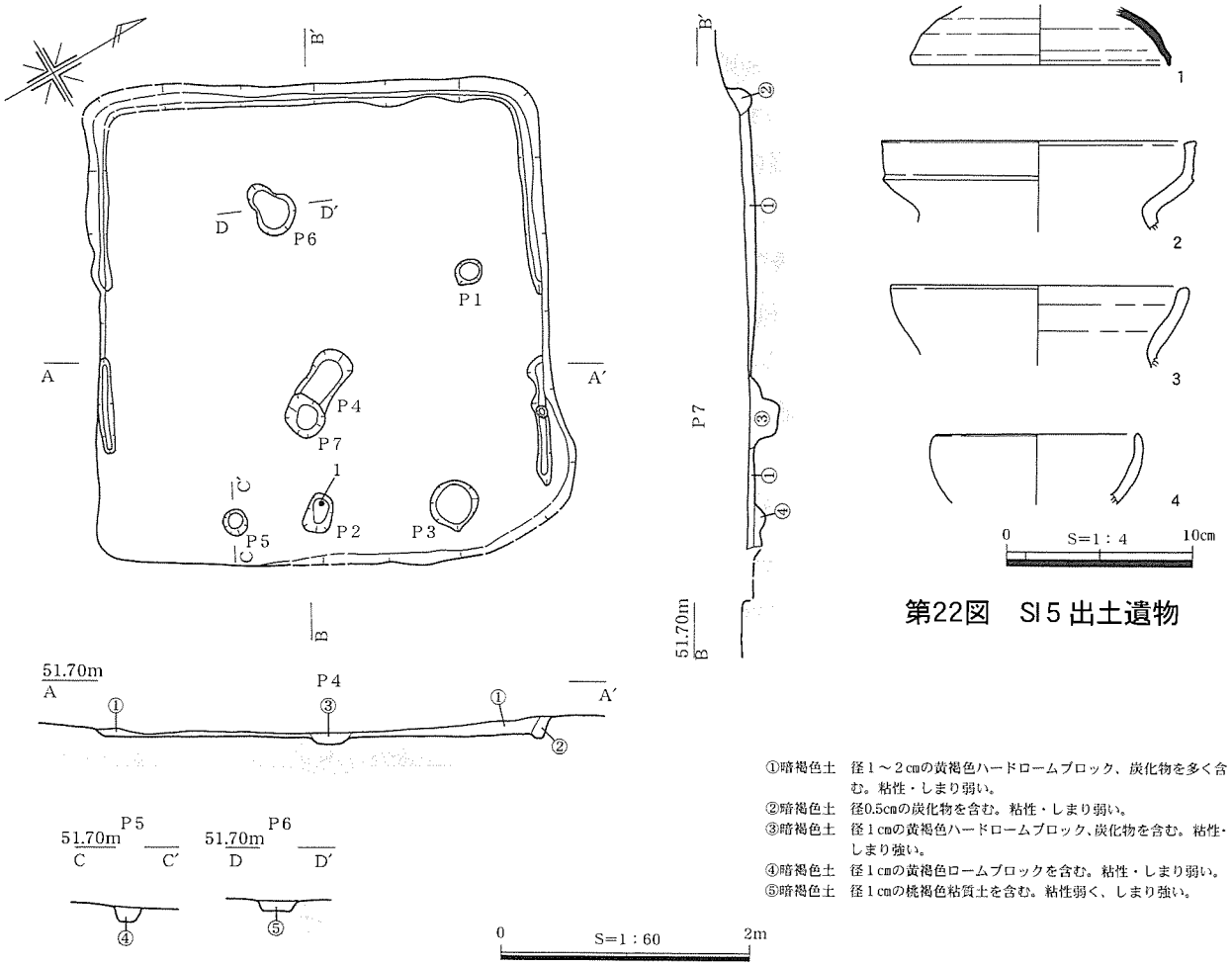
遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	磁着度	メタル度	備考
27	SI4	埋土	椀形鍛冶滓	錆化（△）	19.8	2.8	2.5	2.0	1	なし	
28	SI4	埋土	椀形鍛冶滓	錆化（△）	3.3	1.2	2.1	1.0	2	錆化（△）	
29	SI4	埋土	椀形鍛冶滓	錆化（△）	25.8	2.5	3.7	1.1	1	錆化（△）	
23	SI22	埋土	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	10.6	1.9	3.0	1.1	3	錆化（△）	

表12　SI４・22出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
24	SI4	埋土	敲石	紫蘇輝石角閃石安山岩	14.4	12.9	5.2	1280.0	表・側面敲打痕
25	SI4	埋土	敲石	安山岩	14.0	7.5	3.5	510.0	下・側面敲打痕
26	SI4	埋土	磨石・敲石	安山岩	14.6	7.3	5.3	760.0	上下磨面・側面敲打痕
21	SI22	埋土	敲石	安山岩	10.0	5.0	2.8	220.0	側面敲打痕
22	SI22	埋土	砥石	角閃石安山岩	8.9	6.5	2.6		砥面数2

SI22の須恵器は小型化した蓋坏、カエリの付く蓋、カエリが消失し口縁がくの字状に屈曲する蓋など多様である。10・11の坏はカエリが長く、混入とみられる10は端部に段が認められる。土師器の甕については、口縁のタイプが13～16とそれぞれ異なっている。13はくの字状に外反し頸部のくびれ部分よりも下から内面のケズリが入る。14は内面のケズリは13と同様で口縁部は緩やかに内湾して、肩の膨らみは少ない。15・16は共にくびれ部分から内面のケズリが入る。15は口縁部が丸いカーブを描いて内湾し、16はくの字状に折れて肩部は膨らみを持たずに胴部に伸びている。

これらの遺物から、２棟の住居跡を比較するとSI22の方がやや古い八橋Ｘ期古段階、SI４はＸ期



①暗褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロック、炭化物を多く含む。粘性・しまり弱い。
②暗褐色土　径0.5cmの炭化物を含む。粘性・しまり弱い。
③暗褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロック、炭化物を含む。粘性・しまり強い。
④暗褐色土　径１cmの黄褐色ロームブロックを含む。粘性・しまり弱い。
⑤暗褐色土　径１cmの桃褐色粘質土を含む。粘性弱く、しまり強い。

第22図　SI５出土遺物

第21図　SI５

表13　SI５出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI5pit2 埋土	須恵器 坏蓋	※14.0 △3.2	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	自然釉付着 胎土分析No.20
2	SI5 埋土	土師器 甕	※16.7 △4.8	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～4.0mmの白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
3	SI5 埋土	土師器 甕	※14.8 △4.3	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～3.0mmの白色砂粒・灰色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
4	SI5 埋土	土師器 埦	※10.7 △4.3	口縁部1/5	外面：ヨコナデ 内面：ヘラケズリ後、ヨコナデ	密　1.0～4.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：黒褐色	良好	

新段階に帰属しよう。　（原）

SI５（第21・22図、表13、PL.４）

位置　I12グリッド、丘陵の南谷部に面する緩斜面上、標高51mに位置する。約20cmの表土を除去後検出され、埋土の残存は不良である。南西壁の立ち上がりは後世の削平によって確認できなかった。

規模と形態　平面形は方形であり、一辺3.5×3.5mと本遺跡の中で小型に属する。北東から南西壁にかけて幅10～20cm、深さ５cmの断面Ｕ字状の壁周溝がめぐっていた。ピットは６ヶ所確認されたが、主柱穴と考えられるものは確認できなかった。Ｐ５は20×20－10cm、Ｐ６は30×25－10cmと深さが浅く、その性格は不明である。床面中心部には40×30cmほどの焼土面を検出している。

埋土と遺物の出土状況　埋土の残存状況は悪く、検出面から床面までの比高差は10cm程度である。径１cmの黄褐色ロームブロック、炭化物を多く含む①層の暗褐色土がほぼ住居全面を覆っていた。また、住居廃絶後SB６・７の柱穴によって部分的な破壊を受けている。

出土遺物　１は天井部が丸みを帯び、口縁部が緩やかに張り出す坏蓋である。口縁部はヨコナデ調整である。２～３は有段口縁甕の口縁部破片である。口縁部はナデ調整がなされているが、頸部以下は摩滅が著しく調整不明である。４は土師器の椀であり、内外面ヨコナデ調整が観察される。

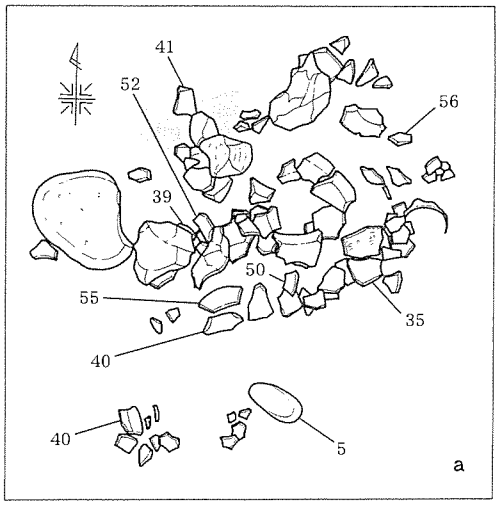
須恵器の坏蓋、土師器の有段口縁甕の特徴から八橋Ⅶ期に帰属しよう。　（小口）

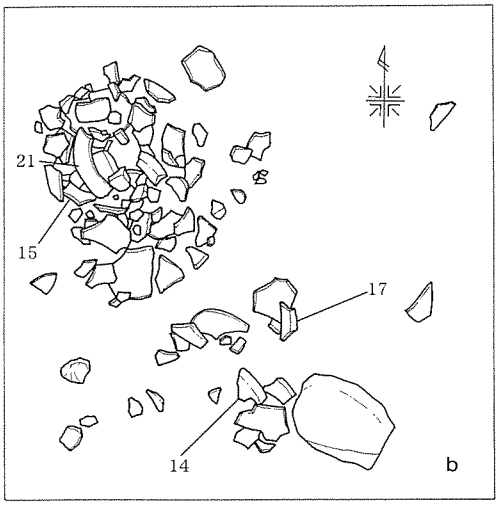
SI６・SI８・ＳＫ11（第23～29図、表14～17、PL.５・６・30・42）

位置　調査区の中央部西縁、南谷部に向かって傾斜するK13グリッドに位置する。北側からSK11・SI６・８と重なり合い並んでいる。SK11の北にはSD１が走る。

規模と形態　SI６・８・SK11は流失や撹乱によって遺存状態が悪い。

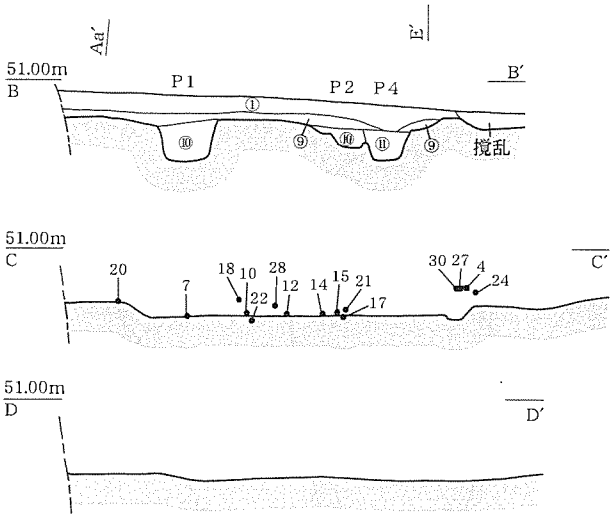
SI６は北壁がピット列３に壊されている。残存部分から一辺3.3mの方形状の平面形と推測される。なお、西壁に張り出しを持つ点が特徴である。壁高は北壁で38.5cmを測る。床は北側部分1/3がローム層からなり、残り2/3はSI８の埋土を利用したものと想定される。ピットはSK11・SI６・８で検出された計21ヶ所のうち、P10・11が本住居跡に伴うものであろう。





0　S=1：20　50cm

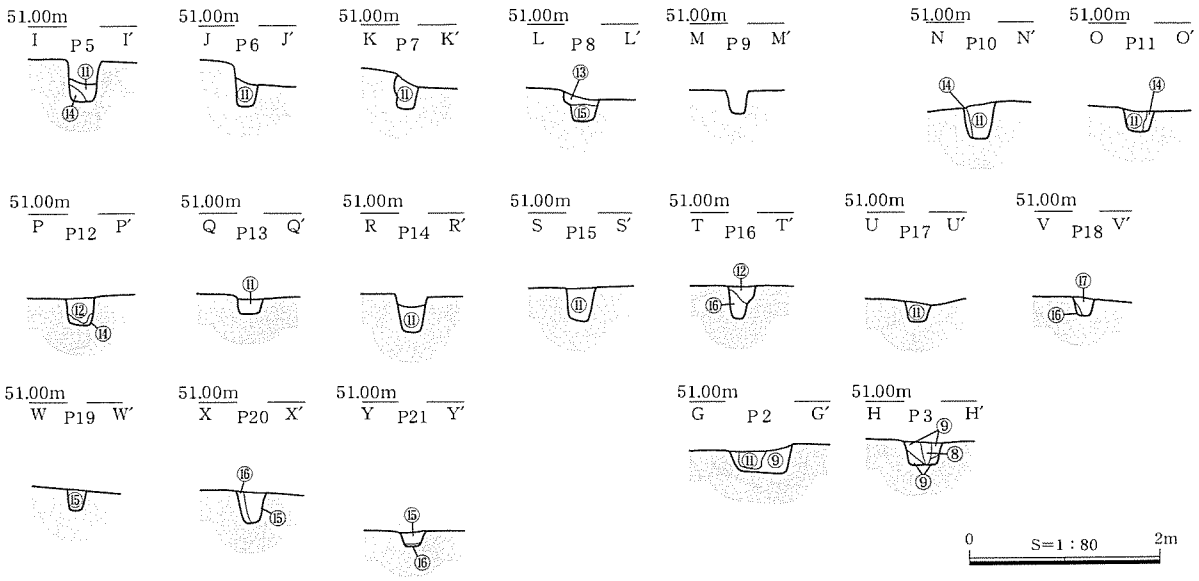
第23図　SI６・SK11遺物出土状況



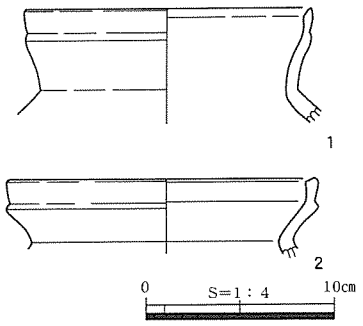
①褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム明るい・黄褐色ローム粒子、炭化物粒子を含む。しまり弱い粘性弱い。
②暗褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム粒子、黄褐色ローム粒子、炭化物粒子含む。しまりあり粘性弱い。
③褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム粒子、炭化物粒子を含む。径３㎝の黄褐色ローム多く含む。しまり粘性あり。
④褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム粒子、炭化物粒子含む。多量に径３㎝の黄褐色ローム多く含む。しまり粘性あり。
⑤暗褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム粒子、炭化物粒子含む。しまりあり、粘性あり。
⑥暗赤褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム・黄褐色ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。しまり弱い粘性弱い。
⑦褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム・黄褐色ローム粒子、炭化物粒子と大きめの土器片含む。しまりあり粘性あり。
⑧明褐色土　白色砂礫、赤褐色ローム・黄褐色ローム粒子、炭化物粒子と大きめの土器片含む。しまりあり粘性あり。
⑨黄褐色土　黄褐色ローム土の中に白色砂礫や褐色土粒子が含まれる。しまりあり粘性あり。
⑩黄褐色土　黄褐色ローム土多く含む。しまり弱く粘性あり。
⑪暗褐色土　炭化物粒子と、黄褐色ローム粒子、ブロック多く含む。しまりあり粘性弱い。
⑫暗褐色土　炭化物粒子、赤褐色ローム粒子と、黄褐色ローム粒子とブロックを多く含む。しまりあり粘性弱い。
⑬暗褐色土　炭化物粒子、赤褐色ローム粒子、淡褐色土粒子と、黄褐色ローム粒子とブロックを多く含む。しまりあり粘性弱い。
⑭赤褐色土　赤褐色ローム多く含みしまりあり粘性あり。
⑮褐色土　白色砂礫と、黄褐色ロームブロックを多く含む。しまりあり粘性あり。
⑯暗褐色土　黄褐色ローム多く含むしまり粘性あり。
⑰暗褐色土　白色砂礫、黄褐色ローム粒子、炭化物粒子を多く含む。しまりあり粘性あり。
⑱黒褐色土　しまり粘性弱い。

第24図　SI６・８・SK11

SI８は南部分が流失と後世の耕作などによって破壊され明らかではない。遺構の南西部分は調査区外で、北壁の一部のみ検出した。この北壁は、北隅の壁と溝との間がやや広くなっており、床面との違いを意識した段状のスペースがあったと推測する。ピットは検出されたうち、SI８の範囲に当



第25図　SI６・８ピット断面図

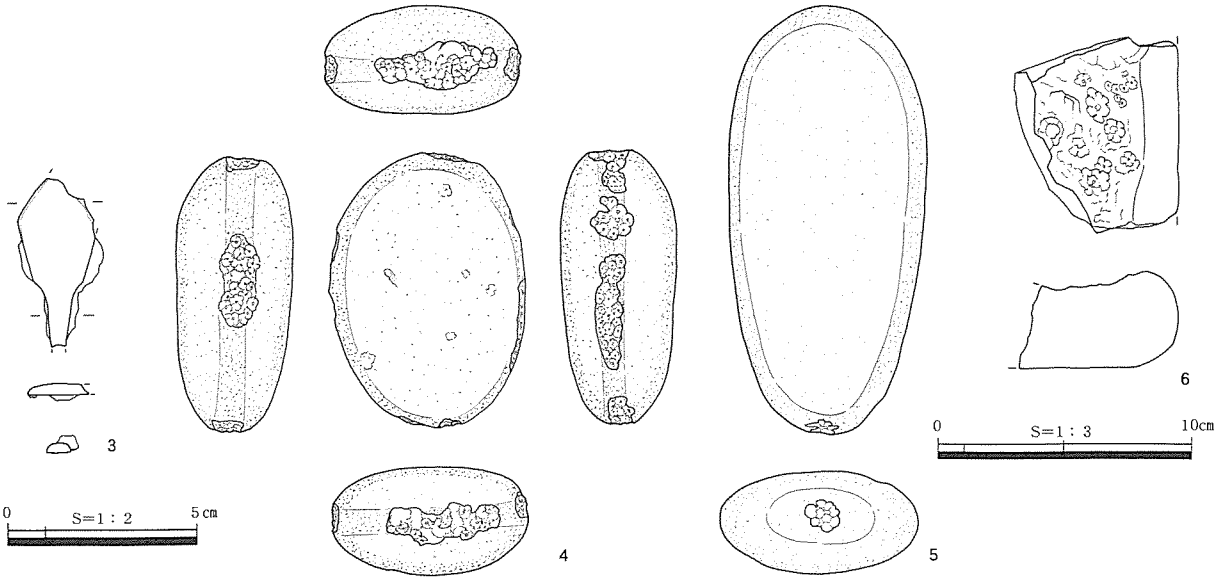


第26図　SI８出土遺物

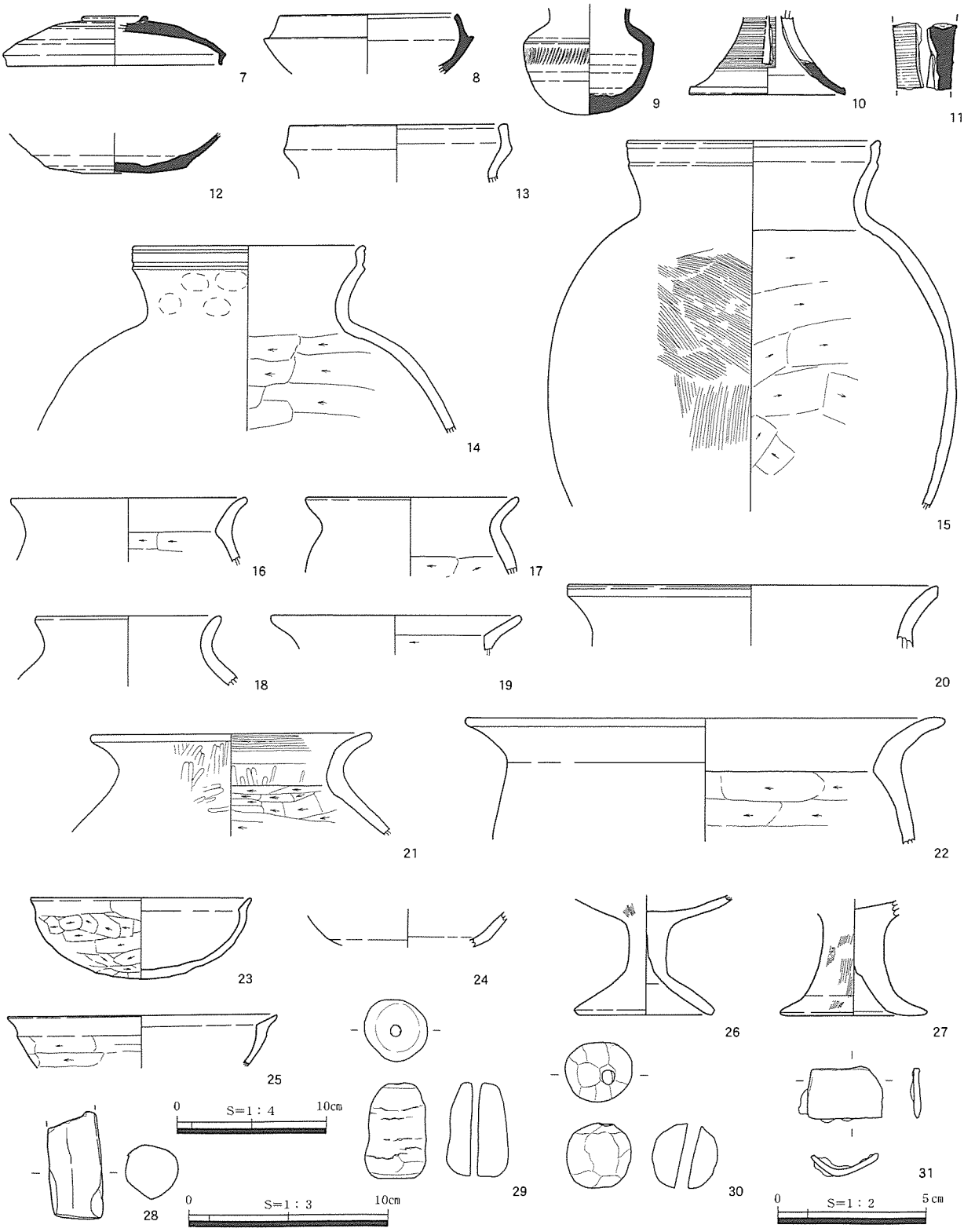
たると考えられる部分にあるものは、深さ15～20cmと浅く、幅も20cm以下と小さい。そのため主柱穴とはなり難く、必ずしも住居跡に伴うとは考えにくい。また、ピット18の南側には被熱部分が２ヶ所ある焼土面が検出された。焼土部分をSI８のほぼ中央部と考えると、一片が約4.5mの住居跡と推測される。

SK11は遺存状態が最も悪く、北側の壁が後世の撹乱によって壊され、南西部は調査区外で壁周溝もない。また南部分がSI６に切られているため、全体の形態は不明である。壁の高さは32.5cmを測る。床面は貼床を施していたと推定される。

埋土と遺物の出土状況　SI６・SI８・SK11の中でSI６が最も新しい遺構である。埋土はまず褐色

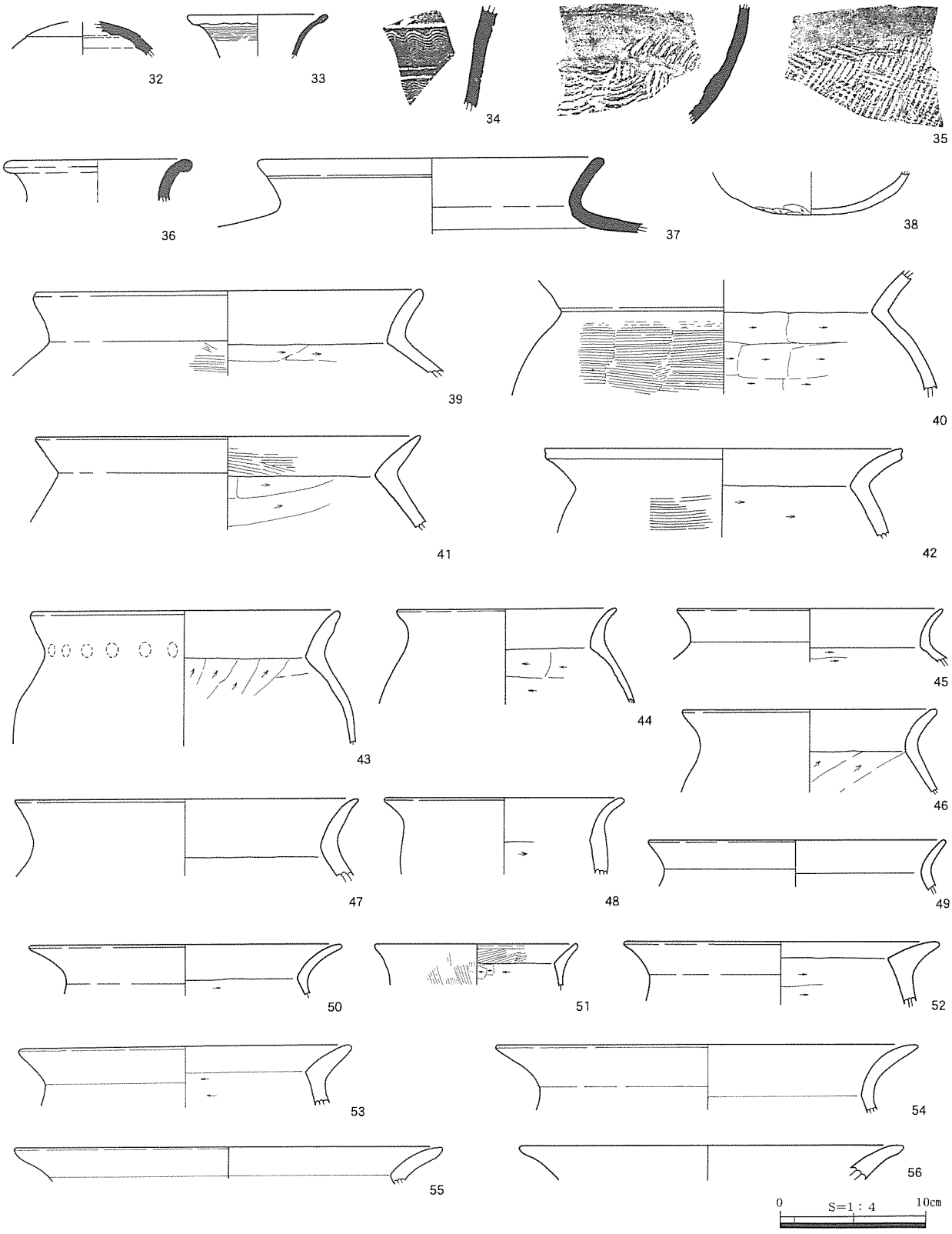


第27図　SI６・SK11出土遺物



第28図　SI６出土遺物

土の①層と暗褐色土の②層が堆積する。次いでSI６の褐色土埋土の③層が堆積し、③層よりも下層でSI６の壁際に褐色土④層が堆積する。⑤層の暗褐色土はSI８の埋土である。⑥層は暗褐色土でこれらの住居跡に伴う土器片を包含する。⑦層の褐色土と⑧層の明褐色土はSK11の埋土で、黄褐色土の⑨層はSK11の貼床である。SK11の埋土はSI６の埋土に切られている。④層は白色砂礫・赤褐色ローム粒子・炭化物・多量の黄褐色ロームブロックを含んでおり、SK11の埋土や貼床が崩れて混入



第29図　SK11出土遺物

したと推定する。⑩層以下はピットの埋土である。

出土遺物　SI６の須恵器は坏身のほかに甕、長脚高坏、短脚高坏がある。９は肩部直方に櫛状工具による刺突文が入る。11は長脚坏の坏部に近い部分で、下方に拡がって延び、長方形の透孔が入ると想定される。７の環状のツマミのついた蓋は八橋Ｘ期のもので、混入とみられる。

表14　SI6・8・SK11出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI8 埋土	土師器 甕	※14.8 △6.1	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：赤橙色～橙色 内面：橙色	良好	
2	SI8 埋土	土師器 甕	※16.4 △3.6	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.0㎜以下の赤褐色粒子、1.5㎜以下の灰色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
7	SI6 埋土	須恵器 坏蓋	※14.4 △3.4	1/4	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ、環状ツマミ接合 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の灰色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.25
8	SI6 埋土	須恵器 坏身	※12.0 △4.1	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
9	SI6 埋土	須恵器 甕	－ △7.3	胴部～底部 1/4	外面：回転ナデ、ヘラによる刺突文 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.23
10	SI6 埋土	須恵器 高坏	－ △5.3	脚部1/4	外面：回転ナデ、カキメ、透かし孔４単位 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：明オリーブ灰色	堅緻	胎土分析No.24
11	SI6 埋土	須恵器 高坏	－ △4.3	脚部1/10 以下	外面：カキメ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
12	SI6 埋土	須恵器 坏身	－ △2.7	底部1/2	外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ、同心円文	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：灰色～緑黒色 内面：灰色	堅緻	
13	SI6 埋土	土師器 甕	※14.0 △3.9	口縁部1/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
14	SI6 埋土	土師器 甕	※15.4 △12.6	口縁部～胴 部上半1/4	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ユビオサエ、胴部は摩滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0㎜の石英・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	口縁有段部に２条の沈線
15	SI6 埋土	土師器 甕	※16.8 △24.7	口縁部1/2 胴部1/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：浅黄橙色～にぶい黄褐色 内面：浅黄橙色～にぶい黄褐色	良好	
16	SI6 埋土	土師器 甕	※16.0 △4.1	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0㎜の淡褐色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
17	SI6 埋土	土師器 甕	※14.0 △5.2	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の灰色砂粒	外面：浅黄橙色～橙色 内面：浅黄橙色	良好	
18	SI6 埋土	土師器 甕	※12.2 △4.8	口縁部1/5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜以下の石英・輝石	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄橙色	良好	
18	SI6 埋土	土師器 甕	※12.4 △4.6	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ？	密　1.0㎜以下の輝石	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
19	SI6 埋土	土師器 甕	※17.0 △2.3	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：にぶい褐色 内面：にぶい褐色	良好	
20	SI6 埋土	土師器 甕	※25.2 △4.1	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.0㎜以下の白色砂粒・灰色砂粒、1.0㎜の雲母	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい褐色	良好	
21	SI6 埋土	土師器 甕	※18.6 △6.8	口縁部1/3	外面：ハケメ、ヨコナデ 内面：ハケメ、ヨコナデ、胴部ケズリ	密　1㎜の白色砂粒	外面：橙色　浅黄橙色 内面：橙色　浅黄橙色	良好	
22	SI6 埋土	土師器 甕	※31.7 △8.2	口縁部1/3	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：橙～にぶい黄橙色 内面：橙～にぶい黄橙色	良好	
23	SI6 埋土	土師器 埦	※15.0 △5.5	1/2	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内面：ナデ	密　1.0～4.0㎜の灰色砂粒・淡褐色砂粒・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
24	SI6 埋土	土師器 坏	－ 2.4	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ、赤色塗彩 内面：ヨコナデ、赤色塗彩	密　1㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
25	SI6 埋土	土師器 埦	※18.0 △3.5	口縁部1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	密2.0～3.0㎜の灰色砂粒・白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
26	SI6 埋土	土師器 高坏	－ △7.8	脚部3/4	外面：ハケメ、赤色塗彩 内面：シボリメ・ユビオサエ、脚裾部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒、0.5㎜の長石	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
27	SI6 埋土	土師器 高坏	※9.4 △8.0	胴部～脚部 2/3	外面：胴部ハケメ、全面赤色塗彩 内面：風化のため調整不明、全面赤色塗彩	密　2.0㎜以下の白色砂粒、赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
28	SI6 埋土	土師器 甕	－ △7.2	焚口部 1/10以下	外面：ナデ 内面：ナデ	密　2.0～3.0㎜の灰色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
32	SK11 埋土	須恵器 坏蓋	最大径9.6 △2.5	口縁部 1/10以下	外面：回転ケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0～4.0㎜の黒色粒子、2.0㎜以下の白色砂粒	外面：暗灰色 内面：灰色	良好	
33	SK11 埋土	須恵器 小壺	※9.8 △2.9	口縁部1/6	外面：回転ナデ、カキメ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の黒色粒子・白色砂粒	外面：オリーブ灰色 内面：灰色	堅緻	
34	SK11 埋土	須恵器 甕	－ △6.5	口縁部 1/10以下	外面：回転ナデ後、沈線、波状文 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
35	SK11 埋土	須恵器 甕	－ △8.3	胴部下半 1/10以下	外面：カキメ・タタキ 内面：回転ナデ、同心円文	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
36	SK11 埋土	須恵器 壺	※12.0 △2.9	口縁部 1/10以下	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
37	SK11 埋土	須恵器 壺	※24.0 △5.2	口縁部 1/10以下	外面：回転ナデ後、口縁に沈線1条、胴部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、胴部同心円文	密　1.0㎜以下の灰色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
38	SK11pit 埋土	土師器 坏身	－ △3.0	底部1/3	外面：体部ナデ、底部ヘラケズリ、全面赤色塗彩 内面：ナデ後、全面赤色塗彩	密　3.0㎜以下の赤褐色粒子、1.0㎜以下の白色砂粒	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	
39	SK11 埋土	土師器 甕	※26.1 △5.8	口縁部 1/10以下	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・輝石	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
40	SK11 埋土	土師器 甕	－ △8.0	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
41	SK11 埋土	土師器 甕	※26.1 △6.4	口縁部1/9	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 内面：口縁部ハケメ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～3.0㎜の灰色砂粒・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色～にぶい赤褐色	良好	
42	SK11 埋土	土師器 甕	※24.0 △6.0	口縁部1/6	外面：口縁部ヨコナデ、口縁端部に浅い沈線、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ	密　1.0～3.0㎜の白色砂粒・輝石	外面：にぶい褐色 内面：浅黄橙色	良好	
43	SK11 埋土	土師器 甕	※20.7 △9.3	口縁部～胴 部上半1/4	外面：ユビオサエ後、ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0～3.0㎜の灰色砂粒・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
44	SK11 埋土	土師器 甕	※14.2 △6.5	口縁部1/8	外面：摩滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0㎜以下の灰色砂粒、1.0～2.0㎜の褐色粒子	外面：淡赤橙色～橙色 内面：赤橙色～淡橙色	良好	
45	SK11 埋土	土師器 甕	※18.2 △3.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜以下の白色砂粒・橙褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
46	SK11 埋土	土師器 甕	※20.5 △3.2	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜以下の灰色砂粒、0.5㎜の暗褐色粒子	外面：橙色 内面：浅黄橙色	良好	
47	SK11 埋土	土師器 甕	※23.3 △6.0	口縁部1/5	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
48	SK11 埋土	土師器 甕	※17.4 △5.7	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部摩滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の灰色砂粒	外面：赤橙色～黄橙色 内面：赤橙色～黄橙色	良好	
49	SK11 埋土	土師器 甕	※11.4 △5.2	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部は摩滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の長石	外面：にぶい橙色～黒褐色 内面：にぶい橙色～黒褐色	不良	
50	SK1 1 埋土	土師器 甕	※29.1 △4.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部摩滅のため不明	密　1.0㎜の灰色砂粒・白色砂粒、4.0㎜の赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
51	SK11 埋土	土師器 甕	※21.6 △3.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5㎜以下の灰色砂粒・白色砂粒、1.0㎜の長石	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
52	SK11 埋土	土師器 甕	※21.8 △4.1	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5㎜の半透明砂粒・灰色砂粒、1.0㎜の雲母	外面：橙色 内面：橙色	良好	
53	SK11 埋土	土師器 甕	※14.0 △2.9	口縁部1/8 以下	外面：ハケメ 内面：口縁部ハケメ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜以下の輝石、白色・褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
54	SK11pit 埋土	土師器 甕	※22.8 △3.0	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜の白色砂粒・半透明砂粒。1.0㎜の雲母	外面：橙色 内面：橙色	良好	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
55	SK11 埋土	土師器 甕	※29.6 △3.3	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、屑部摩滅のため不明	密　1.0mm以下の白色砂粒、 2.0mm以下の灰色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
56	SK11 埋土	土師器 甕	※26.0 △2.8	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5mm以下の褐色粒子	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	

表15　SI６・８・SK11出土有孔土玉観察表

遺物No.	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
29	SI6	埋土	管状	4.7	3.0	0.4	53.0	粗いナデ	1mm白色砂粒・石英を含む	にぶい黄色～黒色	良好	
30	SI6	埋土	球状	3.2	3.2	0.6	29.2	ナデ	1mm白色砂粒を含む	暗黄褐色	良好	

表16　SI６・８・SK11出土鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	磁着度	メタル度	備考
3	SK11	埋土	鉄製品	鍛造品	8.6	4.5	3.0	2.1	2	錆化（△）	
31	SI6	埋土	鉄製品	鍛造品	3.8	1.7	2.5	0.2	2	錆化（△）	

表17　SI６・８・SK11出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
4	SK11	埋土	敲石	紫蘇輝石角閃石安山岩	10.9	7.8	4.5	470.0	上・側・下面敲打痕
5	SK11	埋土	敲石	安山岩	16.9	7.9	4.0	830.0	下面敲打痕
6	SI6	埋土	台石	安山岩	△7.6	△6.5	3.8	320.0	

SI８の埋土をSI６が壊していたため、焼土とほぼ同じレベルにあって焼土付近から出土したものだけをSI８の遺物とした。２点とも口縁部に段を残すもので、意識的に端部に面をつくる。

SK11は須恵器よりも、土師器の割合が多い。須恵器は壺の占める割合が高い。これらは６世紀中～末のものと考える。SK11は遺物の中でも坏類が少なく、また須恵器よりも土師器の量が圧倒的に多い。さらに鉄鏃１点が出土しており、他の住居跡とは遺物の出土状況が異なる。

SI６・SI８がどちらも有段口縁甕を伴うのに対して、SK11の土師器はすべて段を持たない口縁である。SI６は両方を含んでおり、SI８とSK11のどちらが古いかは遺物からでは判断しがたい。須恵器を中心にこれらの遺構の時期を考えると、八橋Ⅵ期を中心にすると想定されよう。　（原）

SI７・SI26（第30・31図、表18、PL.6）

位置　台地平坦面のなかでも南側斜面への落ち際に近いJ13グリッドにある。床面の標高は51.7mで、建物の主軸は北西を向く。SI26の東半部分を掘削してSI７が建てられる。SB5がSI７の北壁を掘り込んでおり、SI７のほうが古い。SI26の東壁はSB1の布掘遺構によって失われていた。

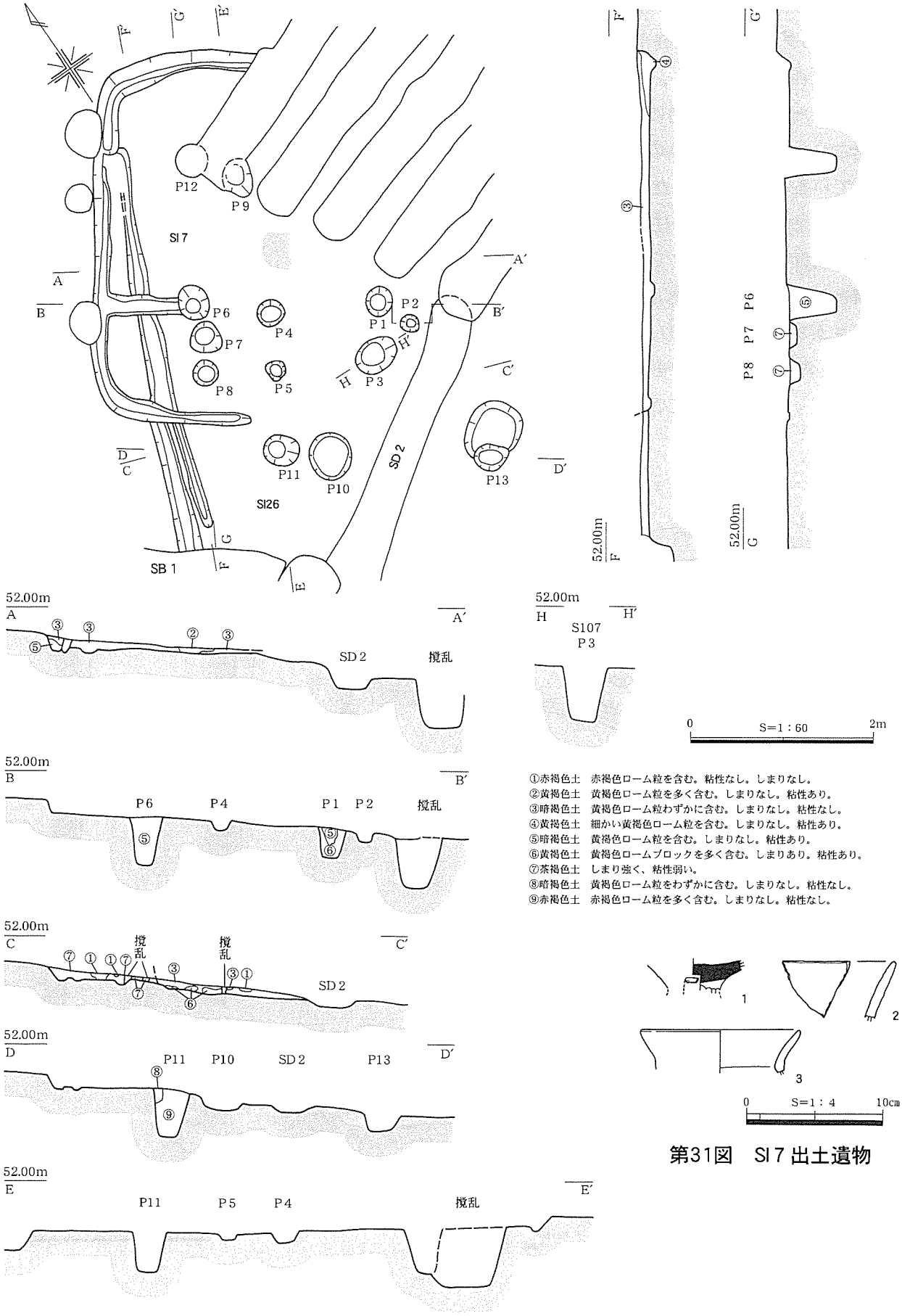
規模と形状　SI７は上面の掘削が著しく、かろうじて北壁と床面が検出できた。東壁・西壁にも壁周溝が巡るようである。残存部の形状や主柱穴の位置から察して、SI7の平面形は正方形とみられる。床面の中央には焼土面が認められる。P１・６・12はSI７の主柱穴とみられるが、東隅の主柱穴は撹乱で失われていた。P６からは、北壁へ向かう仕切溝が掘られる。P９・11・13はSI26の主柱穴とみられる。SI7北壁の壁周溝が２条に分岐するため、少なくとも１回は建替えが行われたとみられる。

出土遺物　土師器の甕２点、須恵器高坏１点の小片がある。帰属がSI７かSI26かは不明である。

（北島）

表18　SI７出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI7・26 埋土	須恵器 高坏	－ △2.3	底部1/10 以下	外面：回転ナデ、脚部に長方形透孔 内面：回転ナデ	密　1mm以下の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	SI7・26 埋土	土師器 甕	－ △4.2	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0mm以下の雲石	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好	
3	SI7・26 埋土	土師器 甕	※11.4 △3.2	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～3.0mmの灰色砂粒	外面：橙～明灰褐色 内面：橙色	良好	



第30図　SI 7

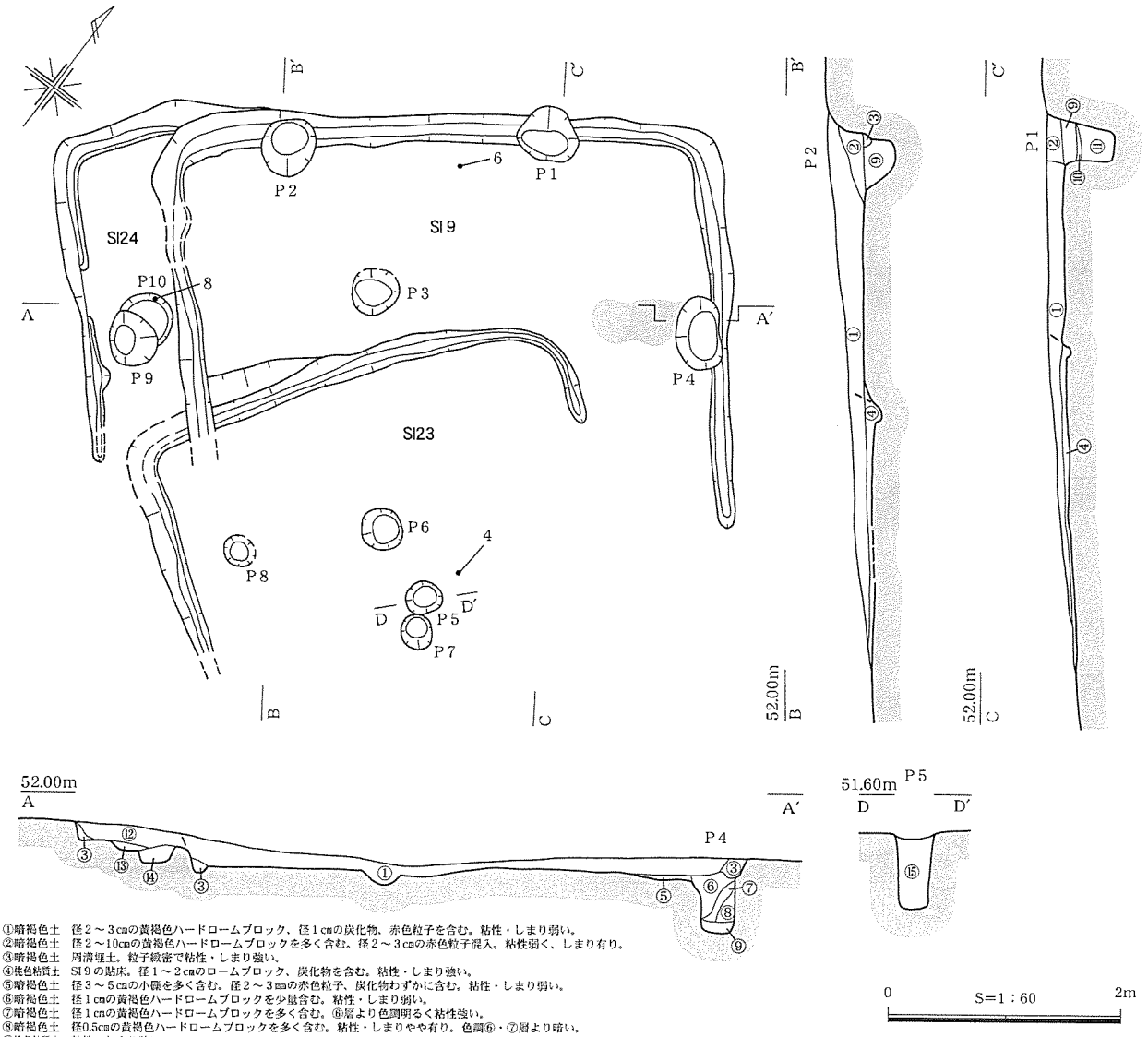
第31図　SI 7 出土遺物

SI９・23・24（第32・33図、表19・20・21、PL.７・42）

位置　I13グリッド、南谷部を臨む丘陵南斜面に位置する。SI９・24はほぼ主軸を北西方向に、SI23はより西方向に向け、いずれも標高約52m に立地している。遺構検出の段階で大型住居の可能性を想定したが、長軸方向にベルトを設定し掘り下げを実施した結果、SI９が SI24を掘り込む状況が確認された。さらに SI９の床面精査後、貼床下から周溝が検出され SI23を埋める状況で SI９が構築されていることが判明した。

以上の結果から、３棟の住居跡は SI24→ SI23→ SI９の新旧関係を有している。また、各住居跡の南東壁は後世の削平を受けていた。

規模と形態　SI９は4.8×3.4m の方形を呈し、北壁上にＰ１・２が確認された。いずれも床面下からの深さが30～40cmを測り、Ｐ２下底面から小型の鉄滓が出土している。また、東壁中央部には長軸約60cm、深さ約50cmのＰ４が確認された。いずれも床面精査後検出したが、その性格は不明である。ただし本ピットに隣接して70×30cmの範囲に小礫～拳大の礫が集中して拡がりをみせていた。礫間



①暗褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロック、径１cmの炭化物、赤色粒子を含む。粘性・しまり弱い。
②暗褐色土　径２～10cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。径２～３cmの赤色粒子混入。粘性弱く、しまり有り。
③暗褐色土　周溝埋土。粒子緻密で粘性・しまり強い。
④淡色粘質土　SI９の貼床。径１～２cmのロームブロック、炭化物を含む。粘性・しまり強い。
⑤暗褐色土　径３～５cmの小礫を多く含む。径２～３mmの赤色粒子、炭化物わずかに含む。粘性・しまり弱い。
⑥暗褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロックを少量含む。粘性・しまり弱い。
⑦暗褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。⑥層より色調明るく粘性強い。
⑧暗褐色土　径0.5cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。粘性・しまりやや有り。色調⑥・⑦層より暗い。
⑨淡色粘質土　粘性・しまり強い。
⑩暗褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロックをわずかに含む。粘性・しまり弱い。
⑪暗褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロックをわずかに含む。粘性・しまり⑩層より強い。
⑫暗褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックを含む。粘性なし。しまり弱い。
⑬褐色土　ハードロームを基調として①層やや混じる。しまり強く、粘性有り。
⑭暗褐色土　径0.5cmの黄褐色ハードロームブロックを含む。粘性・しまり弱い。
⑮暗褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロック、桃褐色ロームブロックを含む。粘性・しまり弱い。

第32図　SI９・23・24

には土師器の細片も混入していたが、焼土粒子や炭化粒子などの混入物はみられなかった。住居跡のほぼ中心部に40×30cmほどの焼土面がみられ、その下部からSI23に伴う周溝が検出された。

SI24はSI９の北西隣にほぼ軸を同じくして構築されているが、重複範囲が広くSI９床面との比高差は約20cmを測る。西壁中心部に50×40－15cmのＰ９を検出したが、貯蔵穴のような性格を有するものであろう。壁に沿って深さ10cm未満の断面Ｕ字状の周溝が確認された。

SI９の貼床を除去したところ、より西北方向に軸を向けた一辺3.8mの方形住居であるSI23が構築されていることが明らかとなった。住居中心部には径30×30cmのＰ６・７が存在し、両者が本住居の主柱穴と考えられる。Ｐ７北隣には径30×30－60cmのＰ５がみられるが、その周囲には炭の集中部が確認された。

埋土と遺物の出土状態　丘陵上に位置する本住居跡は大きく削平を受け、埋土の残存状況が不良である。径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックや赤色粒子・炭化粒子を含む①層の暗褐色土が住居全体を覆っていたが、いずれの住居からも遺物は多く出土しなかった。SI９・24は主軸をほぼ同じくしていること、SI23の床面を覆うようにSI９の貼床がなされていることから考慮すると、３棟はほぼ短期間に連続的に構築されたものと想定される。

出土遺物　１～２は須恵器の坏蓋、３は坏身、４は高坏脚部である。１～２は天井部がやや丸みを帯び、天井部と口縁部の境に稜を形成している。３は須恵器坏身であり、体部から受部が張り出し、口縁部の立ち上がりがやや内傾している。６は土師器の脚付埦の脚部である。７は口縁直下に段部を形成する有段口縁甕であり、口縁部から頸部にかけてヨコナデ、体部はハケメ調整である。内面は口縁部から頸部はナデ、体部はヘラケズリが施されている。８は竈の焚き口部鍔である。外面は粗いナデとハケメ調整、内面はヘラケズリである。９は扁平な自然礫の周縁部に剥離面を形成する敲石と考えられる。表面には鉄製品によるものと思われる擦痕が観察される。10は、上下両端が欠損しているが釘の可能性が想定される。

本住居跡は、八橋Ⅶ期に比定されよう。　（小口）

SI10（第34・35図、表22、PL.７）

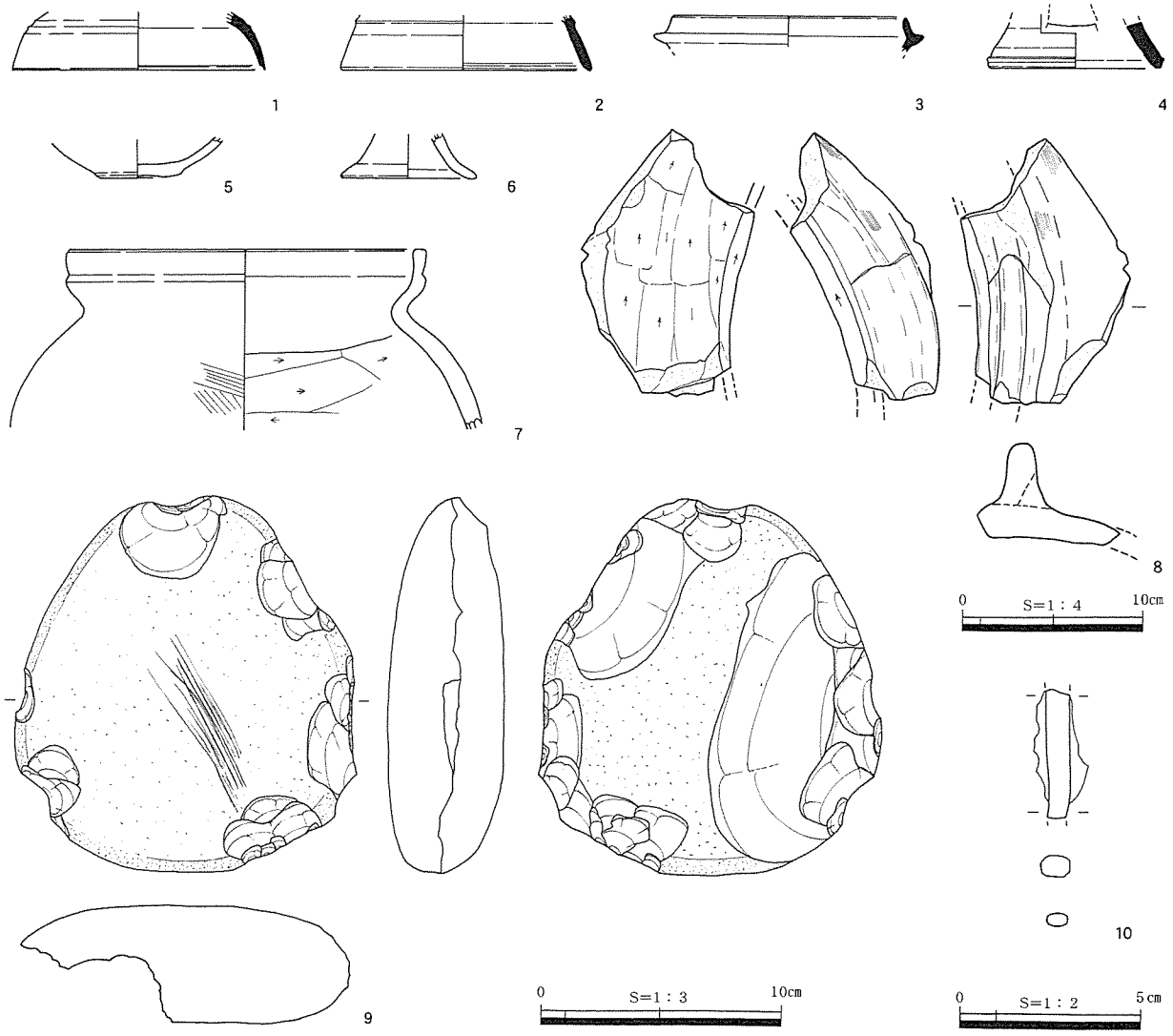
位置　Ｈ９グリッド、丘陵先端の南斜面上に位置している。調査区の表土除去後、最も早い段階で検出されたが、南壁については幅約１mの撹乱溝によって一部削平を受けていた。

規模と形態　平面形は一辺3.9×3.6mの長方形である。壁高は北壁付近で最大10cmを測り、北壁から東西壁にかけて深さ５cm未満の断面Ｕ字状の周壁溝がめぐっている。住居内のピットは５ヶ所確認され、いずれも径30cm前後、深さはＰ１・４が10cm、Ｐ２・３・５・６が20cmと浅い。このなかで、南壁に並立するＰ４・５が住居入口部に付帯する柱穴の可能性があることを指摘しておきたい。

埋土と遺物の出土状態　埋土は５～10cmと浅く、遺物の包含も著しく少ない。

出土遺物　須恵器３点と土師器１点が出土している。１は坏蓋で天井部が丸みを帯び、口縁部への屈曲がみられない。２は高坏の坏身～脚部片であり、内面はナデ、外面はケズリ調整がなされている。３は坏身の口縁から受部であり、口縁部がやや内傾している。４は甕の胴部であり、頸部が「く」の字状に大きく屈曲している。内面はヘラケズリ、外面は風化のため調整不明である。

以上の出土遺物から、本住居跡は八橋Ⅷ～Ⅸ期に帰属しよう。　（小口）



第33図　SI９・23・24出土遺物

表19　SI９・23・24出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI9 埋土	須恵器 坏蓋	※14.0 △3.2	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：オリーブ色 内面：灰色	堅緻	自然釉付着
2	SI9pit3 埋土	須恵器 坏蓋	※13.9 △3.1	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒、1.5㎜以下の黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
3	SI9 埋土	須恵器 坏身	※15.0 △1.9	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
4	SI9 埋土	須恵器 高坏	－ △2.5	脚部1/10	外面：回転ナデ、透し孔穿孔 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
5	SI9 埋土	土師器 坏？	－ △2.0	底部3/5	外面：摩滅のため不明 内面：摩滅のため不明	密　1.0㎜の灰色砂粒・褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
6	SI9pit2 埋土	土師器 脚付埦	－ △3.0	脚部1/3	外面：摩滅のため不明 内面：摩滅のため不明	密　1.5㎜以下の半透明砂粒・赤褐色粒子	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
7	SI9 埋土	土師器 甕	※18.5 △10.0	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
8	SI9 埋土	土師器 竈	－ △14.7	焚口部1/6	外面：ナデ、一部ハケメ、焚口部端部ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	

表20　SI９・23・24出土鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ（g）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	磁着度	メタル度	備考
10	SI9	pit2埋土	鉄製品	鍛造品	5.6	3.6	0.6～0.7	0.4～0.6	2	錆化（△）	

表21　SI９・23・24出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
9	SI9	埋土	敲石	安山岩	15.5	14.0	4.7	1180.0	表裏面側縁に剥離

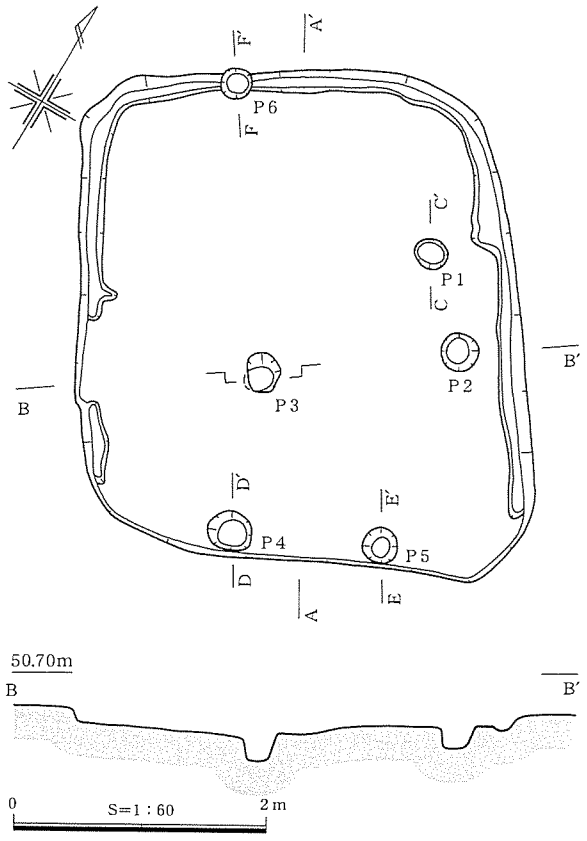
SI11（第36・37図、表23・24、PL.８・30）

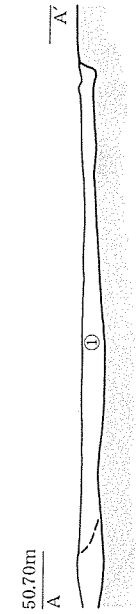
位置　F14グリッド、丘陵北西斜面の標高50mに位置する。梨の木撹乱土除去後に検出され、埋土はほとんど残存していなかった。

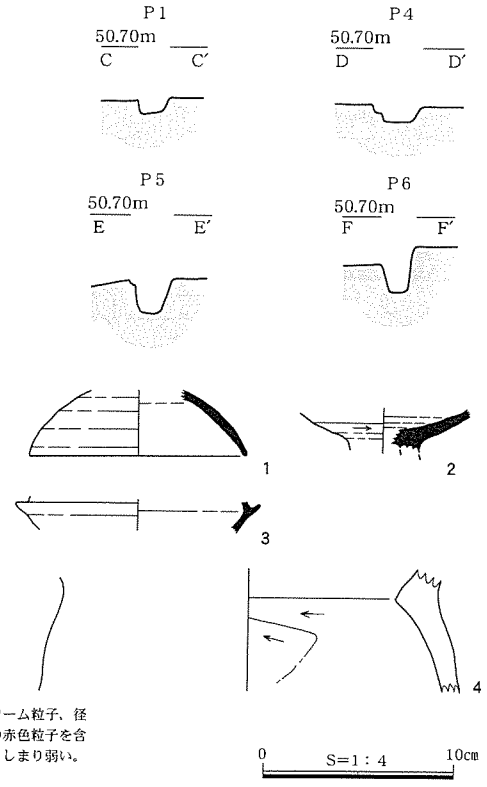
規模と形態　北西方向のほぼ半分が梨の木撹乱や耕作によって削平を受けていたため、全体の形状は不明であるが、平面形はSI17に近い隅丸方形と想定される。一辺4.0×(3.2) mであり、南東壁で最大20cmを測る。住居内からは３基のピットが確認され、Ｐ１が30×35－70cm、Ｐ２が35×35－70cmであり、主柱穴と考えられる。また、Ｐ３は40×40－70cmを測る。床面から硬化面や焼土面は検出されなかった。

埋土と遺物の出土状態　埋土は、わずかに南東コーナーに残存し、弥生土器の甕と台石が隣接して出土している。

出土遺物　１は口縁部が段を形成してやや外反し、平行沈線がめぐっている。頸部下には櫛描波状文と櫛描平行沈線文、胴部ハケメが施されている。内面は口縁部がヨコナデ、胴部はヘラケズリである。２は21×17cm、厚さ16cmの卵形を呈する安山岩製の台石である。表面にタールが付着している。以上から、本住居跡は八橋Ｉ期（清水編年Ｖ－３様式；弥生時代後期後葉）に比定されよう。（小口）







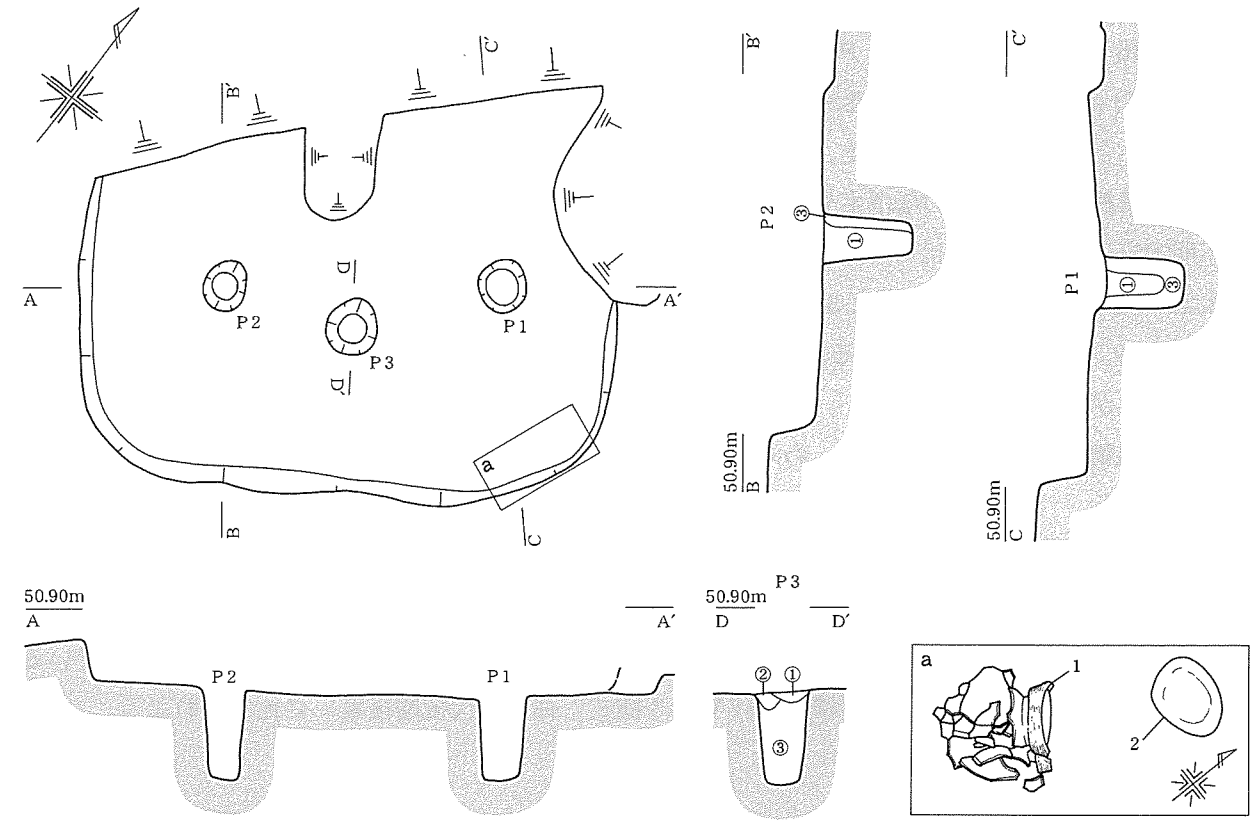
①暗褐色土　径１cmのローム粒子、径２～３cmの赤色粒子を含む。粘性・しまり弱い。

第34図　SI10

第35図　SI10出土遺物

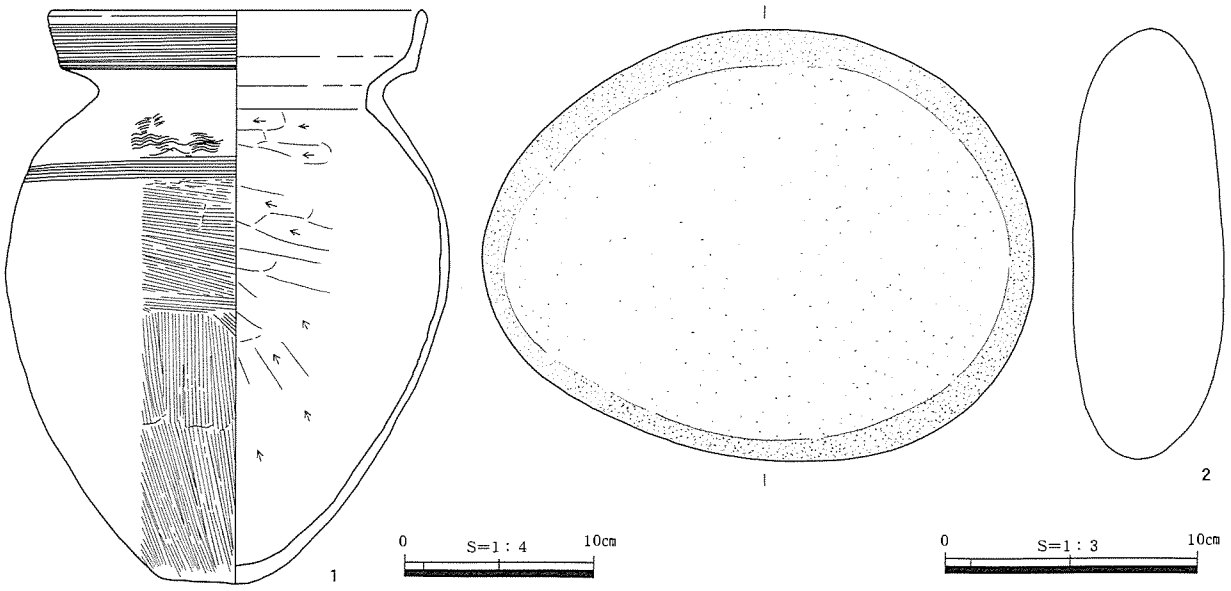
表22　SI10出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI10 埋土	須恵器 坏蓋	※11.6 △3.5	口縁部1/6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色粒子	外面：オリーブ灰色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.26
2	SI10 埋土	須恵器 高坏	－ △2.2	底部1/6	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：暗青灰色 内面：紫灰色	堅緻	
3	SI10 埋土	須恵器 坏身	－ △1.65	口縁部 1/10以下	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
4	SI10 埋土	土師器 甕	－ △6.6	頸部1/10 以下	外面：ナデ 内面：口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～3.0mmの灰色砂粒	外面：明赤褐色～橙 内面：にぶい橙	良好	



①黒褐色土　径0.5～２cmの黄褐色ハードロームブロック、赤色粒子を多く含む。粘性・しまり弱い。
②褐色土層　径0.5cmの黄褐色ロームブロックを少量含む。粘性・しまり①層より強い。
③焼色粘質土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロック、暗褐色粒子を含む。粘性・しまり強い。

第36図　SI11



第37図　SI11出土遺物

表23　SI11出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI11 床面	弥生土器 甕	19.6 30.3	1/1	外面：口縁有段部平行沈線、頸部ヨコナデ、胴部上半擬措波状文・擬措直線文、胴部下半ハケメ、内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0mmの灰色砂粒、2.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	

表24　SI11出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
2	SI11	床面	台石	安山岩	21.7	17.0	6.0	3260.0	表面にタール付着

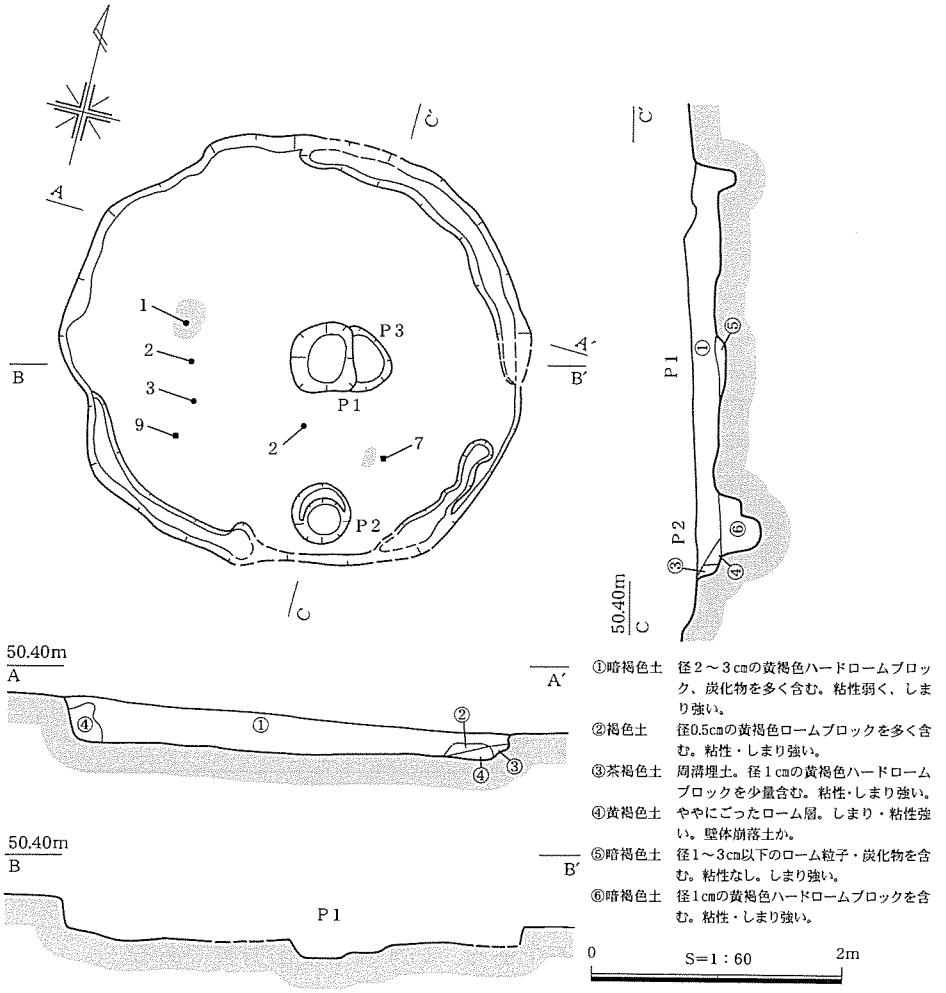
SI12（第38・39、表25・26、PL.８・９）

位置　Ｈ８グリッド、丘陵先端部の南斜面上、標高50mに位置する。約20cmの表土除去後に検出されたが、SI10と異なり、床面の掘り込みが比較的深かったため埋土の残存状況は良好であった。SB９と重複関係を有している。

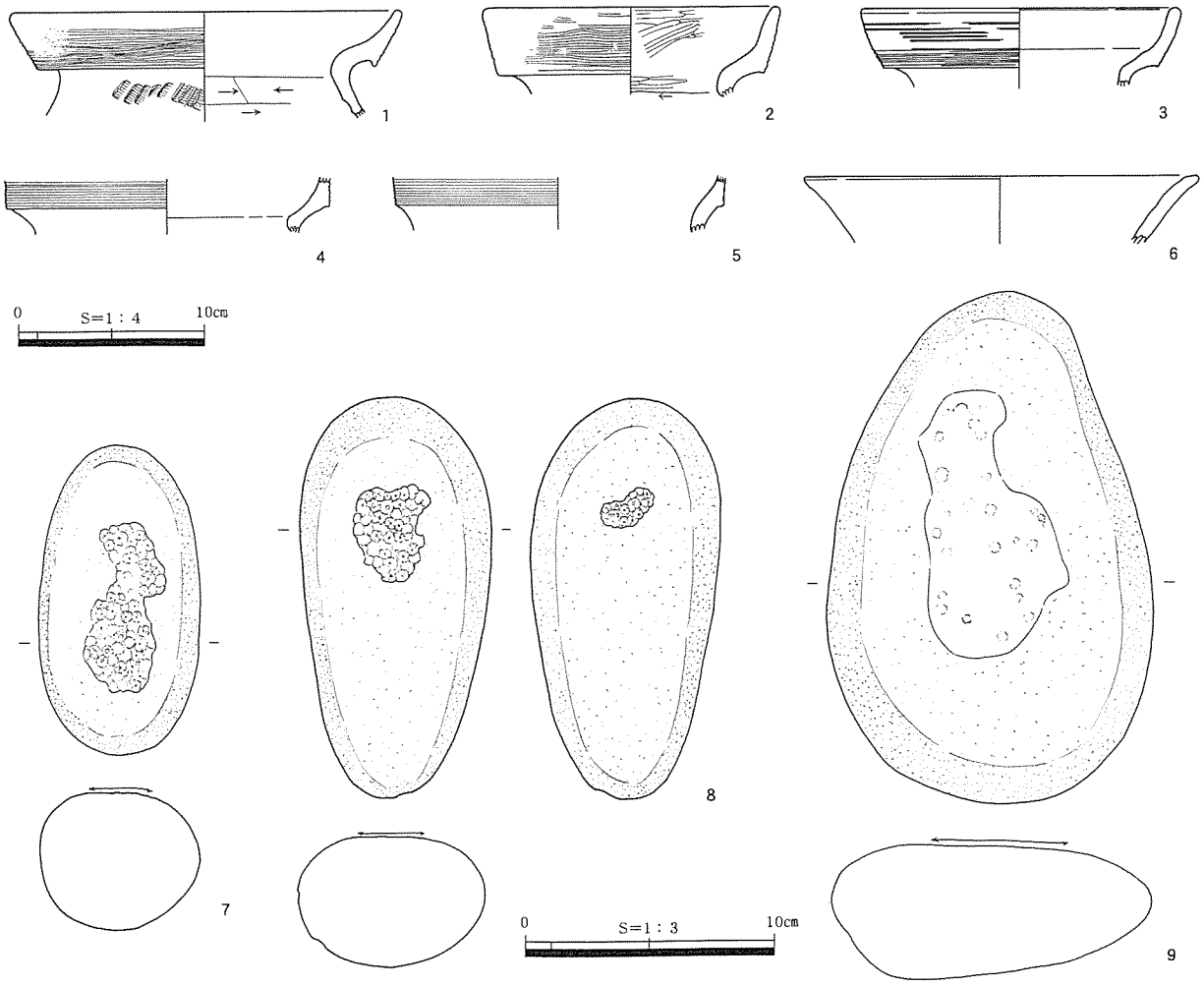
規模と形態　平面形態は、3.4×3.3mの円形であり小型住居である。壁高は最大25cmを測り、断面Ｕ字状の周溝がめぐっている。住居内からは３基のピットが確認され、Ｐ１が住居のほぼ中心部に位置し50×50－10cm、Ｐ２が南壁際に位置し、40×45－30cmを測る。前者は２基のピットが重複しているが、埋土には炭化物が多く混入していた。いわゆる中央ピットであろう。主柱穴に比定されるピットは検出されなかった。また床面からは、北西寄りに焼土面が検出された。

埋土と遺物の出土状態　埋土は、北側ほど良好に残存しているが、住居全体に径２～３cm大の黄褐色ハードロームブロックと炭化物が混入する①層の暗褐色土が覆っている。埋土中からは弥生土器の細片、敲石や台石などが出土しているが、数量は少ない。

出土遺物　１～５は口縁部がやや外反し、口縁直下が張り出した弥生土器の甕である。いずれも口縁部には平行沈線がめぐり、１の頸部には貝殻腹縁による押引文が施文されている。６は器台口縁部であり、風化のため調整不明である。７～８は敲石であり、楕円礫の片面に敲打痕を残している。９



第38図　SI12



第39図　SI12出土遺物

表25　SI12出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI12 埋土	弥生土器 甕	※21.2 △5.8	口縁部1/4	外面：口縁有段部平行沈線、頸部は貝殻腹縁の押引刺突 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0mm以下の灰色砂粒、1.0mm以下の暗褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
2	SI12 埋土	弥生土器 甕	※15.2 △4.9	口縁部 1/10以下	外面：有段部平行沈線、その上半をナデケシ、頸部ヨコナデ 内面：口縁部ミガキ	密　1.0mmの灰色砂粒・白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
3	SI12 埋土	弥生土器 甕	※16.7 △4.3	口縁部 1/10以下	外面：有段部平行沈線、その上半をナデケシ、頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0mmの赤褐色粒子・白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
4	SI12 埋土	弥生土器 甕	※17.6 △2.9	口縁部 1/10以下	外面：口縁平行線文、頸部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・1.0～3.0mmの半透明砂粒	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	
5	SI12 埋土	弥生土器 甕	※17.9 △2.8	口縁部 1/10以下	外面：口縁平行線文、頸部横ナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙褐色	良好	
6	SI12pit 1 埋土	弥生土器 器台	※19.8 △3.6	口縁部 1/10以下	外面：摩滅のため不明 内面：摩滅のため不明	密　0.5～2.0mmの灰色砂粒	外面：淡黄色 内面：淡黄色	良好	

表26　SI12出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考
7	SI12	床面	敲石	安山岩	12.4	6.5	5.5	590.0	表面敲打痕
8	SI12	床面	敲石	安山岩	16.0	7.5	5.2	880.0	表面敲打痕
9	SI12	床面	台石	安山岩	20.5	13.1	5.4	2150.0	表面に敲打痕

は先端が細身を帯び、平坦面を有する台石である。いずれも安山岩製である。

本住居跡の帰属時期は、八橋Ｉ期（清水編年Ｖ－３様式の古段階）に比定されよう。　（小口）

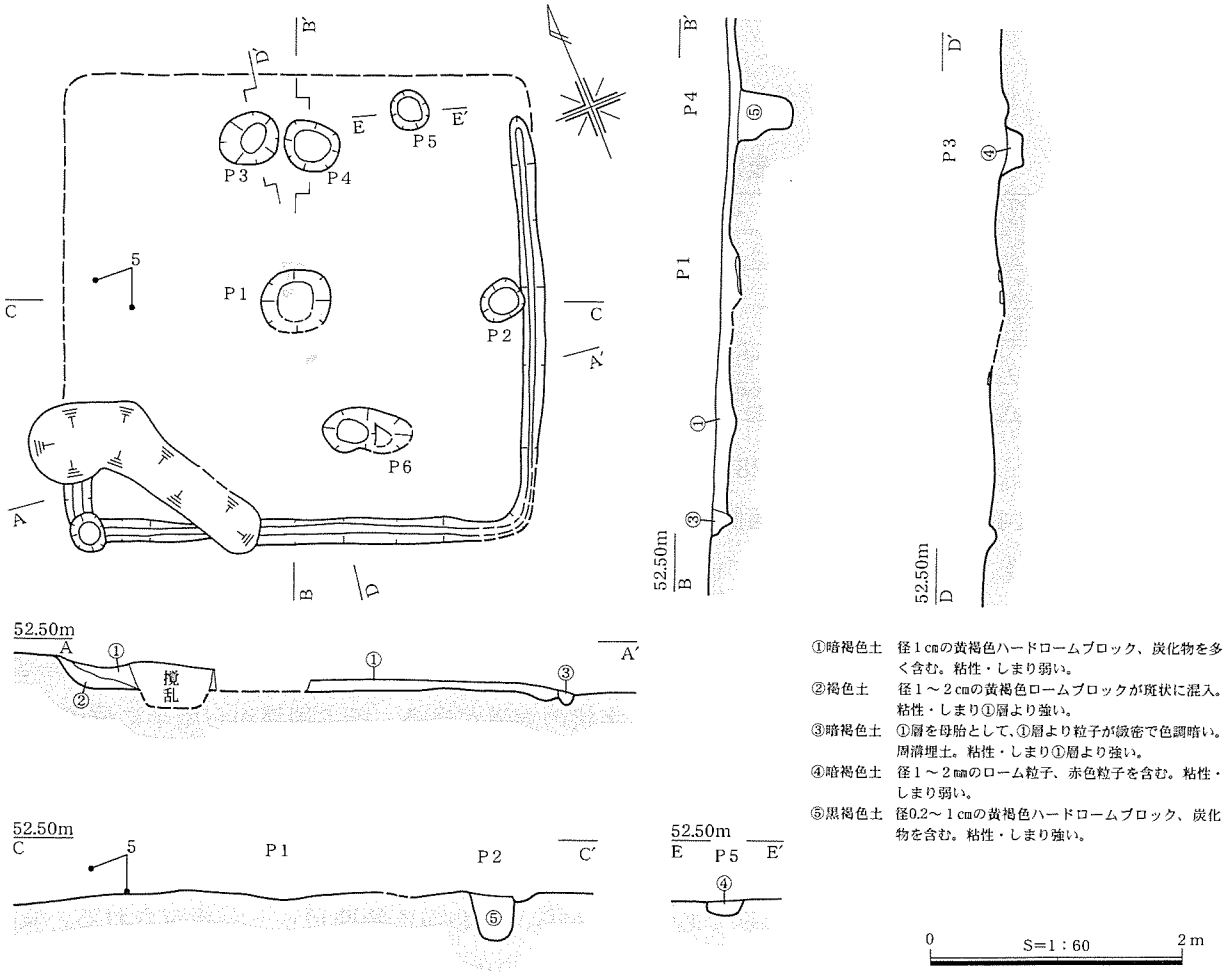
SI13（第40・41図、表27、PL.９）

位置　I12グリッド、丘陵南緩斜面上の標高51mに位置する。主軸を北西に向けているが、梨の木・暗渠による撹乱を著しく受け、住居北・西壁は確認できなかった。

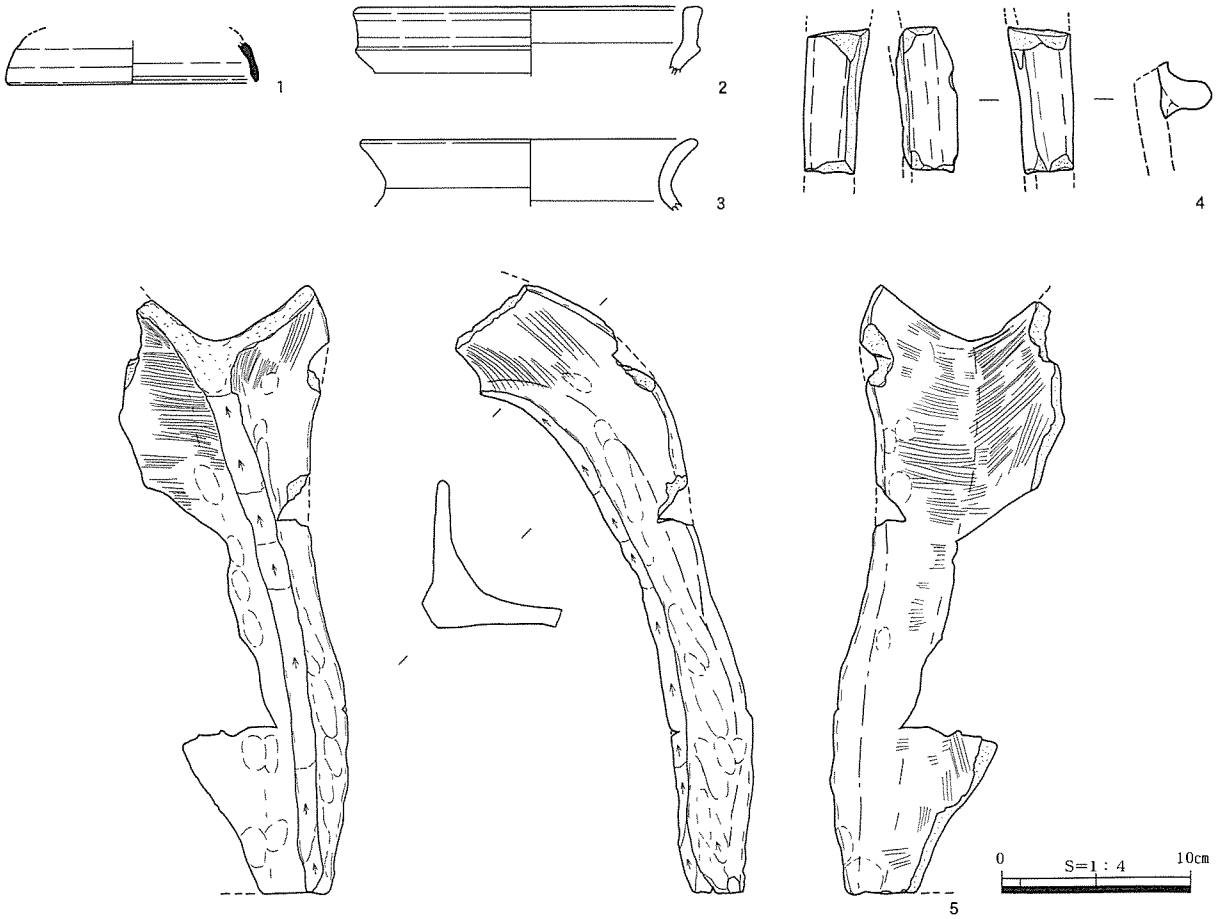
規模と形態　残存する南壁が3.7mであること、ピットの位置なども考慮し、3.7×3.7mの方形に復元した。本遺跡の中では小型に属する。東・南壁にかけて幅20cm、深さ５cmの断面U字状の壁周溝めぐっている。ピットは６ヶ所確認されたが、主柱穴と考えられるものは確認できなかった。P２は30×30－35cm、P３は40×40－15cm、P５は50×40－40cmを測る。また、床面中心部には50×50－５cmほどの焼土面を有するP１が確認された。さらに床面には2.0×1.5mの範囲にわたって硬化面が拡がりをみせていた。

埋土と遺物の出土状況　埋土の残存状況は悪く、検出面から床面までの比高差は10cm程度である。径１cmの黄褐色ロームブロック、炭化物を多く含む①層の暗褐色土がほぼ住居全面を覆っていた。住居北西寄りに竈片がまとまって出土している。本住居は廃絶後SB４の柱穴によって部分的な破壊を受けている。

出土遺物　１は天井部がやや丸みを帯び、口縁部が緩やかに張り出す坏蓋である。天井部はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ調整である。２は有段口縁甕の口縁部破片である。口縁部はナデ調整がなされている。３は口縁部が緩やかに外反する素口縁甕である。内外面ヨコナデ調整である。４・５は移動式竈の焚口部の鍔である。本住居跡の帰属時期は、八橋Ⅵ期に比定されよう。　（小口）



第40図　SI13



第41図　SI13出土遺物

表27　SI13出土土器観察表

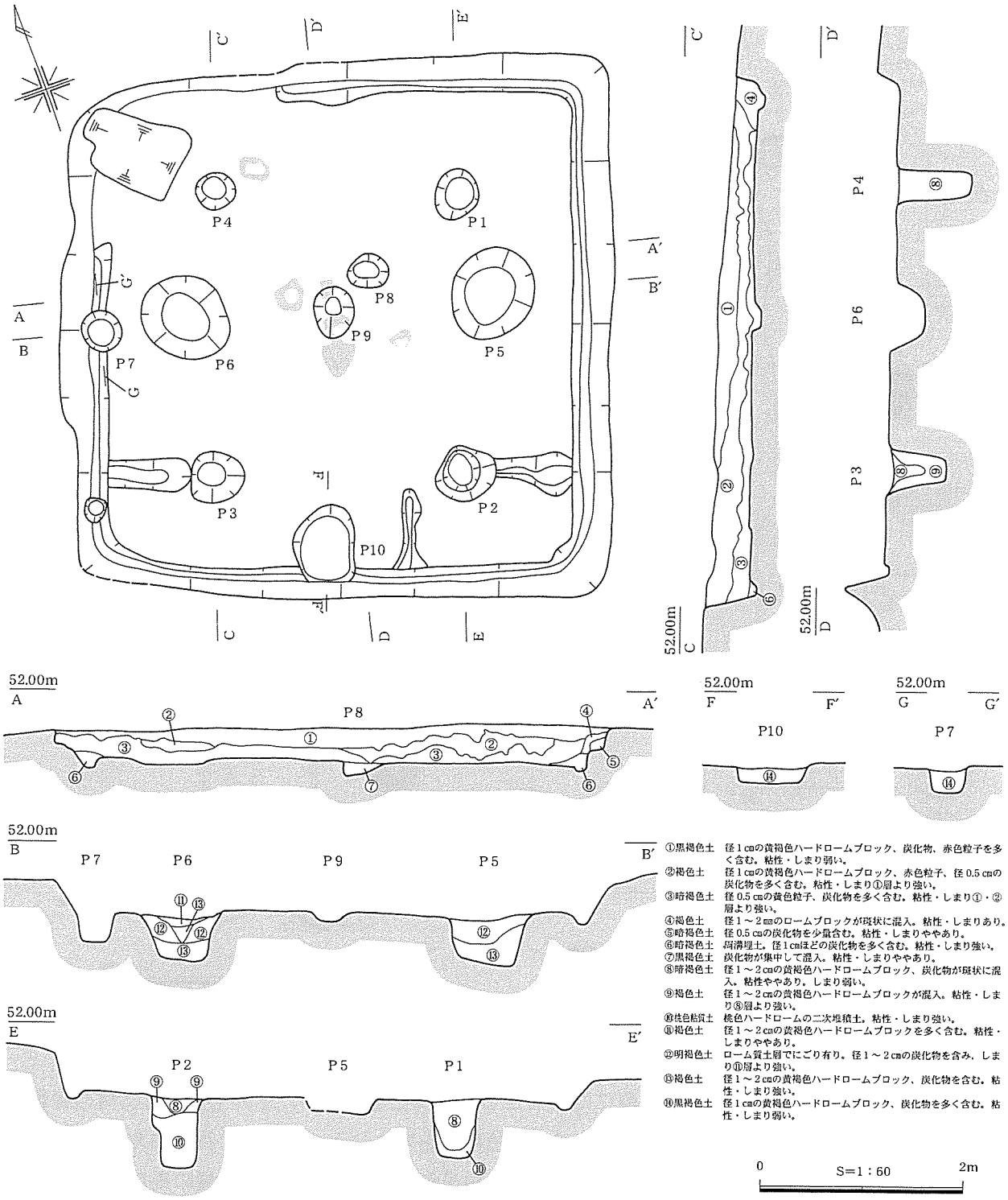
遺物No.	遺構層位	器種	口径(cm)器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI13pit 3 埋土	須恵器 坏蓋	※13.3 △2.3	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
2	SI13 埋土	土師器 甕	※18.6 △3.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5㎜長石、1.5㎜白色砂粒・灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	良好	
3	SI13 埋土	土師器 甕	※18.1 △3.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5㎜の褐色粒子・長石、1.0㎜以下の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	良好	
4	SI13 埋土	土師器 竈	－ 7.7	焚口部 1/10	外面：ナデ、焚口部端部ヘラケズリ 内面：ナデ	密　白色砂粒・半透明砂粒・暗褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
5	SI13 埋土	土師器 竈	－ △32.3	焚口部1/3	外面：ハケメ、焚口部端部ヘラケズリ 内面：ハケメ、ユビオサエ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	

SI14（第42・43・44・45・46図、表28・29・30、PL.10・31・32）

位置　G13・14グリッド、丘陵北西側の傾斜変換点、標高51mに位置しSI15の北西隣に並列している。表土除去後、多量の遺物が伴って検出された。丘陵上に位置する住居跡のなかで最も残存状況が良好である。

規模と形態　南北5.4m、東西5.3mの方形で、壁の高さは最大40cmを測る。床面は地山ローム層で構成され、壁に沿って深さ10cm未満の断面U字状の周溝が巡る。その周溝から南半に位置する主柱穴へ向かって東西方向から２ヶ所、南壁から１ヶ所の計３ヶ所の床溝（仕切溝）が存在する。

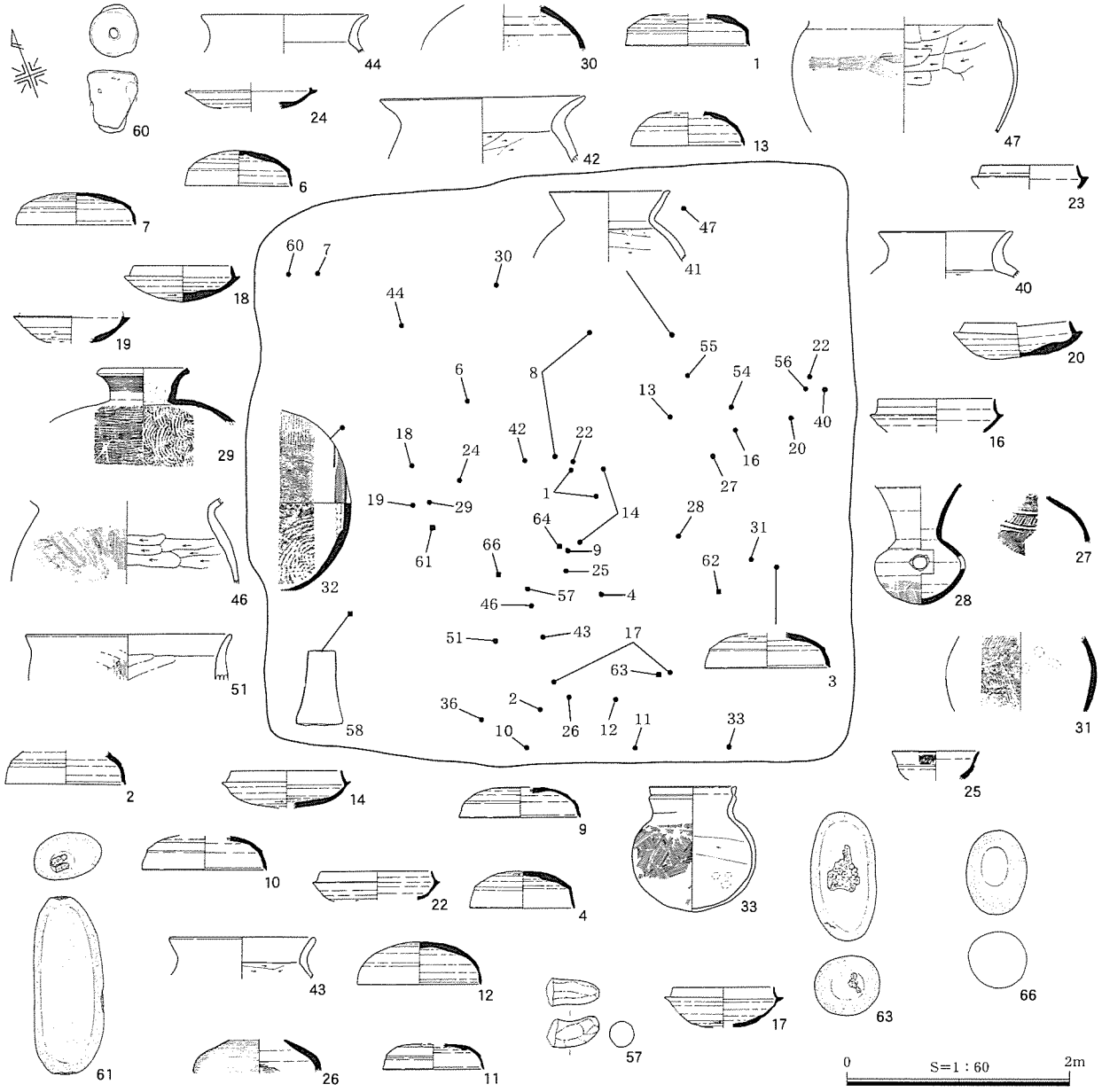
床面上で検出されたピットは計10ヶ所で、そのうちＰ１～４は主柱穴と考えられる。床面からの深さはＰ１が55cm、Ｐ２が65cm、Ｐ３が70cm、Ｐ４が50cm。南壁際の中央部に位置する75×60－10cmのP10は皿状を呈する浅い掘り込みであることから、いわゆる特殊ピットと想定される。また、溝を穿ったピットが西壁に２ヶ所検出された。東西両壁の中央部やや内側に80×80－40cmの楕円形を呈する大型のピットが床面精査後確認されたが、埋土はレンズ状の自然堆積であり、主柱穴の埋土



第42図　SI14

とは異なった状況を呈している。

床面上には７ヶ所の焼土面が存在し、そのなかの３ヶ所は径30～40㎝ほどの円形もしくは楕円形で、被熱痕がリング状を呈している。中心部が橙色、外縁部が赤化していることが特徴であり、類似した焼土面はSI20でも確認されているが、本住居からは移動式竈が出土していることから、調理に伴う火床の可能性がある。残りの４ヶ所はいずれも不整形であり、中心部に位置する擂鉢状ピットの肩部から底面にかけて２ヶ所の焼土面が認められた。以上の焼土面は、平面形態や位置関係から機能



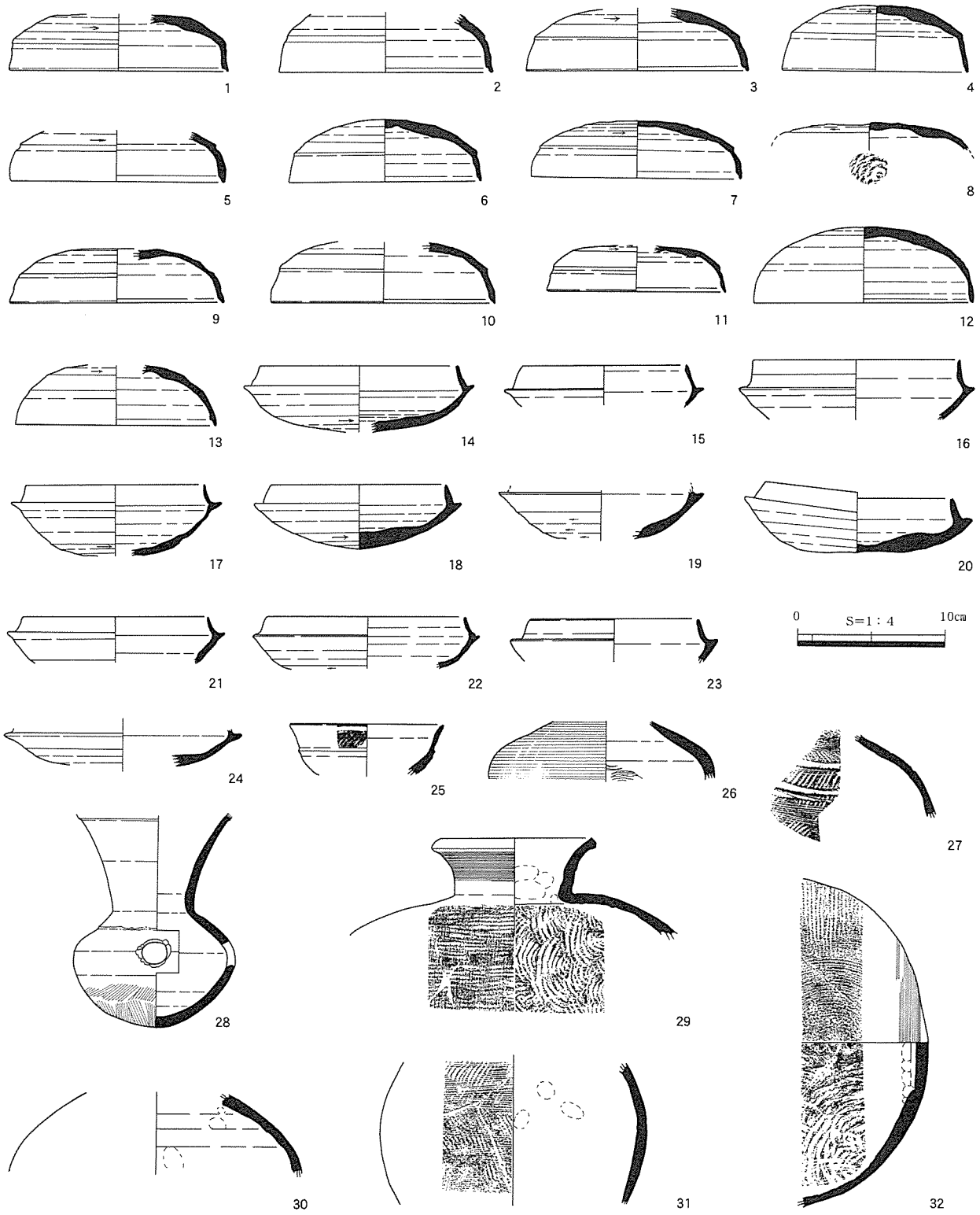
第43図　SI14遺物出土状況

を異にしていたものと想定される。

埋土と遺物の出土状態　床面と壁際には③層とした暗褐色土が覆い、その上位には②層の褐色土、①層の黒褐色土が堆積する。①層は炭化粒子・赤色粒子を多く含み、②層はこれに加えロームブロックが混入する。壁際付近にはロームブロック・炭化粒子が多く混入する④・⑤層の褐色・暗褐色土がみられ壁体の崩落土と想定される。壁溝を埋める⑥層は炭化粒子を多く含み、しまりが強い。

遺物の出土状態は、床面から20～30cm上面の①～②層にかけて最も多く出土していることから、住居廃絶後しばらく時間が経過した後、これらの遺物が廃棄されたものと思われる。遺物は住居の中心部に集中するが、全面にわたり包含されていた。ただし、北壁から西壁寄りはやや散漫な状況であることから、これらの遺物は南東側より投棄されたものであろう。

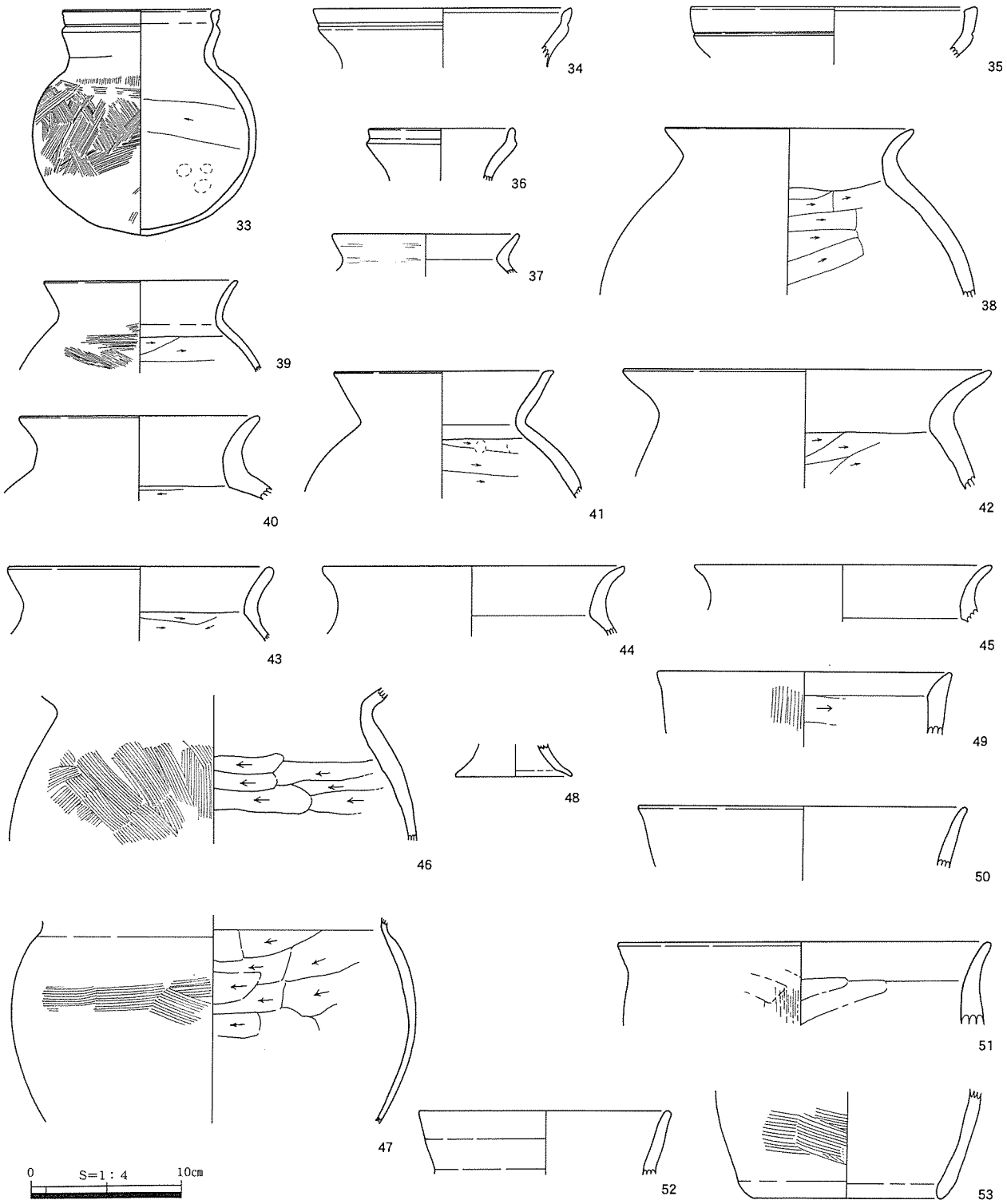
出土遺物　１～13は須恵器坏蓋である。天井部がやや丸みを帯び、口縁部で屈曲して端部に至るが、口縁部との境には段が形成されている。天井部は回転ヘラケズリ痕が認められ、肩から口縁部はナデ調整である。口縁端部内面は明瞭な凹線がめぐる１～３とそれが痕跡化する９・10、凹線を有さな



第44図　SI14出土遺物（１）

い４などが存在する。14～24は坏身である。口縁はやや内傾し、受部がやや反り上がっている。底部は回転ヘラケズリ、体部から口縁部はナデ調整である。25は無蓋高坏であり、脚部は欠損している。28は瓶、29・32は横瓶である。31は口縁部が欠損しているが、壺か瓶の胴部であろう。

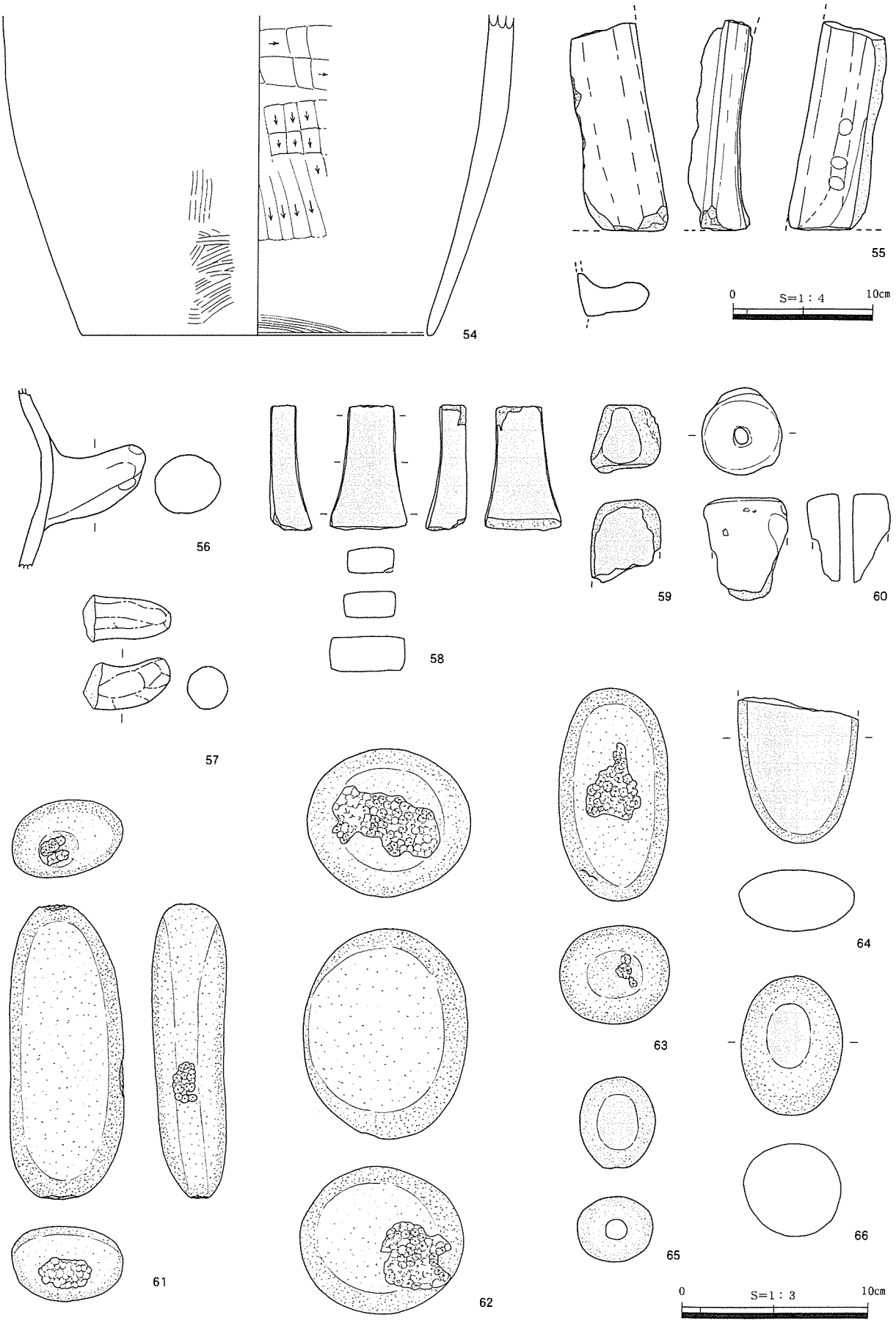
33～47は土師器甕である。有段口縁甕の33～36、素口縁甕の37～45がみられ、後者は口縁が大きく外反し、頸部内面に稜を形成する38・44・45と、内面が丸みを帯びる39・41・42に分かれる。



第45図　SI14出土遺物（２）

さらに体部が直線的に立ち上がり緩やかに反る甑の49・51がみられる。いずれも口縁部内外面がナデ調整、体部の外面がハケメ調整、内面がヘラケズリである。53・54は甑の底部片であり、底面端部はヨコナデ、体部はハケメ調整が施されている。55は竈焚き口部片である。56・57は甑の把手、60は片面が欠損しているが、上下平坦面を有する管状形土玉である。

58は流紋岩製のバチ形砥石である。基部と先端部を除き、研磨痕が観察され、表面が先端に向か



第46図　SI14出土遺物（３）

表28　SI14出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※14.8 3.8	2/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0㎜白色砂粒・1.0㎜の黒褐色粒子・雲母	外面：緑灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.28
2	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※14.6 △3.9	口縁部1/4	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒・1.0㎜の暗灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
3	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※15.2 △4.2	1/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0㎜の白色砂粒・1.5㎜の黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
4	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※12.5 4.4	1/4	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒・2.0㎜の暗灰色粒子	外面：青灰色 内面：灰色	堅緻	
5	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	14.5 △3.4	口縁部1/8	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
6	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	13.2 4.2	3/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	断面が紫紅色を呈する。
7	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	14.3 3.9	3/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5㎜の白色砂粒・透明砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
8	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※12.3 △1.8	天井部2/3	外面：天井部ヘラ切り、ヘラケズリ 内面：ナデ	密　2.0㎜の白色・黒色粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
9	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※14.3 △3.6	天井部～ 口縁部1/5	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	密　1.0㎜以下の白色・黒色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
10	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※15.0 △4.1	胴部１/8	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ、指押さえ	密　1.5㎜以下の白色・黒色粒子	外面：黒色 内面：灰色	堅緻	
11	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※12.0 △1.65	天井部1/4	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0㎜の白色・黒色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
12	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	14.7 5.1	口縁部1/8	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・2.0㎜の黒斑状粒子	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.33
13	SI14 埋土	須恵器 坏蓋	※11.8 △4.1	1/6	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・0.5～1.0㎜の暗褐色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
14	SI14 埋土	須恵器 坏身	※15.6 △4.5	1/2	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒・0.5㎜の暗褐色砂粒	外面：灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.31 器壁断面が紫紅色。
15	SI14 埋土	須恵器 坏身	※13.4 △2.7	口縁部～ 胴部1/10	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	密　1.0㎜以下の白色・黒色粒子	外面：暗青灰色 内面：暗青灰色	堅緻	
16	SI14 埋土	須恵器 坏身	※13.8 △4.0	口縁部～ 胴部1/10	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	密　1.0㎜以下の白色・黒色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
17	SI14 埋土	須恵器 坏身	※14.2 △4.8	1/3	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒・黒褐色砂粒	外面：灰白色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.29
18	SI14 埋土	須恵器 坏身	※14.1 4.4	1/2	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.30
19	SI14 埋土	須恵器 坏身	※13.8 △3.2	口縁部～ 胴部1/4	外面：口縁部回転ヨコナデ、胴下半回転ヘラケズリ 内面：回転ヨコナデ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒・長石	外面：暗緑灰色 内面：にぶい黄褐色	堅緻	
20	SI14 埋土	須恵器 坏身	12.6 4.9	口縁部1/8	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0～5.0㎜の長石	外面：青灰色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.32
21	SI14 埋土	須恵器 坏身	※12.5 △3.6	口縁部1/6	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
22	SI14 埋土	須恵器 坏身	※15.2 △3.5	口縁部～胴 部上半1/6	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
23	SI14 埋土	須恵器 坏身	※11.4 △2.9	口縁部1/6	外面：回転ヨコナデ 内面：回転ヨコナデ	密　0.5㎜の白色・黒色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
24	SI14 埋土	須恵器 坏身	－ △2.4	口縁部1/6	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
25	SI14 埋土	須恵器 高坏	※11.2 △3.5	口縁部1/7	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	密　1㎜の黒斑状粒子	外面：灰色 内面：暗灰色	堅緻	
26	SI14 埋土	須恵器 甕	－ △4.0	胴部上半 1/8	外面：カキメ 内面：胴部上半横ナデ、下半は同心円文（青海波文）	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：暗灰色 内面：暗灰色	堅緻	
28	SI14 埋土	須恵器 甕	－ △14.2	4/5	外面：頸部・胴部回転ナデ、底部ハケメ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：暗灰色 内面：暗灰色	堅緻	胎土分析No.27
29	SI14 埋土	須恵器 横瓶	※10.0 △6.5	口縁部～胴 部上半2/3	外面：口縁部回転ヨコナデ・カキメ、胴部タタキメ 内面：口縁部回転ヨコナデ、タタキメ	密　3.0㎜以下の白色粒子・長石	外面：暗青灰色 内面：暗青灰色	堅緻	
30	SI14 埋土	須恵器 壺？	※18.0 △9.5	胴部1/7	外面：カキメ、タタキメ 内面：指頭圧痕	密　0.5㎜以下の長石、白色・灰色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：灰白色	良好	
31	SI14 埋土	須恵器 壺？	※19.4 △5.3	口縁部～胴 部上半1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
32	SI14 埋土	須恵器 横瓶	－ △22.0	胴部1/8	外面：カキメ 内面：同心円文	密　1.1㎜の白色砂粒	外面：暗灰色 内面：暗灰色	堅緻	
33	SI14 埋土下層	土師器 甕	※10.2 △14.9	口縁部～ 底部1/1	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜以下の長石・輝石・淡褐色粒子	外面：橙色～黄橙色 内面：黄橙色	良好	
34	SI14 埋土	土師器 甕	※17.1 △3.6	口縁部 1/10以下	外面：口縁部ヨコナデ、有段部の直上に沈線 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0㎜の灰色砂粒・暗褐色粒子	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
35	SI14 埋土	土師器 甕	※19.0 △3.3	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ、有段部の直上に沈線 内面：口縁部ヨコナデ	密　2.0㎜の白色砂粒1.5㎜の半透明砂粒	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好	
36	SI14 埋土	土師器 壺	※19.6 △16.3	口縁部1/4	外面：ヨコナデ、赤色塗彩 内面：ヨコナデ、赤色塗彩	密　0.5㎜以下の石英・輝石・白色砂粒	外面：橙色～明黄褐色 内面：橙色～明黄褐色	良好	
37	SI14 埋土	土師器 甕	※12.4 △2.6	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
38	SI14 埋土	土師器 甕	※15.9 △11.0	口縁部～ 胴部1/4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0㎜の輝石・長石	外面：橙色 内面：明黄褐色～灰黄褐色	良好	
39	SI14 埋土	土師器 甑	※12.6 △6.1	口縁部～胴 部上半1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の輝石、白色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
40	SI14 埋土	土師器 甕	※15.6 △5.6	口縁部～胴 部上半1/3	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2㎜以下の白色砂粒、輝石、長石	外面：橙色 内面：橙色	良好	
41	SI14 埋土	土師器 甕	※14.3 △8.4	口縁部～胴 部上半1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の輝石、石英、黒色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
42	SI14 埋土	土師器 甕	※24.0 △8.9	口縁部～胴 部上半1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
43	SI14 埋土	土師器 甕	※17.2 △4.9	口縁部～胴 部上半1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の輝石・白色・黒色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明黄褐色	良好	
44	SI14 埋土	土師器 甕	※20.1 △4.5	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄色 内面：浅黄橙色	良好	
45	SI14 埋土	土師器 甕	※19.8 △3.7	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の長石	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
46	SI14 埋土	土師器 甕	－ △9.8	胴部上半 1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の輝石・白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
47	SI14 埋土	土師器 甕	－ △13.5	胴部上半 1/4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0～3.0㎜の長石・石英	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
48	SI14 埋土	土師器 脚付碗	－ △2.2	脚部1/5	外面：脚部ナデ 内面：脚部ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・1.5㎜の赤褐色粒子	外面：浅黄色 内面：青灰色	良好	
49	SI14 埋土	土師器 甑	※19.5 △4.2	口縁部 1/10	外面：胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5㎜の白色砂粒・灰色砂粒・橙褐色粒子	外面：明浅黄色 内面：明浅黄色	良好	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
50	SI14 埋土	土師器 甕	※21.8 △4.0	口縁部 1/10以下	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0mm白色砂粒・灰色砂粒・1.5mmの橙褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
51	SI14 埋土	土師器 甕	最大径18.0 △9.5	胴部中位 1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0mmの白色砂粒・輝石・褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
52	SI14 埋土	土師器 甕	※16.6 △4.1	口縁部1/8	外面：摩滅のため不明 内面：摩滅のため不明、一部指頭圧痕	密　1.5mmの白色砂粒・褐色粒子・1.0mmの灰色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
53	SI14 埋土	土師器 甕	－ △7.4	底部1/8	外面：胴部ハケメ 内面：摩滅（ナデか）	密　1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒・黒褐色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
54	SI14 埋土	土師器 甕	※26.0 △5.5	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの輝石	外面：橙色 内面：橙色	良好	
54	SI14 埋土	土師器 甕	※25.2 △21.1	胴部1/3	外面：ヘラ状工具によるナデ 内面：上部ヨコナデ、下部ヘラケズリ	密　4.0mm以下の長石・白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
55	SI14 埋土	土師器 甕	△15.0	焚口部1/8	外面：ナデ 内面：ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
56	SI14 埋土	土師器 甕	－ △12.7	胴部 1/10以下	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　1.0～3.0mmの白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
57	SI14 埋土	土師器 甕		把手1/1	外面：ナデ 内面：－	密　1.0mmの白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	

表29　SI14出土有孔土玉観察表

遺物No.	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
60	SI14	埋土	管状	5.5	4.4	0.8	98.0	ナデ	1mmの白色砂粒を含む	黄灰～暗灰黄色	良好	1/3欠損

表30　SI14出土石器観察表

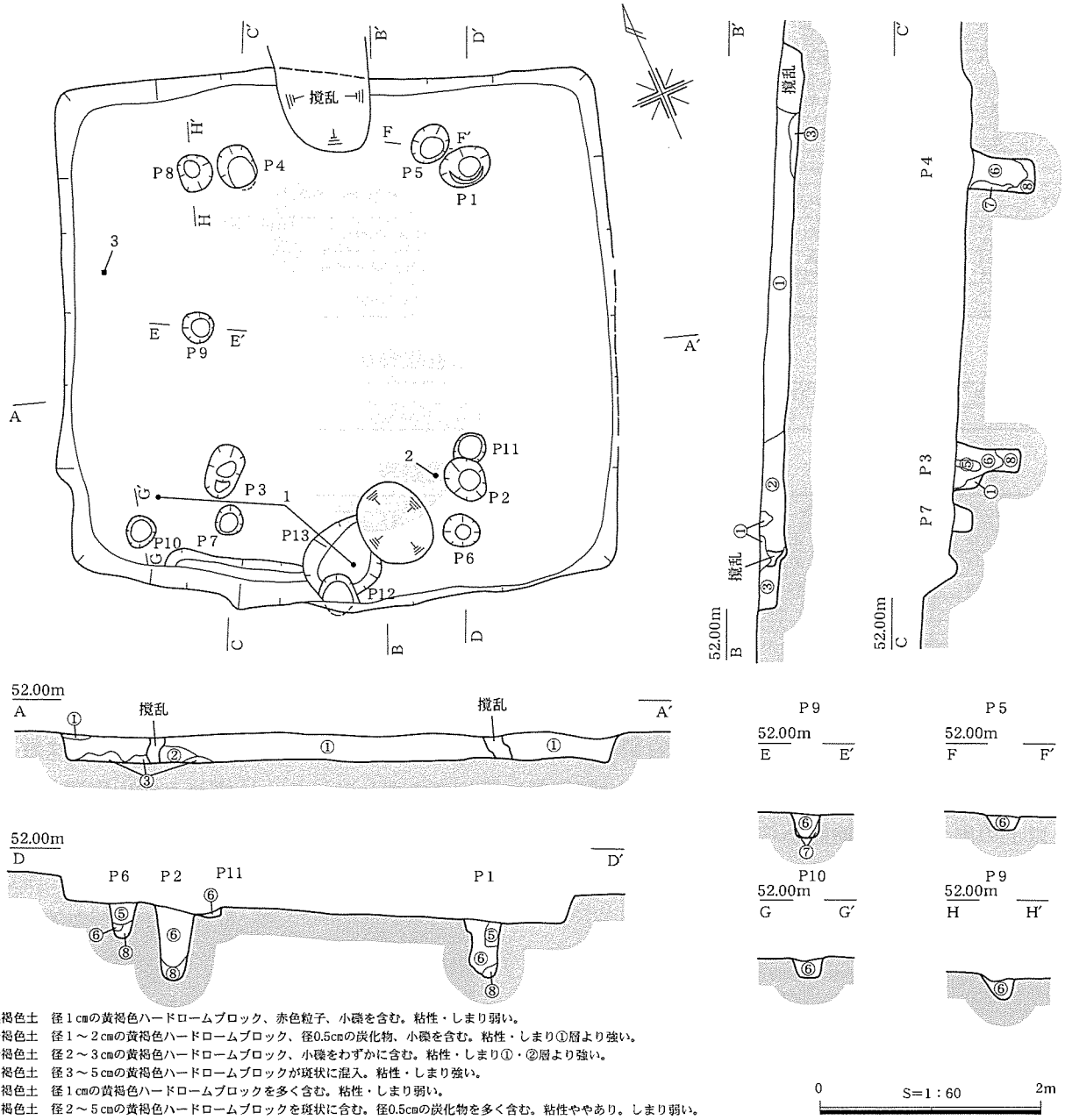
遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
58	SI14	埋土	砥石	流紋岩	6.6	4.1	2.2	71.0	砥面数4
59	SI14	埋土	砥石	閃緑ひん岩	4.5	3.7	3.6	76.5	砥面数2
61	SI14	埋土	敲石	安山岩	15.8	6.0	4.0	620.0	上・側・下面敲打痕
62	SI14	埋土	磨石・敲石	安山岩	11.3	8.8	8.0	1040.0	上・下面敲打痕
63	SI14	埋土	敲石	輝石安山岩	11.4	5.9	5.3	460.0	表・下面敲打痕
64	SI14	埋土	磨石	安山岩	△7.8	6.4	3.3	230.0	表裏面磨面
65	SI14	埋土	磨石	安山岩	4.9	4.0	3.5	90.0	下面磨面
66	SI14	埋土	磨石	安山岩	7.5	5.4	4.9	270.0	表面磨面

い反り上がっている。59は閃緑ひん岩製の砥石であり、2面の砥面が確認できる。61～66は敲石・磨石であり、61～63は上下端部、もしくは側縁部に敲打痕を残している。いずれも安山岩製である。

以上の出土遺物の検討から、本住居跡の帰属時期は八橋Ⅴ期に帰属しよう。　（小口）

写真７　SI14検出状況（南西から）

写真８　SI14遺物出土状況（南から）



①黒褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロック、赤色粒子、小礫を含む。粘性・しまり弱い。
②暗褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロック、径0.5cmの炭化物、小礫を含む。粘性・しまり①層より強い。
③暗褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロック、小礫をわずかに含む。粘性・しまり①・②層より強い。
④明褐色土　径３～５cmの黄褐色ハードロームブロックが斑状に混入。粘性・しまり強い。
⑤明褐色土　径１cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。粘性・しまり弱い。
⑥暗褐色土　径２～５cmの黄褐色ハードロームブロックを斑状に含む。径0.5cmの炭化物を多く含む。粘性ややあり。しまり弱い。
⑦褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロックを斑状に含む。粘性弱く、しまり強い。
⑧明褐色粘質土　粘性・しまり強い。柱材を支える充填土か。

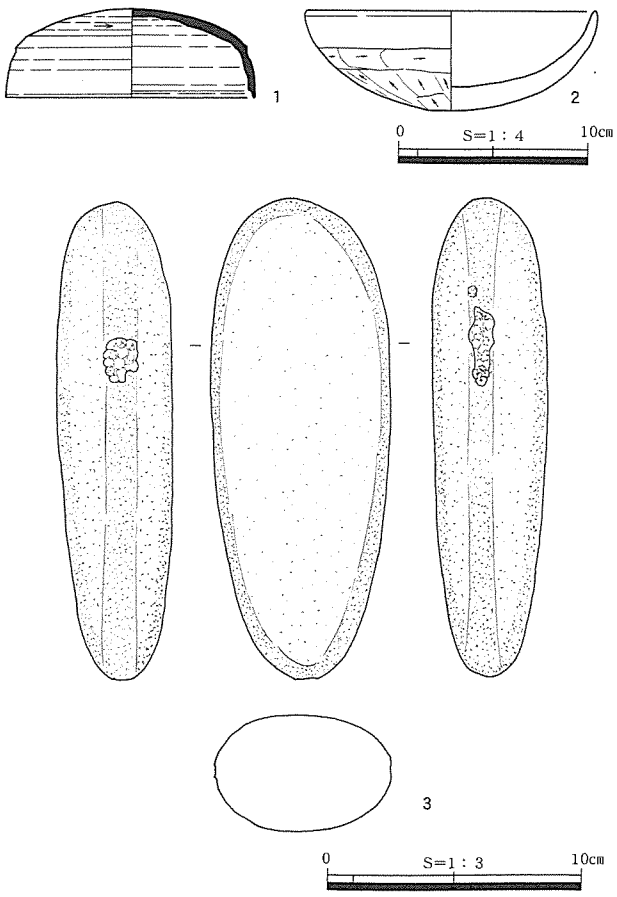
第47図　SI15

SI15（第47・48図、表31・32、PL.11・33）

位置　G13グリッド、標高51mの丘陵北西側傾斜変換点に位置し、SI14の南東隣にほぼ主軸を同じくして並列している。表土除去後、暗褐色土の拡がりを確認しプランを検出した。SI14とは対照的に遺物の量は少なく、梨の木による撹乱や削平を受け、埋土の残存状況は不良である。

規模と形態　平面形態は南北5.0m、東西5.0mの方形を呈し、壁高は最大20cmを測る。床面は地山ローム層で構成され、中心部では3.2×2.0mの範囲にわたって硬化面を形成している。南壁西半分には、長さ1.5m、深さ10cm未満の断面U字状の周溝が存在する。北壁中心部は撹乱を受けている。

床面上で検出されたピットは計11ヶ所で、そのうちP1～4は主柱穴と考えられる。P１：35×45－50cm、P２：35×40－60cm、P３：40×35－55cm、P４：35×50－60cmを測る。また、これらの主柱穴に沿うように小型ピット５・６・７・８が確認された。P５：30×30－30cm、P６：30×



第48図　SI15出土遺物

25－20cm、Ｐ７：25×25－20cm、Ｐ８：30×30－20cmといずれも浅く、埋土の状況や焼土面、プランなどから２棟の重複関係を示すものではなく、主柱の補助材としての機能を有していたかもしれない。南壁際の中央部に位置するP12は長径40cm、深さ10cm、南側1/4ほどが壁を穿ってオーバーハングしている。また、北側には幅70cmほどの擂鉢状のP13がみられ、後者が古い。ピット内からはやや浮いた状況で須恵器坏蓋（１）が出土している。また、西壁中心部の内側寄りに深さ20cmのＰ９が、南西コーナー付近には深さ20cmのP10が検出された。

床面中心部には、長軸35cm、短軸20cmの瓢状の焼土面が確認されたが、中心部よりも外縁部がより赤化していることが特徴であり、SI20の焼土面との類似状況が観察された。

埋土と遺物の出土状態　埋土の状況は、①層とした黒褐色土と②層の暗褐色土が堆積し、前者には黄褐色ロームブロックや赤色粒子、小礫が混入し、後者は色調が①層より明るくロームブロックを多く含んでいる。また壁付近の床面直上には、暗褐色土の③層、より大型のロームブロックが混入した明褐色土の④層が堆積し、いずれも壁体の崩落によるものと思われる。

遺物は、住居南半部の①層下部から出土しているが、量は少ない。いずれも小片が多く、埋土の状況からも本住居は廃絶後、短期間に埋土の形成がみられたものと考えられ、隣接したSI14とこのことからも対照的な住居である。

出土遺物　１は須恵器坏蓋である。天井部がやや丸みを帯び、口縁部で屈曲して端部に至るが、口縁部との境には稜が形成されている。天井部は回転ヘラケズリ痕が認められ、肩から口縁部はナデ調整である。端部内面には、凹線がめぐり、その上部はわずかであるが肥厚している。２は床面直上から出土した土師器坏身である。口縁部はヨコナデ、体部はヘラケズリが施されている。３は長さ18.9cm、幅7.0cm、厚さ4.6cmの安山岩製の敲石である。下部が細身を帯びていることが特徴であり、左右両側面の上方に敲打痕が残っている。本住居は、１の型式学的特徴から八橋Ｖ期古段階に帰属しよう。

（小口）

表31　SI15出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI15 埋土	須恵器 坏蓋	※13.1 4.7	1/2	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：暗青灰色	堅緻	胎土分析No.34
2	SI15 床直	土師器 塊	※15.4 △5.3	口縁部～ 底部3/4	外面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：ナデ	密　1.0mm以下の白色砂粒・輝石	外面：橙色 内面：黄橙色～橙色	良好	

表32　SI15出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
3	SI15	埋土	敲石	安山岩	18.9	7.0	4.6	890.0	側面敲打痕

SI16（第49・50図、表33、PL.11・33）

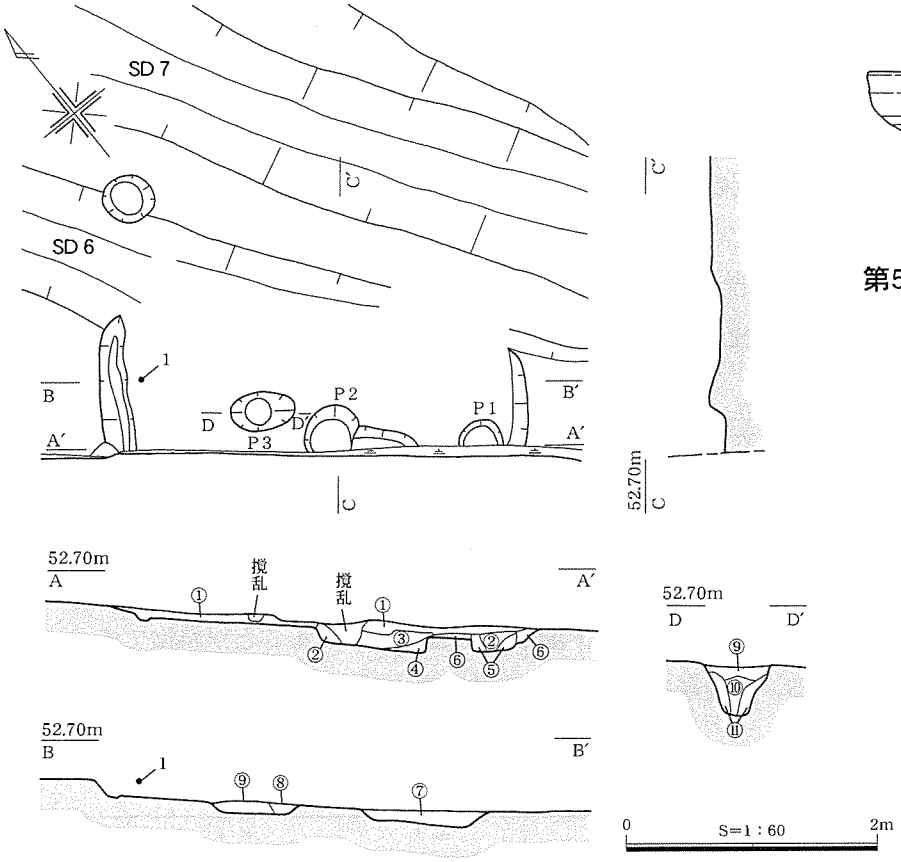
位置　調査区中央部南縁の丘陵上、J14グリッド、標高51m上に位置している。住居跡の東側にSI7・26、SB１・２が認められる。

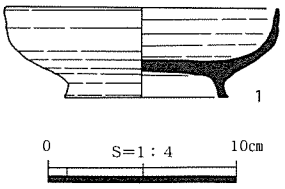
規模と形態　遺構の南西部分は調査区外であり、北側はＳＤ６・７によって失われているために遺存状態が悪く、全体の形態は分からない。北壁と南壁ラインがほぼ平走することから一辺3.3mの方形状の平面形と想定される。壁の高さは北壁で７cmを測る。床面は地山ロームを利用しており、部分的に貼床が施されていた。北側は溝に壊されており、辛うじて貼床の痕跡が見られた。ピットは３ヶ所検出したが、そのうちＰ１、２は深さが10cm前後と浅く、配置的にも主柱穴とは考えがたい。Ｐ３については、埋土上層に貼床が施されていたので、この住居に伴わないか、もしくは建て替えなどによって柱穴を塞がれたものと考えられる。

埋土と遺物の出土状況　埋土の状況は①層とした褐色土と②層の褐色土が堆積する。③・④層はＰ２を補強する際に人為的に充塡したものと考えられる。⑤層の黄褐色土はＰ２の埋土である。黄褐色土の⑥層と暗褐色土の⑦層、明褐色土の⑧・⑨層は貼床である。⑩層は柱を抜き取った後の埋土で、⑪層は柱を埋めた埋土と考える。

出土土器　本住居跡からは須恵器の高台坏が出土した。高台端部が面をもって接地し、坏部は丸みをもちながら外傾する。

SI16は古墳時代終末期から奈良時代の住居跡と考えられ、八橋Ｘ期に相当する。　（原）





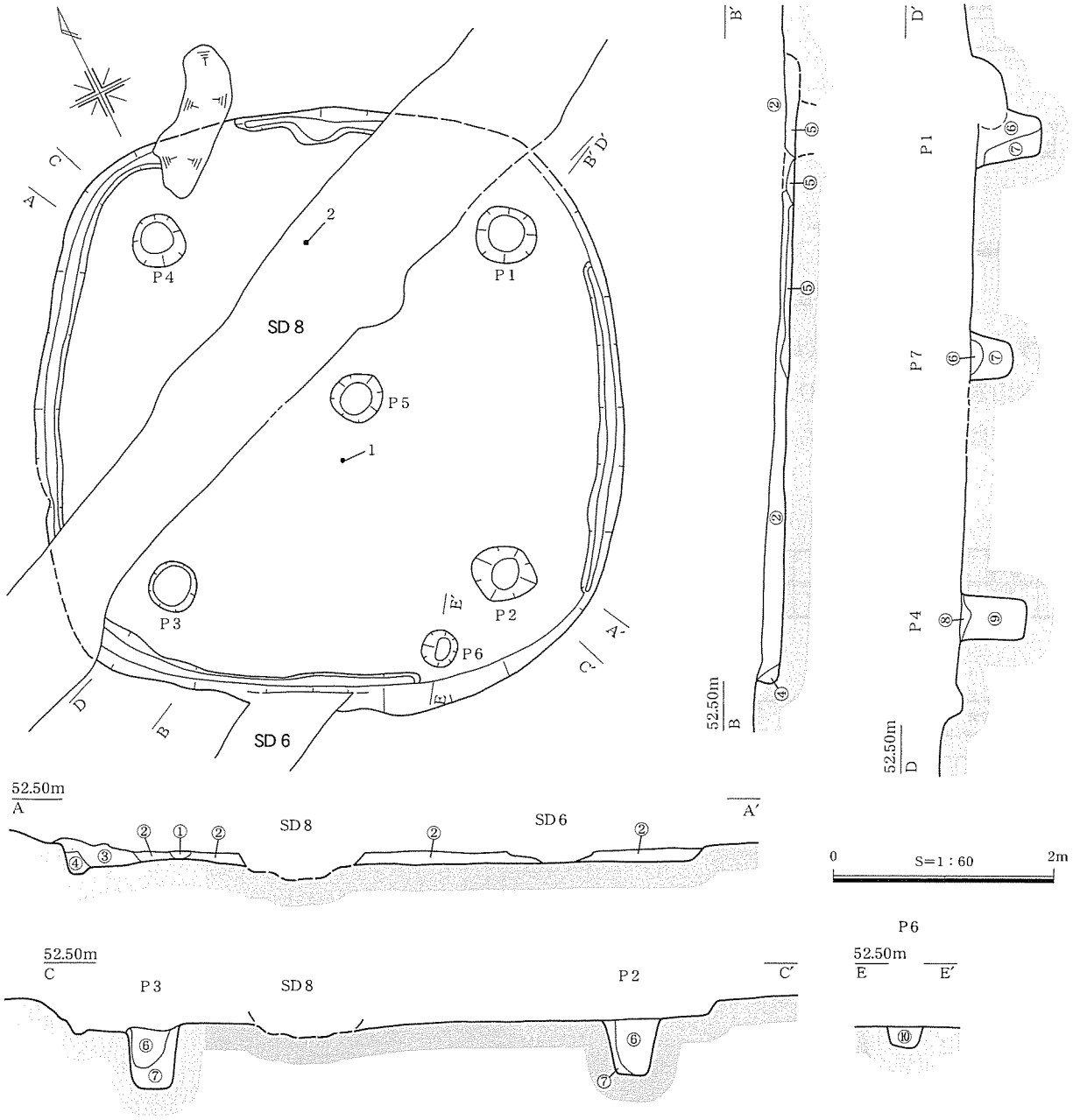
第50図　SI16出土遺物

①褐色土　黄褐色ローム粒子を多く含む。しまり・粘性あり。
②褐色土　１層よりもローム粒子を多く含む。やや大きめの炭化物粒子を含む。
③褐色土　赤褐色ローム粒子、炭化物粒子、少量の径３cmのロームブロック含む。
④褐色土　ローム粒子多く含む。しまり粘性あり。
⑤黄褐色土　黄褐色ローム粒子多く含み、しまり・粘性あり。
⑥黄褐色土　黄褐色ローム粒子多く含み、しまり・粘性強い。粘床か。
⑦暗褐色土　径２cm以下の黄褐色ロームブロック、赤褐色、暗褐色のブロック混じる。しまり強く粘性あり。
⑧明褐色土　径１cm以下の黄褐色ローム粒子と少量炭化物粒子含む。しまりあり粘性あり。
⑨明褐色土　径３cm以下の黄褐色ローム粒子と暗褐色土粒子を全体に含む。しまりあり粘性あり。
⑩暗褐色土　全体に赤褐色ローム含み、しまり粘性弱い。
⑪赤褐色ローム　径４cm赤褐色ロームブロック含みしまり・粘性あり。

第49図　SI16

表33　SI16出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI16 埋土	須恵器 高台坏	14.5 4.8	2/3	外面：回転ナデ、底部回転糸切り後、静止ナデ 内面：回転ナデ、中心部静止ナデ	密　1.0mm以下の白色砂粒	外面：緑灰色 内面：緑灰色	堅緻	胎土分析No.35



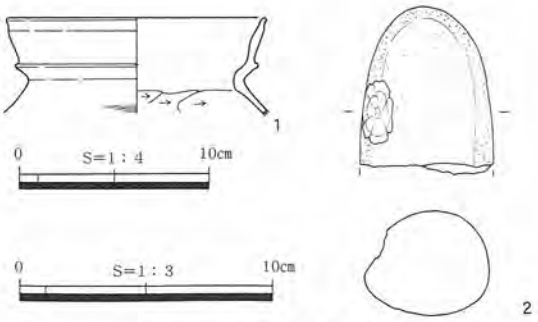
①黒褐色土　径１cmの赤色粒子を含む。粘性・しまり強い。
②暗褐色土　径１～３cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。0.2～0.5cmの炭化物、径１cmの小礫混入。しまり強く、粘性なし。
③明褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。径0.5cmの赤色粒子、細砂礫混入。粘性・しまり弱い。
④暗褐色土　周溝埋土径１～２cmの黄褐色ハードロームブロックが混入。粘性・しまり弱い。
⑤灰白色粘質土　貼床土。粘性・しまり強い。
⑥暗褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。径２～３cmの炭化物混入。粘性・しまり弱い。
⑦暗褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックを斑状に含む。粘性・しまり⑥層より強く、色調明るい。
⑧桃色粘質土　粘性・しまり強い。
⑨桃色粘質土　⑧層よりも粘性・しまり強い。色調明るい。
⑩暗褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロックを含む。粘性・しまり有り。

第51図　SI17

SI17（第51・52図、表34・35、PL.12・33）

位置　I14グリッド、丘陵平坦面の標高52mに位置する。約20cmの表土除去後、SD６・８とともに検出され、SD６・８、SB４が本住居を切っている。

規模と形態　平面形態は隅丸方形を呈し、一辺5.5×5.3mを測る。住居内からは４基の主柱穴（P１：55×55－60cm、P２：50×60－50cm、P３：45×45－60cm、P４：50×50－55cm）と２基のピット（P５：45×50－40cm、P６：30×30－20cm）が確認されている。このなかで、P５がいわゆる中央ピットに比定されよう。壁高は最大20cmを測り、幅10～20cm、深さ10cm以下の断面Ｕ字状の周溝がめぐっている。床面は灰白色粘質土からなる貼床が施され、さらに南壁寄りに50×50cmの焼土面が検出さ



第52図　SI17出土遺物

れた。

埋土と遺物の出土状態　埋土は、黄褐色ハードロームブロックと炭化物を多く含む②層の暗褐色土がほぼ全面を覆っているが、丘陵平坦面という表土が非常に薄い地点に位置していることから、埋土も15cm平均と浅かった。したがって、出土遺物も多くはない。

出土遺物　１は口縁部下端が段を形成して、やや外反する甕である。外面は口縁部がヨコナデ、内面は口縁部がヨコナデ、胴部はヘラケズリである。２は安山岩製の敲石であり、一側縁部に敲打痕が残っている。

本住居は、１の特徴から八橋Ⅱ期に帰属しよう。　（小口）

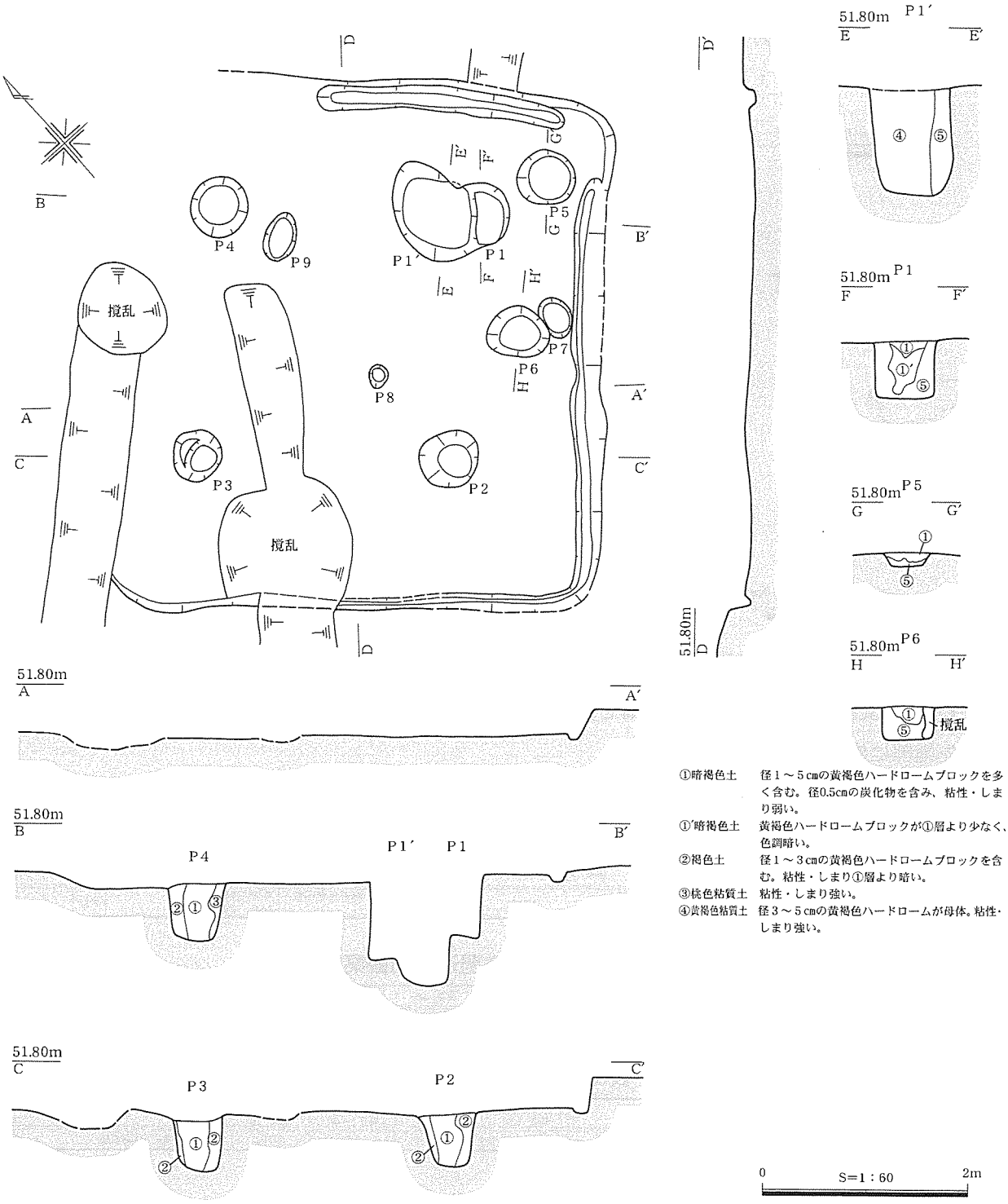
表34　SI17出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI17 埋土	弥生土器 甕	※13.5 △5.0	口縁部～ 胴上1/2	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	

表35　SI17出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
2	SI17	埋土	敲石	黒雲母角閃石安山岩	△6.6	5.3	4.1	180.0	側面敲打痕

写真９　赤碕町から八橋狐塚古墳を望む



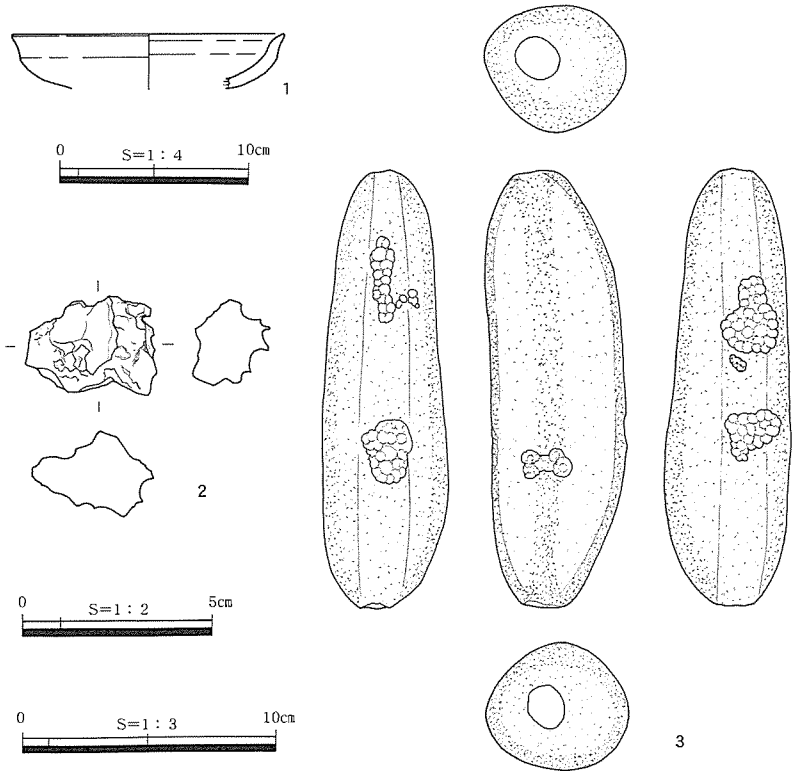
第53図　SI18

SI18（第53・54図、表36・37・38、PL.12・42）

位置　G15グリッド、標高51mの丘陵北西側傾斜変換点に位置し、主軸を北西方向に向けている。梨の木・暗渠による撹乱や削平を著しく受け、撹乱土除去後にほぼ床面が検出された。

規模と形態　平面形態は5.1×（4.7）mの方形を呈し、壁高は最大25cmを測る。床面は地山ローム層としているが、暗渠排水管の溝などによって撹乱を受けているため、北西方向の壁が破壊されている。東壁から南壁には、幅15～20cm、深さ10cm未満の断面U字状の周溝がめぐっている。

床面上で検出されたピットは計10ヶ所で、そのうちP１～４は主柱穴と考えられる。P１：55×



第54図　SI18出土遺物

30－50cm、Ｐ２：55×55－50cm、Ｐ３:45×50－50cm、Ｐ４：55×55－55cmを測る。また、P1を切るようにＰ1′：75×80－100cmが確認された。住居南東壁寄りに、断面が桶状を呈するＰ５：50×55－15cm、Ｐ６：45×60－30cmが検出されたが、いずれも性格は不明である。

埋土と遺物の出土状態　埋土の状況は、床面近くまで撹乱土が及んでいた。遺物は少ない。

出土遺物　１は土師器の坏身である。口縁直下で段を形成し、外反していることから高坏と思われる。内外面ヨコナデ調整である。２は流動滓である。３は長さ17.3cm、幅5.5cm、厚さ5.0cmで安山岩製の敲石である。表裏面および側縁部に敲打痕が、基部・先端部に磨面が認められる。

本住居跡の帰属時期は、八橋Ⅵ期に比定される。　（小口）

表36　SI18出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI18 埋土	土師器 高坏	※14.4 △2.9	口縁部1/3	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　0.5～１㎜の灰色砂粒・褐色粒子	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	

表37　SI18出土鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ（g）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	磁着度	メタル度	備考
2	SI18	埋土	鉄滓	錆化（△）	10.6	2.7	3.5	2.2	1	なし	

表38　SI18出土石器観察表

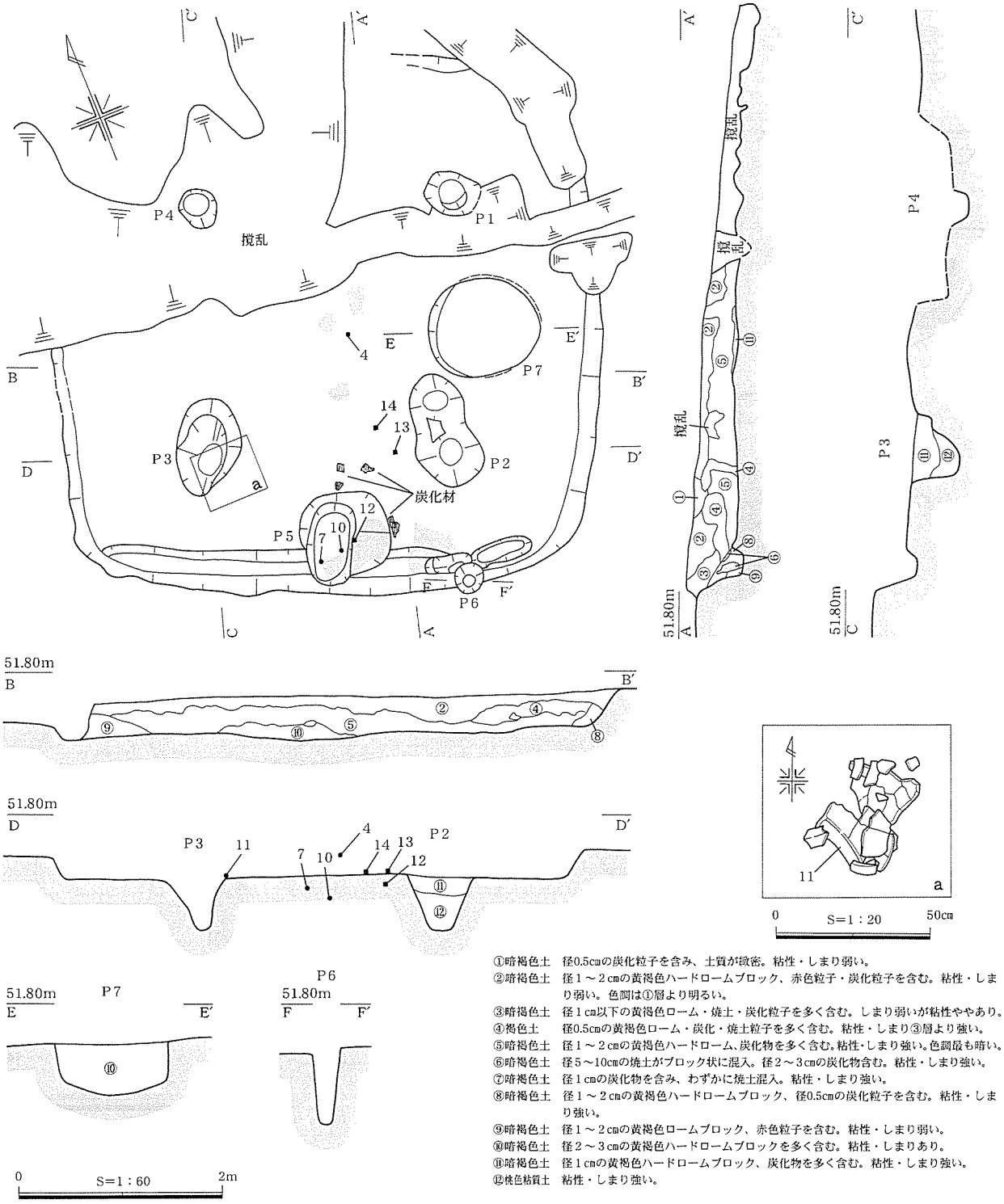
遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
3	SI18	埋土	敲石・磨石	安山岩	17.3	5.5	5.0	670.0	上・表・側・下面敲打痕

SI19（第55・56図、表39・40、PL.13・33）

位置　G14グリッド、標高51mの丘陵北西側傾斜変換点に位置し、主軸を北方向に向けている。梨の木・暗渠による撹乱を受け、住居跡北側約1/3が破壊されている。

規模と形態　平面形態は5.3×5.3mの方形を呈し、壁高は最大25cmを測る。床面は地山ローム層で構成され、中心部に硬化面が認められた。また、硬化面上には３ヶ所の径20～30cmほどの焼土面があり、そのうちの２ヶ所の焼土面の周囲には炭化物が集中した状況が確認された。南壁には、幅25cm、深さ15cm未満の断面Ｕ字状の周溝が併走している。

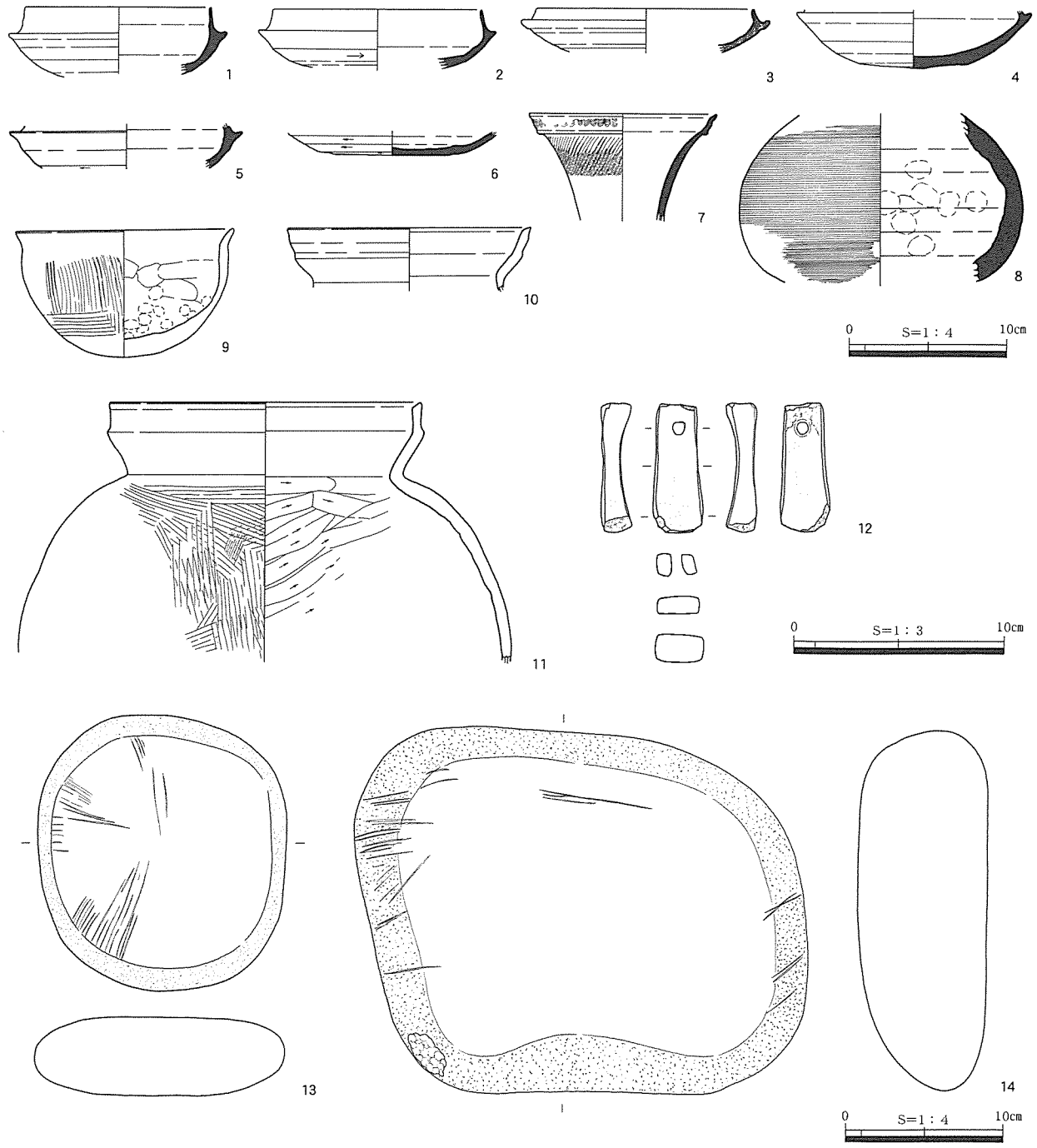
床面上で検出されたピットは計７ヶ所で、そのうちＰ１～４は主柱穴と考えられる。Ｐ１・４は梨の木撹乱で柱穴下底面のみ確認された。Ｐ１：(40)×(50)－50cm、Ｐ２：60×65－50cm、Ｐ３：50



第55図　SI19

×80－45cm、P４：(35)×(35)－50cm、を測る。南壁中心部には、P５：80×40－15cmがみられるが、壁面を一部切るように構築されていること、擂鉢状を呈することなどからいわゆる特殊ピットに比定されよう。東壁寄りにやや大型のP７：110×100－50cmがみられるが、SI14と同様貯蔵穴の可能性がある。

埋土と遺物の出土状態　埋土は径２cm以下の黄褐色ハードロームブロックと炭化物を含む暗褐色土が床面をほぼ覆っていた。また、南壁付近には焼土ブロックと炭化物を多く含む⑥層が堆積していたが、周囲の炭化材片も含めて埋土形成過程での流れ込みと想定される。住居跡の北半分が撹乱によっ



第56図　SI19出土遺物

て破壊されていたが、南半は埋土の残存が良好であったため、比較的多くの遺物が出土した。

出土遺物　１～６が須恵器坏身、７・８は甕の口縁部と胴部、９は土師器椀、10・11は土師器甕である。口縁部がほぼ直立する１とやや内傾する２～５がみられ、口縁部から体部上半がヨコナデ、体部下半はヘラケズリが観察される。１は古相を帯びる。９は口縁部が外反し、外面がハケメ、内面がナデ・指頭圧痕調整がみられる。10・11は有段口縁甕であり、口縁部はナデ調整、胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリ調整である。12はバチ形の有孔砥石である。砥面は４面確認でき、表面は弓なり状に反り上がっている。13・14は安山岩製の台石であり、縁辺部に擦痕が認められる。

本住居跡の帰属時期は、八橋Ⅳ期に比定されよう。　（小口）

表39　SI19出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI19 埋土	須恵器 坏身	※12.0 △4.3	口縁部1/8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の黒色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	SI19 埋土	須恵器 坏身	※15.0 △3.7	口縁部1/8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の黒色粒子	外面：緑灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.36
3	SI19 埋土	須恵器 坏身	※14.0 △2.8	口縁部1/8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の黒色粒子	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.37
4	SI19 埋土	須恵器 坏身	最大※15.0 △3.7	1/3	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0～5.0㎜の長石	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
5	SI19 埋土	須恵器 坏身	最大※15.0 △2.7	坏部上半 1/6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の灰色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
6	SI19 埋土	須恵器 坏身	最大※13.2 △1.5	底部3/5	外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5～3.5㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
7	SI19 埋土	須恵器 甕	※11.9 △6.9	口縁部1/6	外面：回転ナデ、口縁部・頸部に波状文 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒、0.5㎜の暗灰色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
8	SI19 埋土	須恵器 甕	最大径18.0 △10.6	胴部1/4	外面：カキメ 内面：指押さえ後回転ナデ	密　0.5～2㎜の白色砂粒 0.5～1㎜の黒褐色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
9	SI19 埋土	土師器 埦	13.4 8.1	口縁部～ 底部	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、底部ナデ、赤色塗彩 内面：口縁部～胴部上半ヨコナデ、胴部下半指頭圧痕、赤色塗彩	密　0.5～2.0㎜以下の白色・黒色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
10	SI19 埋土	土師器 甕	※15.4 △4.1	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5㎜の長石0.5～1.5㎜の白色砂粒	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
11	SI19 埋土	土師器 甕	※19.6 △16.3	口縁部～ 胴部3/4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜以下の石英・輝石、白色砂粒	外面：橙色～明黄褐色 内面：橙色～明黄褐色	良好	

表40　SI19出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
12	SI19	埋土	砥石	流紋岩	6.1	2.4	1.4	26.8	砥面数4
13	SI19	埋土	台石	安山岩	17.5	15.9	5.0	2320.0	表面に擦痕
14	SI19	埋土	台石	安山岩	28.5	23.5	8.2	9910.0	表面に磨面・擦痕

SI20（第57・58図、表41・42、PL.14・33）

位置　H14グリッド、標高51ｍの丘陵平坦面に位置し、主軸を北方向に向けている。住居北壁付近の一部が梨の木・暗渠による撹乱を受けている。

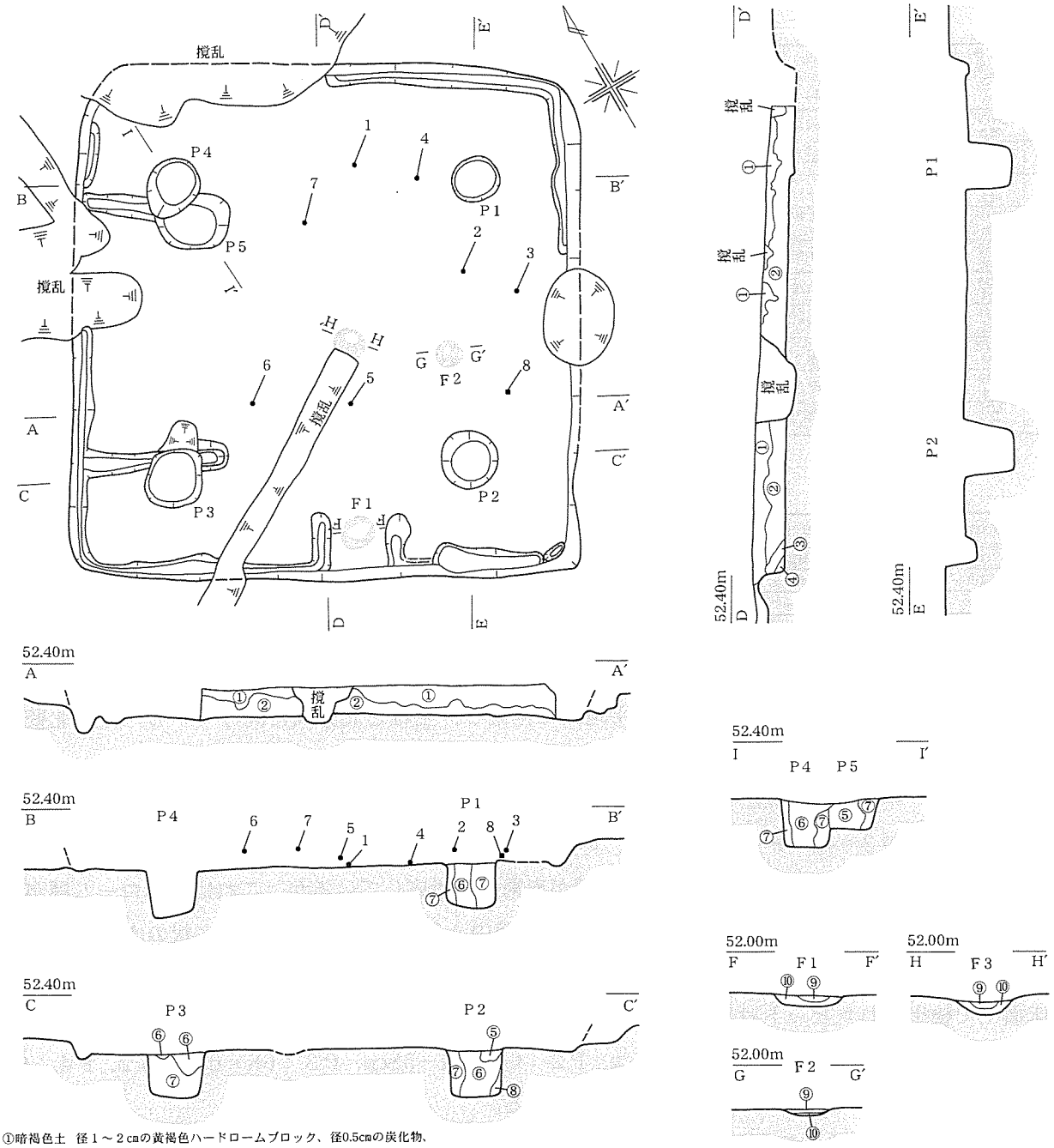
規模と形態　平面形態は6.2×6.1ｍの方形を呈し、本遺跡で最大規模を誇る。床面には径20～30㎝ほどの焼土面が３ヶ所（Ｆ１～３）あり、いずれも中心部が橙褐色で、その周縁部が赤褐色を帯びている。断面形状も中心部が橙褐色、その下端が赤褐色と対応しているが、これは地山ローム層が被熱を受け変色したものである。そのうちのＦ１は南壁中心部に張り出す断面Ｕ字状の床溝によって挟まれている。

床面上で検出されたピットは計５ヶ所で、そのうちＰ１～４は主柱穴と考えられる。Ｐ４・５は重複関係を有している。Ｐ１：60×60－56㎝、Ｐ２：64×64－58㎝、Ｐ３：68×68－56㎝、Ｐ４：64×64－56㎝を測る。またＰ５は64×88－36㎝である。

壁面には断面Ｕ字状、深さ10㎝以下の壁周溝がめぐっている。また、西壁にはＰ３・４に向かって床溝が壁周溝と連結している。床溝が主柱穴と連結する他の事例としてSI14があるが、本住居跡ではＰ２・３に向かって東西壁から連結する形態をとるためSI20とは異なっている。しかしながら、SI14についていえば、床溝によって南東・南西コーナーに小空間が形成されることになり、またSI20においても南西コーナーにおいて小区画が出来ることから、これらの溝が住居内の空間配置に影響を与えた可能性は高い。今後は、床溝が認められる住居形態とそうでないものの比較、さらに区画内の遺物出土状況などの詳細な検討が求められよう。

埋土と遺物の出土状態　埋土は径２㎝以下の黄褐色ハードロームブロックと３㎝以下の炭化物を含む暗褐色土（①層）と褐色土（②層）の２枚の層が床面を覆っている。出土遺物は低調であったが、その多くが②層上面からの出土であった。

出土遺物　１～２は須恵器坏蓋、３・４は坏身、５は横瓶か甕の胴部破片である。１・２は天井部がやや丸みを帯び、口縁部との境には明瞭な段を形成せず端部に至る。天井部はケズリ、口縁部はナ



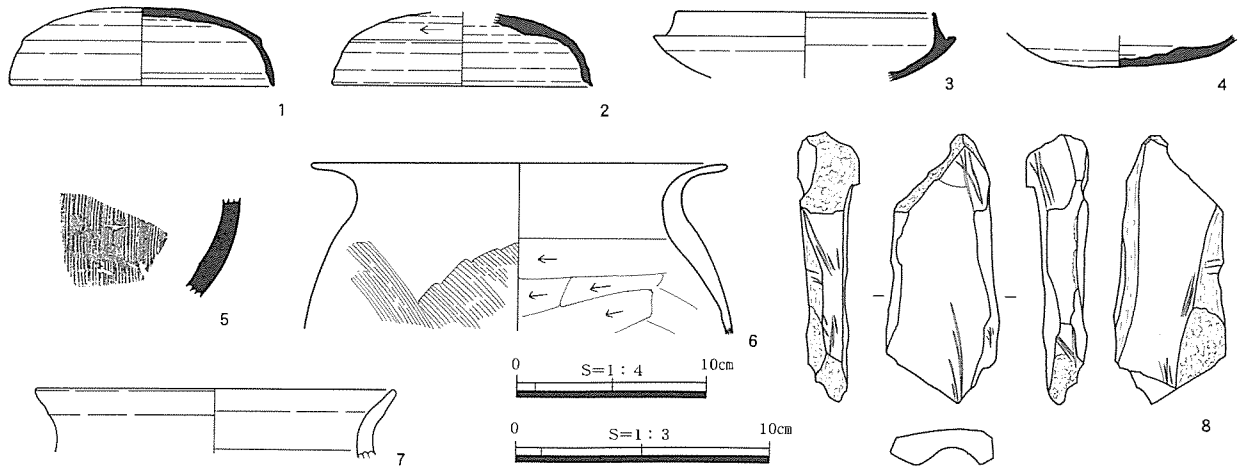
①暗褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロック、径0.5cmの炭化物、径１～２cm赤色粒子を含む。粘性・しまり弱い。
②褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含み、径１cmの炭化物・赤色粒子をわずかに含む。粘性・しまり①層より強い。
③暗褐色土　径１～２cmの黄褐色ハードロームブロック、径0.5cmの炭化物を含む。粘性・しまり①・②層より強い。
④黄褐色粘質土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックを含む。壁体の崩落土か。
⑤黄褐色土　径３～５cmの黄褐色ハードロームブロックが斑状に混入。粘性・しまりやや有り。
⑥暗褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックを多く含む。径0.3cmの炭化粒子含む。
⑦暗褐色土　径２～３cmの黄褐色ハードロームブロックが斑状に混入。径0.1～0.2cmの炭化粒子を含む。粘性・しまり強い。
⑧橙色粘質土　粘性・しまり強い。
⑨橙色土　燃焼面の中心部。しまり強く、粘性なし。
⑩赤褐色土　燃焼面の周縁部。しまり強く、粘性なし。

0　S=1：80　2m

第57図　SI20

デ調整である。６・７は口縁部が大きく外反した素口縁甕であり、６は口縁部はヨコナデ、胴部はハケメ調整である。８は流紋岩製の砥石である。砥面は４面、鉄製品によるものと思われる擦痕が各面に観察される。

以上の出土遺物から、本住居は八橋Ⅴ期に帰属しよう。　（小口）



第58図　SI20出土遺物

表41　SI20出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI20 埋土	須恵器 坏蓋	※14.0 △4.1	4/5	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0mm以下の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.38
2	SI20 埋土	須恵器 坏蓋	※13.8 △4.3	1/6	外面：口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mm以下の白色砂粒と暗灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
3	SI20 埋土	須恵器 坏身	※16.0 △3.6	口縁部1/8	外面：口縁部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの黒色粒子	外面：青灰色 内面：灰色	堅緻	断面が灰色と紫紅色の２層に分かれる
4	SI20 埋土	須恵器 坏身	最大※12.0 △1.7	底部1/2	外面：底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、中央に同心円文	密　1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒・暗褐色砂粒	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	
5	SI20 埋土	須恵器 横瓶？	－ △5.0	胴部1/10 以下	外面：カキメ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：にぶい赤褐色 内面：灰褐色	堅緻	胎土分析No.39
6	SI20 埋土	土師器 甕	※22.0 △8.8	口縁部～胴部上半1/4	外面：口縁部横ナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・石英・輝石	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
7	SI20 埋土	土師器 甕	※19.1 △3.4	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～１mmの白色砂粒、赤褐色粒子	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	

表42　SI20出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
8	SI20	埋土	砥石	流紋岩	10.6	4.4	2.5	77.0	砥面数4

SI21（第59・60・61図、表43・44、PL.14・34）

位置　南谷部南側のＬ８・９グリッドに位置し、主軸を北西に向ける。床面の標高は48.1～48.2m。

規模と形態　平面形はほぼ正方形と復元できる。住居の南西隅付近では壁周溝が巡る。Ｐ１とＰ４を主柱穴とした２本柱建物とみられる。床面の中央には焼土面が認められる。

埋土と遺物の出土状態　南谷部の南斜面を掘削して構築されたため、床面の南半部は地山ローム層、北半部は谷部堆積土を掘り込んでいた。そのため、北半部は黄褐色ローム粒を敷き詰めて貼床としていた（⑨層）。SI21廃絶後は、まず柱穴などのピットが埋まり（⑦・⑧層）、さらに⑥・⑤・④・③層の順に埋土が堆積する。②・①層は南谷部の包含層である。

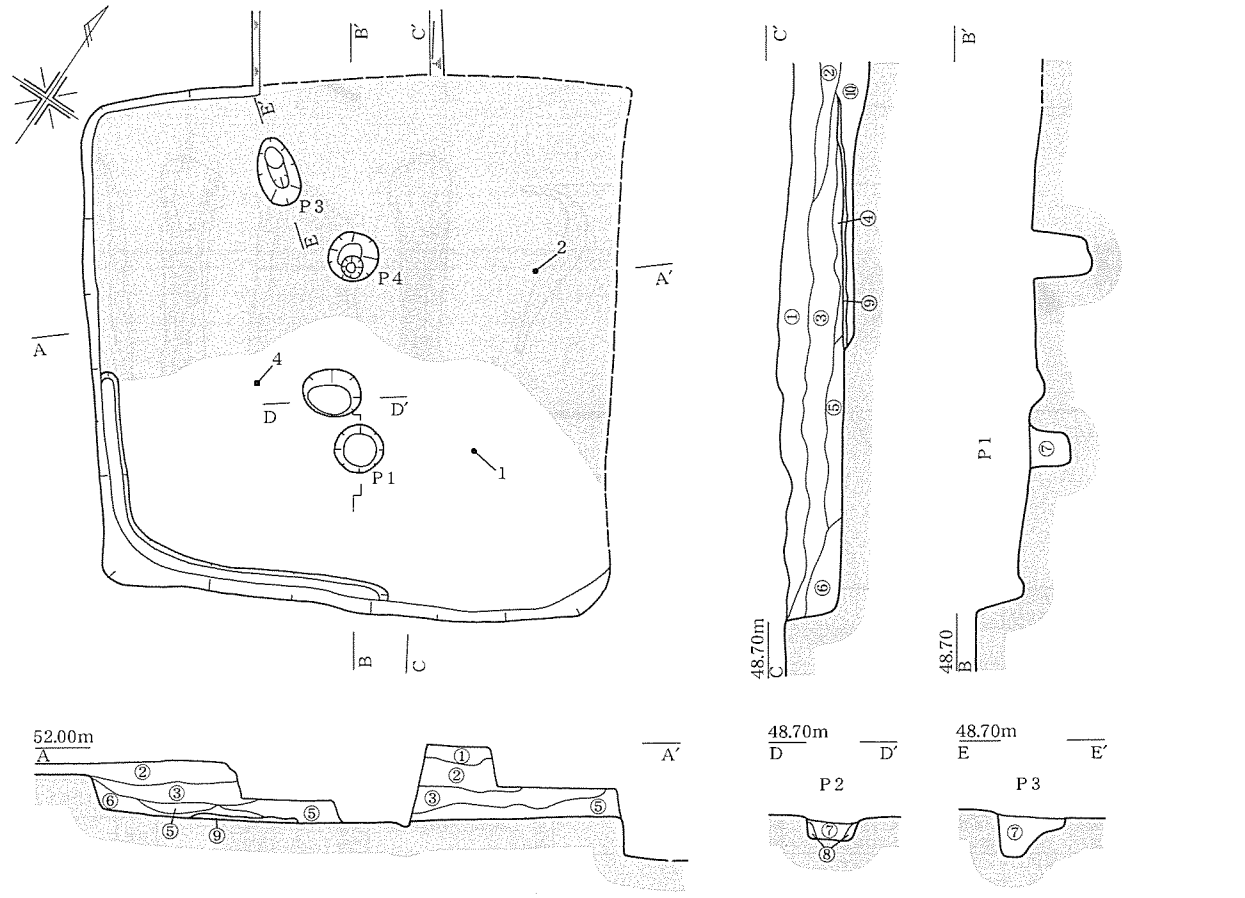
遺物は少ないものの、土師器・須恵器・磨石・台石が出土した。このうち、住居でも東側の床面直上からは、完形の土師器椀（２）が口縁部を下に伏せた状態で出土した。また、台石と磨石（４）が各１点、床面直上から出土した。台石の付近では須恵器の胴部片も出土した（１）。住居の北東隅でも、小片となった土師器や須恵器が出土したが、SI21埋土よりも上の谷部包含層からの出土である。

表43　SI21出土土器観察表

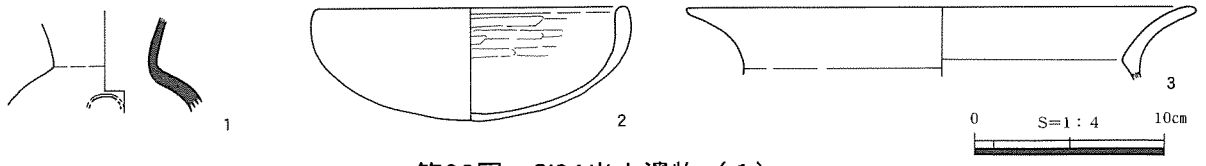
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI21 埋土	須恵器 甕	最大径10.2 △5.0	頸部1/6	外面：回転ナデ、胴部中位に穿孔 内面：回転ナデ	密　1.5mmの白色砂粒・石英	外面：暗灰色 内面：灰色	良好	
2	SI21 床直	土師器 椀	17.0 6.0	1/1	外面：摩滅 内面：口縁部ミガキ	密　2.0mm以下の灰色砂粒・白色砂粒・雲母	外面：浅黄色 内面：浅黄橙色	良好	
3	SI21 埋土	土師器 甕	※27.0 △3.0	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5mmの輝石・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	

表44　SI21出土石器観察表

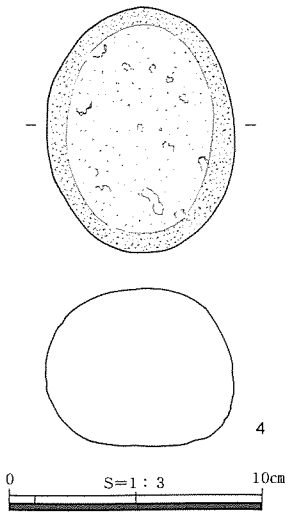
遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
4	SI21	埋土	磨石	石英安山岩(デイサイト)	9.7	7.4	6.2	580.0	



第59図　SI21



第60図　SI21出土遺物（１）



第61図　SI21出土遺物（２）

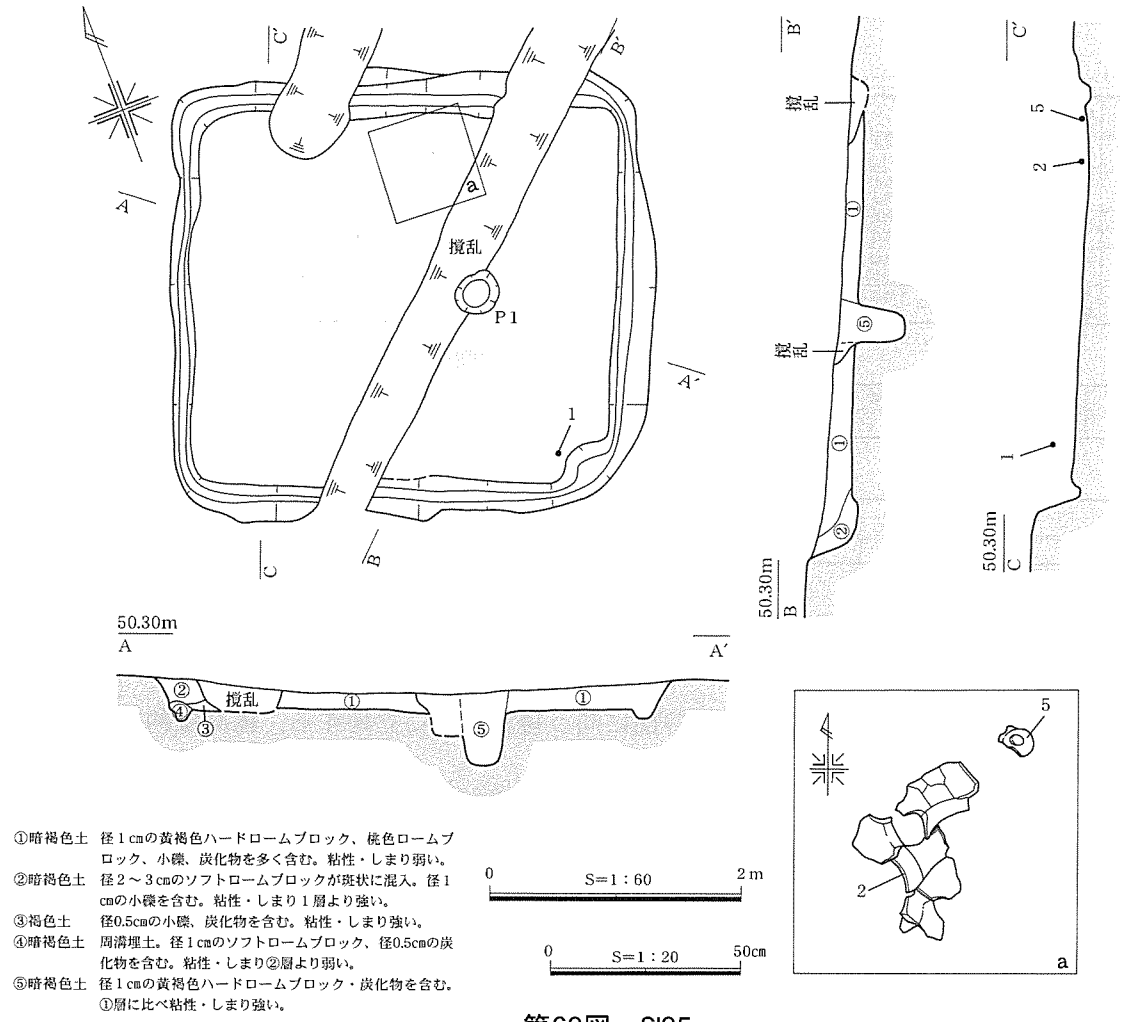
出土遺物　１は須恵器の甕で、胴部中位の装飾は認められない。２は土師器の椀で、底部は丸底となり、口縁部に近づくにつれて肥厚する。内面にはミガキを施す。３は土師器の素口縁甕である。４は石英安山岩（デイサイト）製の磨石である。遺物が示す年代は八橋Ⅶ期とみられる。（北島）

SI25（第62・63図、表45・46・47、PL.14・34・42）

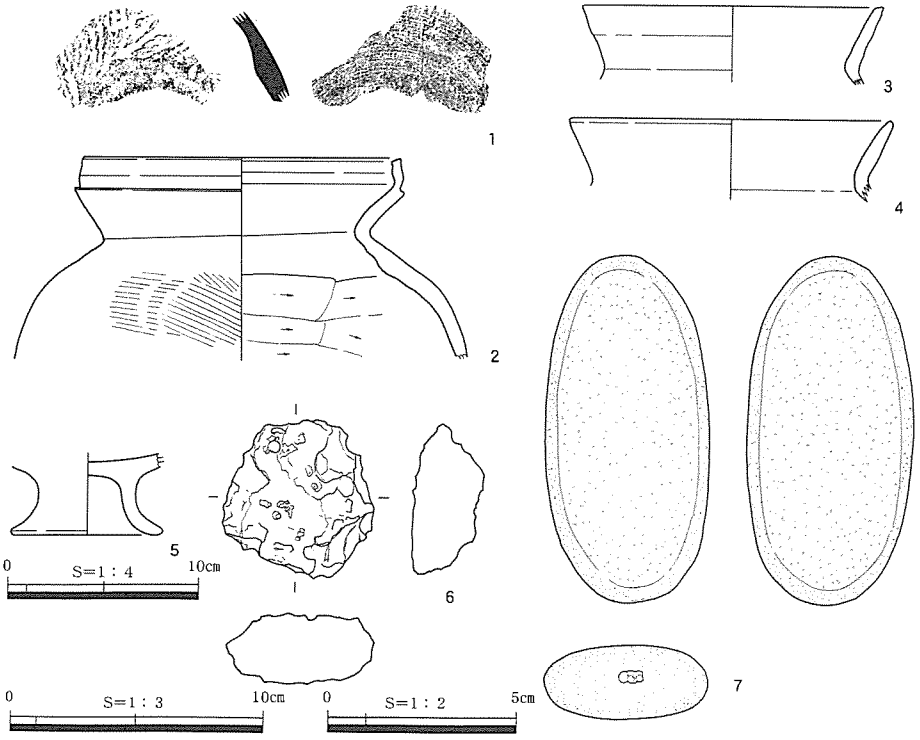
位置　E12グリッド、標高49mの丘陵北緩斜面上に位置し、主軸を北方向に向けている。本遺跡のなかでは北端に構築された規模の小さな住居である。

規模と形態　平面形態は3.5×3.8mの方形を呈し、規模は小型である。床面には2.3×1.5mの硬化面が拡がり、その中心部に径30cmの焼土面が認められる。床面上で検出されたピットはＰ１:35×35－60cmの１ヶ所のみである。壁面には断面Ｕ字状、幅15cm、深さ10cm以下の壁周溝がめぐっている。

埋土と遺物の出土状態　住居跡中心部は、暗渠排水溝が縦貫して撹乱を受けている。埋土は１cm以



第62図　SI25



第63図　SI25出土遺物

下の黄褐色ハードロームブロック、炭化物、小礫を含む暗褐色土（①層）が堆積し、北壁付近の床面直上から有段口縁甕（２）が出土している。

出土遺物　１は須恵器の瓹である。２は有段口縁甕であり、口縁部～頸部はナデ、胴部はハケメ調整である。３・４は有段部が退化した甕口縁部であり、いずれもナデ調整。５は土師器の脚付埦脚部である。６は椀形鍛治滓、７は表裏面に磨面、下端部に敲打痕を有する安山岩製の磨石・敲石である。

出土遺物の検討から、本住居跡は八橋Ⅶ期に帰属しよう。　（小口）

表45　SI25出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SI25 埋土	須恵器 横瓶？	－ △4.9	1/10以下	外面：カキメ 内面：タタキ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色	堅緻	
2	SI25 床直	土師器 甕	※16.8 △10.7	口縁部～胴部上半2/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
3	SI25 埋土	土師器 甕	※16.0 △3.9	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　2.0㎜以下の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
4	SI25 埋土	土師器 甕	※17.0 △4.0	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密　2.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
5	SI25 埋土	土師器 脚付埦	－ △4.3	脚部2/3	外面：ナデ 内面：ナデ	密　3.0㎜以下の長石、1.0㎜の輝石・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	

表46　SI25出土鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ（g）	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	磁着度	メタル度	備考
6	SI25	埋土	楕形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	32.6	4.2	4.0	1.9	2	錆化（△）	

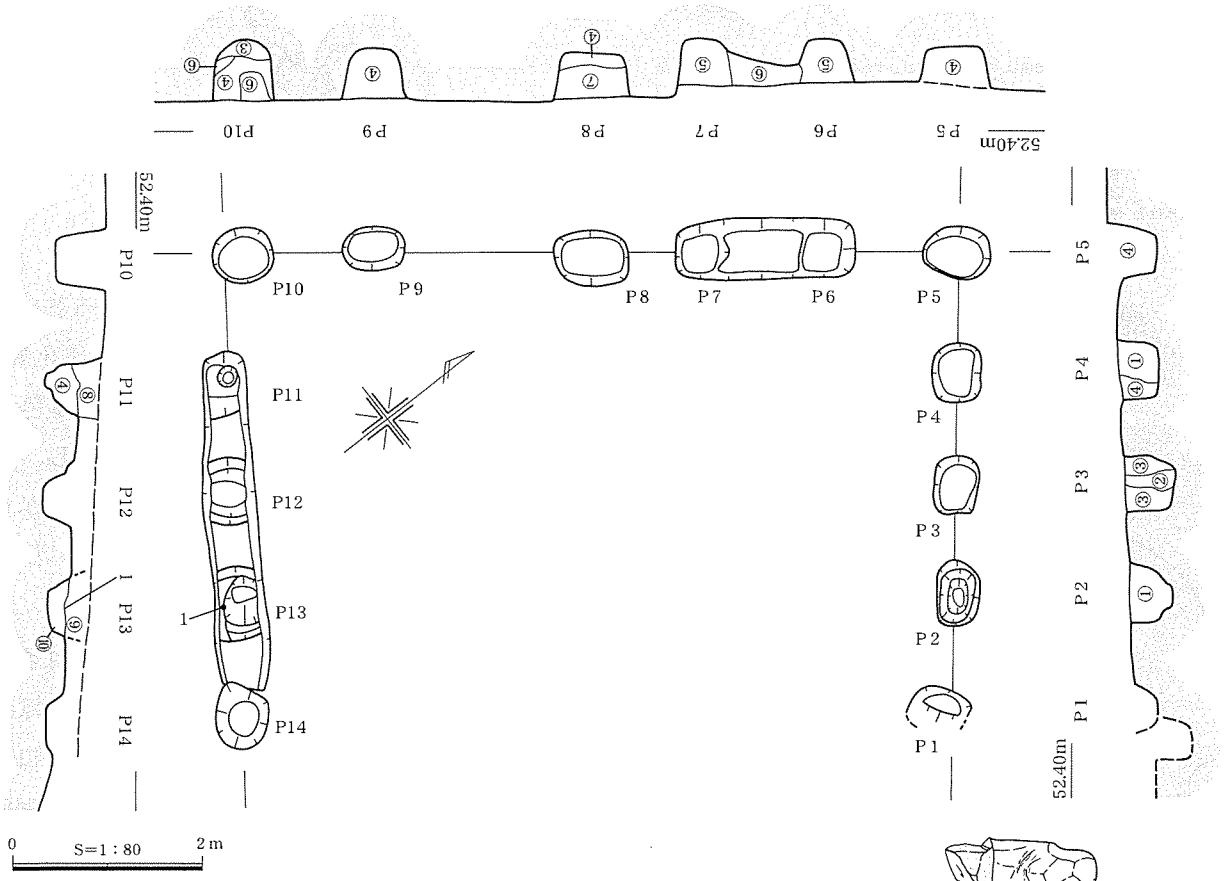
表47　SI25出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
7	SI25	埋土	磨石・敲石	安山岩	13.7	6.6	2.9	410.0	表裏面磨面

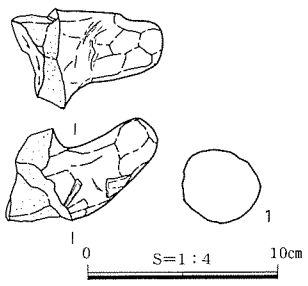
（２）掘立柱建物跡

SB１（第64・65図、表48、PL.15）

位置　丘陵南縁のJ13・14グリッド、南谷部に向う緩斜面上に立地する。標高は約52mである。



①褐色土　黄褐色，赤褐色のローム粒子少量含む。しまりあり粘性弱い。
②暗褐色土　黄褐色ロームブロックやや含む。しまりなく粘性弱い。
③赤褐色土　黄褐色，赤褐色のロームブロック多く含み、しまりあり粘性あり。
④暗褐色土　径４cm以下の黄褐色ロームブロック含む。しまり粘性あり。
⑤黄褐色土　径５cm前後の黄褐色ロームブロック含む。しまり粘性弱い。
⑥黄褐色土　径６cm程度のロームブロックを主体とする。しまり粘性あり。
⑦褐色土　径３cm以下の多量の黄褐色ロームブロック、炭化物、土器粒子を含む。しまり粘性あり。
⑧暗褐色土　径２cmの黄褐色ロームブロックと炭化物粒子含む。しまり粘性あり。
⑨暗褐色土　径４cm以下の黄褐色ロームブロックと炭化物粒子，赤褐色ローム粒子を含む。しまり粘性あり。
⑩黄褐色土　径４cm以下の多量の黄褐色ロームブロックと、炭化物粒子、赤褐色ローム粒子含む。しまり粘性あり。



第64図　SB１

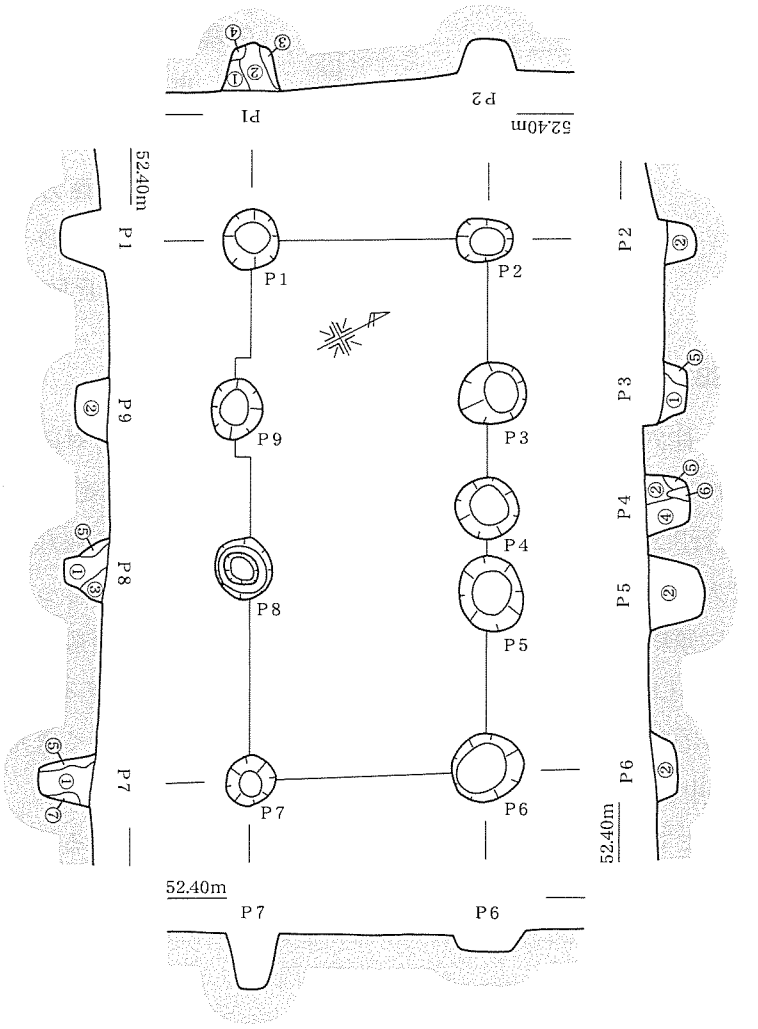
第65図　SB１出土遺物

表48　SB１出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SB1－P13 埋土	土師器 甑	－ △5.6	把手1/1	外面：ナデ、工具痕あり 内面：ヘラケズリ	密　2.0mmの白色砂粒・暗褐色粒子・雲母	外面：黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	

南方向にはSD１が東西に走り、約1.5m東にはSB６・７が並ぶ。また、北側の柱穴列はSB５とほぼ直角に交わる。

規模と形態　コの字状に並ぶ柱穴は14基あり、４間×５間で梁行4.9m、桁行7.8m、東西に長い建物である。南側の一辺は北から南に下がる地形のために削平されてしまったか、初めから作られていなかった可能性が想定される。P１からP14の間にはSD２が走り、後世に多条の溝状撹乱が入るために、建物の南側に柱穴列を確認することはできなかった。また、コの字で取り囲まれた中に、SI７・26が位置するが、これらがどのような関係にあったのかは不明である。柱穴中心間の距離は約1.2mあり、P８・９間のみ2.4mと広い。P８・９間にピットは確認されなかった。柱穴の平面形は全般的に方形に近いものが多い。P６・７間とP11～13の２ヶ所は、布堀りになっている。主軸方向はN－35°－Eである。



第66図　SB２

埋土の状況　P６・７の布堀り状ピット内は、径５～６cmの黄褐色ロームブロックを多く含み、均質的な土質であった。P３の②層は柱痕と推定される。

出土遺物　P13上層から甑の把手が出土している。混入の可能性も想定されるため、遺物から建物の時期を判断するのは難しい。(原)

SB２（第66図、PL.15・16）

位置　I・J14グリッド丘陵南側の緩斜面上に位置する。標高は52.2mである。西側をSD６・７、北側をSD７・８が建物を囲むように走る。SB５が長軸方向で並び、SB８とほぼ直角に交わる。

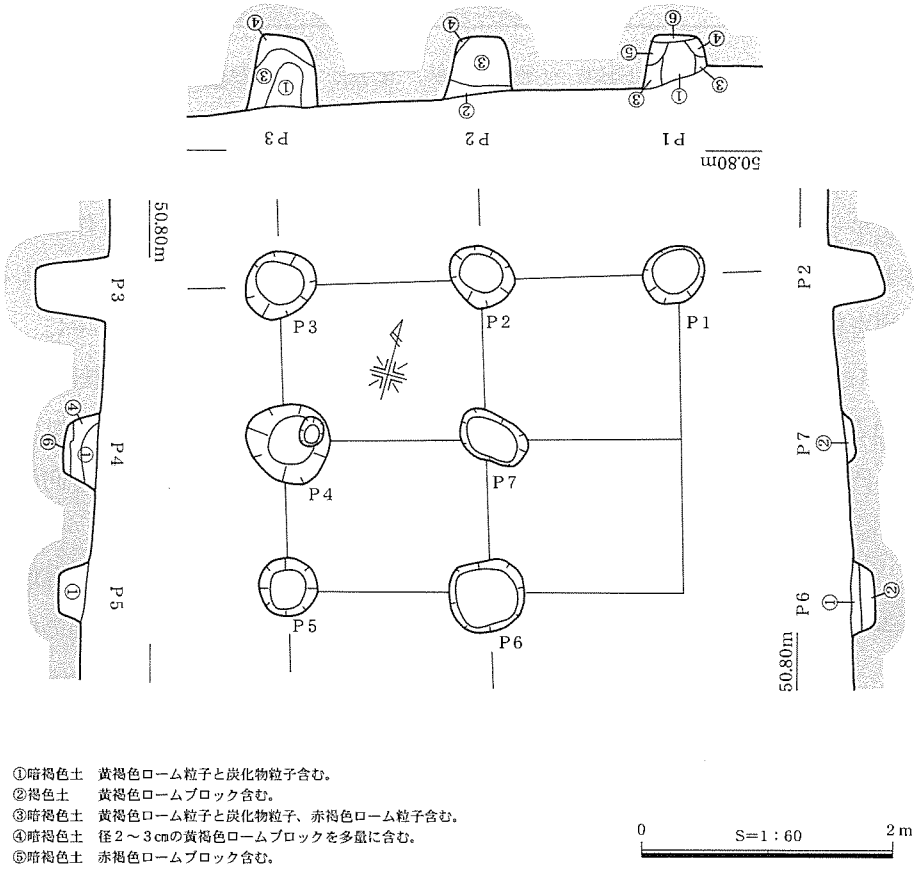
規模と形態　柱穴は９基確認された。梁行2.5m、桁行5.6mで南北に長い。１間×４間と想定されるが、P４に対応する柱穴は確認できなかった。全般的に柱穴は円形に近いものが多い。柱穴中心間の距離は長軸で約1.8m、P３・４・５の間は約1.1mになる。建物東側の柱穴数が西側より多い例はSB

４にも認められる。主軸方向はＮ－62°－Ｗとみられ、SB４と主軸をほぼ同じくする。

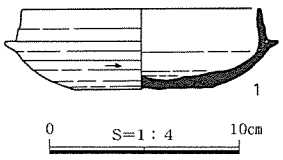
埋土と遺物の出土状況　柱穴埋土内から遺物は確認できなかった。したがって、帰属時期は不明である。(原)

SB３（第67・68図、表49、PL.16）

位置　南谷部に面するK12・13グリッドの緩斜面上に立地する。東側約３ｍにSI４・22があり、北にはSD１が東西方向に走る。また、SD１を挟んで北側丘陵上にSB１やSI７・26がみられる。



第67図　SB３



第68図　SB３出土遺物

規模と形態　柱穴は７基確認された。P１の南側にP６・７と対応する柱穴は検出されていないが、２間×２間の総柱建物の可能性が想定される。梁行2.4m、桁行3.2m、若干東西に長い平面形の建物である。各柱穴列の底面レベルに大きな差はみられないが、南側の柱穴列の方が浅くなっている。これは南に傾斜する地形に基づくものと思われる。柱穴は全般的に円形に近いものが多い。柱穴中心間の距離は約1.4mと推定される。主軸はＮ－75°－Ｅ方向である。

埋土と遺物の出土状況　P1・3における①層は黄褐色ロームブロックとともに炭化物を多く含んでいることから柱痕と想定される。P２埋土中より1点須恵器坏身が出土している。

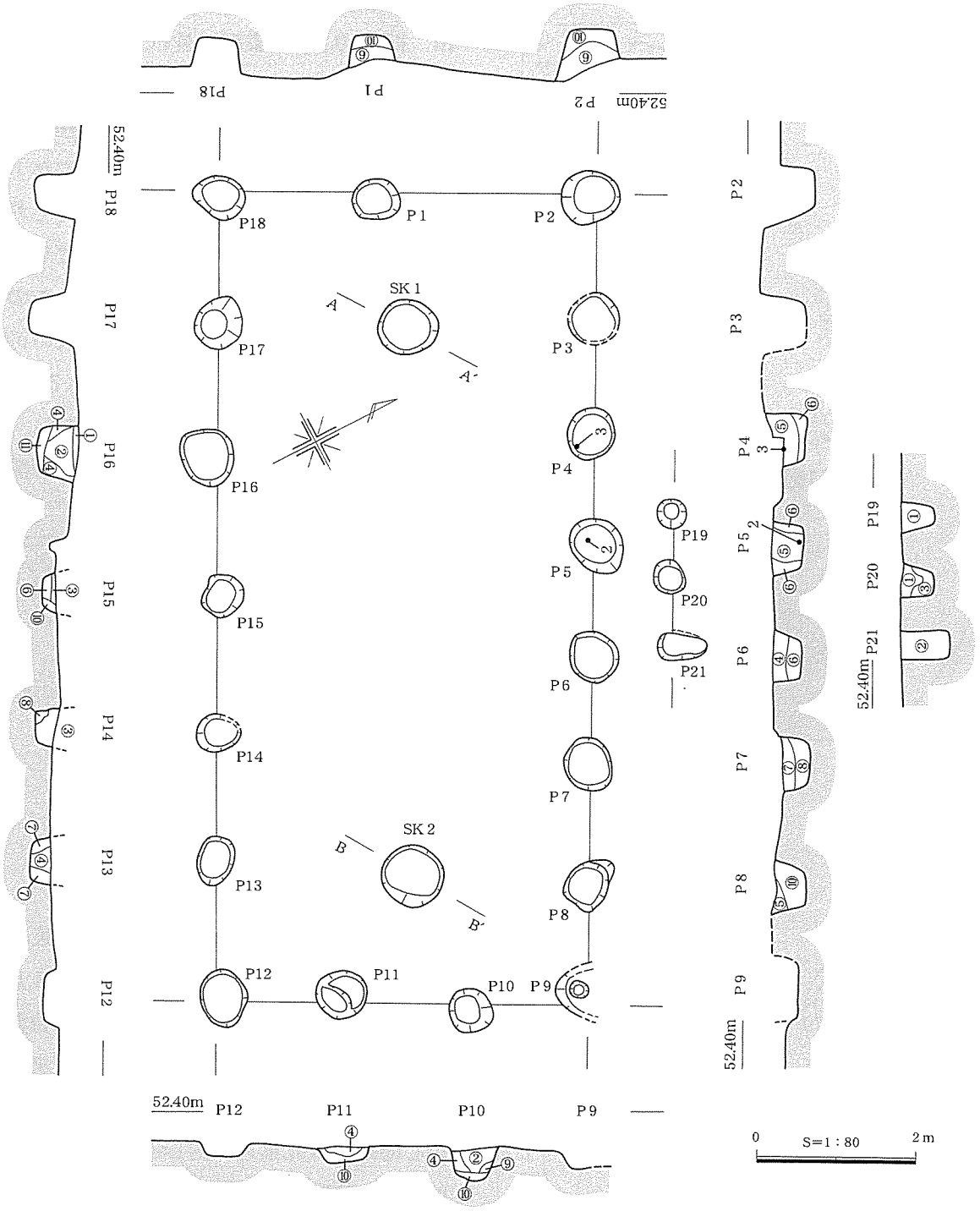
出土土器　１の須恵器坏身は底部約3/4までケズリが入り、受け部が水平に張り出している。時期は６世紀中～後半のものと推定される。混入の可能性もあり、建物の時期を決定付けることは難しい。(原)

表49　SB３出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SB3－P2 埋土	須恵器 坏身	△12.7 4.3	1/3	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　暗赤褐色粒子・白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	

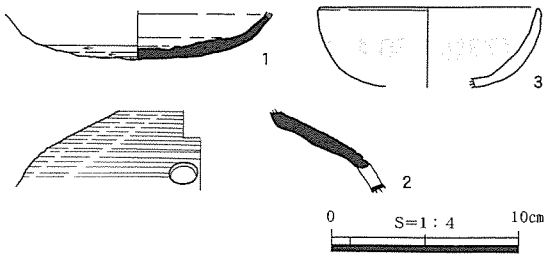
SB4（第69・70・71・72・73・74図、表50・51・52、PL.17）

位置　I13・14グリッド、丘陵中心部の平坦面に立地し標高52.2mを測る。南にSB１、西にはSB２・５が隣接する。また、SI13・17と重複しているが、切り合い関係から本遺構が最も新しい。

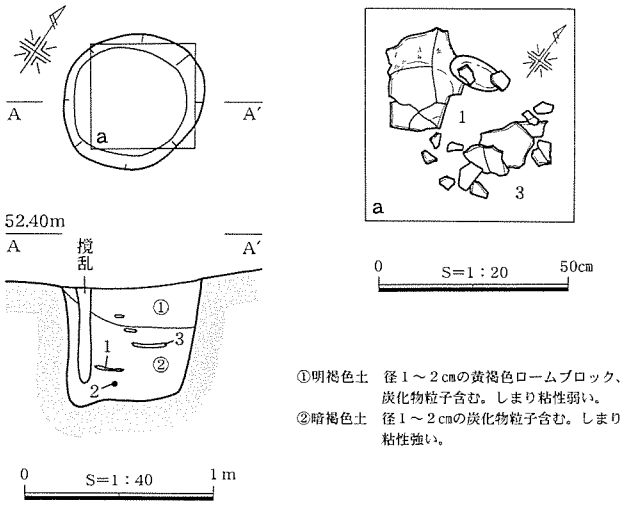


①暗褐色土　混入物なし。しまり粘性あり。
②明褐色土　径３cmのロームブロックを含む。しまり粘性なし。
③黒褐色土　１cmの黄褐色ロームブロックと径２mmの赤褐色ローム粒子含む。しまり弱く粘性あり。
④暗褐色土　黄褐色ローム粒子多く含む。しまり弱い。
⑤暗褐色土　径２cmのロームブロック、炭化物粒子含む。
⑥暗褐色土　径３cmのロームブロック多く含む。しまり粘性強い。
⑦暗褐色土　黄褐色ローム粒子含む。しまり粘性強い。
⑧暗褐色土　径２cmのロームブロック含む。しまり粘性強い
⑨褐色土　混入物は含まない。しまり粘性あり。
⑩灰黄褐色土　径１～５cmのロームブロック多量に含む。しまり粘性あり。
⑪黄褐色土　ロームブロックを主体とする。しまりなし粘性あり。

第69図　SB４

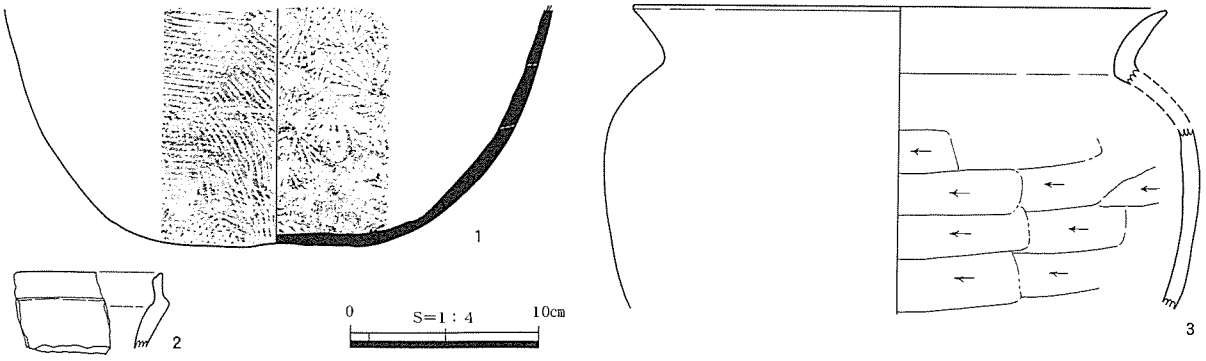


第70図　SB４出土遺物

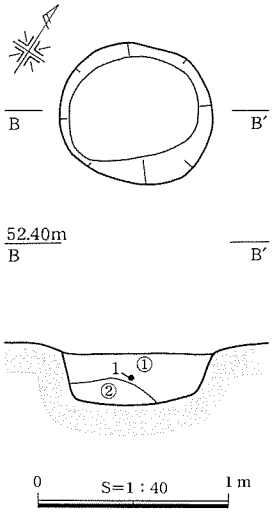


第71図　SB４-SK１

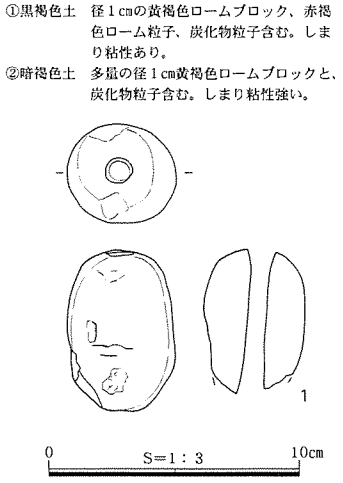
規模と形態　柱穴は18基確認された。梁行4.3m、桁行10.2mの東西に長い、本遺跡において最大級の掘立柱建物である。間数は３間×７間と想定されるが、東側よりも西側の柱穴が１ヶ所少ない。また南側よりも北側の柱穴が１ヶ所少なく、この周辺は後世の撹乱が入っており失われた可能性も想定される。北東辺に平行してP19・20・21の柱穴３基を検出した。このような柱穴列は、庇もしくは縁側状の施設の可能性が想定されよう。SK１の規模は76×74－60cmであり、他の柱穴に比べやや大型である。また、埋土中位からは須恵器の大甕底部や土師器の甕



第72図　SB４-SK１出土遺物



第73図　SB４-SK２



第74図
SB４-SK２出土遺物

が折り重なるように出土している。SK２は76×84－28cmで、埋土中から管状土玉が１点検出された。両者は、長軸の中心ラインに位置していること、下底面の標高がほぼ同じであることなどから、SB４に伴うものとして捉えた。柱穴中心間距離は北東辺で約1.4m、南西辺で約1.6m、柱穴の形態は全般的に円形に近いものが多い。主軸方向はN－65°－Wであり、SB２と主軸をほぼ同じくする。

出土遺物　P５から出土した１は須恵器坏身で底部の約1/3までケズリが入っている。１・

表50　SB４出土土器観察表

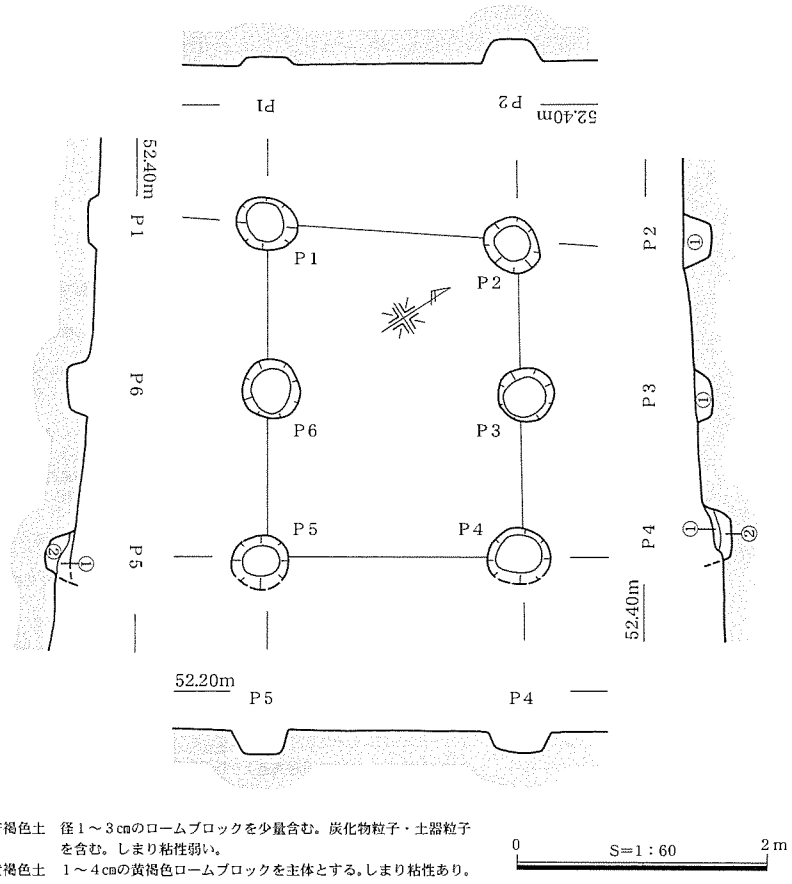
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SB4－5 埋土	須恵器 坏身	－ 2.6	底部1/4	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、同心円文	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	SB4－5 埋土	須恵器 甕	最大径17.6 △4.2	胴部上半 1/8	外面：カキメ、胴部中位に穿孔 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒色粒子	外面：灰色 内面：にぶい赤色	堅緻	胎土分析No.40 断面が紫紅色を呈す
3	SB4－4 埋土	土師器 坏	※10.4 △3.9	口縁部1/6	外面：ヨコナデ後、全面赤色塗彩 内面：ナデ後、全面赤色塗彩	密　1.0mmの白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	

表51　SB４-SK１出土土器観察表

遺物No.	遺構層位	器種	口径(cm)器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SB4－SK1	須恵器甕	－ 12.6	底部1/4	外面：タタキ 内面：放射状当具痕	密　0.5mmの白色砂粒	外面：褐灰色～灰色 内面：にぶい褐色	堅緻	
2	SB4－SK1	土師器甕	－ 4	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
3	SB4－SK1	土師器甕	※28.3 △16.1	口縁部～胴部上半1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部摩滅のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　5.0mm以下の白色砂粒	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	

表52　SB４-SK２出土有孔土玉観察表

遺物No.	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SB4－SK2	埋土	管状	6.4	4.2	0.7	90.0	ナデ	1mmの白色砂礫・石英を含む	淡黄色	良好	一部欠損



第75図　SB５

２は瑳の肩部であり、注口穿孔部とカキメがみられる。第72図１は、須恵器の大甕底部である。内面の車輪状当て具痕は県西部の西伯郡会見町に所在する高姫窯跡群・両部太郎窯跡と類似している。高姫窯跡群は６世紀後半から７世紀初頭・９世紀代に、両部太郎窯では９世紀後半頃に生産が行われていたとみられている。また痕跡的に有段口縁を作り出す口縁部破片の２と、段を有さない大型の広口甕３が１とともに共伴している。SK２からは長さ8.5cmの大型管状土錘が出土した（第74図）。

SB４の構築時期は、ピット内出土遺物とSI13・17の重複関係から八橋Ⅶ期以降と考えられよう。　（小口・原）

SB５（第75図、PL.16）

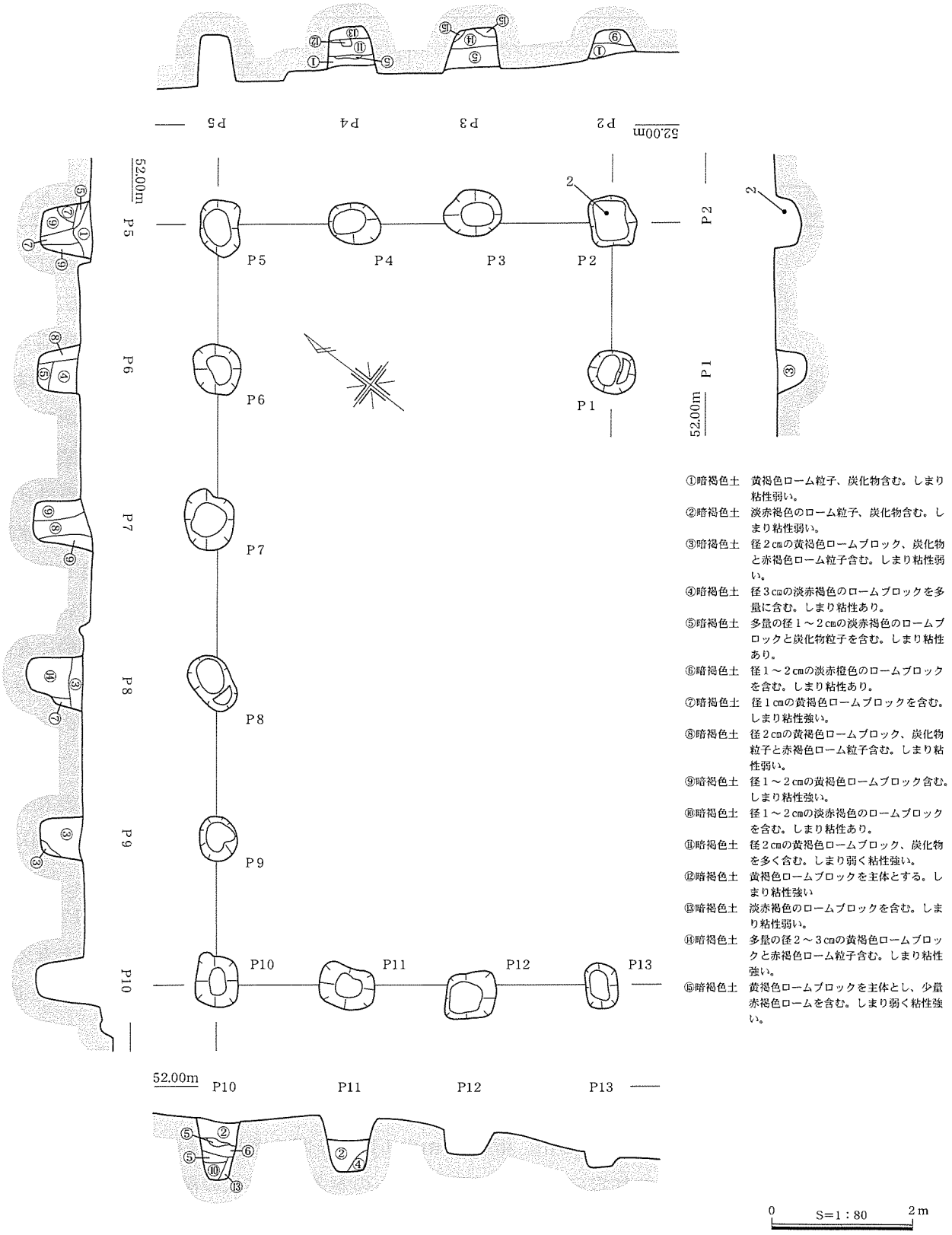
位置　丘陵南側のJ13･14グリッド、標高52.1mの緩斜面に立地する。北にSB２が位置しSB１の北辺とほぼ直角に交わる。西にはSD６・７が併走する。

規模と形態　柱穴は６基あり、梁行２m、桁行2.6mの１間×２間の南北に長い建物である。柱穴の中心間距離は長軸で約1.3m、柱穴の形態は円形に近いものが多い。柱穴の深さは約20cmと浅く、建物の規模も周囲のものと比べて小さい。主軸方向はN―55°―Wであり、SB１とほぼ同じである。

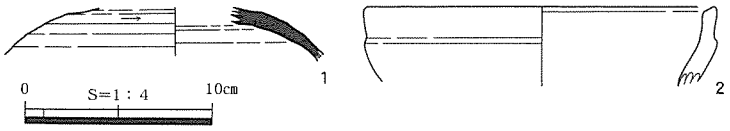
埋土と遺物の出土状況　柱穴の埋土や柱穴付近から遺物は出土しなかった。したがって、構築時期は不明である。　（原）

SB６（第76・77図、表53、PL.18）

位置　丘陵南東部I12・13～J12・13グリッド、南谷部に面する標高51.5mの緩斜面に立地する。SI５・９・23・24と重複し、切り合い関係からSI24→SI23→SI9→SB6となる。また、SB７が入



第76図　SB６



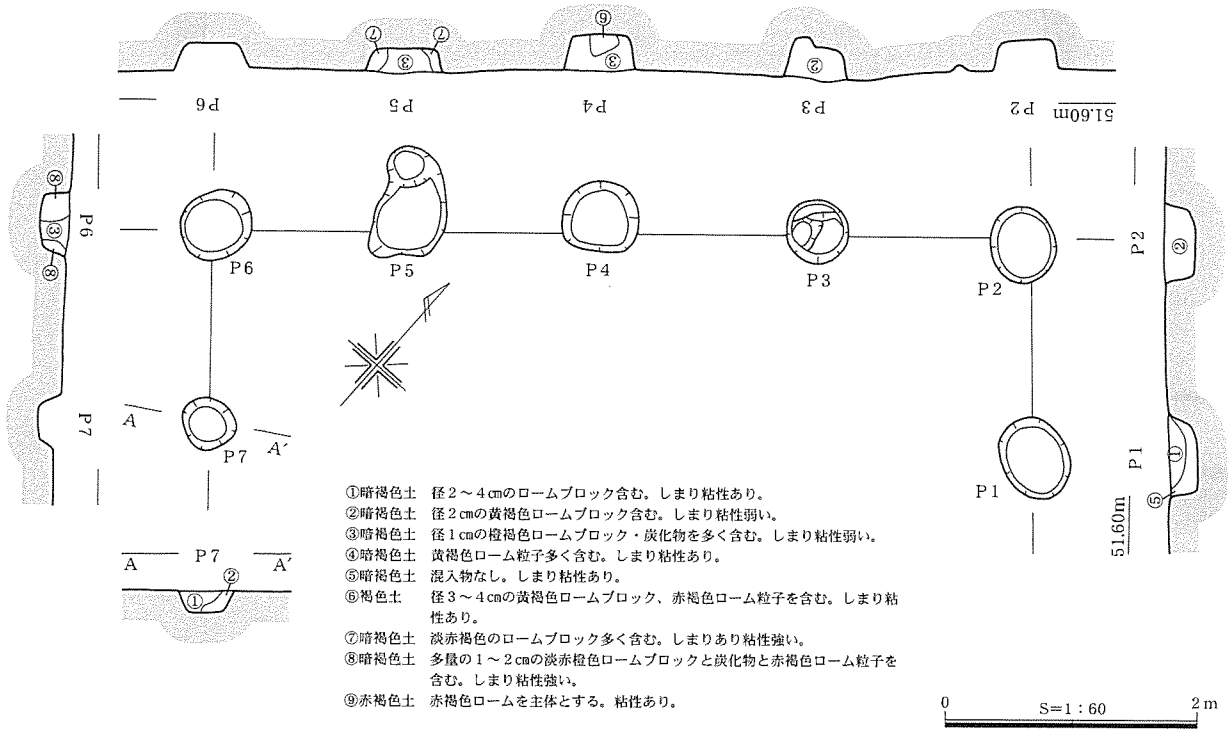
第77図　SB６出土遺物

れ子状にSB６と主軸をほぼ同じにして構築されている。

規模と形態　柱穴の数は13基確認された。梁行5.4m、桁行8.3mの東西

表53　SB６出土土器観察表

遺物No.	遺構層位	器種	口径(cm)器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SB6－P2	須恵器坏蓋	※11.6 △2.4	天井部1/4	外面：天井部ヘラケズリ、口縁ヨコナデ 内面：ナデ	密	外面： 内面：		
2	SB6－P2 埋土	土師器甕	18.7 3.8	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.5㎜の灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	



第78図　SB７

に長い掘立柱建物である。間数は３間×５間と想定されるが、SB１と同様に南側の柱穴が明らかではない。これは、丘陵の南谷部に面する傾斜変換点が後世の削平・撹乱を受けていることに起因するものと思われる。柱穴中心間の距離は約２m、柱穴の形態は全般的に方形に近いものが多い。SB６とSB７とは入れ子状に重なっており、２棟が１つの建物になるか、それぞれが独立した建物であるかの２つの可能性が想定できよう。主軸方向はN－53°－Eであり、SB７と主軸をほぼ同じくする。

出土遺物　１はP１出土の須恵器坏蓋である。天井部の約1/3程度にヘラケズリを施す。２はP２出土の有段口縁甕である。口縁部はヘラ状工具を用いて痕跡的に有段口縁を造り出している。

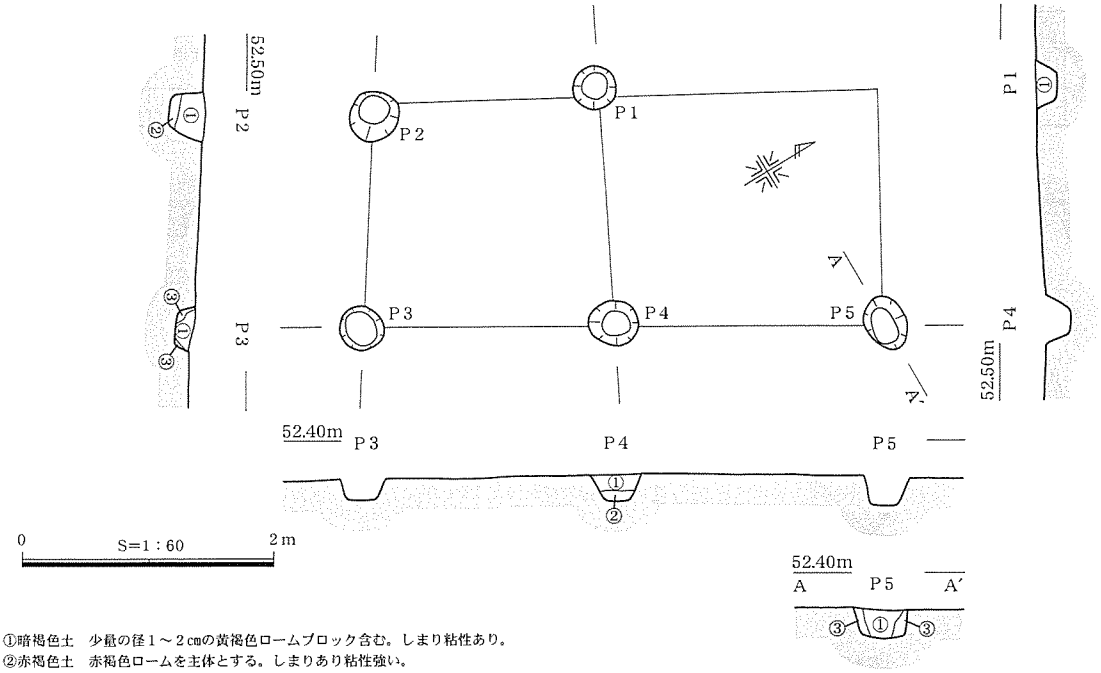
構築時期はSI９を壊していることから、７世紀後半よりも後に築かれたものと推測される。　(原)

SB７（第78図、PL.18）

位置　丘陵南東部のI12・13～J12・13グリッド、標高約51.5mの緩斜面上に立地する。SI５・９・23・24を壊して築かれており、SB６に囲繞され、ほぼ主軸を同じくする。

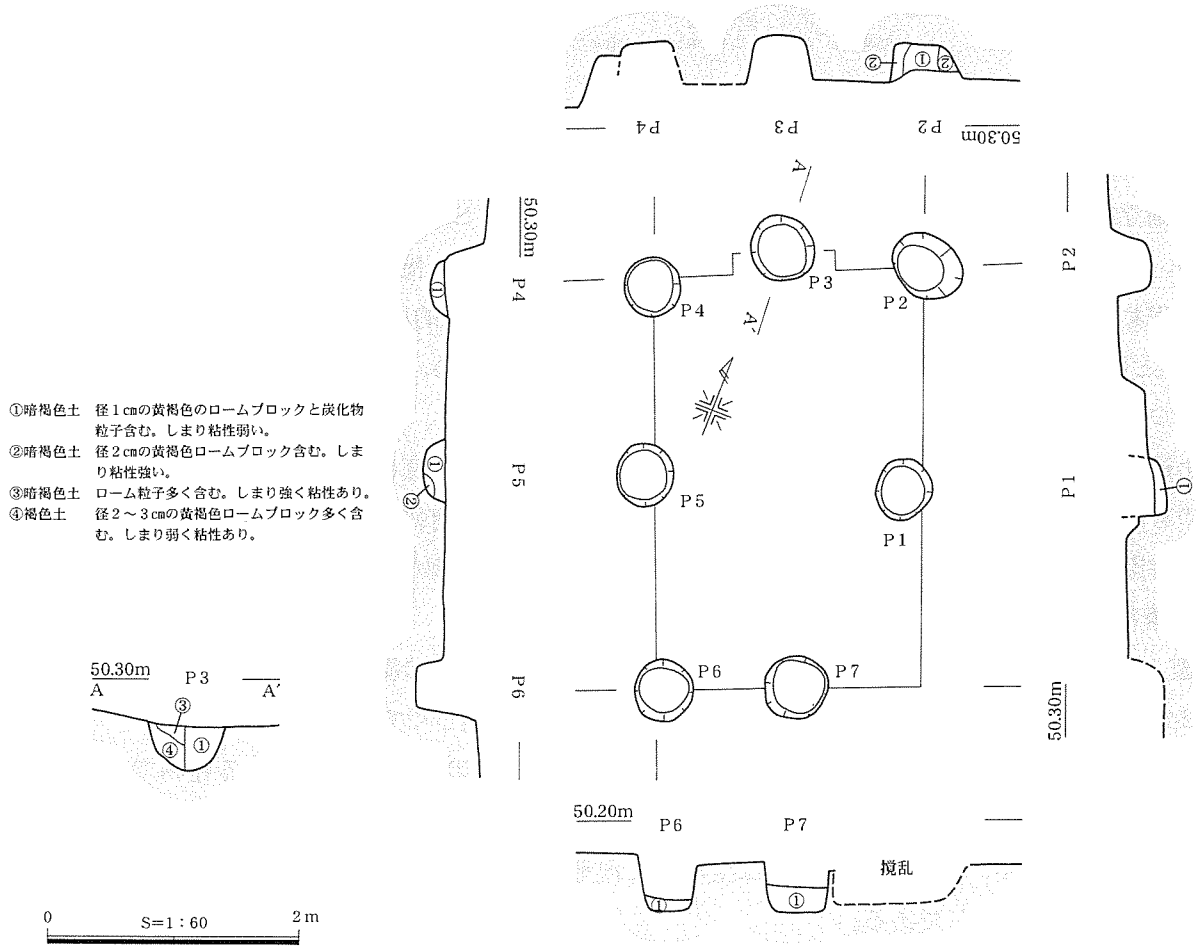
規模と形態　柱穴は７基確認された。梁行1.6m、桁行6.4mの東西を主軸とする建物である。SB７と同様に南側の柱穴列が明らかではないため断定できないが、検出状況は１間×４間である。柱穴中心間の距離は1.7m、柱穴の平面形態は全般的に円形に近いものが多い。主軸方向はN－50°－Eであり、SB７とほぼ同じである。

出土遺物　遺物は出土していない。したがって、構築時期は不明である。　(原)



①暗褐色土　少量の径１～２cmの黄褐色ロームブロック含む。しまり粘性あり。
②赤褐色土　赤褐色ロームを主体とする。しまりあり粘性強い。
③褐色土　　径２～３cmのロームブロック多量に含む。しまり粘性あり。

第79図　SB８



①暗褐色土　径１cmの黄褐色のロームブロックと炭化物粒子含む。しまり粘性弱い。
②暗褐色土　径２cmの黄褐色ロームブロック含む。しまり粘性強い。
③暗褐色土　ローム粒子多く含む。しまり強く粘性あり。
④褐色土　　径２～３cmの黄褐色ロームブロック多く含む。しまり弱く粘性あり。

第80図　SB９

SB８（第79図、PL.16）

位置　J14グリッド、丘陵南端の平坦面に位置する。標高は約52.2mである。本遺構の西側にはSD６・７、北側にSD７・８が認められる。SB２とほぼ直交し、SB１とほぼ主軸を同じくしている。

規模と形態　柱穴は５基確認された。梁行1.8m、桁行4.1mで南北に長い。１間×２間と想定されるが、P５に対応する柱穴は確認できなかった。全般的に柱穴は円形に近いものが多い。柱穴中心間の距離は約２m、主軸方向はN－30°－Eである。

埋土と遺物の出土状況　柱穴埋土内や柱穴付近に遺物は確認されず、構築時期は不明である。　（原）

SB９（第80図）

位置　舌状に延びる丘陵東端部にあたるH８グリッド、標高50mに位置する。北東方向にSD５が派生し、東にはSD16が伸びている。また、この建物はSI12と重複し、柱穴が住居を掘り込んでいる状況が確認できることからSI12→SB９となる。

規模と形態　柱穴は７基確認された。梁行2.1m、桁行3.5mの南北に長い建物とみられる。２間×２間と想定されるが、P７東隣は梨の木撹乱によって柱穴は確認されなかった。柱穴中心間の距離は長軸で約1.6m、短軸で約１m、柱穴の形態は全般的に円形に近いものが多い。主軸方向はN－23°－Wである。

出土遺物　時期特定には至る遺物は出土しなかった。　（小口・原）

（３）柵列・ピット列

柵列１（第81・82図）

南谷部に面する緩斜面上のJ・K12グリッドに位置する。SI４・22の南側を削り、他の掘立柱建物より直径の大きなピットが、等高線に沿って直線的に並んでいることから柵列と判断した。列の長さ約９m、柱穴は不安定な円形か方形状で、直径は約0.8m、深さ約0.8～0.3m、柱穴中心間の距離は約2.1mを測る。遺物は小片で図化し得なかったが、P５より高台坏が出土した。SI４・22から移動した可能性も高い。主軸はN－54°－Eである。柵列１はSI４・22の廃絶後に作られたと推定される。また、P１の北東方向にP６が検出された。P１～５に比べて直径は約0.6mと小型である。P６上層の埋土⑦層（暗褐色土）の除去後に、長径30cmの円礫と板状石、自然礫がまとまって確認された。その下に充填された⑧層は黄褐色ロームブロックを多く含み、粘性・しまりが強く、これらの石は礎石の可能性も想定されよう。調査区内ではP６以外に礫がまとまって確認された例はない。　（原）

ピット群１（第83図）

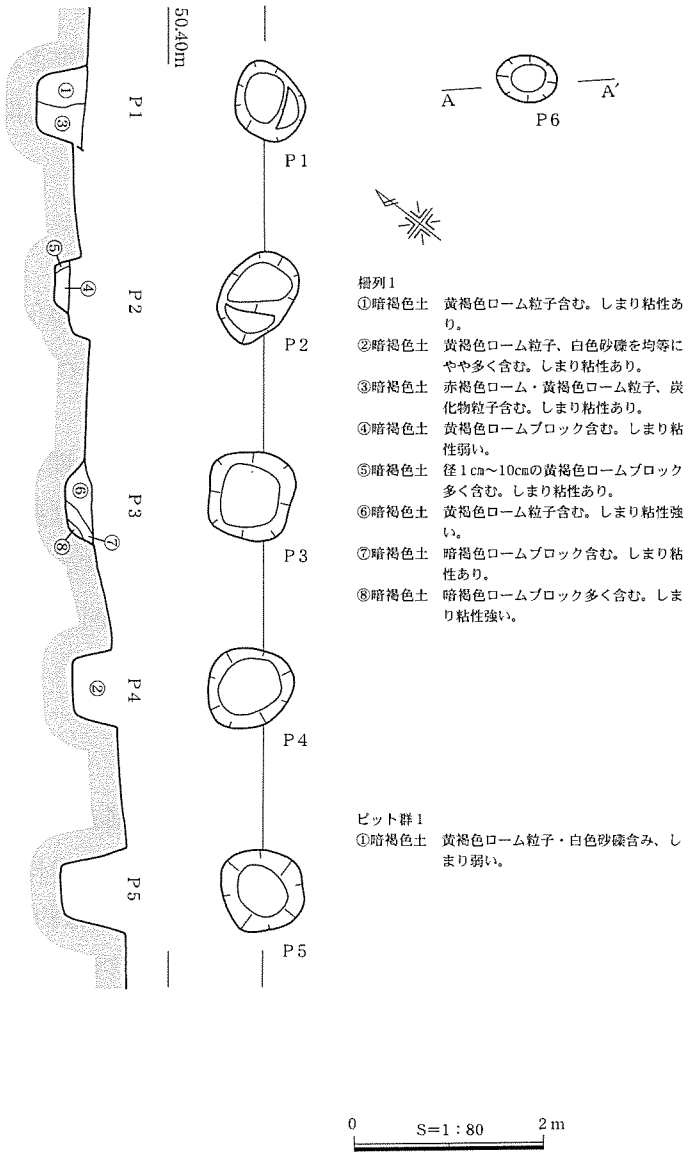
J12グリッドに位置する。0.5m北側に柵列1がある。柱穴は小型で浅く、同じ埋土を確認したため群とした。主軸方向はN－60°－Eである。柵列２・３とピット群１から出土遺物はなく、時期・性格や柵列1な周辺の遺構との関係については不明である。柵列1と関連するならば、SI４・22の廃絶後に作られた可能性も想定されよう。　（原）

柵列２（第84図）

柵列１の６m北東のJ11グリッドに位置する。等高線に沿って直線的に柱穴が並び、主軸方向が柵列１と類似する。列の長さ約4.5m、柱穴は不整円形で、直径は約0.7m、深さ約0.6m、柱穴中心間の距離は約1.8mを測る。主軸方向はN－55°－Eである。　（原）

柵列３（第85図）

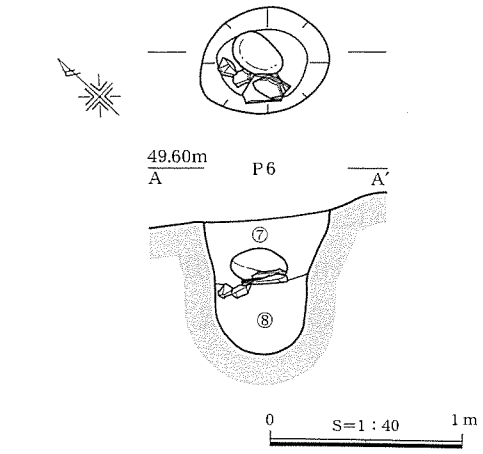
J・K12グリッドに位置し、0.5m北側の柵列１と併走する。柱穴は不安定な方形状で、列の長さ約4.8m、



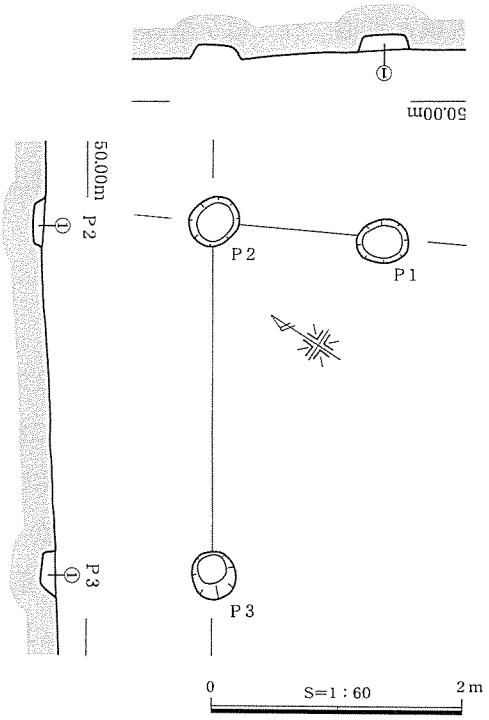
柵列１
①暗褐色土　黄褐色ローム粒子含む。しまり粘性あり。
②暗褐色土　黄褐色ローム粒子、白色砂礫を均等にやや多く含む。しまり粘性あり。
③暗褐色土　赤褐色ローム・黄褐色ローム粒子、炭化物粒子含む。しまり粘性あり。
④暗褐色土　黄褐色ロームブロック含む。しまり粘性弱い。
⑤暗褐色土　径１cm～10cmの黄褐色ロームブロック多く含む。しまり粘性あり。
⑥暗褐色土　黄褐色ローム粒子含む。しまり粘性強い。
⑦暗褐色土　暗褐色ロームブロック含む。しまり粘性あり。
⑧暗褐色土　暗褐色ロームブロック多く含む。しまり粘性強い。

ピット群１
①暗褐色土　黄褐色ローム粒子・白色砂礫含み、しまり弱い。

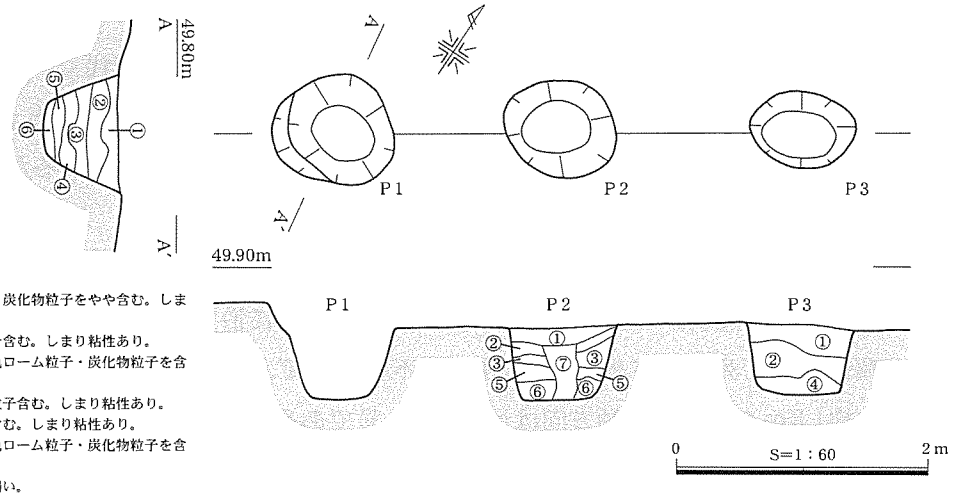
第81図　柵列１



第82図　柵列１ピット６

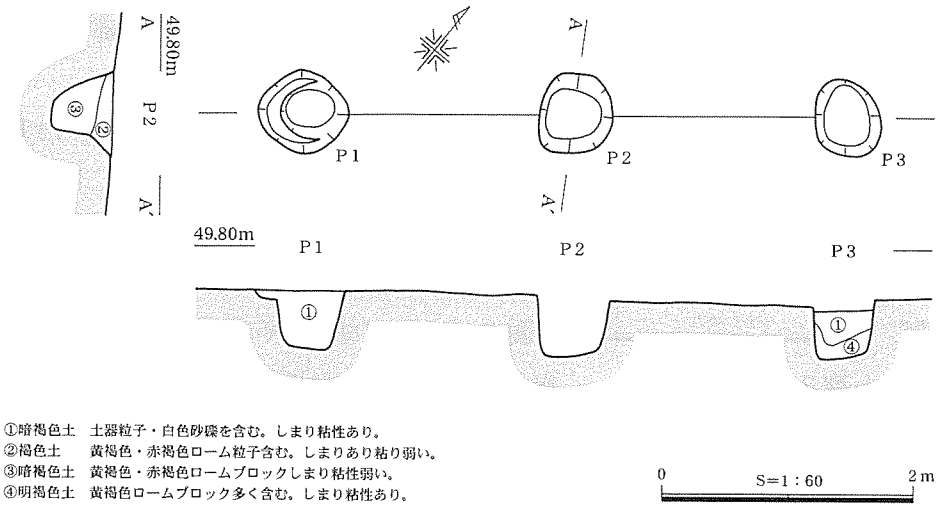


第83図　ピット群１



①黄褐色土　黄褐色・橙色ロームブロック、炭化物粒子をやや含む。しまり粘性あり。
②暗褐色土　赤褐色ローム粒子、炭化物粒子含む。しまり粘性あり。
③黄褐色土　赤褐色ロームブロック、黄褐色ローム粒子・炭化物粒子を含む。しまり粘性あり。
④褐色土　黄褐色・橙褐色粒子、炭化物粒子含む。しまり粘性あり。
⑤黄褐色土　黄褐色土粒子・炭化物粒子を含む。しまり粘性あり。
⑥橙褐色土　赤褐色ロームブロック、黄褐色ローム粒子・炭化物粒子を含む。しまり粘性あり。
⑦暗褐色土　混入物を含まず、しまり粘性弱い。

第84図　柵列２

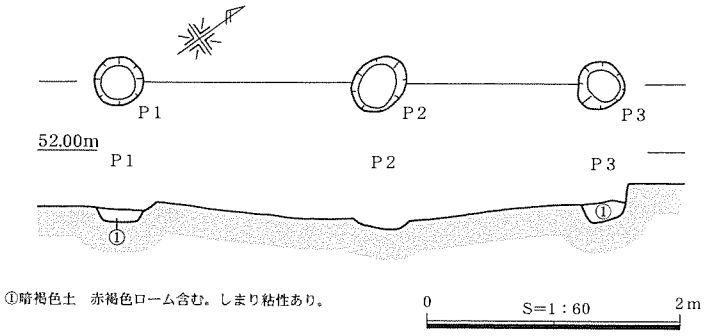


第85図　柵列３

直径は約0.5m、深さ約0.5m柱穴中心間は約2.1mを測る。主軸方向はN－51°－Eである。（原）

ピット列１（第86図）

調査区中央部西縁I・J14グリッドの、SB２北西0.3mのところに位置する。直径は約0.3m、深さ約0.1mと小型である。上部は削平を受けたと推定される。（原）



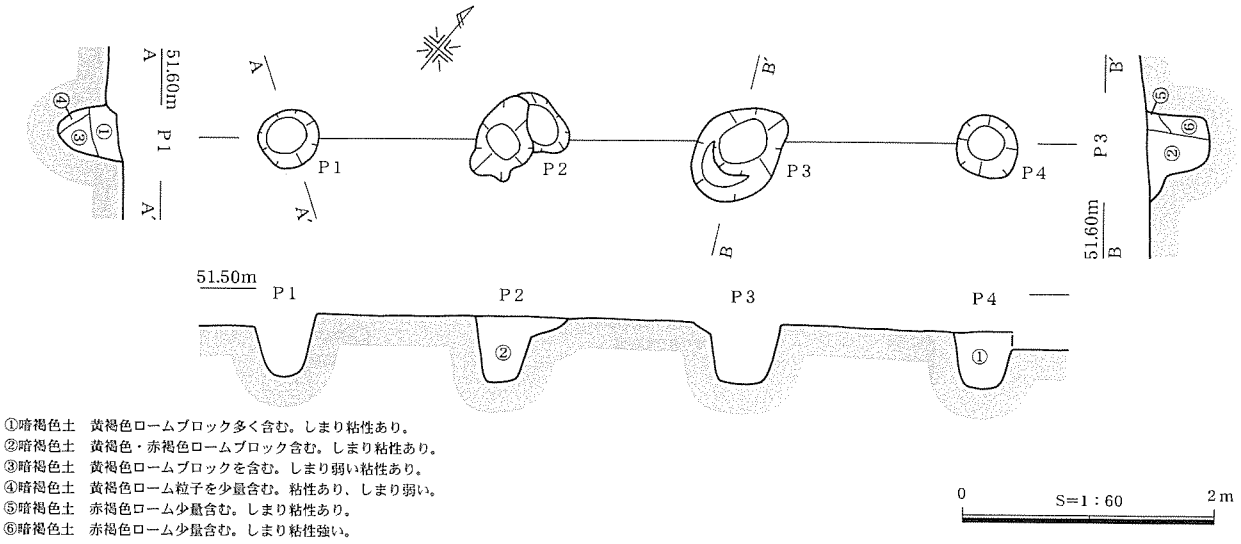
第86図　ピット列１

ピット列２（第87図）

調査区中央部I12グリッドに位置し、SB６北東辺と交わる。柱穴の平面形は円形状で、直径は約0.5m、深さ約0.4mを測る。P２は抜き取り後に埋土が堆積したとみられる。（原）

ピット列３（第88図）

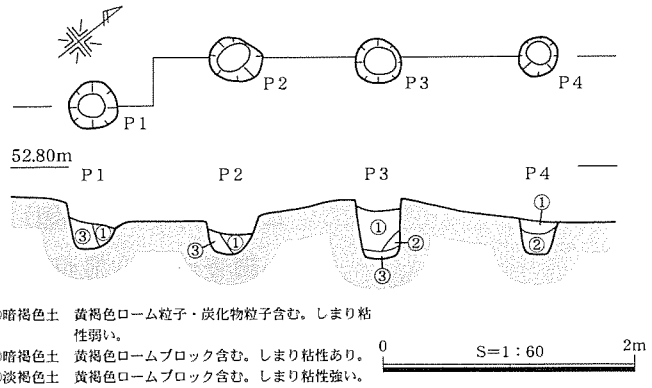
調査区西縁にあるK13グリッドの緩斜面上に位置し、SI６の北壁を削る。P１が若干南にあるが、P１～４は①層が同様に堆積し、下底面の高さがほぼ同じため、ピット列とした。ピット列１～３は出土遺物がなく、時期・性格は不明である。（原）



第87図　ピット列２

ピット列４（第89図、PL.19）

調査区のほぼ中央部分にあたるH・L11グリッドに位置する。建物跡が集まる丘陵上に向かい東西に伸びる。列の長さは約９m、小型で浅い穴が連続して直線的に並ぶ。埋土はすべて①層（暗褐色土）が堆積していた。出土遺物がなく時期は不明である。主軸方向はN－58°－Eである。（原）

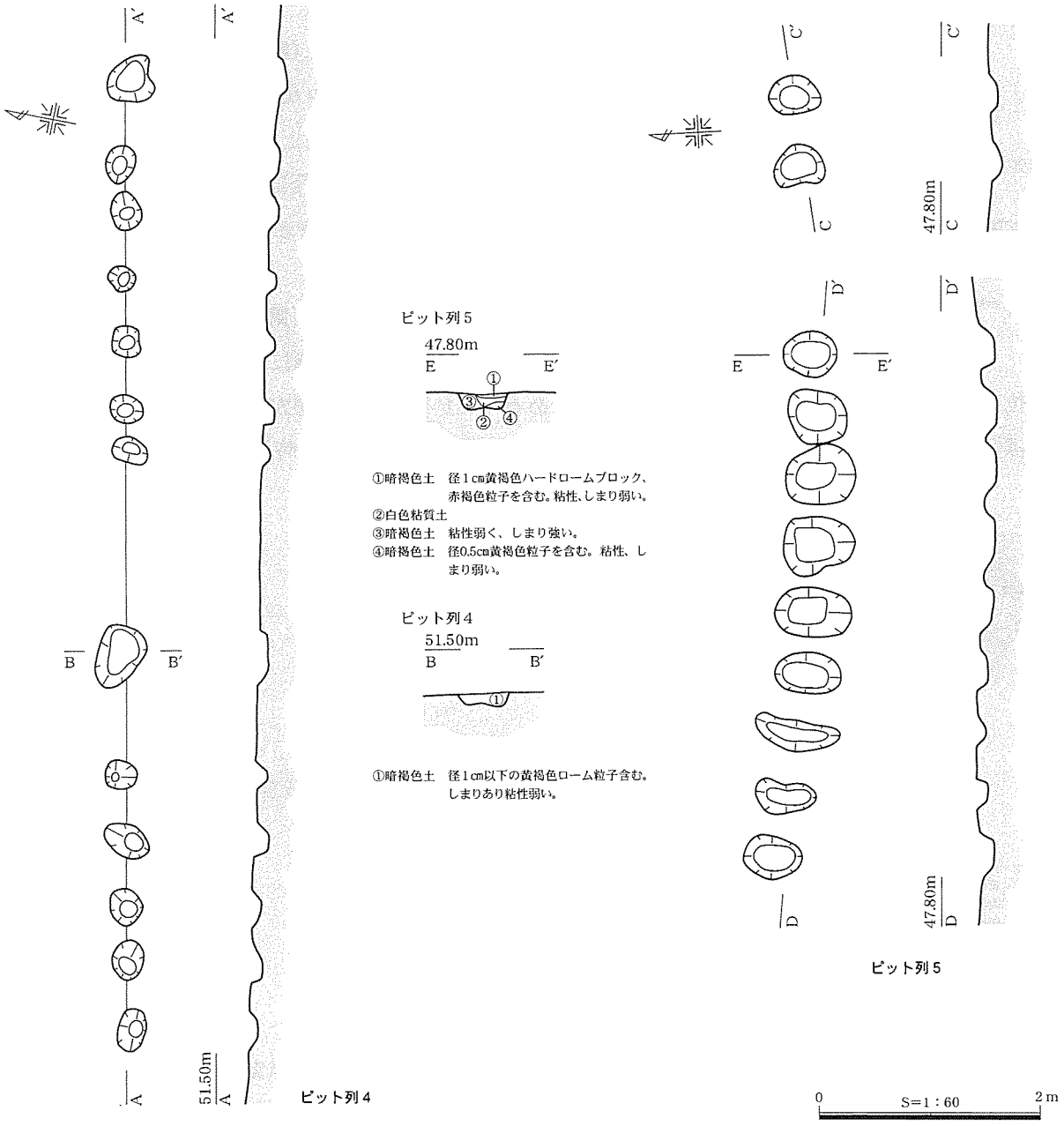


第88図　ピット列３

ピット列５（第89図）

位置　Ｌ５グリッド、埋没谷開口部南側の丘陵斜面上に位置する。

規模と形態　長さ7.2m、幅約0.7mで11基の楕円形のピット列から構成される。ピットの深度は15cmを測り、断面形状がＵ字状または台形状を呈している。埋土は、径１cmの黄褐色ロームブロックや赤褐色粒子を含む暗褐色土（①層）と粘性・しまりが強い白色粘質土（②層）から構成される。後者が下底面に充填されている状況が確認でき、いわゆる「道状遺構」として捉えることができよう。



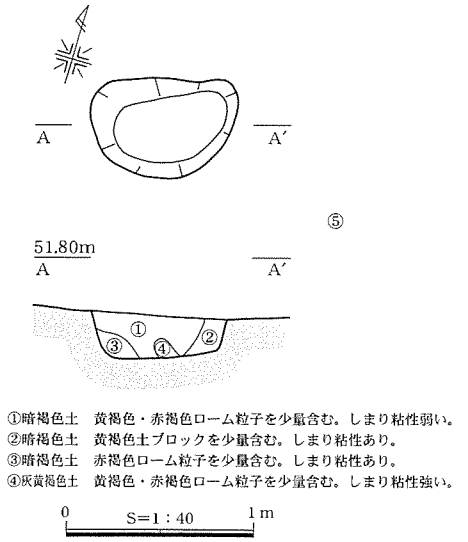
第89図　ピット列４・５

出土遺物　遺物は出土しなかったため時期は不明である。　（小口）

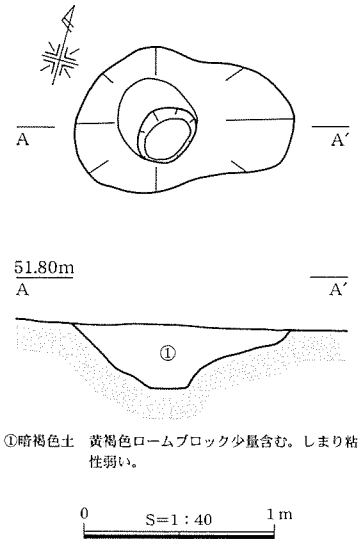
（４）土　坑

SK１（第90図）

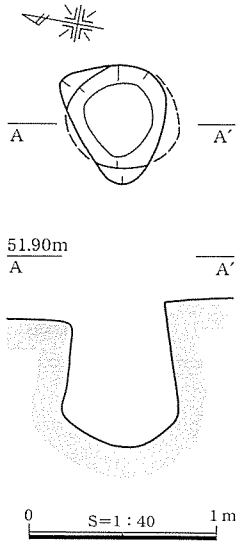
I12グリッド、丘陵平坦面に位置する。長軸80cm、短軸54cm、深さ24cmの不整円形を呈している。底面は平坦であり、埋土の主体は黄褐色ロームブロックを含む暗褐色土（①層）から構成される。遺物が出土していないため、時期は不明である。　（小口）



第90図　SK１



第91図　SK２



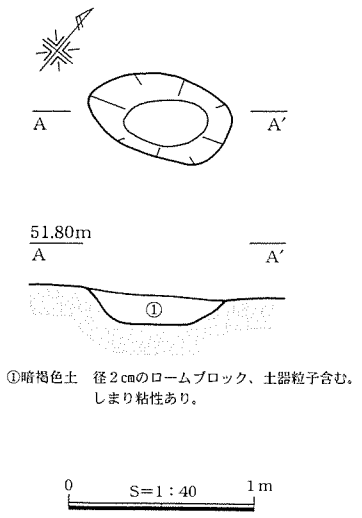
第92図　SK３

SK２（第91図）

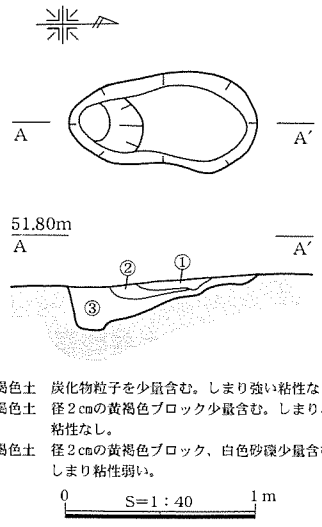
I12グリッド、丘陵平坦面に位置する。長軸1.15m、短軸0.78m、深さ0.34mの瓢形を呈する。底面は縁辺からなだらかに下がって中心部が最も深くなっている。帰属時期は不明である。　（小口）

SK３（第92図）

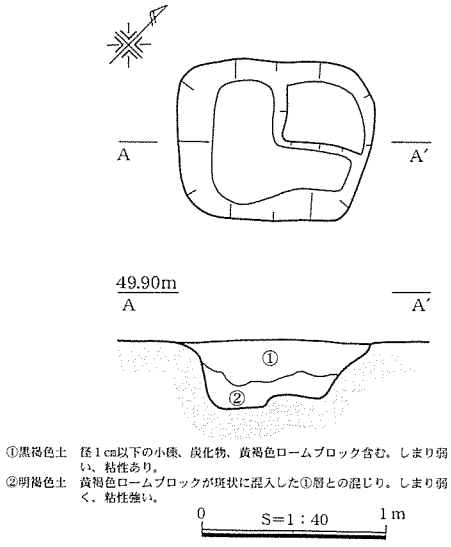
H15グリッド、丘陵平坦面に位置する。長軸64cm、短軸50cm、深さ78cm、底面径が開口部径よりも広い袋状土坑である。遺物が出土していないため、時期は不明である。　（小口）



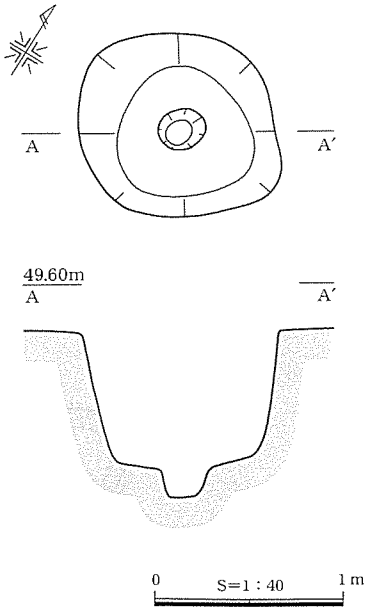
第93図　SK４



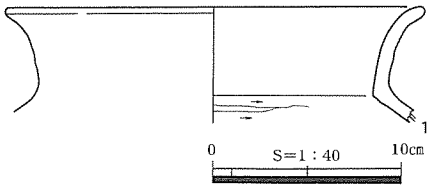
第94図　SK５



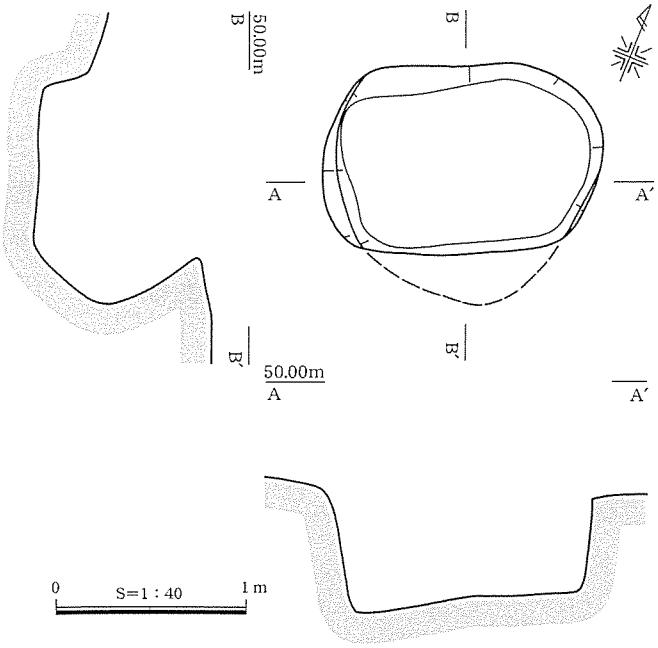
第95図　SK６



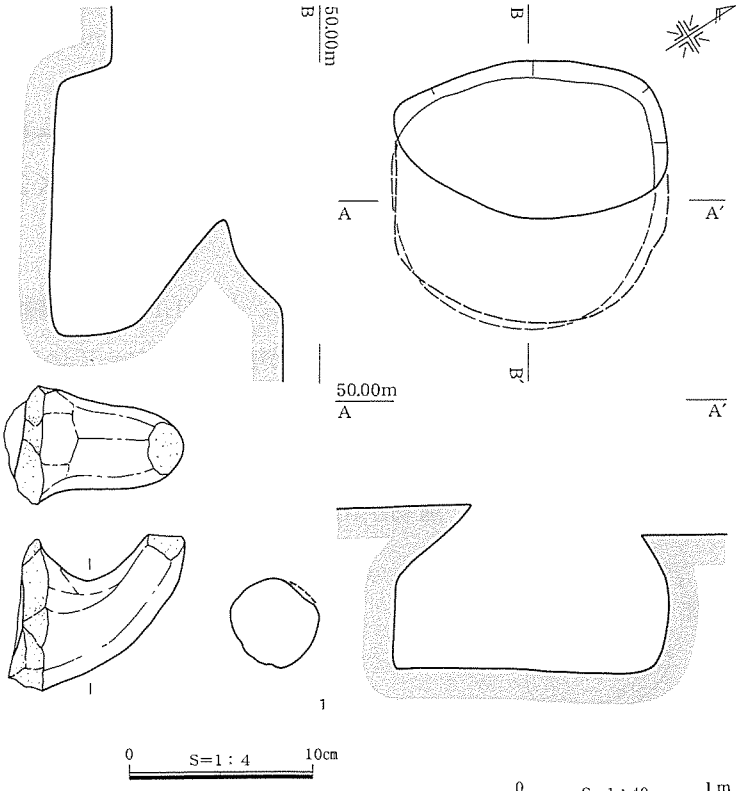
第96図　SK７



第97図　SK７出土遺物



第98図　SK８



第100図　SK９出土遺物

第99図　SK９

SK４（第93図）

J13グリッド、丘陵平坦面に位置する。長軸78cm、短軸44cm、深さ15cmの楕円形を呈する。底面は平坦であり、均質な暗褐色土（①層）が埋土となっている。時期は不明である。　（小口）

SK５（第94図）

J11グリッド、丘陵平坦面に位置する。長軸1.0m、短軸0.52m、最も深い部分で0.25mの瓢形を呈している。底面は南壁際が最も深い。時期・性格とも不明である。　（小口）

表54　SK７出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SK7 検出面	土師器 甕	※21.6 △5.5	口縁部～胴部上半1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5mmの白色粒子	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	

表55　SK９出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SK９ 埋土	土師器 鉢	－ △8.2	把手1/1	外面：ナデ 内面：摩滅	2.0mmの白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	

SK６（第95図）

Ｅ９グリッド、丘陵北東緩斜面に位置する。長軸1.06m、短軸0.85m、深さ0.35mの隅丸方形を呈する。底面は北東コーナーにテラス状の段を有する。時期は不明である。　（小口）

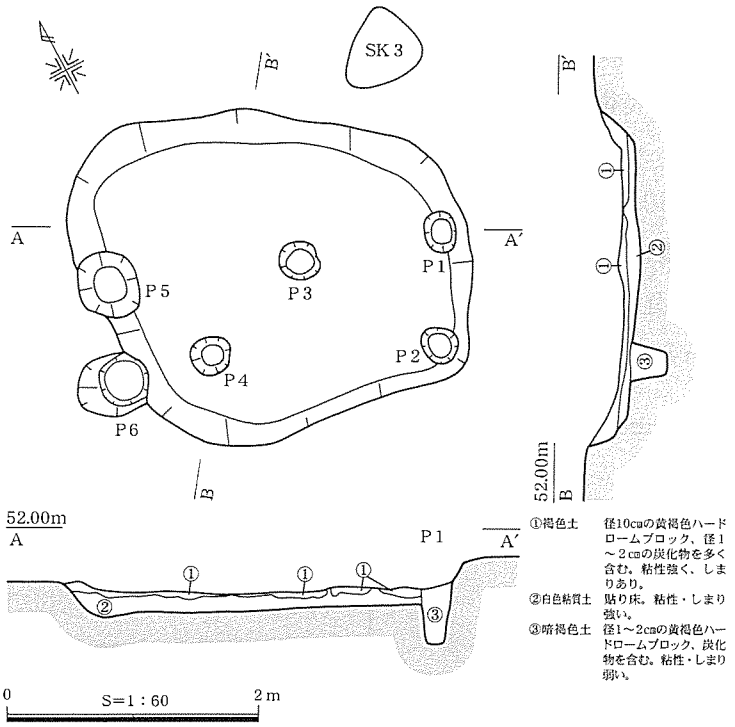
SK７（第96・97図、表54）

J11グリッド、丘陵南緩斜面に位置する。長軸1.0m、短軸0.98m、深さ0.70mの円形を呈する。また、中心部には小ピットが穿たれていることから、落し穴と想定される。埋土から広口甕が出土しているが、混入の可能性が高い。　（小口）

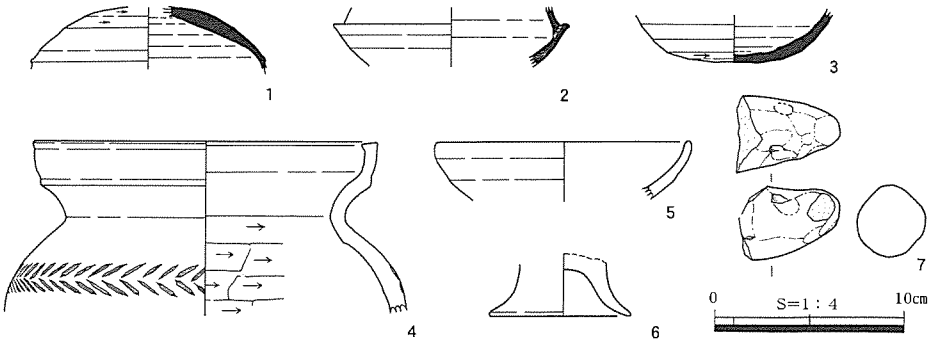
SK８（第98図、PL.19）

Ｎ９グリッド、南谷部の南側斜面上に位置する。長軸1.5m、短軸1.0m、深さ0.65mの楕円形を呈する袋状土坑である。時期は不明であるが、形状からSK９とほぼ同時期と思われる。

（小口）



第101図　SK10



第102図　SK10出土遺物

SK９（第99・100図、表55、PL.19）

Ｎ９グリッド、南谷部の南側斜面上に位置する。径1.4mのほぼ円形を呈するが、開口部は楕円である。深さは0.8mを測り、埋土中から甑の把手が出土した。７世紀代に帰属しよう。　（小口）

SK10（第101・102図、表56、PL.19）

H15グリッド、丘陵平坦面に位置する。長軸2.1m、短軸1.78m、深さ0.2mで、隅丸方形を呈している。底面には貼床が施され、①層中からは遺物が出土している。

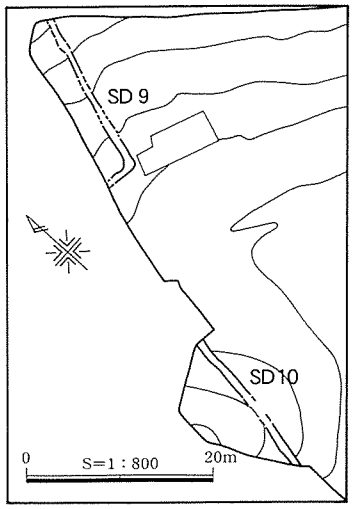
表56　SK10出土土器観察表

遺物No.	遺構層位	器種	口径(cm)器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SK10 埋土上層	須恵器 坏蓋	最大径12.4 △3.3	天井部1/4	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.0mmの白色・黒斑状粒子	外面：オリーブ灰色 内面：オリーブ灰色	堅緻	
2	SK10 埋土	須恵器 坏身	最大径12.6 △3.2	最大径1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの暗灰色粒子	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
3	SK10 埋土	須恵器 坏身	最大径10.3 △2.6	底部1/6	外面：回転ナデ後、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.5mmの白色砂粒、黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	
4	SK10 埋土	土師器 甕	※18.4 △9.0	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部羽状刺突文 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.5mm以下の灰色砂粒・白色砂粒・褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
5	SK10 埋土上層	土師器 坏	※13.7 △3.1	口縁部1/6	外面：摩滅 内面：ヨコナデ後、全面赤色塗彩	密　1.0mmの白色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい橙色 内面：赤橙色	堅緻	
6	SK10 埋土	土師器 脚付	※7.2 △3.3	脚部4/5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　4.0mm以下の白色砂粒、長石	外面：橙色 内面：橙色	良好	
7	SK25 埋土	土師器 甑	－ △3.8	把手4/5	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：－	密　1.0mmの白色砂粒・雲母・橙褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	

出土遺物は、須恵器坏蓋（1)、坏身（2)、小型壺の底部（3)、土師器甕（4)、坏（5)、脚付埦脚部（6)、甑把手（7）が認められる。このなかで４は有段口縁甕であり、肩部に矢羽根状刺突文がめぐっている。以上の特徴から、本遺構の帰属時期は７世紀前半と思われる。（小口）

（５）溝状遺構

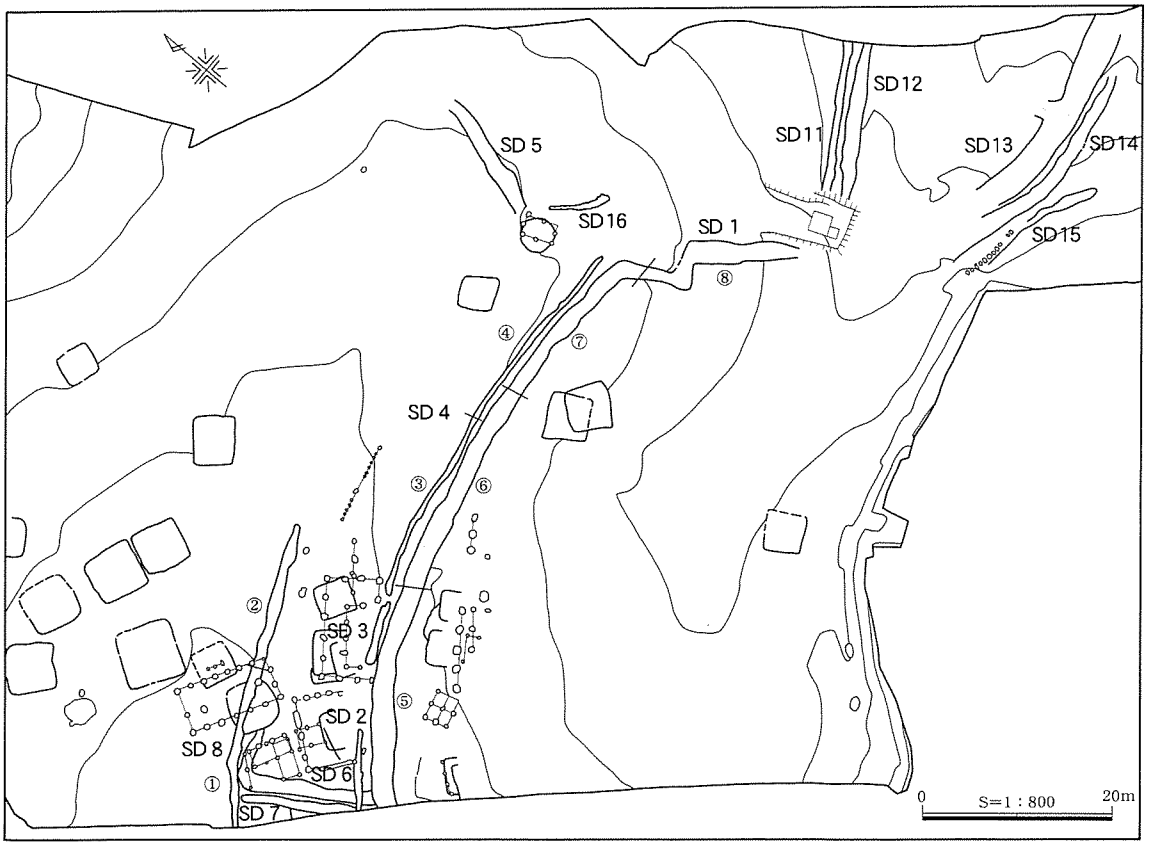
今回の調査では、溝状遺構は10基検出された（第103・104図)。その多くが東西を縦走する埋没谷に沿って構築されているが、幅約0.4m～２mと規模は大小さまざまである。配置はSD１・２・３・４・11・12・13・14・15が谷底にほぼ並走しているのに対し、SD５・６・７は丘陵平坦面を断ち切って構築されている。埋土中から砂礫の混入などの痕跡は窺えず、いずれも性格を確証する痕跡を得られていない。時期については、古墳時代の遺構群を切っていること、中・近世の陶磁器が出土していることなどから、集落形成時期とは異なり中世以降に構築されたものと思われる。（小口）



第103図　SD 配置図（１）

SD１（第105・106・107図、表57・58・59、PL.20・39）

東西方向に向かって丘陵南面の緩斜面沿いを走り、遺構群を南北に分断している。東側はSD11付近から先がたどれず、西側は調査区外に更に伸びると推定される。検出した長さは約86m、幅は約1.8mを測り、深さは約0.3mと浅い。また調査区西縁では丘陵部と下底面の段差が約0.8mになる部分もある。溝は西から東へ緩やかに傾斜し、J８杭付近でクランク状に南方向へ曲折している。全般的に底面幅は東



第104図　SD 配置図（２）

側が狭く西側が広い。埋土の上層は①層の褐色土と②層の暗褐色土が主体で、下層はロームブロックを多く含む粘性のある土が堆積している。出土した遺物は、須恵器高坏・土錘のほかに鉄製品（８）・流動滓（９）が含まれており、磁器は白磁の紅皿（３）や二重網手文の段重の蓋（５）など肥前系が多く、陶器は在地系とみられる。これらの陶磁器は18世紀中～ 19世紀に作られたと推定される。出土遺物から近世以降の遺構と想定されるが、性格は不明である。（原）

SD２（第108図）

Ｋ14グリッドに位置し調査区西縁からSD１に沿って東に伸びる。長さ約8.5m、幅は約0.5m、深さは約0.2mを測る。断面形はU字形で、埋土は暗褐色土の①層が遺構全体にわたってみられる。SD２はSD６を壊して作られている。出土遺物はなく時期・性格ともに不明である。（原）

SD３（第108図）

J12・13グリッドのSD２西側に位置し、SD１沿いに西から東へ傾斜する。長さ約6.5m、幅は約0.7m、深さ約0.4mを測る。断面形から下底面が２段あると推定され、暗褐色土の①層を埋土の主体とする状況から、短期間に埋まったといえよう。出土遺物はなく時期・性格ともに不明である。（原）

SD４（第108・109図、表60、PL.20）

I８～12グリッドに位置する。SD３西側から始まり、SD１に並走しI８杭付近で収束する。長さ約44m、幅は約0.4m、深さ約0.2mを測る。断面形はU字形で、埋土の主体は暗褐色土の①層である。SD２・３の①層と類似する。出土土器は細片が多く流れ込みの可能性も高いため、遺物から遺構の時期は判断しがたい。１の須恵器壺の口縁は内外面ともに回転ナデで、端部は丸みを持つ。（原）

SD５（第110図）

Ｇ８・Ｈ８グリッド、丘陵東端に位置し、北東方向に向かって走っている。長さ14m、幅1.2～2.1m、深さ0.2mを測る。埋土は黄褐色ハードロームブロック・炭化物を含む暗褐色土が認められた。本遺跡のなかでは、比較的幅広の溝状遺構であるが、性格は不明である。また、時期を特定できる遺物は出土しなかった。（小口）

SD６（第110・111図、表61）

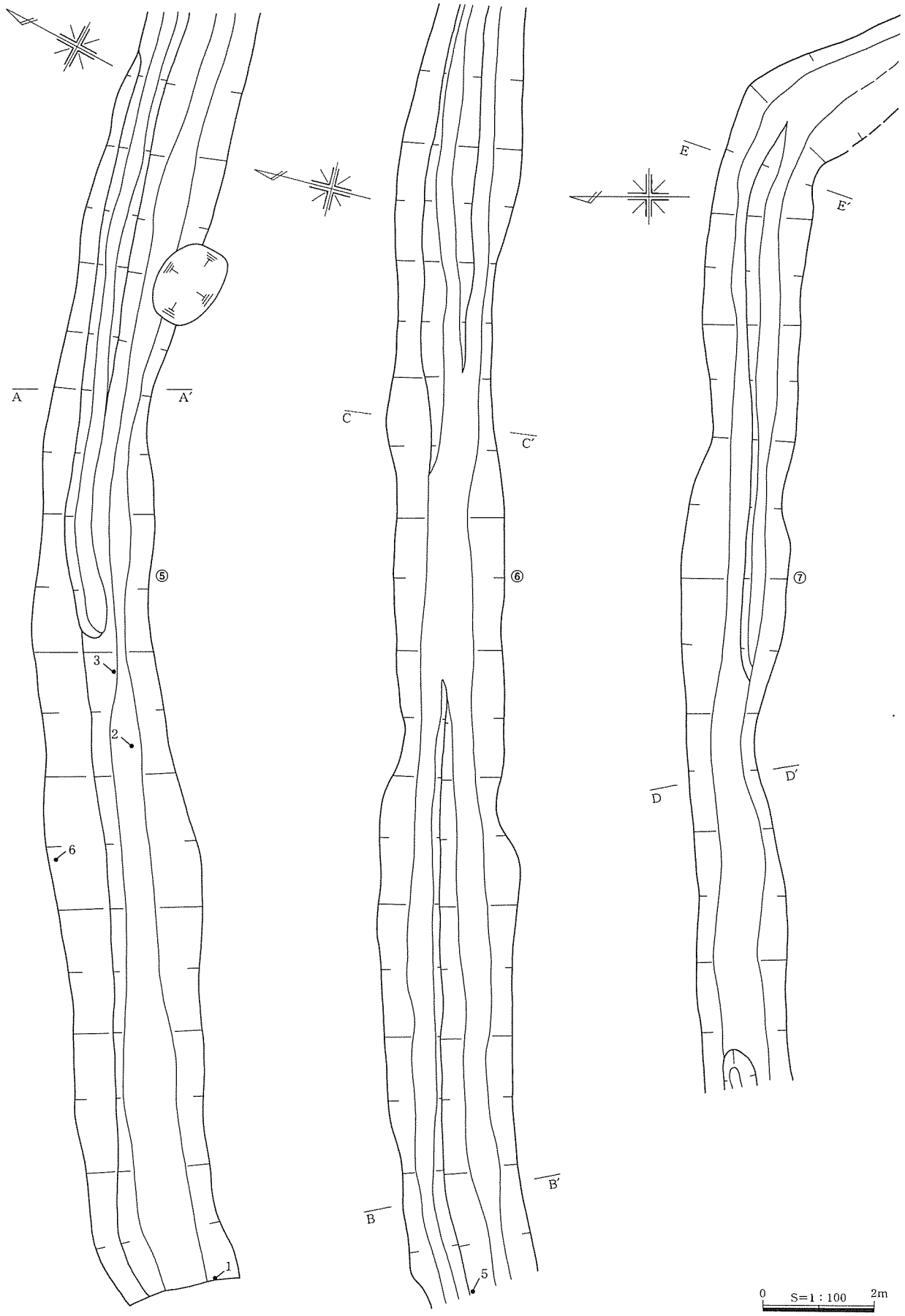
調査区の中央部西端にあたるI・J14グリッドの丘陵上に位置する。ほぼ南北に伸び、SD8の手前で東に向かって折れる。南側はSD１・２によって壊され、東側はSI17の埋土を削ってJ14付近で収束する。長さ約22m、幅は約1.5m、深さ約0.2mを測る。埋土は暗褐色土の①層と②層が堆積する。出土遺物1は小片のため流入の可能性も高い。口縁部は外反して上方に伸び、端部付近に２条の凹線を施す。SD６の性格は不明で、SI17の廃絶後からSD１・２ができるまでに作られたと想定される。（原）

SD７（第110図）

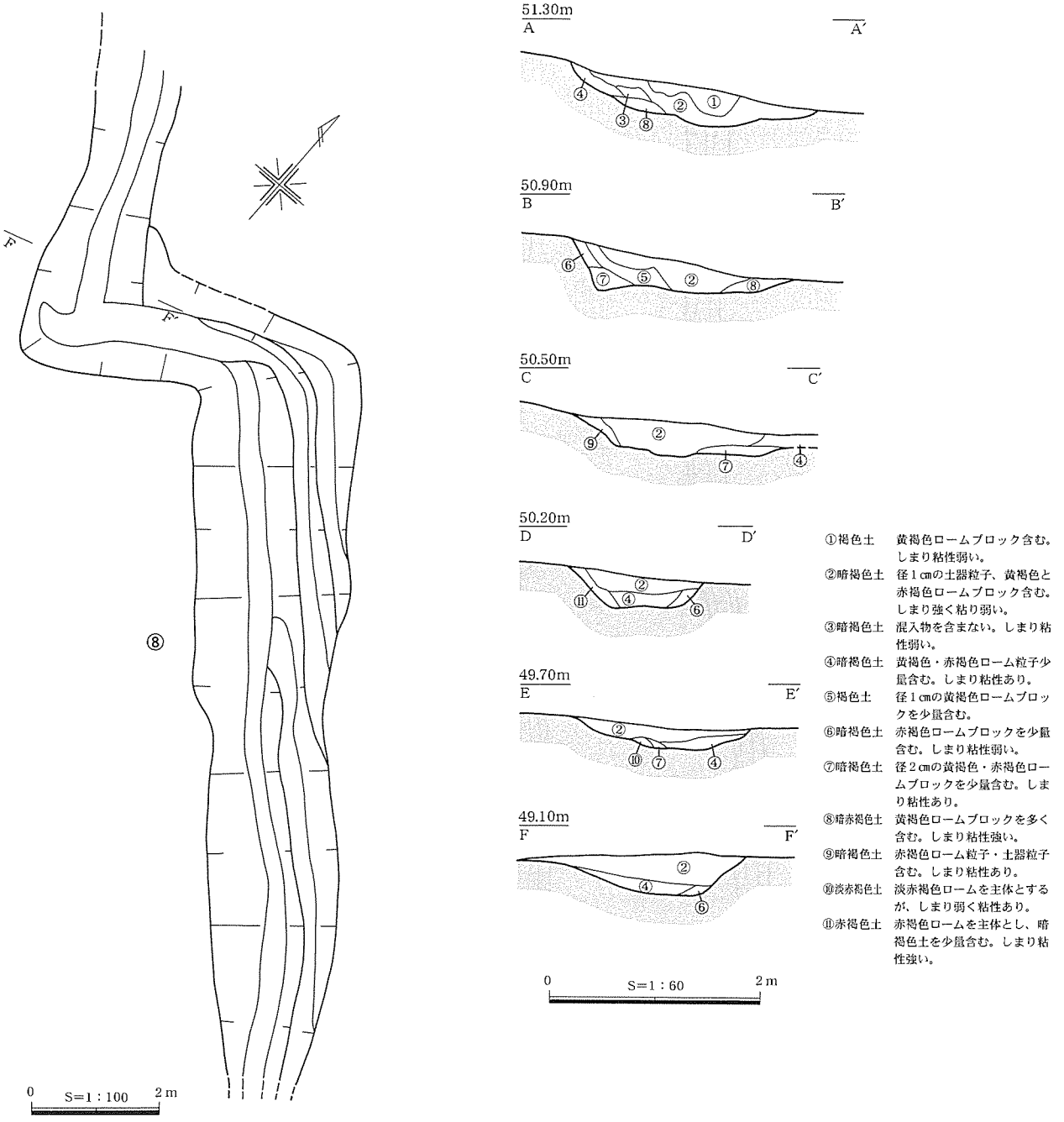
調査区の中央部西端にあたるJ・K14グリッドに位置する。SI16を削ってSD６に並走する。北端はSD８の手前で丸く途切れ、南側はSD１・２に壊される、長さ約32m、幅は約0.7m、深さ約0.1mを測る。埋土は類似した①・②層（暗褐色土）が堆積するため、SD７は短期間のうちに埋まったと推測される。出土遺物はなく時期・性格ともに不明である。（原）

SD８（第112図）

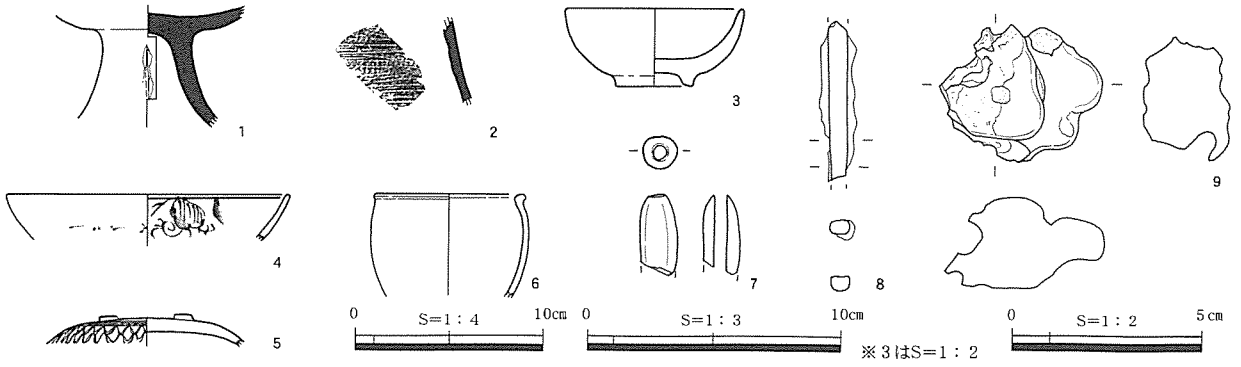
I12杭付近からJ15杭に向かって丘陵の中央部を東西に走る。SD６の一部が併走し、SD１と並行するようにもみられる。長さ約32m、幅は部分的に異なるが約１m、深さ約0.3mを測る。SD８はSI17を削ってさらに東へ伸び、I12付近から徐々に消失する。埋土上層は、SD６・７の①層と同じ



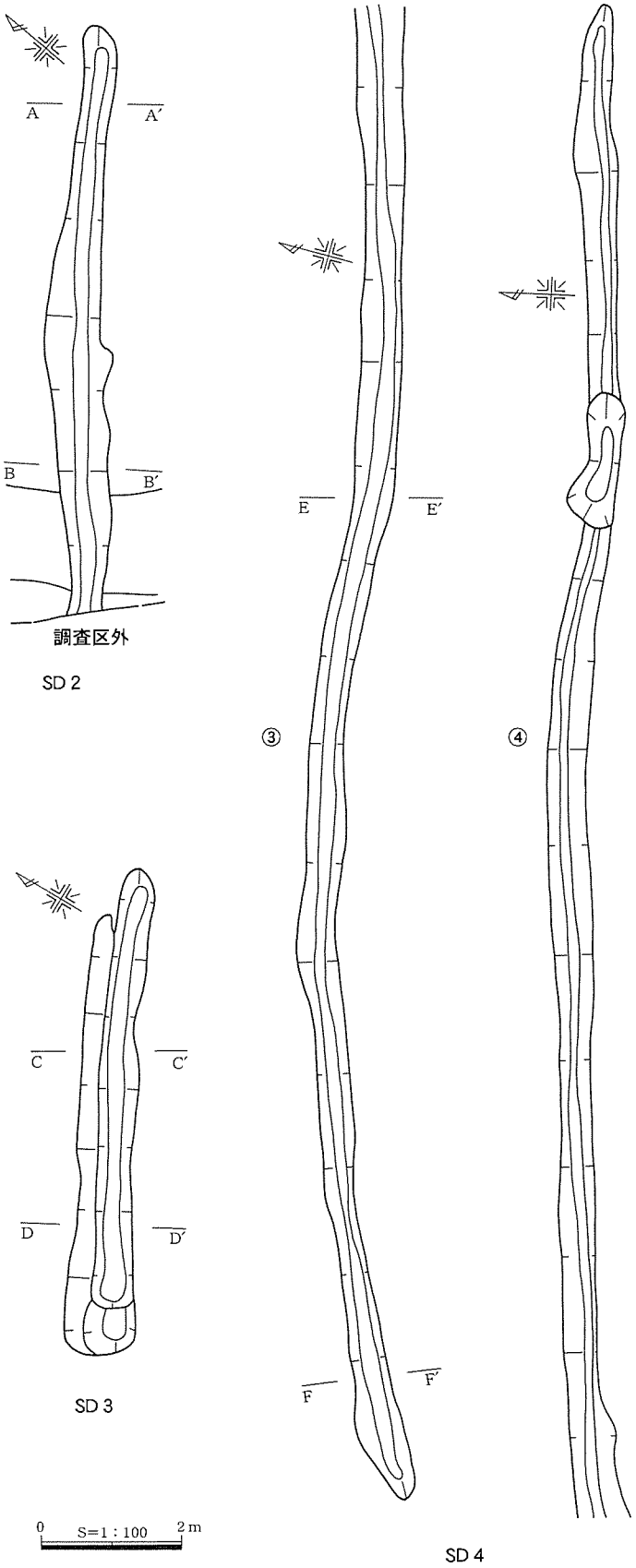
第105図　SD１（１）

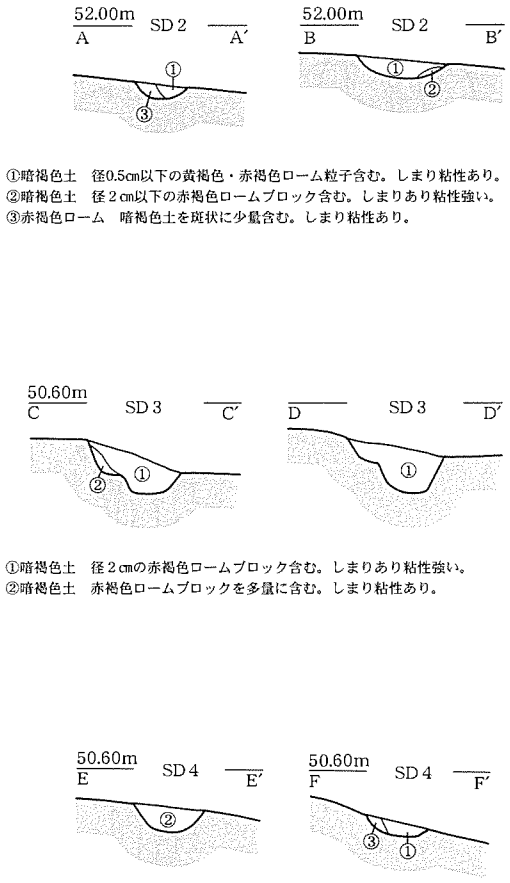


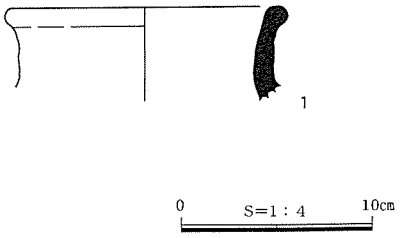
第106図　SD１（２）



第107図　SD１出土遺物

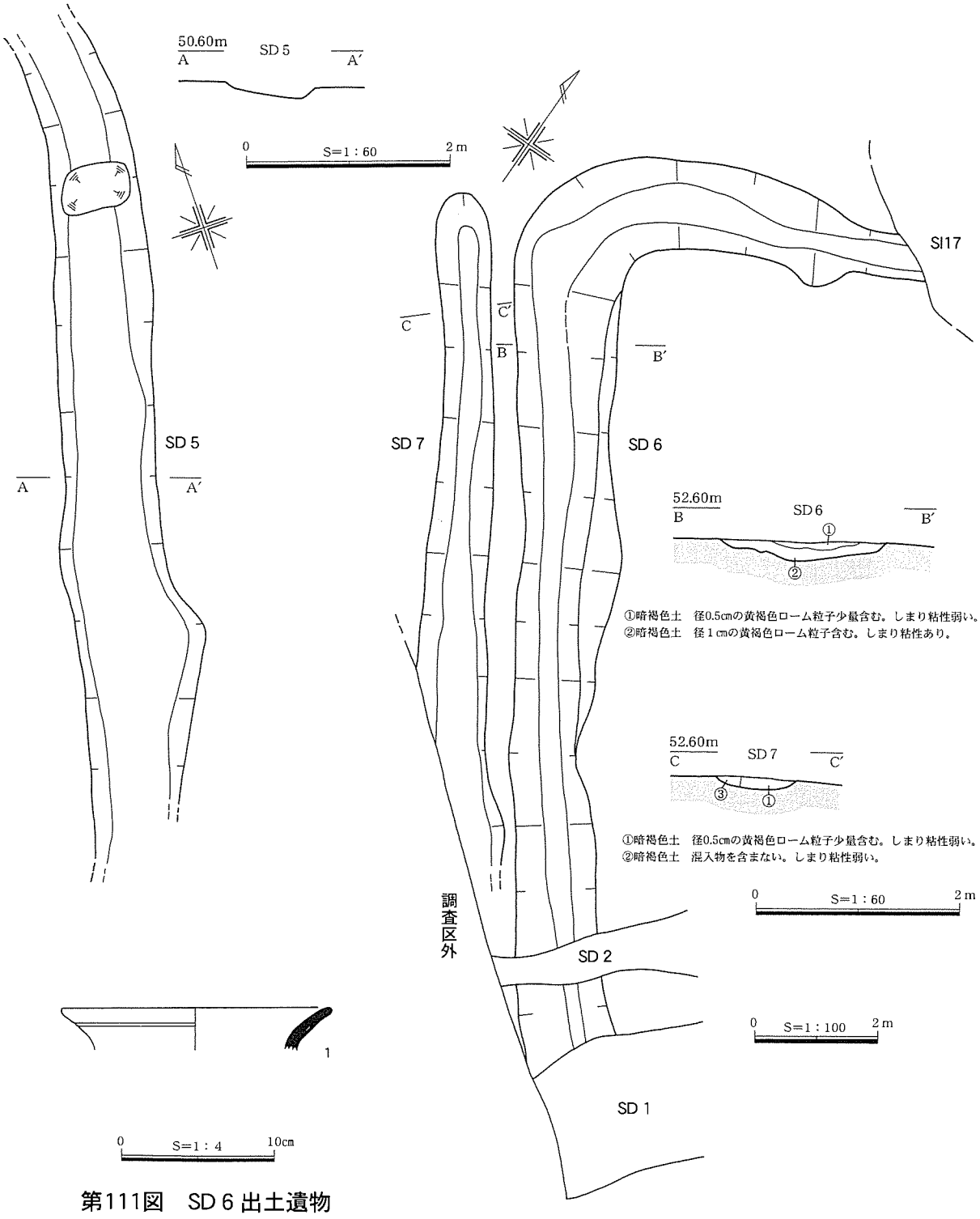






第109図　SD４出土遺物

第108図　SD２・３・４



第111図　SD６出土遺物

第110図　SD５・６・７

表57　SD１出土土器観察表

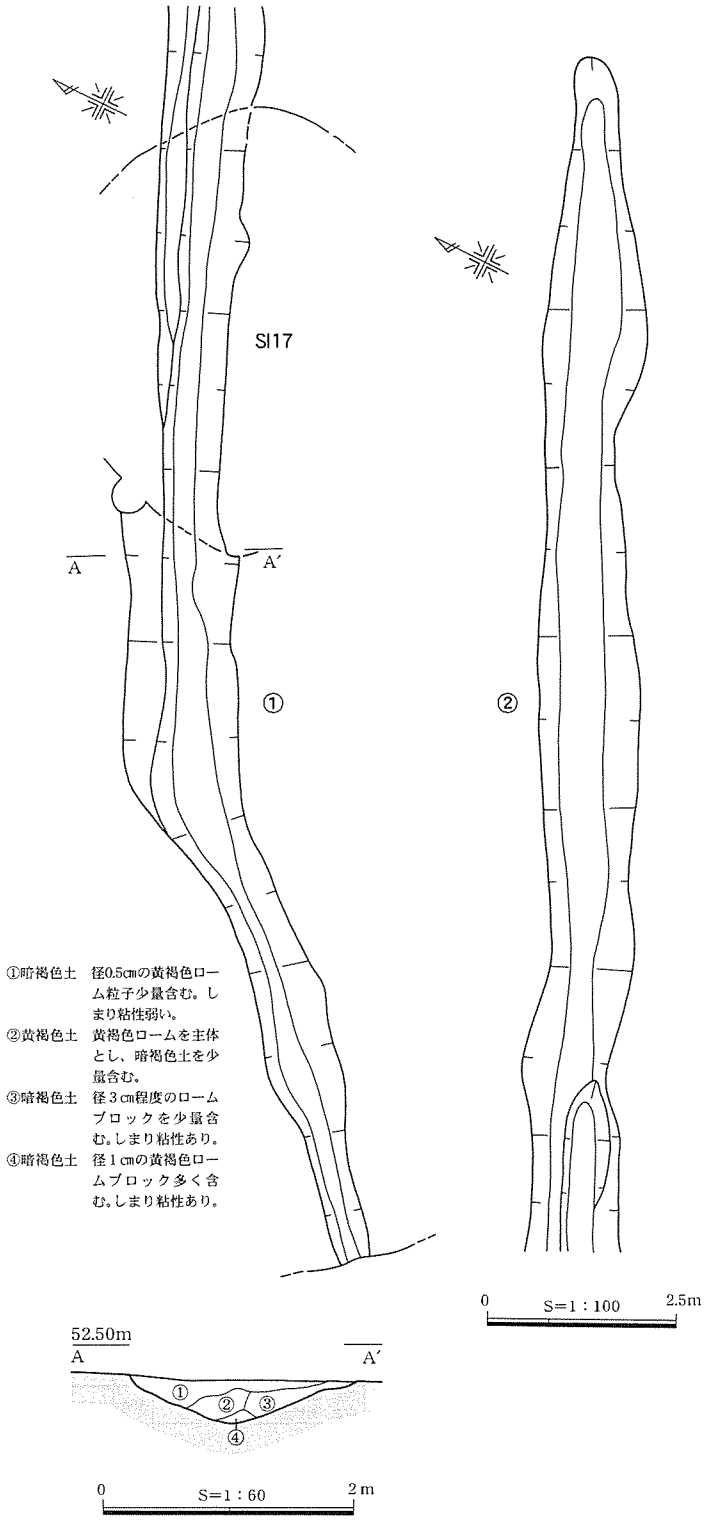
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SD１ 埋土	須恵器 高坏	－ △6.5	脚部1/5	外面：回転ナデ、脚部擬似透孔 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	SD１ 埋土	須恵器 壺	－ △4.6	頸部1/10 以下	外面：カキメ 内面：ヘラ状工具痕	密　0.5mm以下の白色粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
3	SD１ 埋土	磁器 紅皿	※4.8 2.1	2/3	外面：ロクロ挽後、施釉、高台接地部に胎土目３個所 内面：ロクロ挽後、施釉	密	外面：白色 内面：白色	堅緻	
4	SD１ 埋土	陶磁器 皿	※15.0 △2.5	口縁部1/9	外面：ロクロ挽後、草花文の染付、施釉 内面：ロクロ挽後、花充文の染付、施釉	密　0.3mmの黒色粒子	外面：白磁に藍色の染付 内面：白磁に藍色の染付	堅緻	
5	SD１ 埋土	陶磁器 段重蓋	最大径10.0 △1.6	天井部1/4	外面：ロクロ挽後、ブリッジ状のツマミ接合、二重網手の染付、施釉 内面：ロクロ挽後、施釉	密	外面：白磁に藍色の染付 内面：白色	堅緻	
6	SD１ 埋土	陶磁器 小型甕	※7.8 △5.5	口縁部1/6	外面：ロクロ挽後、施釉 内面：ロクロ挽後、施釉	密	外面：暗褐色 内面：淡灰褐色	堅緻	

表58　SD１有孔土玉観察表

遺物No.	遺　構	層位	形　態	高さ(cm)	幅 (cm)	孔径(cm)	重さ (g)	調整・文様	胎　土	色　調	焼成	備　考
7	SD1	埋土	管状	△3.2	1.5	0.5	5.3	ナデ	1.0mmの白色砂粒含む	橙色	良好	1/3欠損

表59　SD１鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺　物　種　類		重さ (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	磁着度	メタル度	備考
8	SD1	埋土	鉄製品	鍛造品	3.0	4.2	0.5	0.4	1	錆化（△）	
9	SD1	埋土	流動滓	－	39.6	3.6	4.4	2.4	1	なし	



第112図　SD８

暗褐色土が堆積し、①層よりも下層には②～④層が順に堆積する。出土遺物はなくSD８の性格は不明で、SI17の廃絶後に作られたと想定されよう。　（原）

SD９（第113図、PL.20）

A14グリッド～B15グリッド、標高47.6m～44.0mの丘陵斜面に位置する。規模・形態は長さ約20m、幅97～60cm、検出面からの深さが最大36cmを測り、断面形態は皿状を呈する。検出した箇所の平面形態はＬ字状だが北端部、南端部とも調査区外へ伸びるため全体での形態は不明である。埋土は２層に分層され、褐色土が主体をなす。遺物は出土しておらず時期などの詳細は不明である。　（福井）

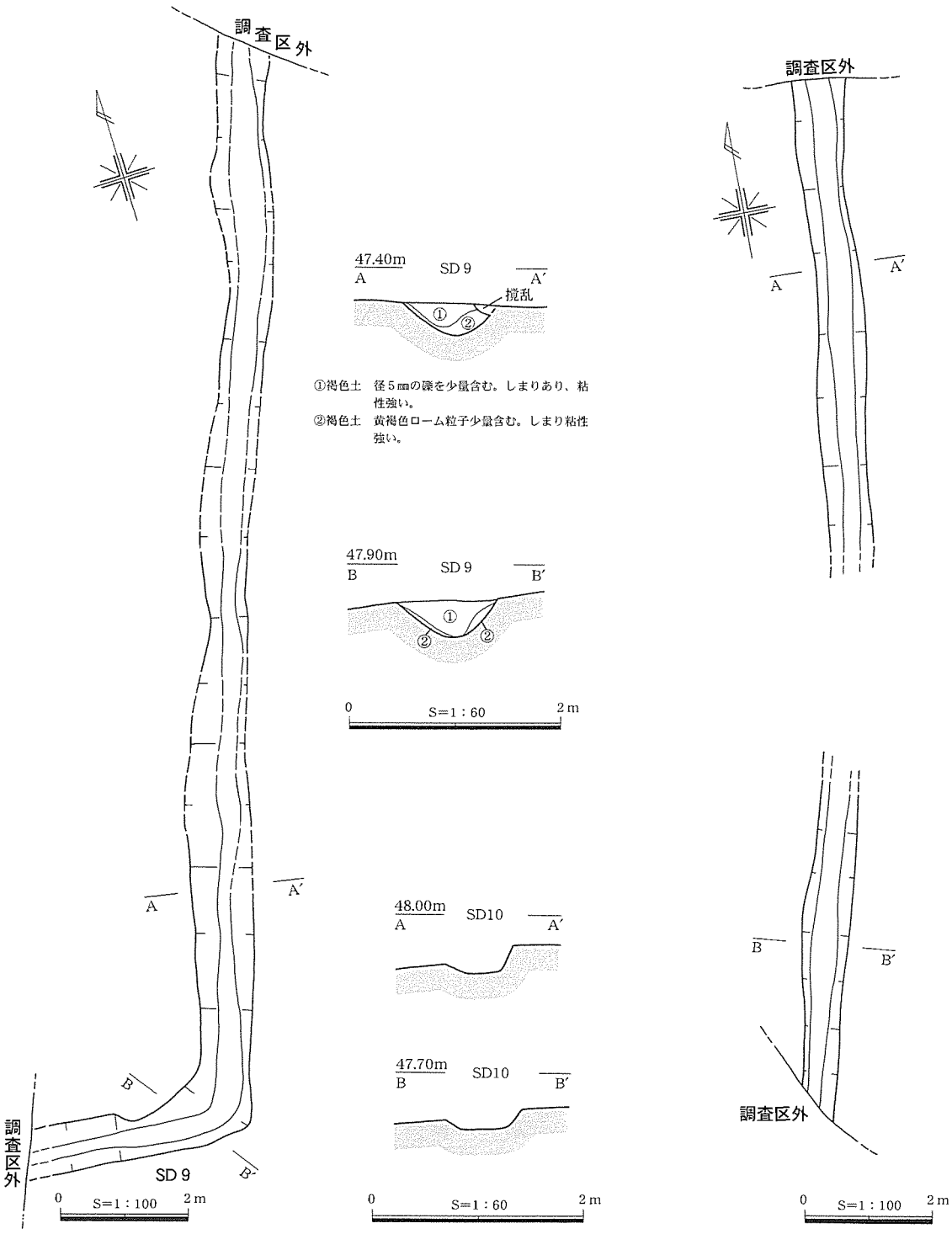
SD10（第113図）

D15・E15グリッド、北谷部を南北に縦断している。長さ約16m、幅60～80cm、検出面からの深さが最大40cmを測る。遺物は出土しておらず、性格・時期とも不明である。　（小口）

SD11～15（第114・115図、表62、PL.39）

南谷部のうち調査区東縁部では包含層が大きく抉られており、平面Ｕ字形の落込みが東から湾入した状態で検出された。この湾入部の北縁にはSD11・12が、南縁にはSD13～15が確認されている。

SD11・12は、南西から北東へ向かって並走する溝で、断面はいずれも逆台形を呈する。SD11が湾入部への落ち際に立地するのに対し、SD12は湾入部の下底面に面している。



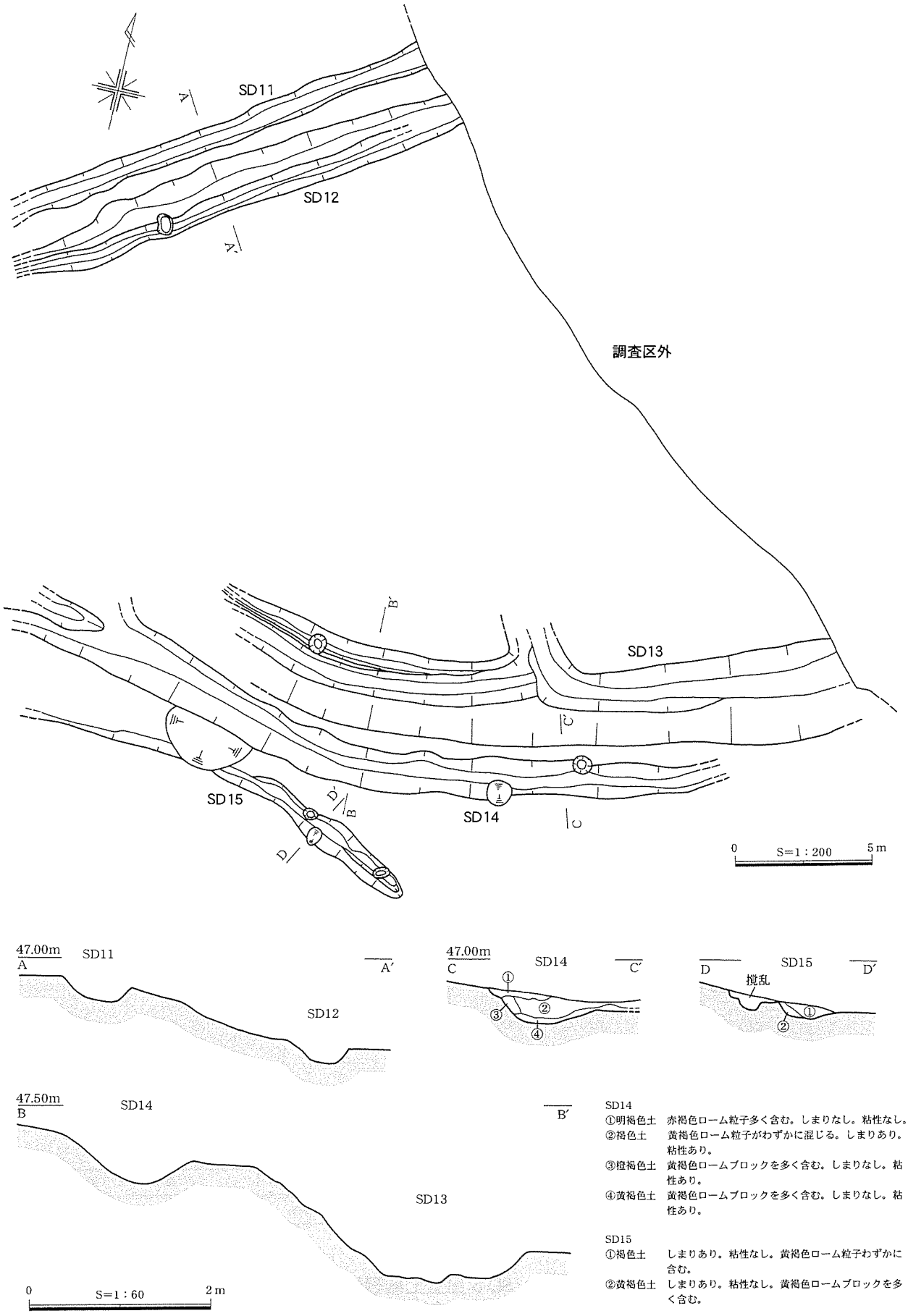
第113図　SD９・10

表60　SD４出土土器観察表

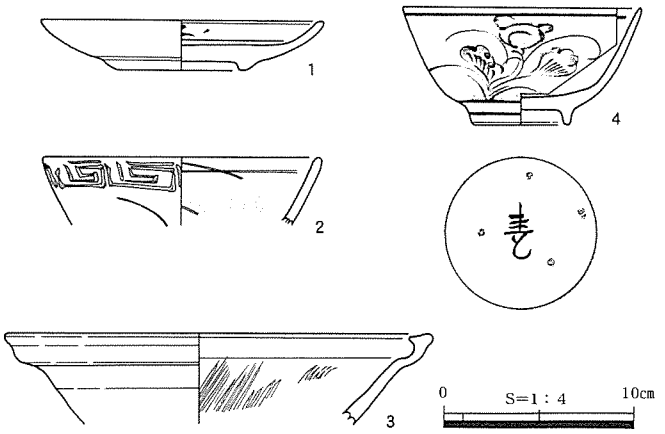
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SD4 埋土	須恵器 壺	※15.0 △13.4	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：ナデ	密　1㎜以下の白色砂粒	外面：オリーブ褐色 内面：にぶい黄橙色	堅緻	自然釉

表61　SD６出土土器観察表

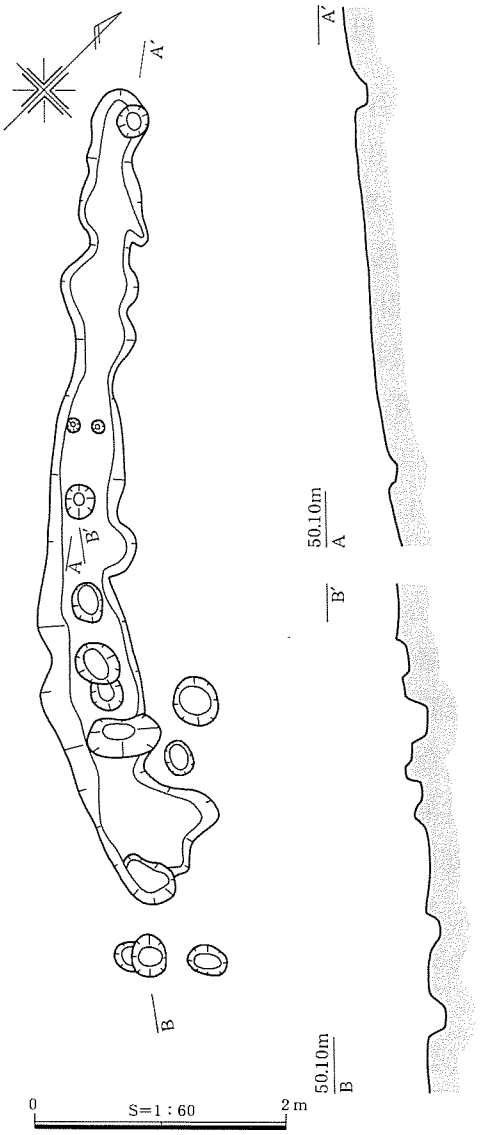
遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SD6 埋土	須恵器 甕	※19.4 △2.3	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の淡褐色砂粒	外面：褐灰色～黒褐色 内面：褐灰	堅緻	



第114図　SD11・12・13・14・15



第115図　SD13出土遺物



第116図　SD16

SD13～15は、西から東へ向かって並走し、浅いＵ字形の断面形をもつ。このうちSD13は湾入部の下底面に面し、SD14・15は湾入部への落ち際に位置する。SD13の溝底には数回にわたって掘り直しが行われた痕跡が認められた。

SD13からは陶磁器が４個体分確認されている。１は肥前系の皿で、内面には花充文の染付が施され、見込みにはコンニャク印判の五花弁が認められる。２は青磁の碗で、口縁部外面に雷文を刻む。３は擂鉢で、内面には４条のヘラで擂目を施す。４は肥前系の碗で、外面には花充文の染付、内面見込みには「寿」の染付が認められる。これらの遺物は、２が16世紀以前とみられる以外は18世紀代に収まることから、遅くとも18世紀までには湾入部が形成されていたと推定される。　　（北島）

SD16（第116図）

Ｈ７グリッド、丘陵東端の緩斜面に位置する。長さ6.4m、幅0.35～１m、深さ0.2mを測る。断面状は浅い擂鉢状を呈し、内部に不整形のピットが点在している。ピットの深度は、５～20cmと均一ではないが、黄褐色ロームブロックを含む暗褐色土を埋土としている。時期・性格とも不明である。

（小口）

表62　SD13出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	SD13	陶磁器 皿	※15.0 △2.5	1/5	外面：ロクロ挽後、施釉。高台設置面は露胎・砂目。 内面：ロクロ挽後、草花文の染付、施釉，蛇ノ目釉はぎ・砂目あり。	密	外面：白磁に藍の染付 内面：白磁	堅緻	
2	SD13	陶磁器 碗	※15.0 △3.6	口縁部 1/10以下	外面：ロクロ挽後、口縁部外面に雷文を刻む。施釉 内面：ロクロ挽後、刻線を刻む。施釉。	密	外面：淡緑青色 内面：淡緑青色	堅緻	
3	SD13	陶磁器 擂鉢	※23.0 △4.7	口縁部1/6	外面：ロクロ挽後、口縁部を施釉　それ以下は露胎のまま 内面：ロクロ挽後、全面施釉　4条のヘラで擂目を入れる	密　0.5mmの淡黄褐色粒子・黒色粒子・灰色粒子	外面：褐色 内面：褐色	堅緻	
4	SD13	陶磁器 碗	12.6 6.3	2/3	外面：ロクロ挽後、花充文の染付、全面施釉 内面：ロクロ挽後、「寿」の染付、全面施釉　4箇所に胎土目あり	密　0.5mm以下の灰色粒子	外面：白磁に藍の染付 内面：白磁に藍の染付	堅緻	

第３節　包含層の調査

（１）谷部包含層の概要

八橋第８・９遺跡は丘陵上に位置する遺構群に加え、丘陵北西部に抉入する「北谷部」と南側を縦断する「南谷部」の包含層が、遺跡の景観やそれをとりまく環境、生産活動のあり方などを究明する上で重要な情報源と考えた（第７図）。

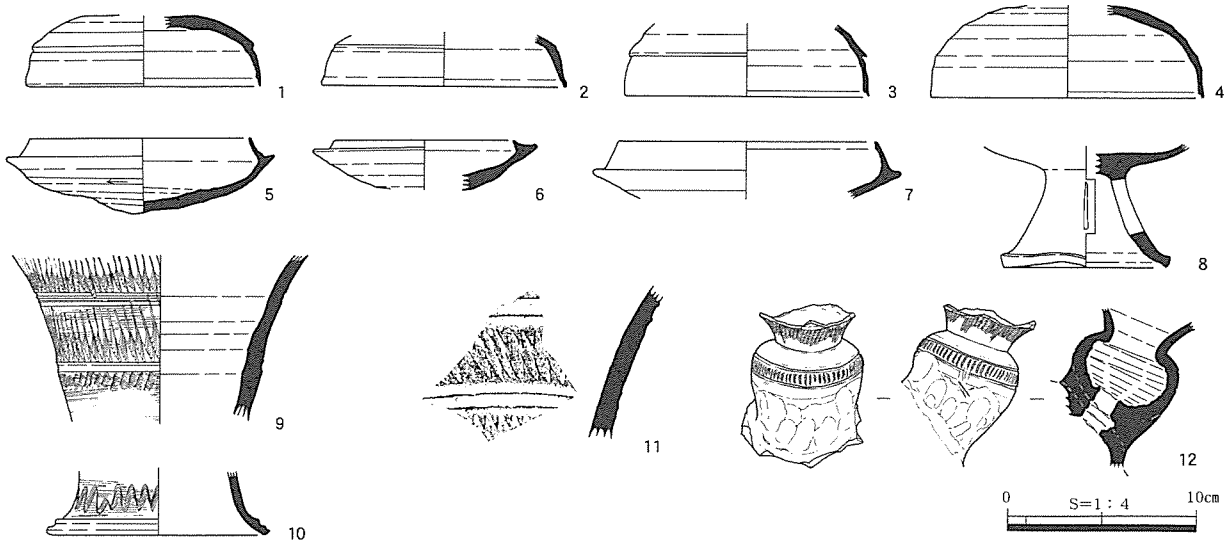
北谷部は標高46～49mの範囲にわたって第②・③層の黒褐色・暗褐色土層中から古墳時代初頭から後期にわたる遺物包含層が認められた。このなかの第②層に関しては南谷部の第Ⅳ層の黒褐色土層に対応すると思われる。長軸約20m、短軸約15m、谷底と立ち上がりの比高差約３mの狭い範囲にわたって多くの生産活動に伴う道具が廃棄されていた。包含層出土遺物は、丘陵北西緩斜面に位置するSI11・14・15・18・19の時期にほぼ対応することから、丘陵北西部の居住集団による生活廃材の流れ込みとして捉えることができる。

一方、南谷部は長軸約85m、短軸約50m、丘陵との比高差約４～５mとなり、第Ⅰ層：茶褐色土層～第Ⅳ層：黒褐色土層までの４層の古墳時代後期～終末期の遺物包含層が確認された。北谷部との違いは、７世紀後半の遺物が多量に含まれることで丘陵南緩斜面に位置するSI１、SI４・22やSI６・８の時期とも符合する。また、生産活動に伴う石器群や鉄製品、有孔土玉などが顕著に出土したことも注目されよう。

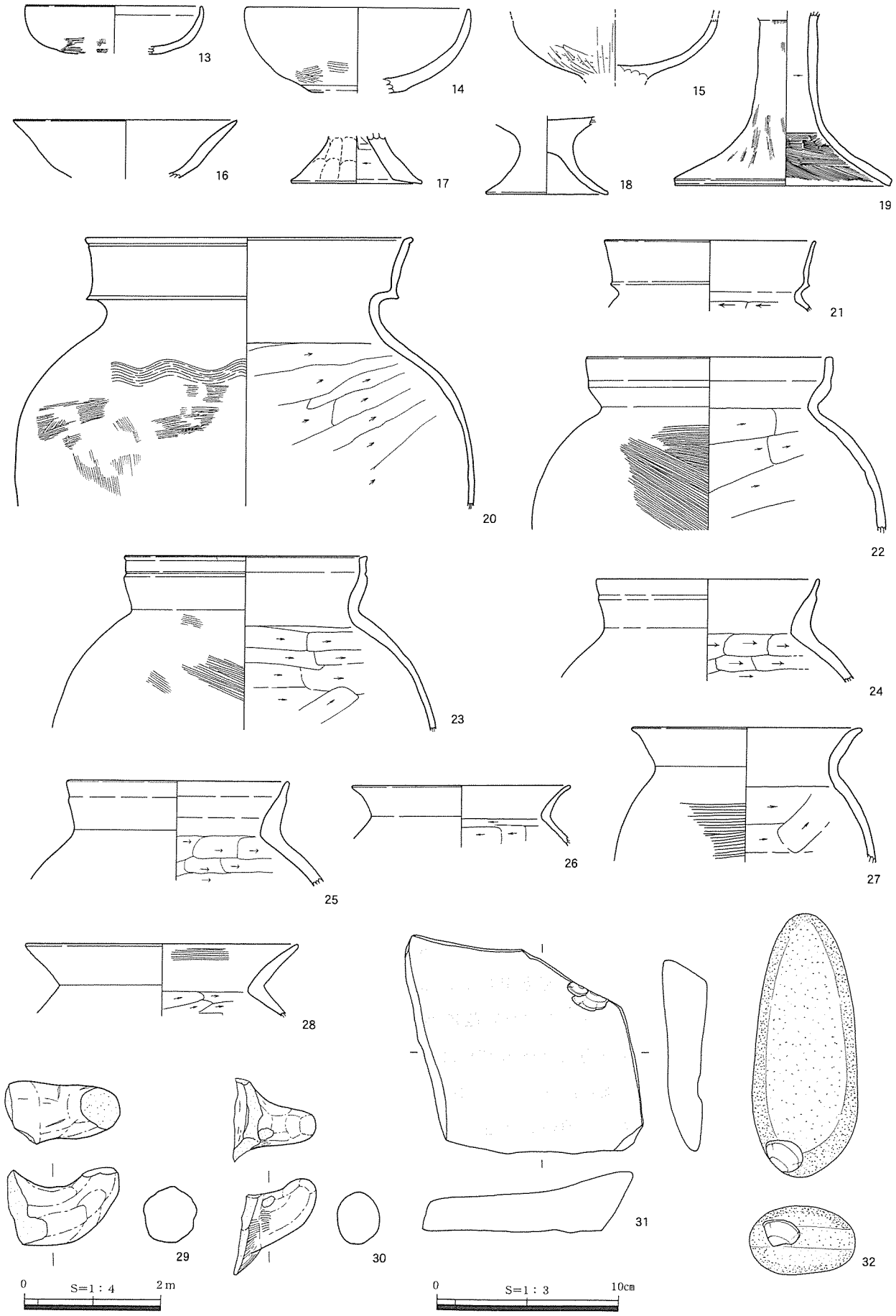
谷部の利用を考える上で、当時の自然環境はどうであったのか。この点を明らかにすべく、南谷中央部に設定したトレンチ内で植物珪酸体分析・花粉分析のためのサンプリングを実施している（第６図、第４章第２・３節参照）。南谷部は東へ向かって緩やかに下がり、やがて八橋川が解析する谷へ繋がる。日本海への出入り口として谷部の利用がなされていたことも想像されるのである。　（小口）

（２）北谷部包含層出土遺物（第117・118図、表63・64、PL.23・34・39・40・43・44）

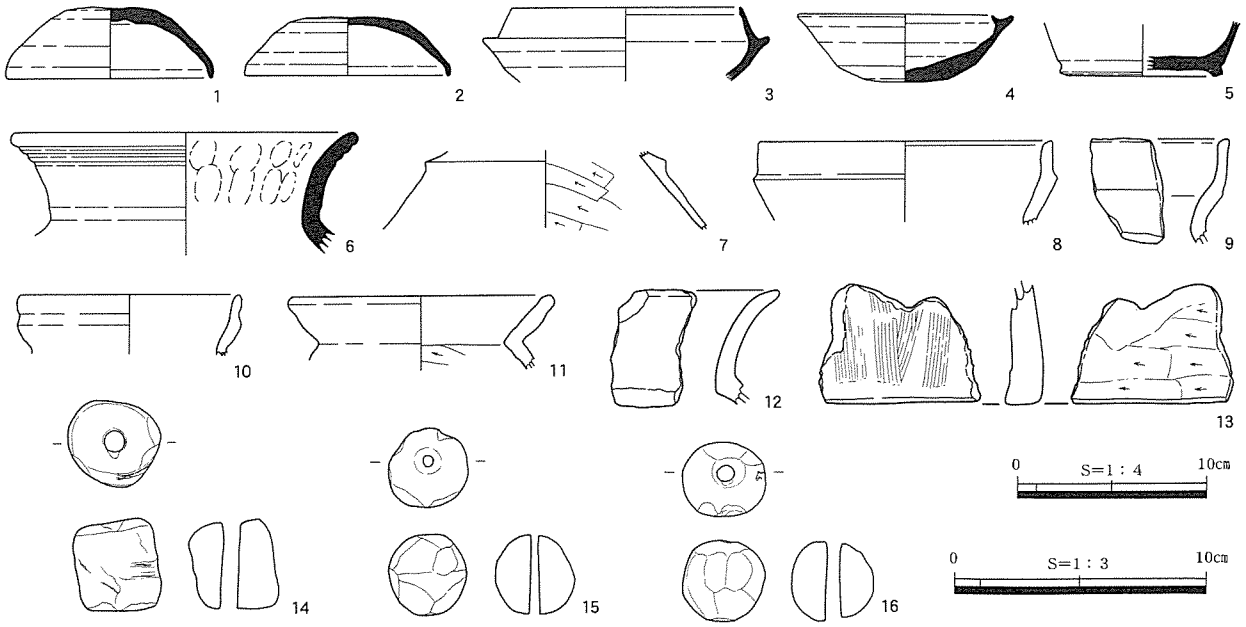
調査方法　東西方向のE15～16、南北方向のD16～G16ラインにサブトレンチを設定し層序を確認した結果、上層は梨の木や暗渠による撹乱が著しく及んでいたが、谷の中心部は遺物包含層が比較的良好な状況で残存していることが判明した。とくにE16～F16ライン東付近は、５×３mの範囲に遺物が集中して検出された（第７図）。



第117図　北谷部包含層出土遺物（１）



第118図　北谷部包含層出土遺物（２）



第119図　南谷部第Ⅰ層（茶褐色土層）出土遺物

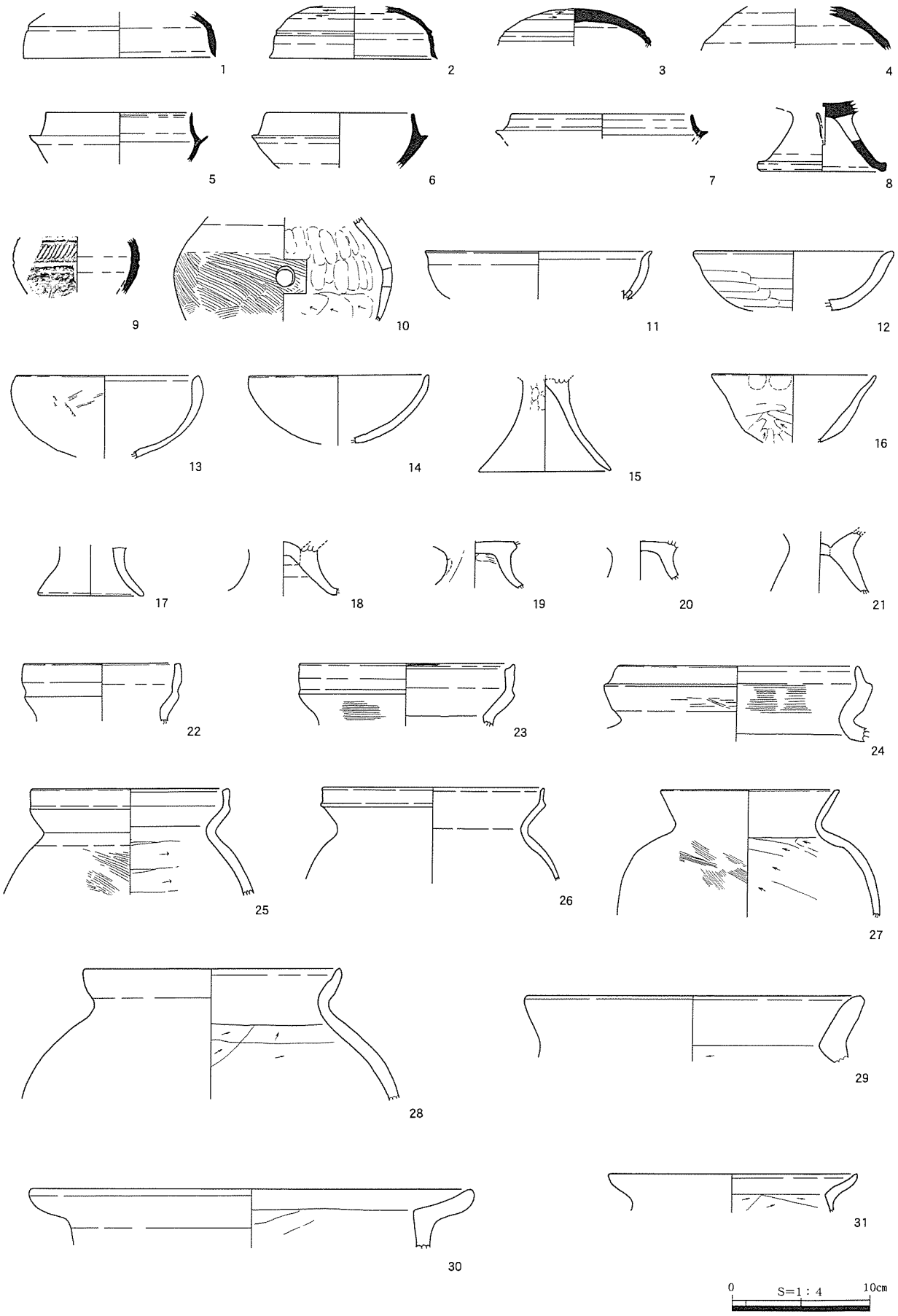
出土遺物　第117図は須恵器をまとめた。１～４は坏蓋である。天井部に平坦面を形成し口縁部との境に稜を有している。天井部の2/3ほどがケズリ調整、残り1/3と口縁部にナデ調整が施されている。５～７は坏身であり、口縁部が内傾し、底部からカエリまで緩やかに立ち上がっている。底部から1/3ほどがケズリ、残りの体部・受部から口縁部までナデ調整である。８は高坏であり、脚部が緩やかに下がり、透し孔が一段入る。10の脚部は端部に２条の段を形成し、その直上に波状文が描かれている。９・11は長頸壺の頸部であり、前者は３段の波状文が施文され、自然釉が残っている。12は装飾付須恵器の子持壺である。口縁部には櫛描波状文、肩部に刺突列点文がめぐっている。体部は本体に貼り付けた際の指押さえ痕が観察される。13～19は土師器の高坏の身・脚部である。13～15は丸味を帯びて立ち上がるのに対し、16は底部付近で屈曲して外反している。20～25は有段口縁甕、26・27は口縁部が大きく外反する素口縁甕であり、胴部外面にはハケメ調整、内面はヘラケズリ調整が認められる。29・30は甑の把手、31は細粒花崗岩製の砥石、32は安山岩製の敲石である。　（小口）

（３）南谷部包含層の出土遺物（第119～136図、表65～67、PL.21・22、34～39、43・44）

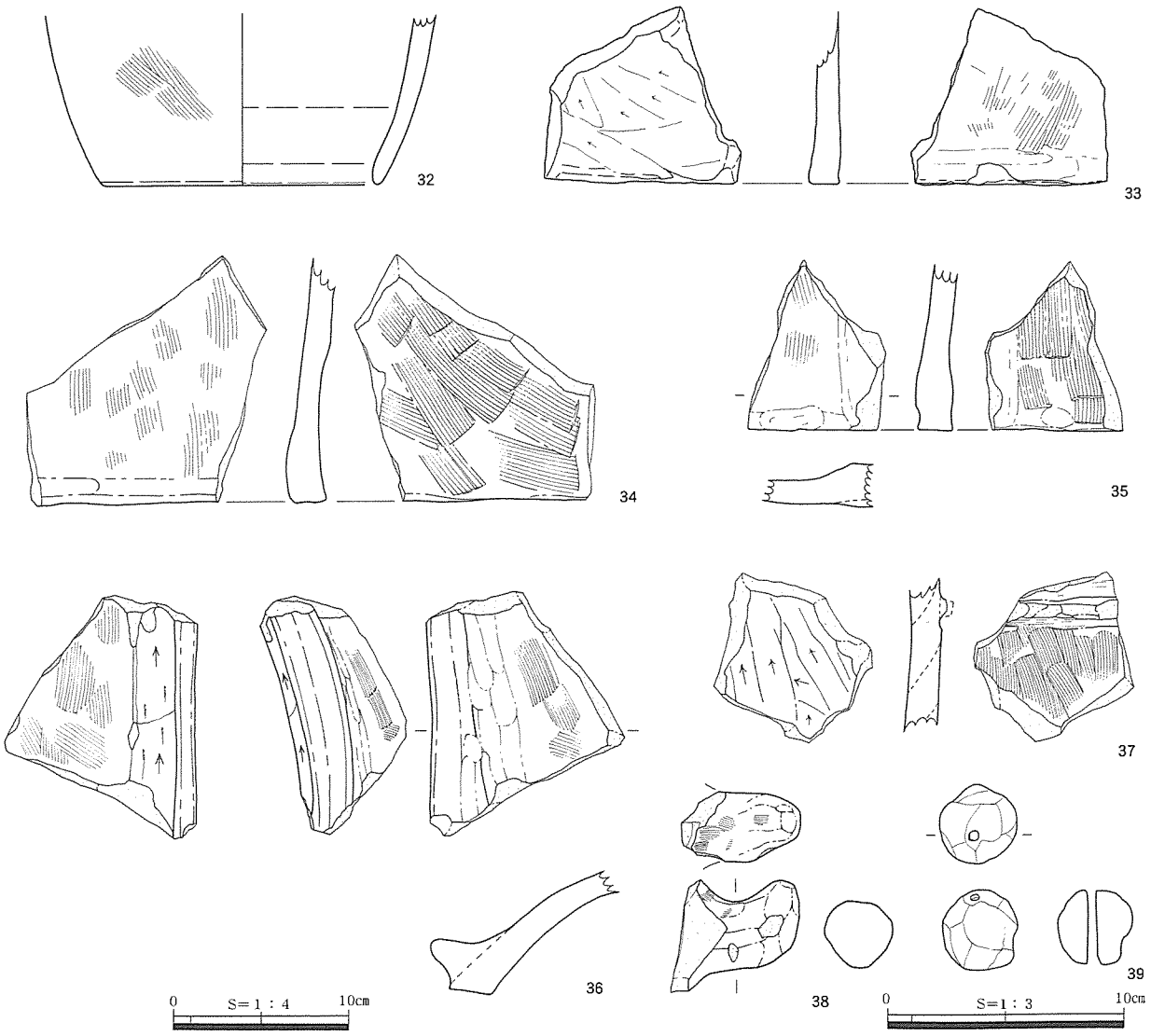
調査方法　南谷部からは、６～７世紀を中心とした遺物が多量に出土した。第３章第１節で述べたように、第Ⅰ～Ⅶ層の堆積が認められ、このうち遺物を包含していたのは第Ⅰ～Ⅳ層の４層までである。

調査に際しては、グリッドをさらに４等分割した５m四方の小グリッドを基本単位とし、各グリッドの北東区をａ、南東区をｂ、南西区をｃ、北西区をｄとした。例えば、L10グリッドの南西区ならば「L10ｃグリッド」と表記する。遺物の出土位置も小グリッド単位で層別に記録して取り上げた。以下、各層の出土遺物の概要を述べるが、鉄製品・鉄滓は第４節で後述する。

第Ⅰ層（茶褐色土層）　第Ⅰ層の茶褐色土層からは、６～８世紀を中心とした遺物のほか（第119・139・140図、PL.34）、近世以降の陶磁器片も一定量含まれていた。摩滅した小破片が多く、第Ⅱ～Ⅳ層に比べて出土量が少ない。須恵器のうち１・２は坏蓋、３・４は坏身、５は高台坏、６は甕である。また土師器の７は鼓形器台の下半部で、唯一古墳前期に属する。８～10は有段口縁甕、11・12は素口縁甕、13は竈である。有孔土玉のうち14は管状、15・16は球状を呈する。　（北島）



第120図　南谷部第Ⅱ層（暗褐色土ａ層）出土遺物（１）



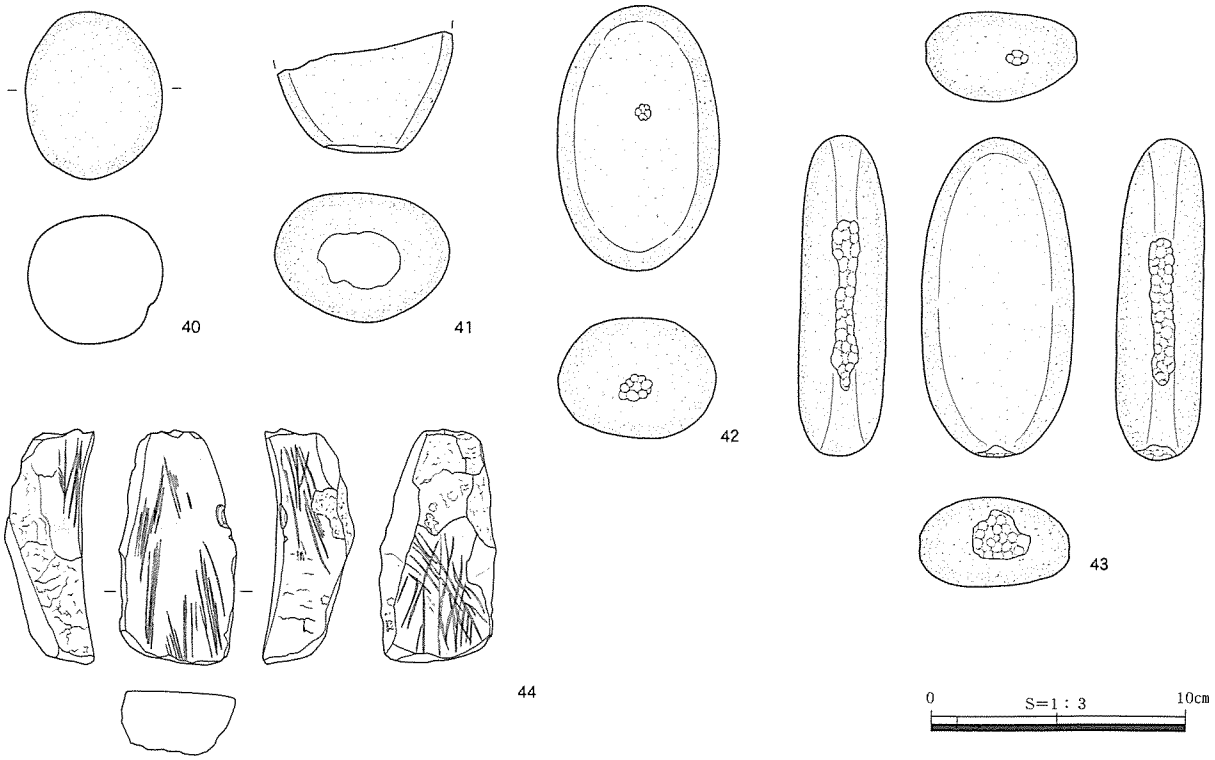
第121図　南谷部第Ⅱ層（暗褐色土ａ層）出土遺物（２）

第Ⅱ層（暗褐色土ａ層）　第Ⅱ層の暗褐色土ａ層からは、須恵器・土師器・有孔土玉・石器・鉄滓が出土した（第120～122・139・140図、PL.35）。

須恵器のうち１～４を坏蓋としたが、４は高坏の坏部の可能性もある。５～７は坏身、８は高坏、９は瓹である。また、土師器のうち、小型甕の10の胴部には焼成前穿孔が施され、須恵器の瓹を模倣した可能性もある。11～14は高坏の坏部か椀とみられる。15は高坏の脚部、16は高坏の坏部である。17～21は脚付椀の脚部とみられるが、21は高坏の可能性もある。土師器の甕のうち、22～26は有段口縁、27～31は素口縁である。32は甑の底部、33～36は竈、38は甑の把手である。このうち34～36はいずれもＬ10ｃグリッドからの出土であり、同一個体であろう。また、37は円筒形の器体に１条の貼付突帯を巡らし、外面にはハケメ、内面はヘラケズリを施すことから、円筒埴輪の可能性がある。39は有孔土玉で球形を呈する。

石器のうち40～42は磨石だが、42は敲石としても用いられており、表・下面に敲打痕が認められる。43は敲石で、上・側・下面に敲打痕が観察できる。砥石の44は、４面の砥面をもつ。　（北島）

第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層）　第Ⅲ層は暗褐色土ｂ層で、須恵器・土師器・有孔土玉・石器・鉄滓が出土した（第123～127・139・140図、PL.36）。第Ⅰ・Ⅱ層に比べると遺物の包含量がかなり多い。



第122図　南谷部第Ⅱ層（暗褐色土ａ層）出土遺物（３）

須恵器の坏蓋には１～６がある。このうち３の天井部にはツマミが付けられていた痕跡があり、高坏とセットとなる可能性が高い。また、５の天井部には環状ツマミが付く。６は坏蓋の口縁部にカエリが付く。７～17は坏身である。このうち7～12はカエリが長いが、７の口唇部が丸みを持つのに対し、８～12の口唇部は面取りされ沈線がめぐる事例もある。一方、13はカエリが短く、口唇部も稜をなす。14ではさらにカエリが短く、器高も小型化する。また17には底部に高台が付く。18・19は高坏の脚部で、透孔を穿つ。18の脚部には１条の沈線が巡る。20は壺、22は甕とみられる。

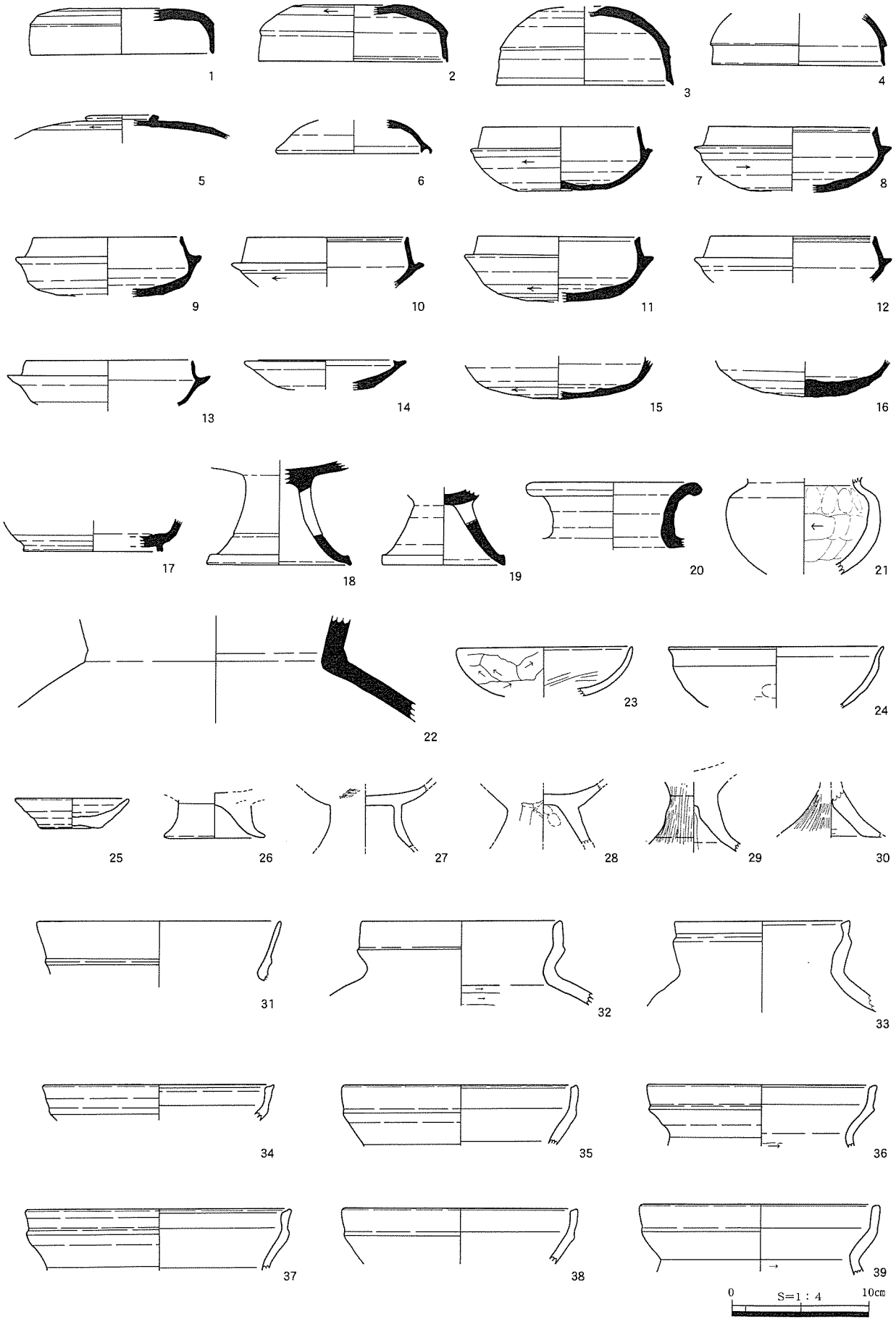
土師器のうち21は小型壺の胴部である。23･24は埦の口縁部である。27～28は脚付埦の脚部である。28～30は高坏の脚部とみられるが、古墳中期のそれと比べて小型化が著しい。31～39は有段口縁の甕である。ただし、31は鼓形器台の可能性もある。40～55は素口縁の甕で、口径が27cmを超える大型品が目立つ。いずれも胴部の張りが弱く、頸部外面の屈曲が弱いのに対して、頸部内面ではシャープな稜をもつ。56～58は竈、59～62は甑の把手である。63～65は有孔土玉で、いずれも球形を呈する。なお、25の土師皿は中世に属するもので、後世の遺物が混入した可能性が高い。

石器には66～80がある。66～68・72・76は磨石で、このうち72・76は敲石としても用いられている。敲石にはさらに69～71･73～75がある。77～79は台石、80は砥石である。　（北島）

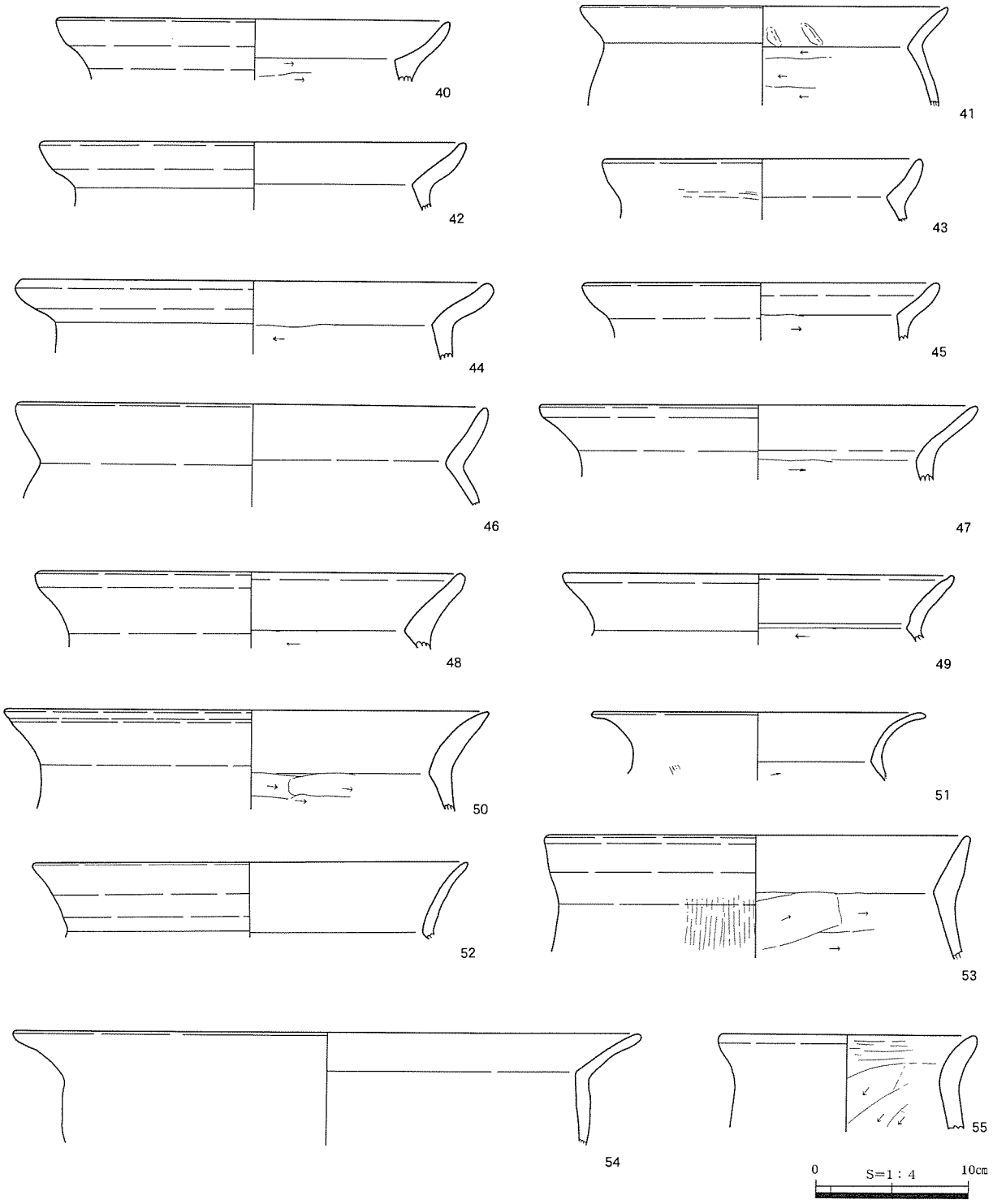
第Ⅳ層（黒褐色土層）　包含層としては最下層となる第Ⅳ層からは、遺物が最も多く出土した。特定の地点から土器が集中的に出土した点も注目される。土器集中ブロック１～３については次項で述べることにし、ここでは包含層出土とした遺物を概観する（第128～131・140図、PL.37・39）。

須恵器（１～20）のうち１～７は坏蓋だが、５は高坏の坏部となる可能性もある。８～12は坏身である。13～15は高坏だが、13が短脚・一段透孔になるのに対し、14・15は長脚・二段透孔とみられる。16は瓶で、胴部中位に波状文を巡らす。20は提瓶で、胴部にカキメを施し、把手が環状となる。

土師器には21～68がある。21・24～27・30は高坏だが、５世紀代のそれと比べて脚高が低く、

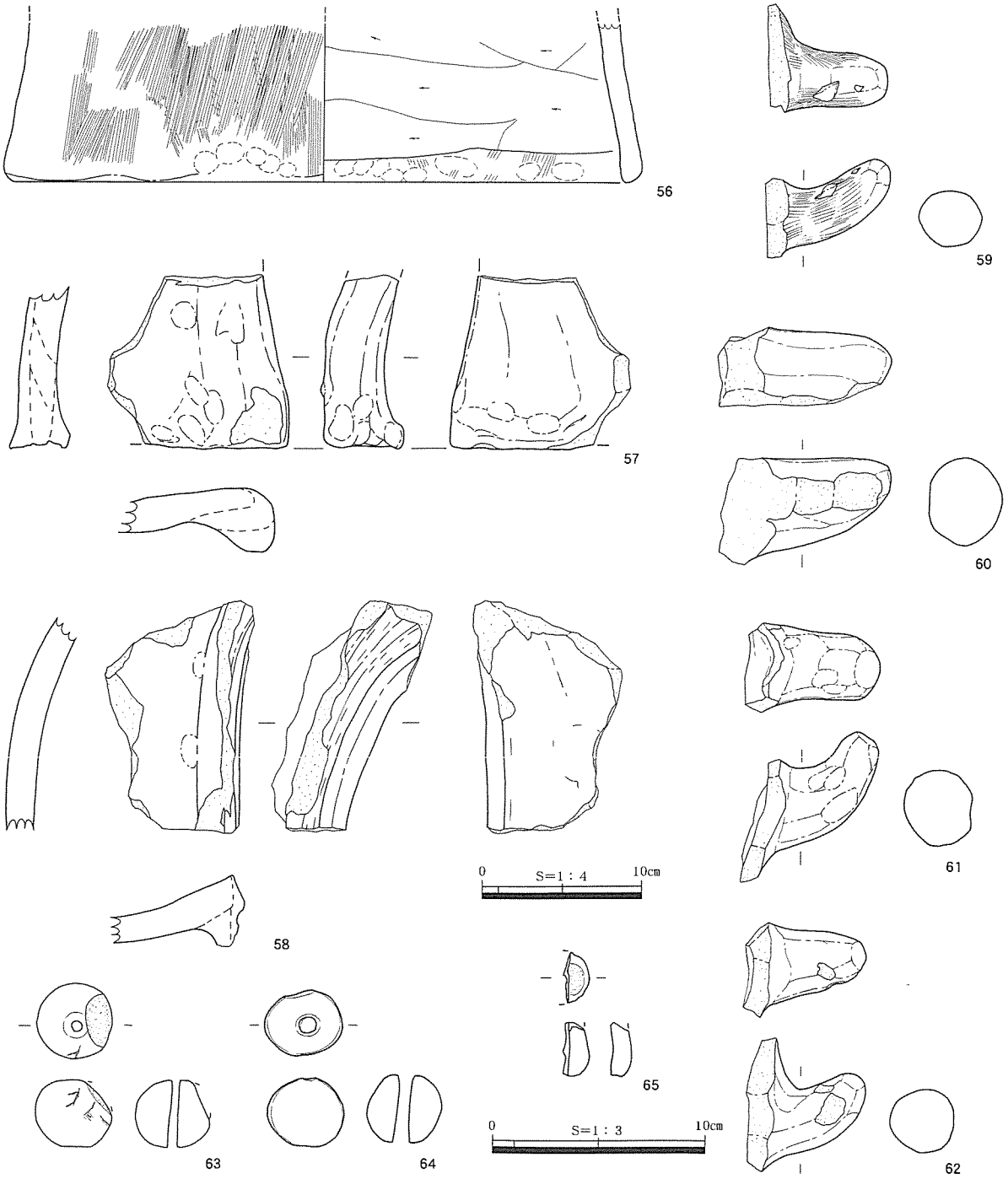


第123図　南谷部第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層）出土遺物（１）



第124図　南谷部第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層）出土遺物（２）

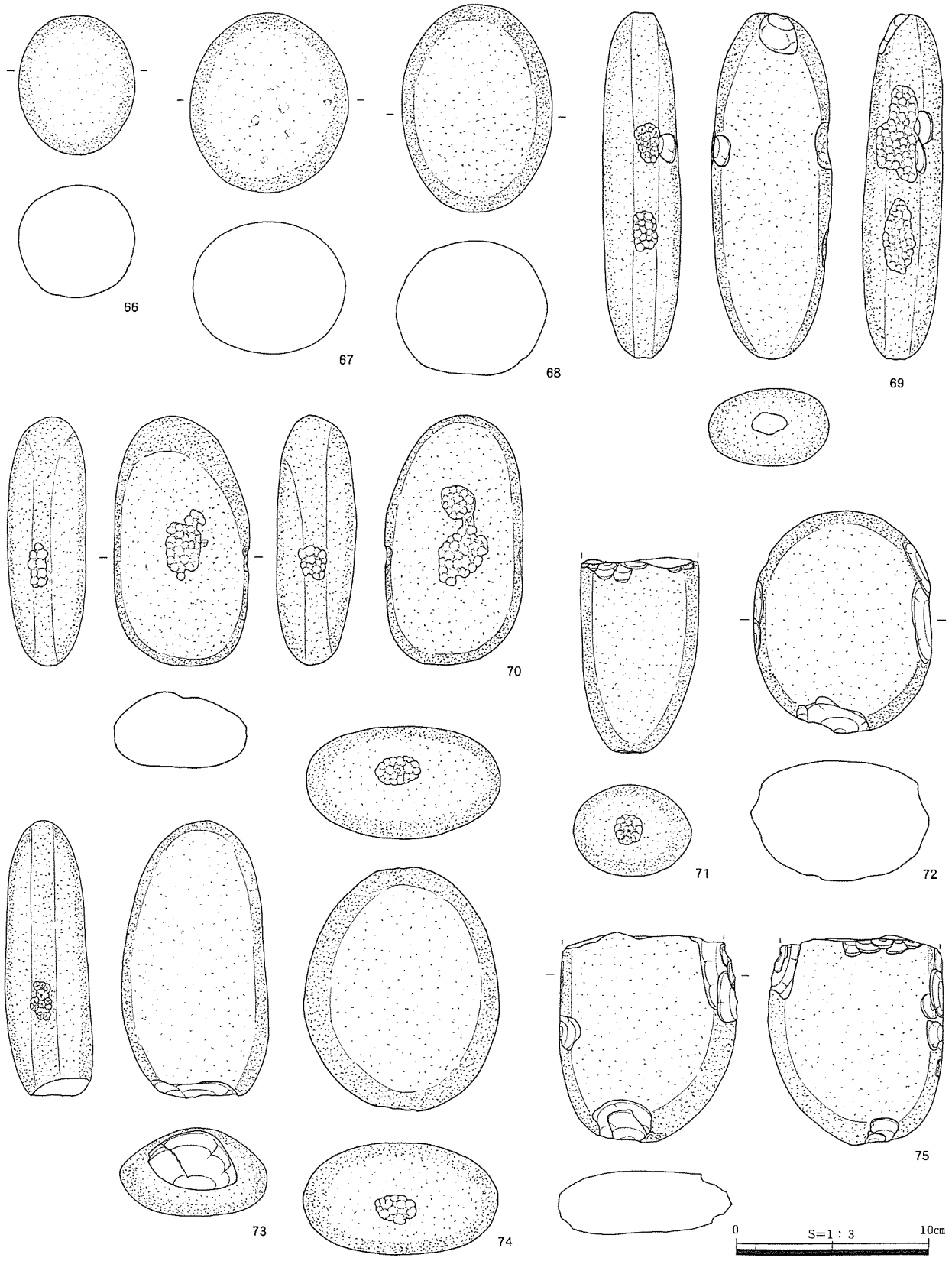
形骸化が著しい。また、30には赤彩が施される。22・28・29・31は脚付椀、23は椀である。有段口縁の甕（32～51）のうち、32だけが弥生終末期に属し、それ以外は、古墳後半期に属する。素口縁の甕（52～59）は、口径が20cm以下の小型品が多い。第Ⅲ層に比べると胴部の張りが強く、頸部外面の屈曲が明確となる一方、頸部内面の稜は不明瞭で、稜の位置も頸部外面の屈曲よりも下方にくる事例が多い。また60は甕の胴上半部で、羽状の刺突文を施す。65～68は甑で、65が底部、66～68が把手である。有孔土玉は69～84の14個がある。69～77が球形、78～84は管状を呈する。



第125図　南谷部第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層）出土遺物（３）

85～87・89・90～93は敲石で、86・91は磨石としても用いられる。88・94は磨石だが、このうち94は円礫の側面に磨面が一周する。95・96は砥石である。（北島）

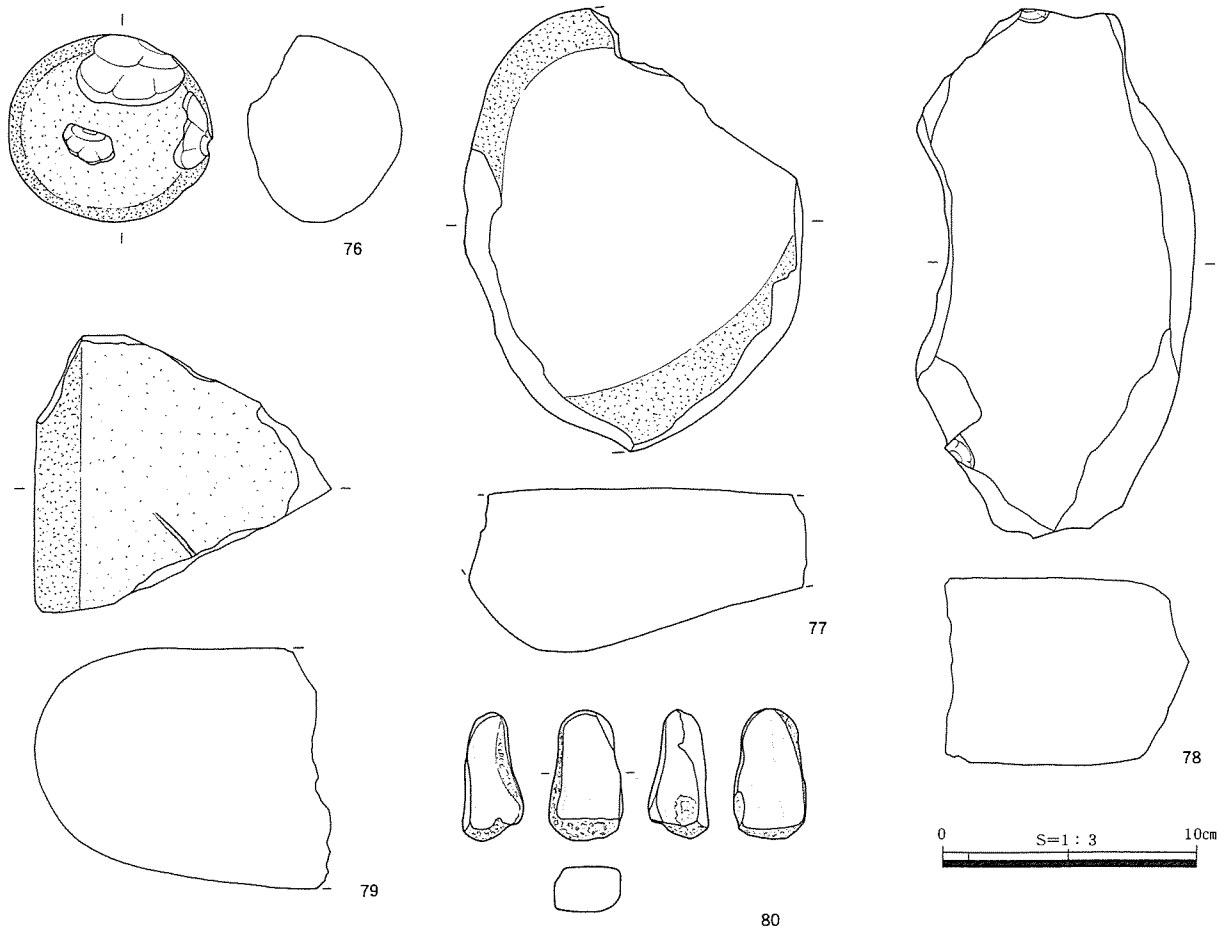
土器集中ブロック１　M10b・ｃグリッドで検出された。土師器・石器・鉄製品が出土し、須恵器は含まれていなかった（第132・133図、巻頭図版１、PL.38）。土師器のうち１は椀、２・３は高坏、４は脚付椀である。高坏の２は明確な段をもち、坏部は比較的浅く、全面赤彩が施される。甕には有段口縁（５～６）と素口縁（７～13）とがある。いずれも胴部は球形を呈する。これらの土器群のうち、甕は口縁部を下に向け、土圧で押しつぶされた状態で発見された。時期は八橋Ⅶ期とみられる。石器には、14・15の敲石、16・17の台石がある。また、この土器集積からは鉄鏃が１点出土している点



第126図　南谷部第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層）出土遺物（４）

も注目される（第140図37）。M10dグリッドの第Ⅱ層（暗褐色土ａ層）からは円筒埴輪の可能性を持つ土師器片も出土しており（第121図37）、何らかの関係をもつかもしれない。　（北島）

土器集中ブロック２　Ｌ９ｄグリッドで検出され、土師器・有孔土玉が出土した（第134図、



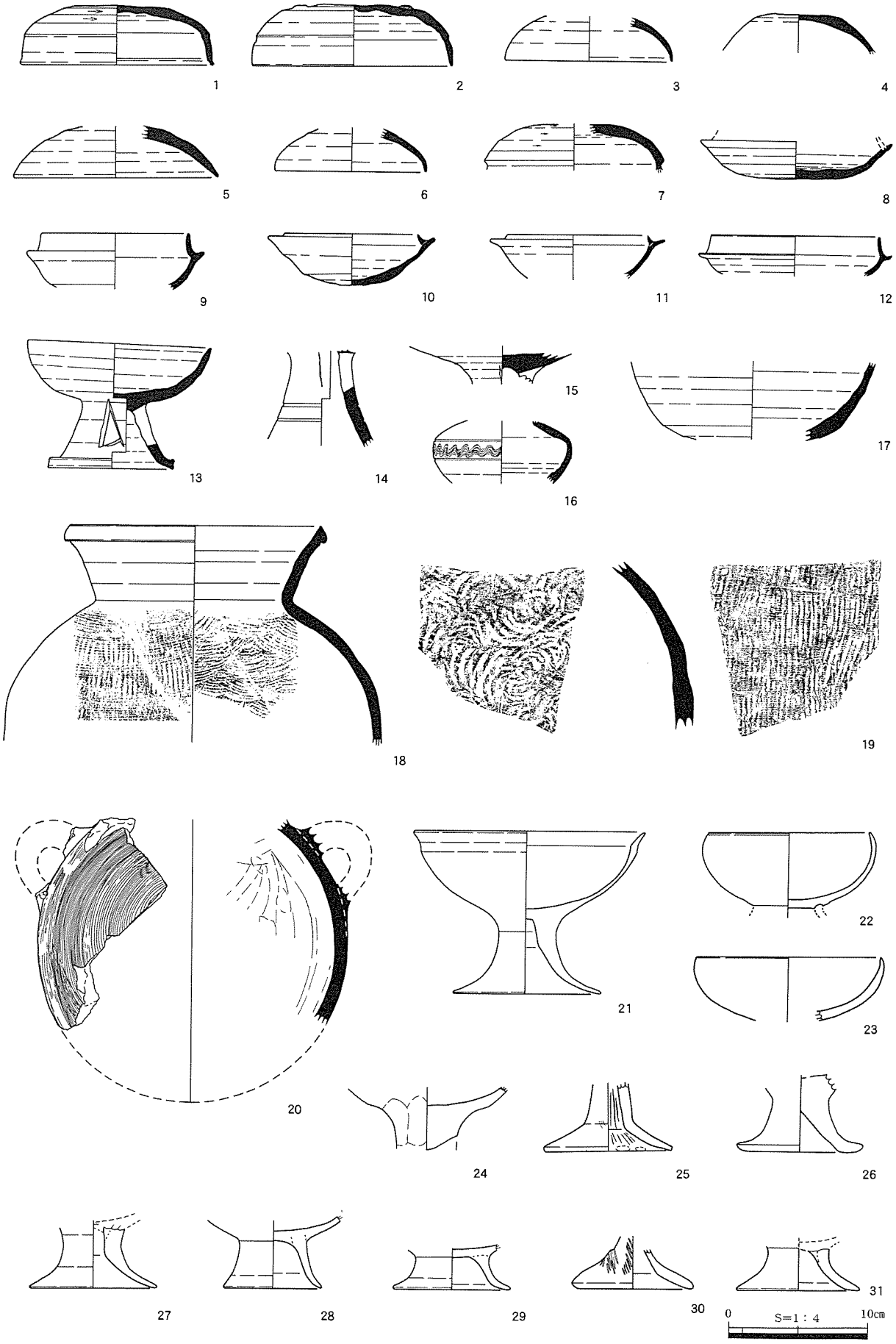
第127図　南谷部第Ⅲ層（暗褐色土ｂ層）出土遺物（５）

PL.22・38)。

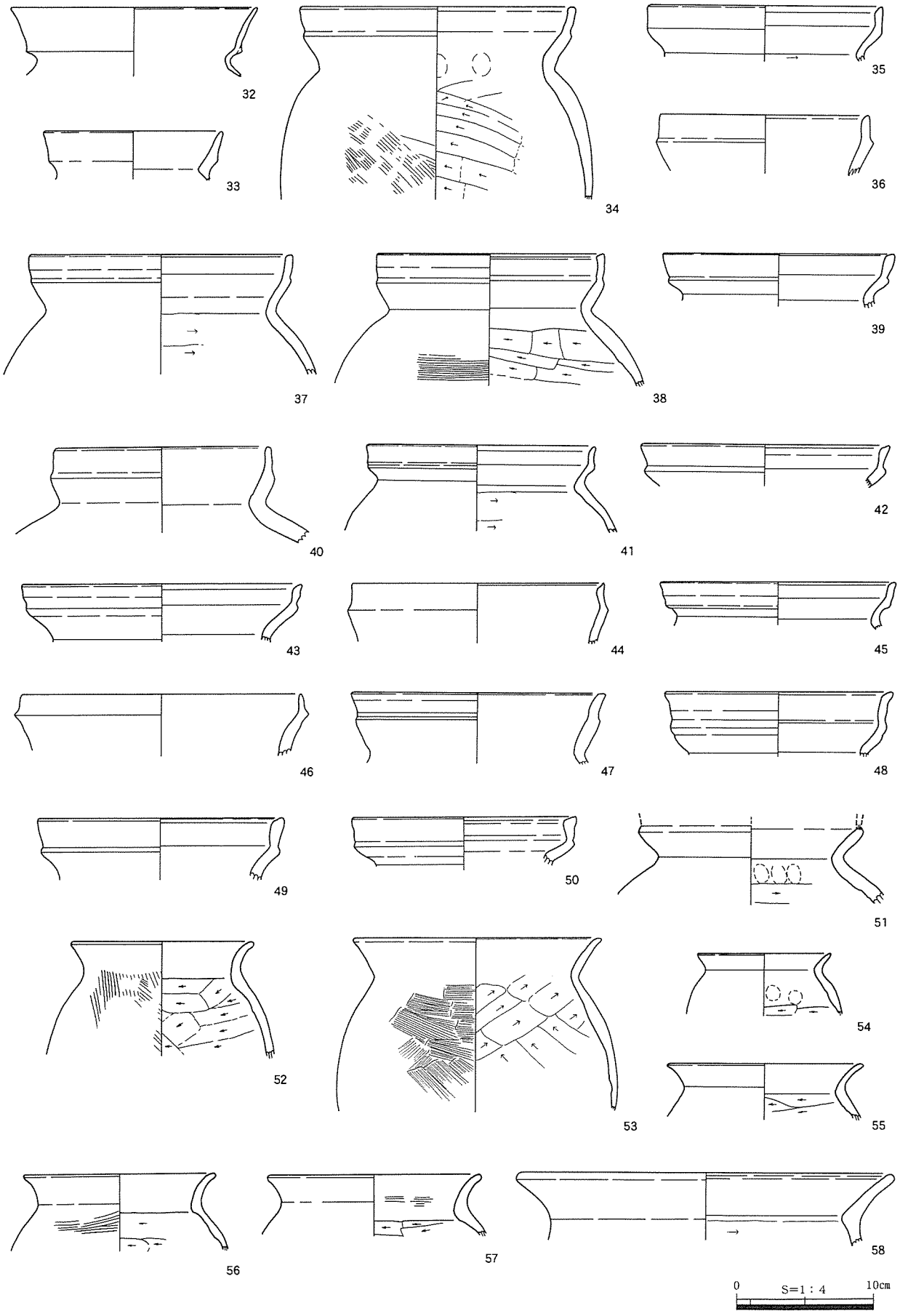
１は高坏で半球形の坏部をもつ。２～６は脚付埦である。７は甕で、胴部の張りが強く球形を呈するが、口縁部を欠く。８は有孔土玉で、球形を呈する。以上の特徴から、この土器集積の年代は八橋Ⅳ～Ｘ期に相当しようか。（北島）

土器集中ブロック３　Ｋ９ｂ・ｃグリッドで検出され、須恵器・土師器・有孔土玉が出土した（第135図、PL.39)。１は須恵器の坏蓋で、小型化が著しい。土師器のうち２・３は脚付埦である。甕は、４が有段口縁となる以外はすべて素口縁であった。10・13・16・17は甑とみられる。14・15は竈である。土器の年代は八橋Ⅸ期を中心とする。石器のうち、19・20は敲石、21は磨石である。この土器集積の北約10ｍにはSI１・２が位置し、年代的にはSI１に近い遺物が多い。そのため、SI１機能時の生活廃材か、あるいは同時期の遺構の存在を見落とした可能性もある。（北島）

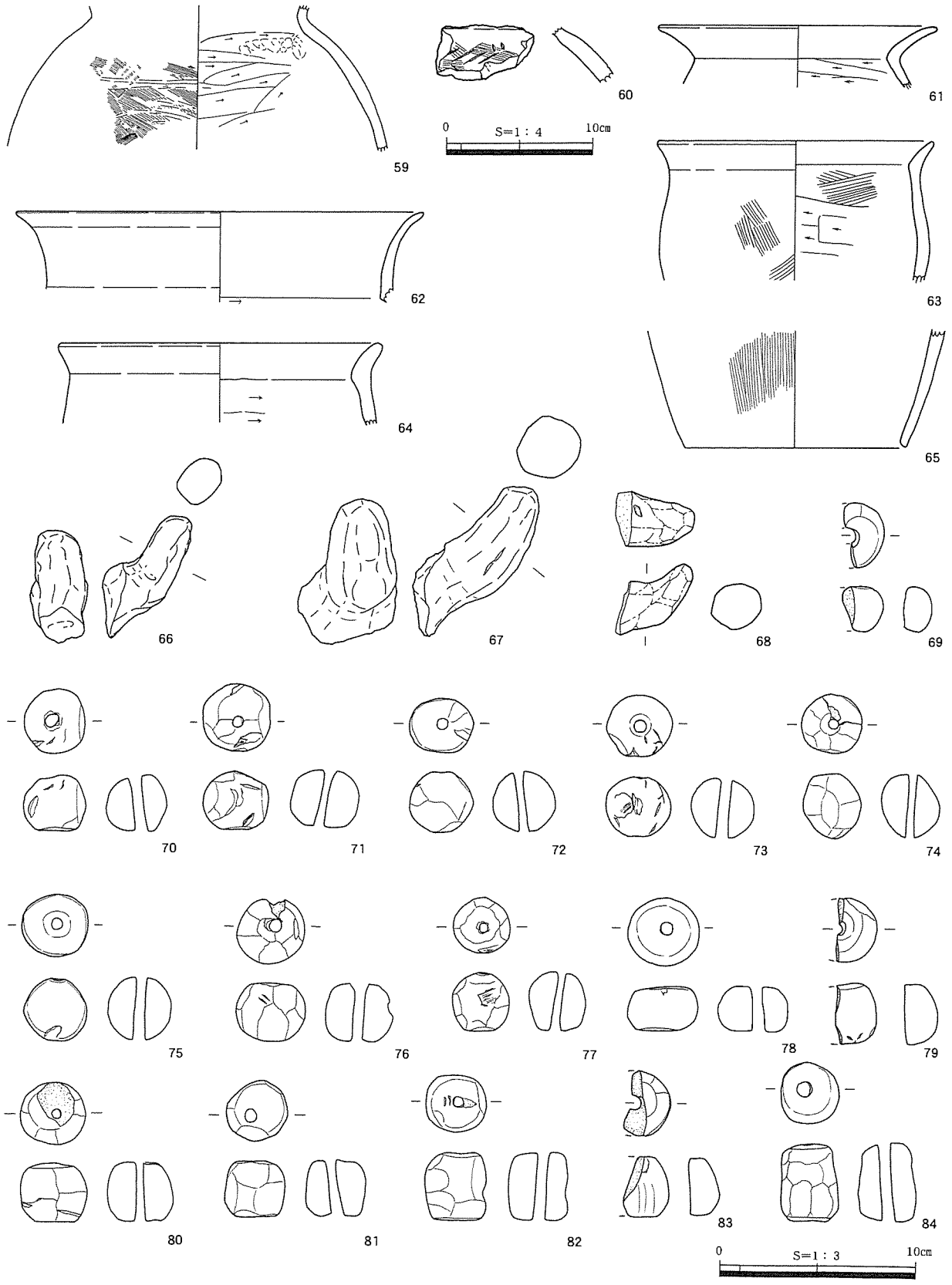
包含層出土遺物（第136図）　１は古墳時代初頭（八橋Ⅱ期）の甑形土器である。外面は縦方向のハケメ、内面はケズリ・ハケメ調整がなされている。２は竈片、３～６は有孔土玉である。７～９は管状土錘であり、表面はナデ調整がなされる。10・11は黒曜石製の剥片であり、後者は側縁部に調整加工が施されている。12は板状安山岩製の打製石斧であり、両側縁部に調整加工を施し、僅かであるが側縁中心に抉りを作出している。表裏面に原礫面を残し、擦痕が観察される。13は安山岩製の磨棒、14･15は同じく安山岩製の礫石錘である。（小口）



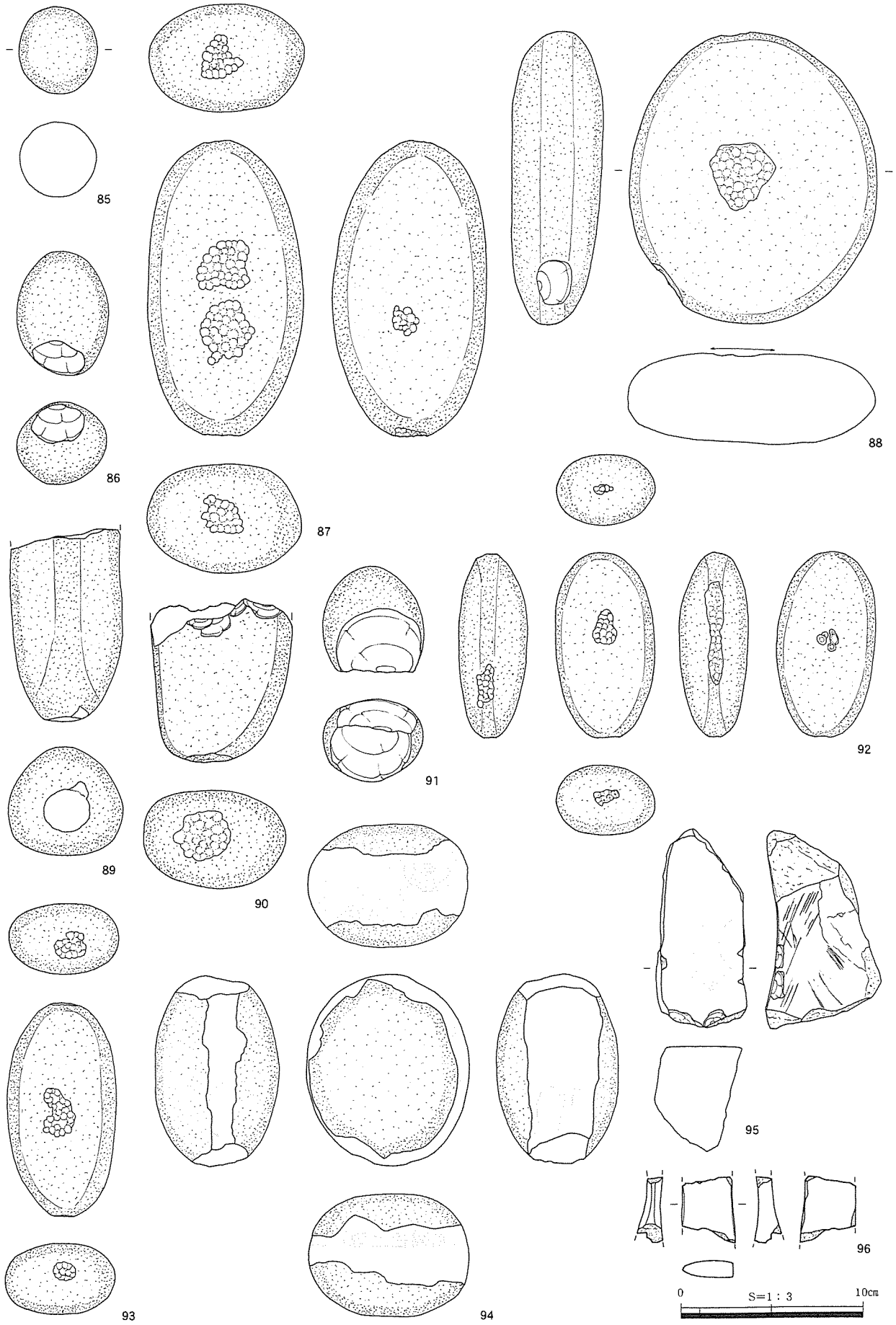
第128図　南谷部第Ⅳ層（黒褐色土層）出土遺物（１）



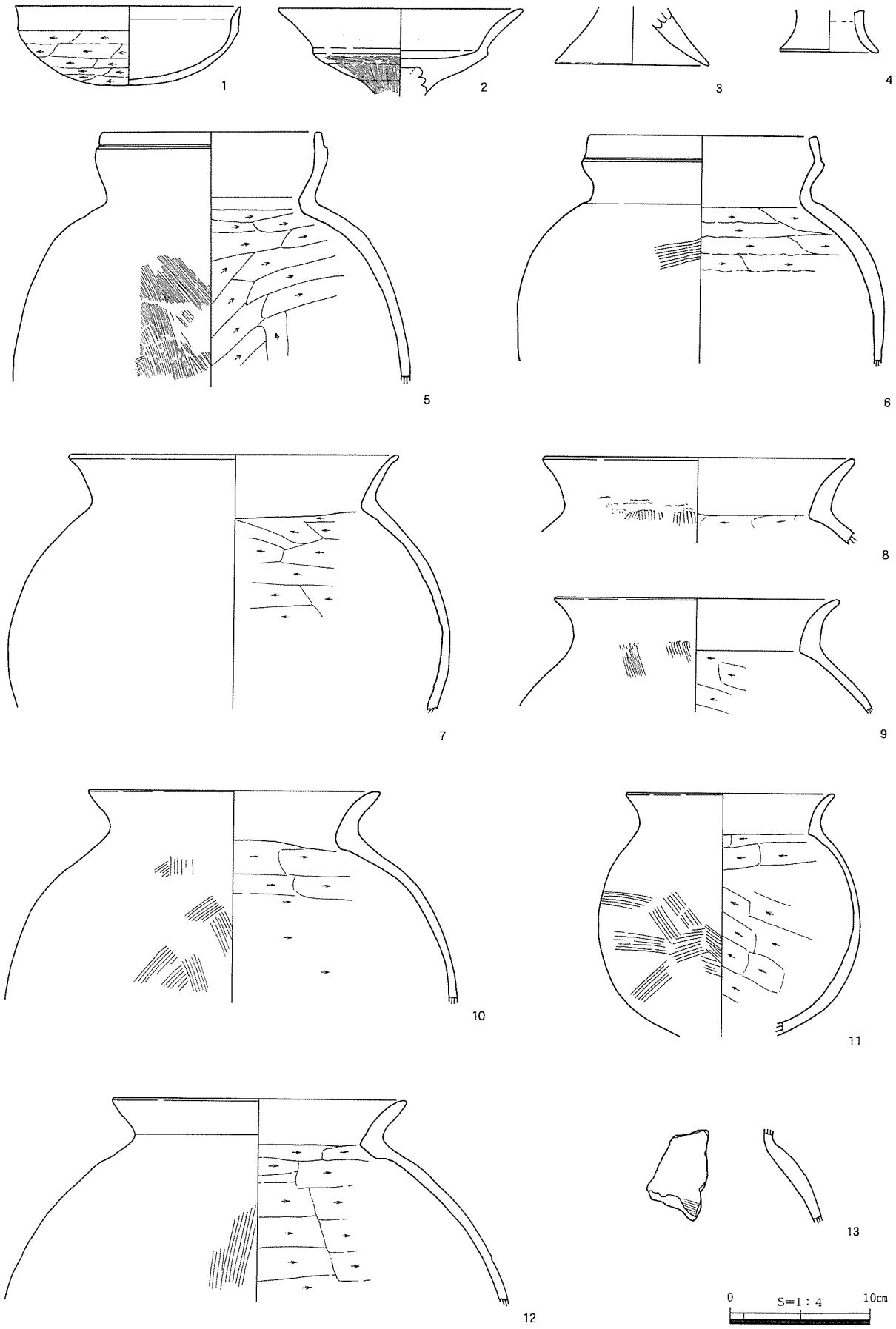
第129図　南谷部第Ⅳ層（黒褐色土層）出土遺物（２）



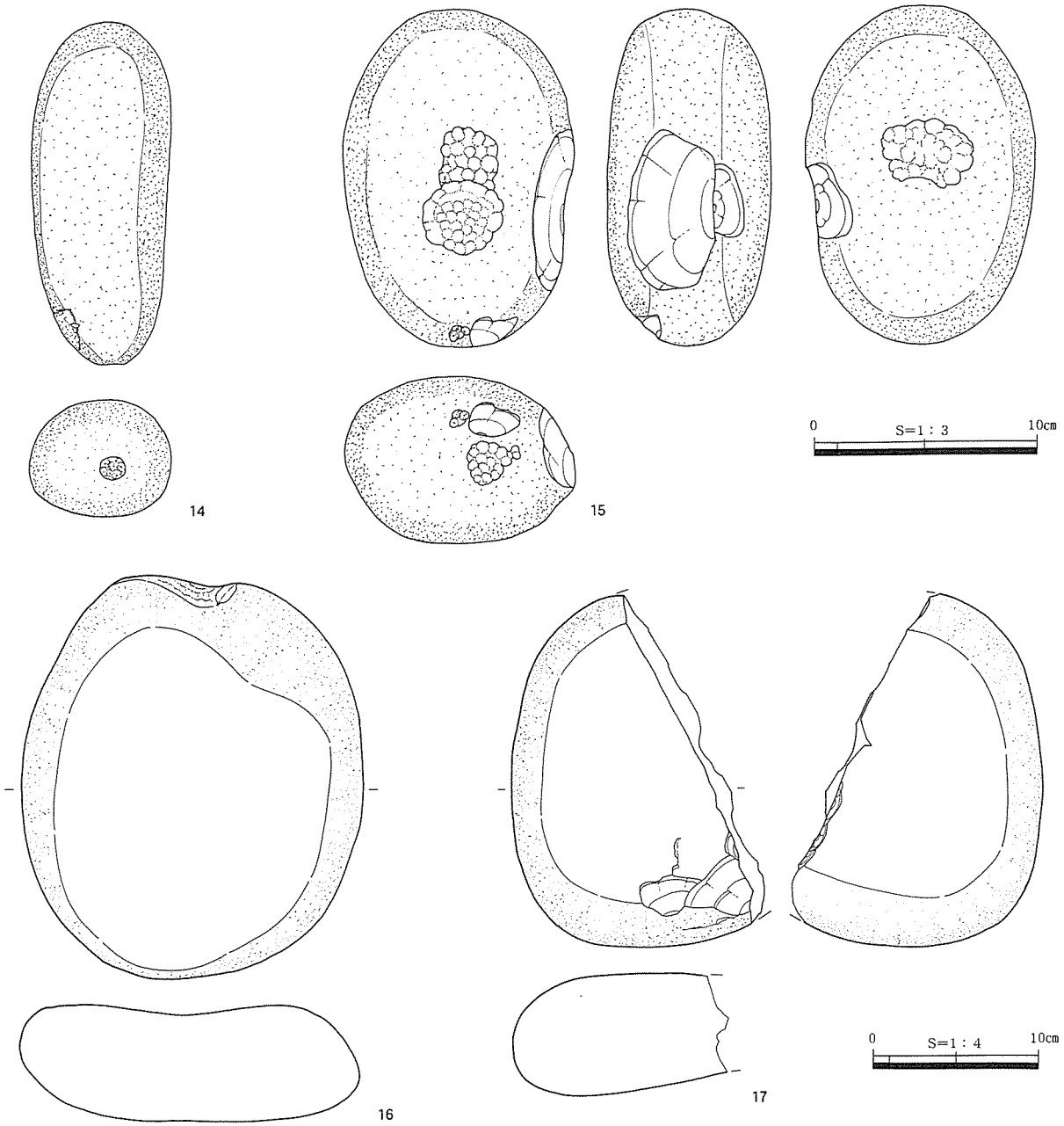
第130図　南谷部第Ⅳ層（黒褐色土層）出土遺物（３）



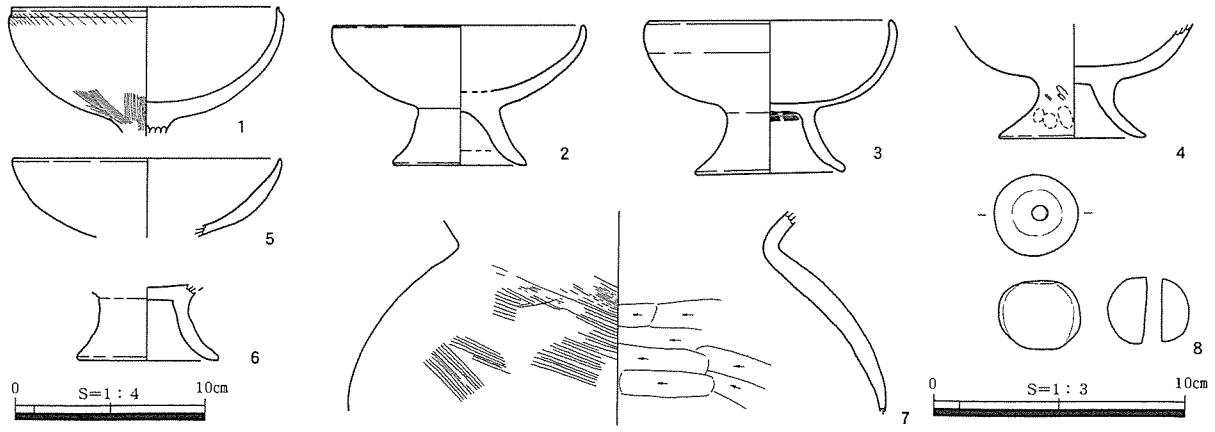
第131図　南谷部第Ⅳ層（黒褐色土層）出土遺物（４）



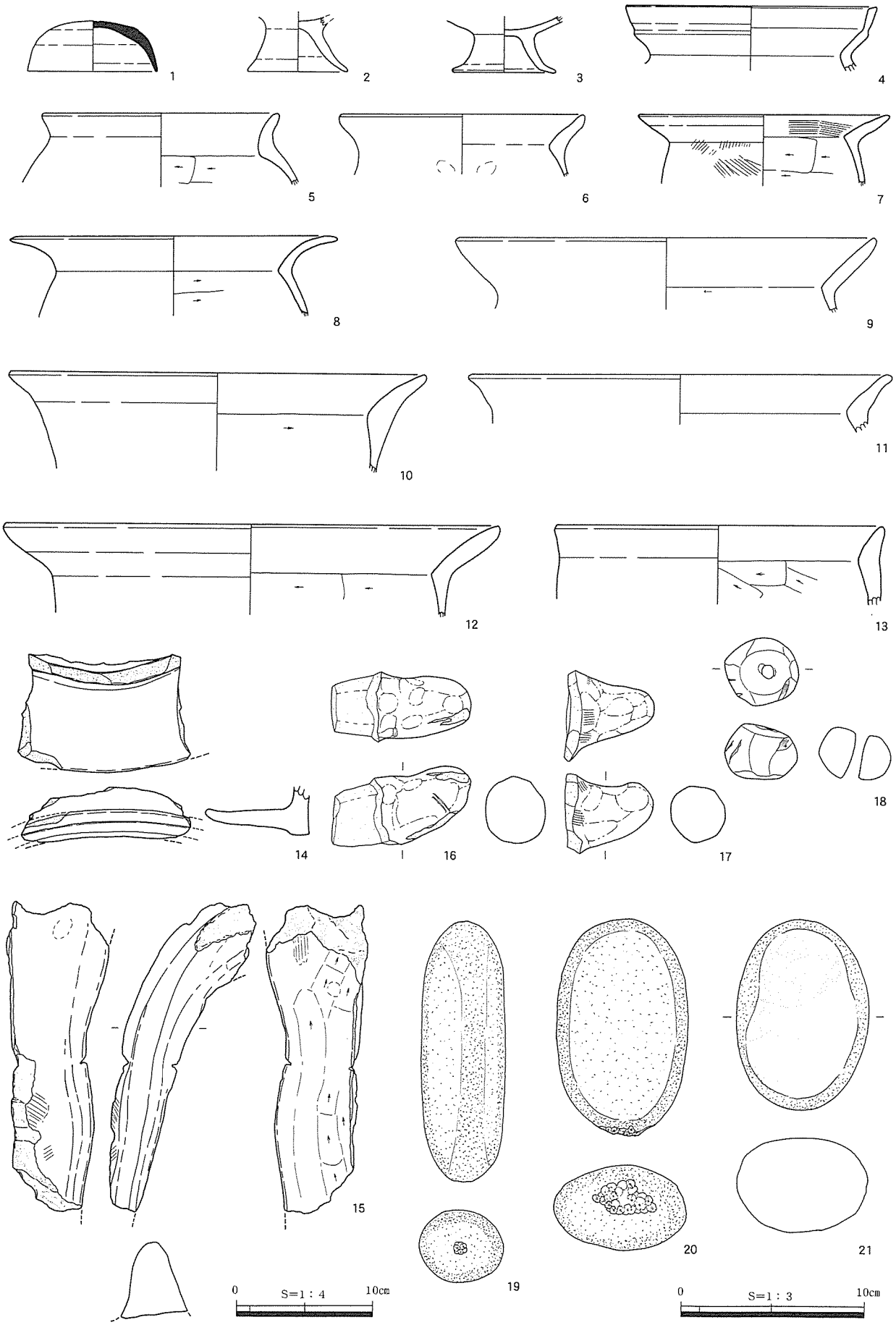
第132図　南谷部土器集中ブロック１出土遺物（１）



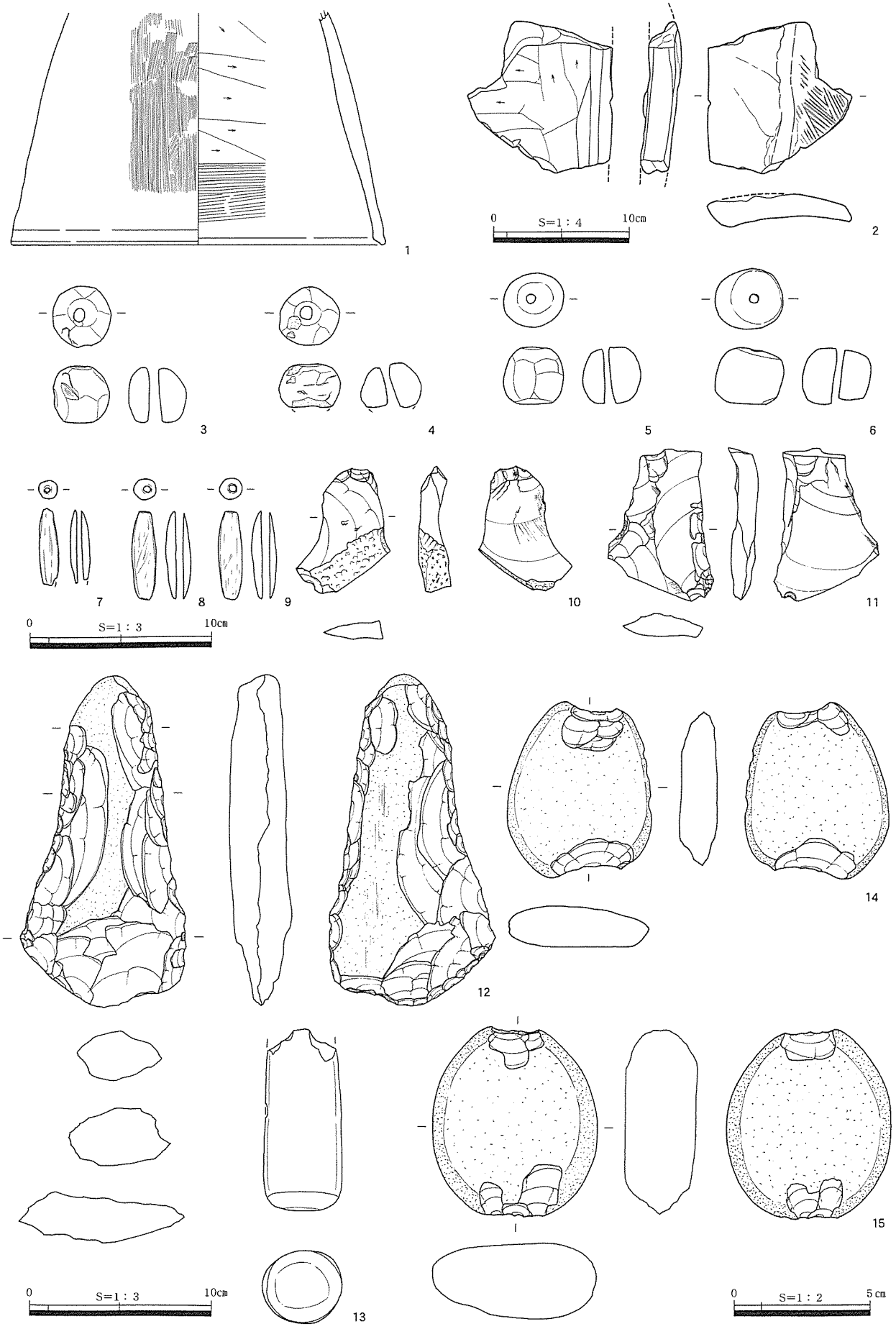
第133図　南谷部土器集中ブロック１出土遺物（２）



第134図　南谷部土器集中ブロック２出土遺物



第135図　南谷部土器集中ブロック３出土遺物



第136図　北谷部・南谷部包含層出土遺物

表63　北谷部包含層出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	E－15 暗褐色土	須恵器 坏蓋	※12.3 △3.8	口縁部1/3	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0mm以下の白色砂粒	外面：黒褐色 内面：赤灰色	堅緻	
2	F－15 暗褐色土	須恵器 坏蓋	※13.0 △2.7	口縁部 1/10	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
3	E－15 暗褐色土	須恵器 坏蓋	※12.8 △3.8	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・石英	外面：灰色 内面：青灰色	堅緻	
4	E－15 暗褐色土	須恵器 坏蓋	※14.6 △4.9	口縁部1/4	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの長石	外面：青灰色 内面：灰色	堅緻	
5	F－15 暗褐色土	須恵器 坏身	※11.7 △4.1	3/5	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　2.0mmの白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.49
6	E－15 暗褐色土	須恵器 坏身	※9.5 △2.6	1/8	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
7	E－15 暗褐色土	須恵器 坏身	※13.7 △	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒・灰色砂粒	外面：淡灰色～緑褐色 内面：淡灰色	堅緻	
8	E－15 暗褐色土	須恵器 高坏	※脚径9.0 △6.5	脚部1/2	外面：回転ナデ、擬似透孔 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
9	E－15 暗褐色土	須恵器 壺	最大径15.6 △8.8	頸部1/8	外面：外面カキメ後、波状文 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：暗灰色 内面：灰色	堅緻	胎土分析No.48
10	E－15 暗褐色土	須恵器 高坏	脚径※12.0 △3.4	1/8	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・黒色粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
11	H－14 暗褐色土	須恵器 甕	－ △8.1	頸部1/10 以下	外面：ナデ沈線、波状文 内面：回転ナデ	密　1.5mmの白色砂粒	外面：暗灰色 内面：灰色	堅緻	
12	E－15 暗褐色土	須恵器 子持壺	最大径5.5 7.8	子壺9/10	外面：回転ナデ、頸部に波状文、胴部中位に2条沈線を挟んで刺突文 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：暗灰色 内面：灰色	堅緻	
13	E－15 暗褐色土	土師器 壺	※12.9 △3.6	口縁部～ 胴部1/7	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：ナデ	密　2.0mm以下の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色～にぶい黄橙色	良好	
14	E－15 暗褐色土	土師器 脚付壺	※16.8 △6.3	口縁部1/4	外面：一部ハケメ 内面：摩滅	密　2.0mmの白色砂粒・石英	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
15	H－16 暗褐色土	土師器 高坏	最大15.0 4.5	坏底部 1/4	外面：ハケメ 内面：ナデ	密　1.0mmの緑石・白色砂粒、2.0mmの赤褐色粒子	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
16	F－15 暗褐色土	土師器 高坏	※16.5 △4.3	口縁部～ 胴部1/6	外面：摩滅のため調整不明、赤色塗彩 内面：ナデ、赤色塗彩	密　0.5～2.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
17	E－15 暗褐色土	土師器 脚付壺	※9.2 △3.5	脚部1/2	外面：指頭圧痕、赤色塗彩 内面：ヘラケズリ、赤色塗彩	密　1.0mm以下の赤褐色粒子	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
18	E－15 暗褐色土	土師器 脚付壺	※8.7 △5.8	底部～脚部 1/3	外面：ナデ 内面：ナデ	密　3.0mm以下の白色砂粒・橙褐色粒子	外面：橙色～にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
19	E－15 暗褐色土	土師器 高坏	※15.8 △12.8	脚部3/4	外面：ハケメ 内面：内面上部ヘラケズリ、下部ハケメ	密　0.5～1.5mmの灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
20	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※33.8 △19.8	口縁部～ 胴上半1/4	外面：ヨコナデ、波状文、ハケメ 内面：ヨコナデ胴部ヘラケズリ	密　1mm以下の赤褐色砂粒・白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
21	E－16 暗褐色土	土師器 甕	※15.6 △5.0	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・灰色砂粒・褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
22	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※17.6 △12.7	口縁部～ 胴部	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0mmの灰色砂粒	外面：にぶい橙色～浅黄褐色 内面：にぶい橙色～灰褐色	良好	
23	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※17.6 △12.7	口縁部～胴 部上半1/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　5.0mm以下のの白色砂礫	外面：橙色～浅黄橙色 内面：橙色～浅黄橙色	良好	
24	H－14 暗褐色土	土師器 甕	※16.5 △7.3	口縁部2/3	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・赤褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
25	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※18.6 △8.0	口縁部～胴 部上半1/3	外面：口縁部ナデ、頸部指頭圧痕、胴部不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0mmの灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	黒斑を有する
26	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※15.6 △4.4	口縁部～ 胴上1/5	外面：風化のため調整不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
27	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※16.6 △9.9	口縁部～ 胴部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0mm以下の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
28	E－15 暗褐色土	土師器 甕	※19.9 △5.3	口縁部～胴 部上半1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mm以下の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
29	E－16 黒褐色土	土師器 甑	－ △7.0	把手1/1	外面：ナデ 内面：摩滅	密　1.0mmの白色砂粒・暗褐色砂粒・雲母	外面：にぶい浅黄色 内面：にぶい黄橙色	良好	
30	E－15 暗褐色土	土師器 甑	－ △5.6	把手4/5	外面：ナデ 内面：－	密　白色砂粒・灰色砂粒・雲母	外面：にぶい黄橙色 内面：－	良好	

表64　北谷部包含層出土石器観察表

遺物No.	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
31	E－15	暗褐色土	砥石	細粒花崗岩	12.1	13	3.3	550	砥面数1
32	E－15	暗褐色土	敲石	安山岩	14.5	5.8	3.8	440.0	下面剥離痕

表65　南谷部包含層出土土器観察表

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	M－9－d 茶褐色土	須恵器 坏蓋	※11.1 △3.8	1/4	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ 内面：回転ナデ、内面にヘラ記号「－」	密　1.0mmの白色砂粒・灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	
2	L－11－a 茶褐色土	須恵器 坏蓋	※10.9 △3.2	1/4	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ・ヘラギリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
3	M－10－c 茶褐色土	須恵器 坏身	※12.2 △3.9	口縁部1/4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの暗褐色粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
4	L－12－d 茶褐色土	須恵器 坏身	9.4 3.7	3/5	外面：回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒、0.5mmの暗褐色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
5	東西TR 茶褐色土	須恵器 高台坏	－ △2.8	底部1/4	外面：回転ナデ、底部回転糸切り後に高台接合 内面：回転ナデ	密　1.0mm以下の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
6	L－12－d 茶褐色土	須恵器 甕	※18.6 △5.4	口縁部1/6	外面：回転ナデ、浅い沈線3条 内面：回転ナデ、ユビオサエ	密　1.0mm以下の白色砂粒・黒褐色砂粒	外面：暗灰色 内面：暗灰色	堅緻	
7	L－9－b 茶褐色土	土師器 器台	※17.0 △4.2	脚部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヘラケズリ	密　1mm白色砂粒・雲母	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
8	J－10 茶褐色土	土師器 甕	※13.8 △3.3	口縁部1/9	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
9	L－10－b 茶褐色土	土師器 甕	－ △5.1	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ	密　2.0～3.0mmの白色砂礫	外面：灰白色～浅黄橙色 内面：灰白色～浅黄橙色	良好	
10	L－9－b 茶褐色土	土師器 甕	※11.5 △3.1	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2～3mmの白色砂粒	外面：橙色～にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色	良好	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
11	J－10 茶褐色土	土師器 甕	※13.2 △3.3	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい橙色～にぶい褐色 内面：にぶい橙色～にぶい褐色	良好	
12	J－9 茶褐色土	土師器 甕	－ △5.2	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜以下の石英・輝石	外面：にぶい橙色～にぶい赤褐色 内面：にぶい橙色～にぶい赤褐色	良好	
13	M－9－d 茶褐色土	土師器 甕	－ △6.3	底部1/10	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰白色～浅黄色 内面：灰白色～浅黄色	良好	
1	L－11－d 暗褐色土a	須恵器 坏蓋	※14.9 △3.8	口縁部 1/10	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	L－11－c 暗褐色土a	須恵器 坏蓋	※12.2 △3.8	1/6	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ、肩部に沈線 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の黒褐色砂粒・白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.46 自然釉付着
3	L－11－a 暗褐色土a	須恵器 坏蓋	－ △2.7	天井部1/3	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・石英	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
4	J－11－a 暗褐色土a	須恵器 坏蓋	－ △3.2	天井部1/3	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
5	L－11－b 暗褐色土a	須恵器 坏身	※10.6 △3.7	口縁部～ 体部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の黄褐色砂粒・白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	不良	焼成が甘く土師質である
6	L－11－d 暗褐色土a	須恵器 坏身	※10.7 △4.0	坏部1/8	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の長石	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
7	K－11－c 暗褐色土a	須恵器 坏身	※15.6 △1.8	口縁部1/4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
8	L－10－d 暗褐色土a	須恵器 高坏	－ △5.1	脚部1/2	外面：回転ナデ、透孔１個所 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
9	L－11－b 暗褐色土a	須恵器 甕	－ △4.2	胴部1/8	外面：2条の沈線を挟んで刺突列点文 内面：回転ナデ	密　1.0㎜以下の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
10	L－11－c 暗褐色土a	土師器 小型甕	－ △7.4	胴部1/5	外面：胴部上半をヨコナデ、下半はハケメ。胴部中位に焼成前穿孔 内面：胴部上半ユビオサエ、下半はヘラケズリ	密　2.5㎜の石英	外面：灰色 内面：灰色	良好	ハソウを模倣した可能性あり。
11	M－10－d 暗褐色土a	土師器 坏身	※16.4 △3.5	口縁～胴部 1/3	外面：風化により調整不明 内面：風化により調整不明	密　2.0㎜以下の白色砂粒・輝石・赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
12	L－10－d 暗褐色土a	土師器 坏身	※14.0 △4.3	口縁部～ 胴部1/5	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ 内面：丁寧なナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい浅黄橙色～黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色～黄橙色	良好	
13	L－11－c 暗褐色土a	土師器 埦	※13.1 △6.0	口縁部 1/2	外面：ナデ、ハケメ 内面：ナデ	密　1～2㎜の長石・砂礫含む0.5㎜の黒色粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
14	L－11－c 暗褐色土a	土師器 埦	※12.8 △4.9	口縁部 1/3	外面：風化のため調整不明 内面：風化のため調整不明	密　1.0～2.0㎜の赤褐色粒・灰色砂粒、輝石	外面：橙色 内面：橙色	良好	煤付着
15	M－10－c 暗褐色土a	土師器 高坏	※9.6 △6.6	脚部 2/3	外面：ナデ 内面：ナデ	密　1.0㎜以下の白色砂粒、長石・輝石	外面：橙色 内面：橙色～黄橙色	良好	
16	L－11－c 暗褐色土a	土師器 高坏	※11.7 △4.9	口縁部 1/3	外面：口縁部ナデ、指頭圧痕、底部ケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、	密　1.0～2.0㎜の輝石	外面：橙色 内面：橙色	良好	
17	L－11－d 暗褐色土a	土師器 脚付埦	－ △3.5	脚部1/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～2.0㎜の長石・石英	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
18	L－11－a 暗褐色土a	土師器 脚付埦	－ △3.4	脚部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～5.0㎜の赤褐色粒 0.5㎜以下の石英	外面：黒褐色 内面：橙色	良好	
19	L－11－b 暗褐色土a	土師器 脚付埦	－ △3.4	脚部4/5	外面：ヨコナデ、ヘラナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～3.0㎜白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
20	L－11－d 暗褐色土a	土師器 脚付埦	－ △2.8	脚部4/5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.0～4.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒・長石	外面：橙色 外面：赤褐色	良好	
21	L－11－d 暗褐色土a	土師器 脚付埦	－ △4.4	脚部4/5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　5.0㎜以下の石英・長石・輝石・雲母	外面：橙色 内面：橙色	良好	
22	L－11－a 暗褐色土a	土師器 甕	※11.3 △4.2	口縁部 1/10以下	外面：口縁部ヨコナデ、擬似透孔 内面：口縁部ヨコナデ	密　1.0㎜～2.0㎜の石英	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
23	L－11－d 暗褐色土a	土師器 甕	※15.5 △4.5	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ナデ胴部上半ヘラケズリ	密　5.0㎜以下の石英・輝石・長石・淡褐色粒	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
24	L－11－c 暗褐色土a	土師器 甕	※17.2 △5.5	口縁部1/7	外面：ヨコナデ 体部：口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ	密　0.5～2㎜の輝石、1～1.5の石英・長石	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
25	L－10－d 暗褐色土a	土師器 甕	※14.5 △7.6	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい浅黄色 内面：にぶい浅黄色	良好	
26	L－11－b 暗褐色土a	土師器 甕	※6.7 △15.9	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	密　1.0～2.0㎜の長石・白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
27	L－11－c 暗褐色土a	土師器 甕	※12.9 △9.2	口縁部～胴 部上半1/3	外面：口縁部ヨコナデ胴部ハケメ 内面：ナデ胴部上半ヘラケズリ	密　4.0㎜以下の白色砂粒・2.0㎜の長石・輝石	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	良好	胴部煤付着
28	M－11－a 暗褐色土a	土師器 甕	※18.6 △9.5	口縁～胴部 1/6	外面：口縁部ヨコナデ、胴部風化のため調整不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜以下の長石、赤褐色粒子、輝石	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
29	K－8－d 暗褐色土a	土師器 甕	※24.0 △4.8	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜以下の白色砂礫・長石	外面：橙～浅黄橙色 内面：橙～浅黄橙色	良好	
30	L－10－d 暗褐色土a	土師器 甕	※31.5 △4.2	口縁部 1/10以下	外面：口縁部ヨコナデ 内面：ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0㎜の輝石	外面：橙色～明褐色 内面：橙色～明褐色	良好	
31	K－8－d 暗褐色土a	土師器 甕	※17.8 △2.8	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜以下の石英・長石・輝石	外面：赤褐色 内面：赤褐色	良好	
32	L－12－c 暗褐色土a	土師器 甑	－ 15.5	底部の1/6	外面：ハケメ 内面：摩滅のため、調整不明	密　2.0㎜以下の白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
33	L－12－b 暗褐色土a	土師器 甕	－ △10.0	底部1/10 以下	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　0.5～3.0㎜の白色・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
34	L－10－c 暗褐色土a	土師器 甕	－ △14.0	焚口部	外面：ハケメ・ナデ、焚口部端面をヘラケズリ 内面：ハケメ	密　2.5㎜の白色砂粒・石英・雲母・赤褐色粒子	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい浅黄色	良好	35・36とは同一個体とみられる。
35	L－10－c 暗褐色土a	土師器 甕	－ △9.6	焚口部	外面：ハケメ・ナデ、焚口部端面をヘラケズリ 内面：ハケメ	密　2.5㎜の白色砂粒・石英・雲母・赤褐色粒子	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	34・36とは同一個体とみられる。
36	L－10－c 暗褐色土a	土師器 甕	－ △13.8	焚口部	外面：ハケメ・ナデ、焚口部端面をヘラケズリ 内面：ハケメ	密　2.5㎜の白色砂粒・石英・雲母・赤褐色粒子	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	34・35とは同一個体とみられる。
37	M－10－d 暗褐色土a	埴輪？	－ △8.7	胴部1/10 以下	外面：ハケメ後に突帯を貼付け、その周囲をヨコナデ 内面：ヘラケズリ	密　3.0㎜以下の石英・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい橙褐色 内面：にぶい橙褐色	良好	
38	L－11－b 暗褐色土a	土師器 甑	－ △6.5	把手1/1	外面：ナデ、一部ハケメ 内面：摩滅のため、調整不明	密　1.0㎜の白色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙褐色 内面：橙褐色	良好	
1	K－7－b 暗褐色土b	須恵器 坏蓋	※13.3 △3.3	口縁部1/6	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
2	M－10－c 暗褐色土b	須恵器 坏蓋	※13.8 △3.2	1/4	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0㎜以下の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
3	L－9－b・d 暗褐色土b	須恵器 坏蓋	※13.0 △5.7	1/2	外面：回転ナデ、天井部にツマミ部接合後に回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子（痕を引く）	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	胎土分析No.47 ツマミを欠く。
4	L－11－d 暗褐色土b	須恵器 坏蓋	※12.7 △3.8	口縁部1/8	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0～3.0㎜の長石	外面：青灰色 内面：灰色	堅緻	
5	K－12 暗褐色土b	須恵器 坏蓋	－ △1.6	天井部1/3	外面：回転ナデ後、天井部を回転ヘラケズリ、高台接合後、ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の灰色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
6	L－9－c 暗褐色土b	須恵器 坏蓋	※11.4 △2.4	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
7	J－10 暗褐色土b	須恵器 坏身	※11.3 △4.7	1/2	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.5㎜以下の暗黄褐色粒子、1.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
8	K－10－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	※12.2 △4.8	1/4	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
9	L－9－d 暗褐色土b	須恵器 坏身	※11.8 △4.8	1/2	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.5㎜の白色砂粒・灰色砂粒・黒斑状粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.45 鳥越山産？
10	K－10－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	※12.0 △3.7	口縁部1/6	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子（痕を引く）	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
11	M－10－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	※10.8 △4.4	口縁部1/5	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
12	K－10－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	※12.2 △3.4	口縁部1/6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰色	堅緻	
13	L－8－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	※12.3 △3.4	口縁部 1/10	外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0～3.0㎜の長石	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
14	M－10－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	※10.0 △2.2	口縁部 1/10	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、内面ヘラ記号	密　1.0㎜の黒色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
15	K－10－a 暗褐色土b	須恵器 坏身	－ △3.2	底部1/3	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ、底部に同心円文	密　1.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子（痕を引く）	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	鳥越山産？
16	L－10－b 暗褐色土b	須恵器 坏身	－ △2.6	底部1/3	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒斑状粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
17	L－5－d 暗褐色土b	須恵器 高台坏	－ △2.2	底部1/4	外面：回転ナデ、底部ヘラケズリ後に高台接合 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒褐色粒子・光沢細砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
18	J－11 暗褐色土b	須恵器 高坏	脚径※10.7 △10.7	脚部1/3	外面：回転ナデ後、透孔穿孔、脚部中位に沈線1条 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
19	K－9－c 暗褐色土b	須恵器 高坏	脚径※9.0 △5.5	脚部1/3	外面：回転ナデ後、透孔穿孔 内面：回転ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・黒色砂粒	外面：灰色 内面：灰色～灰黄色	堅緻	
20	L－10－b 暗褐色土b	須恵器 壺	※13.0 △4.8	口縁部1/4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
21	L－11－b 暗褐色土b	土師器 小型壺	胴部径11.3 △7.2	胴部1/5	外面：摩滅のため、調整不明 内面：胴部上半ユビオサエ、下半はヘラケズリ	密　2.0㎜以下の白色砂粒・暗褐色粒子・雲母	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
22	K－5－b 暗褐色土b	須恵器 甕	※20.8 △6.3	口縁部～ 胴部1/6	外面：タタキメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部青海波文	密　5.0㎜以下の白色砂粒	外面：暗青灰色 内面：暗青灰色	堅緻	
23	K－9－c 暗褐色土b	土師器 塊	※12.9 △3.6	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の長石・石英	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄色	良好	
24	M－10－d 暗褐色土b	土師器 塊	※15.6 △4.5	口縁部～ 胴部1/2	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面：ナデ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒・淡赤褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	黒斑あり
25	K－7－c 暗褐色土b	土師器 小皿	※8.3 △2.2	1/1	外面：回転ナデ、底部回転糸切 内面：回転ナデ	密　0.5㎜の白色砂粒、2.0㎜以下の赤褐色粒子	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好	
26	M－10－c 暗褐色土b	土師器 脚付塊	－ △3.4	脚部4/5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜の白色砂粒、0.5～2.5㎜の赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
27	J－9－d 暗褐色土b	土師器 脚付塊	※8.4 △4.5	底部～脚部 1/4	外面：ナデ 内面：ナデ	密　4.0㎜の白色砂礫	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
28	L－9－a 暗褐色土b	土師器 脚付塊	※8.0 △4.0	脚部1/1	外面：ナデ 内面：ナデ	密　2.0㎜以下の白色・黒色砂粒、赤褐色粒子	外面：浅黄橙色～黄橙色 内面：浅黄橙色～黄橙色	良好	
29	K－10－a 暗褐色土b	土師器 高坏	－ △6.2	脚部の一部	外面：ハケメ後、全面赤色塗彩 内面：摩滅のため調整不明、軸芯痕あり	密　1.0㎜以下の白色砂粒・暗褐色粒子	外面：浅黄橙色～赤橙色 内面：浅黄橙色	良好	
30	M－10－d 暗褐色土b	土師器 高坏	※7.4 △3.5	脚部1/3	外面：ハケメ 内面：ナデ	密　1.5㎜以下の赤褐色砂粒、輝石・石英	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
31	K－12 暗褐色土b	土師器 鼓形器台	※18.0 △4.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.0～3.0㎜の長石	外面：橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色～黄橙色	良好	
32	K－11－c 暗褐色土b	土師器 甕	※14.3 △6.2	脚部1/10	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	密　1㎜以下の輝石、2㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
33	M－10－d 暗褐色土b	土師器 甕	※12.6 △6.2	口縁部～胴部上半1/7	外面：風化により調整不明 内面：ナデ	密　3.0㎜以下の白色砂礫・長石	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
34	L－11－b 暗褐色土b	土師器 甕	※17.0 △2.6	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜以下の灰色砂粒、0.5㎜の淡褐色粒子	外面：橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
35	L－11－b 暗褐色土b	土師器 甕	※17.3 △4.3	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
36	J－11－b 暗褐色土b	土師器 甕	※17.0 △4.4	口縁部1/4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5㎜以下の白色砂粒・赤褐色粒子・雲母	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
37	K－10－c 暗褐色土b	土師器 甕	※19.6 △4.4	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5㎜以下の灰色砂粒・白色砂粒	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
38	L－11－b 暗褐色土b	土師器 甕	※17.3 △4.0	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
39	K－12 暗褐色土b	土師器 甕	※17.8 △4.9	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜以下の灰色砂粒、1.5㎜の暗褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
40	L－10－b 暗褐色土b	土師器 甕	※25.8 △4.0	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.5㎜以下の灰色砂粒・長石・褐色粒子	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
41	K－10－a 暗褐色土b	土師器 甕	※24.0 △6.4	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜以下の白色砂粒・暗褐色粒子	外面： 内面：	良好	
42	L－10－b 暗褐色土b	土師器 甕	※28.0 △4.3	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜以下の長石、1.5㎜の灰色砂粒	外面：橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
43	K－8－a 暗褐色土b	土師器 甕	※21.0 △4.0	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の輝石・石英	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
44	K－7－b 暗褐色土b	土師器 甕	※31.3 △4.8	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の長石・雲母・淡褐色砂粒・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
45	K－8－b 暗褐色土b	土師器 甕	※23.3 △3.6	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の長石・白色砂粒・暗褐色粒子	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	良好	
46	L－8－d 暗褐色土b	土師器 甕	※30.9 △6.4	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の石英／白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
47	K－8－b 暗褐色土b	土師器 甕	※28.6 △4.8	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の長石、1.0㎜以下の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
48	L－8－a 暗褐色土b	土師器 甕	※28.1 △5.0	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の長石・白色砂粒・暗褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
49	J－11 暗褐色土b	土師器 甕	※25.5 △4.0	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.5㎜以下の白色砂粒灰色砂粒、0.5㎜の雲母	外面：にぶい橙 内面：褐灰	良好	
50	J－11 暗褐色土b	土師器 甕	※31.3 △6.5	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の長石、2.0㎜の赤褐色粒子・白色砂粒	外面：明黄褐色 内面：黄橙色	良好	
51	M－11－d 暗褐色土b	土師器 甕	※21.2 △4.0	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.5㎜の白色砂粒	外面：赤褐色 内面：赤褐色～褐灰色	良好	
52	L－10－b 暗褐色土b	土師器 甕	※28.5 △4.7	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の雲母・赤褐色粒子、1.0㎜の白色砂粒	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
53	J－11 暗褐色土b	土師器 甑？	※28.0 △7.6	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の長石・白色砂粒・赤褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色～褐灰色	良好	
54	L－8－a 暗褐色土b	土師器 甕	※40.6 △7.3	口縁部～胴部上半1/10	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0㎜の白色砂礫・長石・石英	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄橙色	良好	
55	K－12 暗褐色土b	土師器 甑	※17.0 △6.0	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～3.0㎜の長石	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
56	J－11－b 暗褐色土b	土師器 甕	－ △10.0	底部1/10	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　5.0㎜以下の白色・黒色砂粒、石英・輝石	外面：橙色 内面：浅黄橙色	良好	
57	L－10－c 暗褐色土b	土師器 甕	－ △9.6	焚口部1/5	外面：ナデ・ユビオサエ 内面：ナデ	密　2.0㎜以下の白色砂粒・石英・暗褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色～橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
58	L－9－d 暗褐色土b	土師器 甕	－ △10.9	棄口部 1/10	外面：ナデ・ユビオサエ 内面：ナデ・ユビオサエ	密　1.0mm以下の白色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
59	M－10－a 暗褐色土b	土師器 甑	－ △6.9	把手1/1	外面：手づくね成形・ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　2.0mm以下の白色砂粒、雲母・橙褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
60	L－10－b 暗褐色土b	土師器 甑	－ △6.7	把手1/1	外面：手づくね成形・ナデ 内面：摩滅のため、調整不明	密　2.0mm以下の白色砂粒・灰色砂粒・褐色粒子	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
61	M－10－b 暗褐色土b	土師器 甑	－ △9.4	把手1/1	外面：手づくね成形・ユビオサエ・ナデ 内面：摩滅のため、調整不明	密　2.0mm以下の灰色砂粒・暗褐色砂粒・雲母	外面：黄橙色 内面：橙色	良好	
62	J－11 暗褐色土b	土師器 甑	－ △6.0	把手1/1	外面：手づくね成形・ナデ 内面：摩滅のため、調整不明	密　1.5mmの白色砂粒・暗褐色砂粒・雲母	外面：浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
1	J－10－b 黒褐色	須恵器 坏蓋	※14.0 △4.3	1/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0～3.0mmの白色砂粒、1.0mm以下の灰色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
2	L－10－b 黒褐色	須恵器 坏蓋	※14.6 △14.5	1/3	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの黒褐色砂粒・黄褐色粒子・白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
3	K－10－a 黒褐色	須恵器 坏蓋	※12.0 △3.2	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの黒色粒子	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	
4	M－10－d 黒褐色	須恵器 坏蓋	－ △3.3	4/5	外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
5	L－12－b 黒褐色	須恵器 坏蓋	※15.0 △3.7	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	
6	K－10－a 黒褐色	須恵器 坏蓋	※11.0 △3.1	口縁部1/8	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒・石英	外面：灰白色 内面：灰色	堅緻	
7	L－9－c 黒褐色	須恵器 坏蓋	※12.9 △3.2	口縁部1/5	外面：天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.0mmの白色砂粒・黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色～灰黄色	堅緻	
8	L－8－d 黒褐色	須恵器 坏身	－ △2.7	1/2	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　2.0mm以下の白色砂粒、1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	
9	K－9－c 黒褐色	須恵器 坏身	※10.6 △4.0	口縁部1/8	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密　0.5mmの白色砂粒・黒色粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
10	K－10 黒褐色	須恵器 坏身	※9.6 △3.8	1/1	外面：回転ナデ、底部ヘラオコシ・ヘラギリ・ヘラ記号 内面：回転ナデ	密　1.0mm以下の灰色砂粒・黒褐色砂粒・石英	外面：灰色 内面：灰白色	堅緻	
11	L－11－c 黒褐色	須恵器 坏身	※10.1 △2.8	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
12	L－12－a 黒褐色	須恵器 坏身	※12.0 △2.8	口縁部～ 胴部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　0.5～1.0mmの白色砂粒	外面：紫灰色 内面：紫灰色	堅緻	
13	K－09－c 黒褐色	須恵器 高坏	13.2 9.0	3/4	外面：回転ナデ、脚部に三角形透かし穴1箇所・擬似透かし穴1箇所 内面：回転ナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	胎土分析No.43
14	K－9－b 黒褐色	須恵器 高坏	－ △6.8	脚部上半 1/2	外面：回転ナデ後、透かし孔穿孔、2条の沈線 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：青灰色 内面：青灰色	堅緻	長脚２段透孔の高坏とみられる
15	K－9－b 黒褐色	須恵器 高坏	－ △2.8	底部1/2	外面：坏底部回転ヘラケズリ、脚部回転ナデ後、透かし孔（長方形）穿孔 内面：回転ナデ	密　1.0mmの灰色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
16	L－9－c 黒褐色	須恵器 甕	－ △4.5	胴部1/6	外面：回転ナデ、胴部中位に2条の沈線を施し、その間に波状文 内面：回転ナデ	密　4.0mm以下の白色砂粒、1.0mmの黒斑状粒子	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	
17	L－7－d 黒褐色	須恵器 壺	－ △5.8	底部1/8	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ後、ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0～2.0mmの灰色砂粒・白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	堅緻	
18	L－9－a 黒褐色	須恵器 甕	※18.0 △15.6	口縁部～ 胴部1/4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部平行タタキ 内面：口縁部横ナデ、胴部同心円文	密　1.0mm以下の白色砂粒	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	胎土分析No.42 焼成があまく、土師質。
19	L－7－d 黒褐色	須恵器 壺	－ △11.9	胴部上半 1/10以下	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密　1.0mmの白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色～灰白色	堅緻	
20	K－6－b 黒褐色	須恵器 提瓶	※22.0 △15.2	脚部1/5	外面：カキメ 内面：ナデ	密　1mm以下の白色砂粒	外面：灰色 内面：灰色	堅緻	赤色塗彩あり
21	J－10－c 黒褐色	土師器 高坏	16.6 9.7	4/5	外面：摩滅のため、調整不明 内面：摩滅のため、調整不明	密　1.0mmの白色砂粒・赤褐色粒子・雲母	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
22	L－11－c 黒褐色	土師器 高坏	※11.5 △5.5	口縁部～ 胴部1/2	外面：風化のため調整不明 内面：風化のため調整不明	密　4.0mm以下の白色砂礫	外面：灰色～にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色～灰色	良好	
23	K－9－c 黒褐色	土師器 壺	※13.2 △4.6	口縁部～ 胴部1/3	外面：ナデ 内面：ナデ	密　0.5mmの赤褐色粒子、1.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色～にぶい黄橙色	良好	黒斑あり
24	L－9－c 黒褐色	土師器 高坏	※11.4 △4.5	脚部1/3	外面：ナデ 内面：ナデ	密　1mm以下の輝石・白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	赤色塗彩あり
25	L－10－b 黒褐色	土師器 高坏	※9.1 △4.9	脚部3/4	外面：ナデ、ハケメ 内面：指頭圧痕	密　1.0mmの白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙色～にぶい橙色 内面：橙色～にぶい橙色	良好	
26	K－11－c 黒褐色	土師器 脚付塊	※9.0 △5.6	脚部1/2	外面：ナデ 内面：ナデ	密　1mm以下の輝石・白色砂粒	外面：浅黄橙色～黄橙色 内面：浅黄橙色～黄橙色	良好	
27	K－9－a 黒褐色	土師器 脚付塊	－ △4.9	脚部3/5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5mmの雲母、1.0mmの白色砂粒・橙褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
28	K－11 黒褐色	土師器 脚付塊	－ △5.1	脚部1/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.5mm以下の白色砂粒、1.5mmの赤褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
29	L－9－b 黒褐色	土師器 脚付塊	－ △3.2	脚部3/5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒・石英	外面：明黄橙色 内面：黄橙色	良好	
30	L－9－b 黒褐色	土師器 高坏	－ △2.8	脚部2/3	外面：ヨコナデ・ハケメ後、赤色塗彩 内面：ヨコナデ	密　2.0～3.0mmの白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
31	L－10－c 黒褐色	土師器 脚付塊	－ △3.0	脚部1/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0mm以下の暗褐色粒子、0.5mmの白色砂粒	外面：明黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
32	M－10 黒褐色	土師器 甕	※17.6 △5.0	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	密　1mm以下の白色砂粒・雲母	外面：にぶい黄橙色～明黄橙色 内面：にぶい黄橙色～明黄褐色	良好	
33	M－10－b 黒褐色	土師器 甕	※12.7 △3.5	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0mm白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄色～にぶい黄褐色	良好	
34	L－8－a 黒褐色	土師器 甕	※19.2 △14.0	口縁部～ 胴部1/4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0mmの白色・灰色砂礫	外面：明黄褐色～橙色 内面：橙色	良好	
35	L－12－b 黒褐色	土師器 甕	※17.2 △3.8	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0mmの白色砂粒・赤褐色粒子・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
36	L－11－c 黒褐色	土師器 甕	※15.3 △4.2	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.0～3.0mmの灰色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
37	L－10－b 黒褐色	土師器 甕	※19.1 △8.7	口縁部 1/10	外面：口縁部ヨコナデ、胴部摩滅のため調整不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
38	L－8－a 黒褐色	土師器 甕	※16.3 △9.6	口縁部～ 胴部1/4	外面：口縁～胴上半ヨコナデ、胴下半ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0mmの白色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
39	L－8－a 黒褐色	土師器 甕	※16.6 △3.9	口縁部1/7	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～2.0mm以下の白色砂粒・灰色砂粒	外面：浅黄色 内面：浅黄橙色	良好	
40	L－11 黒褐色	土師器 甕	※16.0 △7.0	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～2.0mmの長石	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
41	L－9－b 黒褐色	土師器 甕	※16.8 △6.3	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5mmの白色砂粒・灰色砂粒・暗褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
42	L－10－c 黒褐色	土師器 甕	※18.2 △3.0	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0mmの白色砂粒・暗褐色粒子	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
43	K－9 黒褐色	土師器 甕	※20.5 △4.3	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0mmの白色砂粒、2.0mm以下の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
44	L－11－d 黒褐色	土師器 甕	※18.1 △4.4	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～2.0mm以下の白色砂粒	外面：浅黄色 内面：浅黄橙色	良好	

遺物No.	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
45	L－9－b 黒褐色	土師器 甕	※17.2 △3.2	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2.5mの石英、1.0㎜の赤褐色粒子・白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：橙色～にぶい黄橙色	良好	
46	L－12－c 黒褐色	土師器 甕	※20.1 △3.8	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～2.0㎜以下の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
47	E－15 黒褐色	土師器 甕	※18.0 △5.0	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　3.0㎜以下の白色砂礫・長石・石英	外面：橙色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
48	L－8－a 黒褐色	土師器 甕	※16.5 △4.6	口縁部1/3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5㎜の灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
49	L－8－a 黒褐色	土師器 甕	※17.9 △4.55	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　4.0㎜以下の白色砂礫	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
50	L－9－c 黒褐色	土師器 甕	※16.1 △3.6	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.5㎜灰色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
51	K－9－c 黒褐色	土師器 甕	※15.6 △5.65	口縁部～胴部上半1/6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ナデ、頸部指押さえ、胴部ケズリ	密　1.0㎜以下の白色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
52	M－11－b 黒褐色	土師器 甕	※13.0 △8.2	口縁部～胴部1/2	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
53	K－9－a 黒褐色	土師器 甕	※18.2 △12.7	胴部上半 1/4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の石英・輝石	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
54	K－9 黒褐色	土師器 甕	※9.7 △4.4	口縁部～胴部1/3	外面：ナデ？ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部指押さえ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0以下の白色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
55	M－11－b 黒褐色	土師器 甕	※13.6 △3.9	口縁部1/6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ	密　0.5～1.5㎜の灰色砂粒	外面：灰色 内面：浅黄橙色	良好	
56	M－11－b 黒褐色	土師器 甕	※13.5 △5.65	口縁部～胴部上半1/4	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　2㎜以下の白色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
57	M－11－b 黒褐色	土師器 甕	※15.5 △4.4	口縁部～胴部上半1/5	外面：ナデ 内面：口縁部ハケメ、胴部ヘラケズリ	密　2㎜以下の灰色砂粒・雲母	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
58	K－8－b 黒褐色	土師器 甕	※27.5 △4.9	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.5㎜以下の白色砂粒・淡褐色砂粒・輝石	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	良好	
59	L－11 黒褐色	土師器 甕	※26.0 △10.0	胴部1/5	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　2㎜の白色・灰色砂粒	外面：浅黄橙色～橙色 内面：浅黄橙色	良好	
60	M－11－a 黒褐色	土師器 甕	－ △3.0	胴部上半 1/10以下	外面：ハケメ、刺突文 内面：ヘラケズリ	密　1.0㎜の石英・白色砂粒	外面：橙色 内面：浅黄橙	良好	
61	M－11－b 黒褐色	土師器 甕	※17.1 △4.0	口縁部～胴部上半1/5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5㎜以下の灰色砂粒・赤褐色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
62	K－9－d 黒褐色	土師器 甕	※22.3 △5.5	口縁部 1/10	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　6.0㎜以下の白色砂・赤褐色粒子・灰色砂粒	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
63	K－9－c 黒褐色	土師器 甕	※18.7 △9.5	口縁部～胴部1/5	外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5㎜の白色砂粒・赤褐色砂粒	外面：橙色 内面：明赤褐色	良好	
64	K－9－d 黒褐色	土師器 甕	※28.3 △5.4	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0㎜の長石・暗褐色粒子・白色砂粒・雲母	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	良好	
65	K－9 黒褐色	土師器 甑	－ △8.0	底部1/7	外面：ハケメ 内面：摩滅のため、調整不明	密　1.0㎜の淡褐色砂粒・白色砂粒・暗褐色粒子	外面：にぶい浅黄橙色 内面：にぶい浅黄橙色	良好	
66	K－9－d 黒褐色	土師器 竈	長さ8.9 厚さ4.2	把手1/1	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	密　3.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：橙色～にぶい橙色 内面：橙色～にぶい橙色	良好	
67	K－6－b 黒褐色	土師器 竈	長さ6.6 厚さ3.2	把手1/1	外面：ナデ 内面：－	密　2.0㎜以下の白色粒子	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	
68	M－10－b 黒褐色	土師器 甑	－ △4.8	把手4/5	外面：手づくね成形・ナデ 内面：残存せず	密　0.5㎜の灰色砂粒・暗褐色砂粒	外面：橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
1	M－10・11 土器集中1	土師器 塊	※16.0 △5.7	口縁部～底部1/1	外面：口縁部ナデ、胴部は風化のため不明 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1～2㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
2	M－10・11 土器集中1	土師器 高坏	17.5 △6.2	坏部1/1	外面：ヨコナデ、ハケメ、全面赤色塗彩 内面：ヨコナデ、全面赤色塗彩	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：赤橙 内面：赤橙	良好	
3	M－11 土器集中1	土師器 高坏	－ 3.1	脚部1/4	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0～2.0㎜の長石・石英・輝石	外面：橙色 内面：橙色	良好	
4	M－10 土器集中1	土師器 脚付塊	※7.0 △3.0	脚部1/2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケケズリ	密　1㎜以下の輝石、2㎜の白色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
5	M－10 土器集中1	土師器 甕	※15.6 △17.7	口縁部～胴部1/2	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～5.0㎜の白色・灰色砂粒	外面：橙色～明黄褐色 内面：橙色～明黄褐色	良好	胴部煤付着
6	K－8－b 土器集中1	土師器 甕	※16.0 △16.1	口縁部～胴部1/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
7	M－10・11 土器集中1	土師器 甕	※19.6 △15.0	口縁部～胴部上半1/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～3.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
8	M－10 土器集中1	土師器 甕	※21.7 △6.1	口縁部～胴部1/4	外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.5㎜の白色砂粒・長石	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
9	M－10・11 土器集中1	土師器 甕	※19.8 △8.3	口縁部2/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　2.0～3.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
10	M－10・11 土器集中1	土師器 甕	23.4 18	口縁部～胴部1/2	外面：口縁部ヨコナデ、胴部は風化著しく不明 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　2㎜の白色・灰色砂粒	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
11	M－10 土器集中1	土師器 甕	※15.6 △17.4	口縁部～胴部下半1/3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の灰色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
12	M－10 土器集中1	土師器 甕	※21.0 △13.9	口縁部～胴部1/2	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密　3.0㎜以下の白色・灰色砂粒、赤褐色粒子	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
13	M－11 土器集中1	土師器 甕	－ △6.8	胴部上半 1/10	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：粗いナデ	密　1.0～2.0㎜の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
1	L－9 土器集中2	土師器 高坏	※14.8 △6.7	坏部1/1	外面：ヨコナデ、ハケメ 内面：ヨコナデ	密　1.0～2.0㎜の灰色砂粒・白色砂粒・雲母	外面：黄橙色 内面：にぶい橙色	良好	
3	L－9 土器集中2	土師器 脚付塊	※12.8 △8.3	口縁部～脚部1/3	外面：ナデ 内面：ナデ、脚部内面一部ハケメ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒・赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	
2	L－9 土器集中2	土師器 脚付塊	※13.0 △7.4	口縁部～脚部1/8	外面：ナデ 内面：ナデ	密　5.0㎜以下の赤褐色粒子・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
4	L－9 土器集中2	土師器 脚付塊	脚径7.6 △6.0	脚部1/1	外面：ヨコナデ、一部ヘラミガキ 内面：ナデ	密　2.0㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
5	L－9 土器集中2	土師器 坏	※14.0 △4.2	口縁部1/2	外面：ナデ 内面：ナデ	密　2.0～3.0㎜の白色砂粒	外面：黄橙色 内面：黄橙色	良好	
6	L－9 土器集中2	土師器 脚付塊	脚径7.2 △2.9	脚部1/1	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜の白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
7	L－9 土器集中2	土師器 甕	－ △8.7	胴部上半 1/6	外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　1.0～2.0㎜の灰色砂粒・白色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
1	K－10 土器集中3	須恵器 坏蓋	9.5 3.7	1/1	外面：回転ナデ、天井部ヘラオコシ後ヘラギリ 内面：回転ナデ後、静止ナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：灰色、口唇部は暗灰色 内面：灰色	堅緻	
2	K－10 土器集中3	土師器 脚付塊	脚径7.3 △4.0	脚部3/4	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	密　1.0㎜の白色砂粒・筒褐色粒子	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
3	K－10 土器集中3	土師器 脚付塊	※7.4 △4.2	脚部1/3	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒	外面：橙色～明黄褐色 内面：明黄褐色	良好	
4	K－10 土器集中3	土師器 甕	※18.2 △4.6	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2㎜以下の白色砂粒・灰色砂粒	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
5	K－10 土器集中3	土師器 甕	※16.8 △5.2	口縁部～胴部上半	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の灰色砂粒・暗赤褐色粒子	外面：橙色 内面：橙色	良好	

遺物№	遺構 層位	器種	口径(cm) 器高(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
6	K－10 土器集中３	土師器 甕	※17.4 △4.4	口縁部～胴部上半1/4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　1㎜白色砂粒	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色	良好	
7	K－10 土器集中３	土師器 甕	※18.0 △5.1	口縁部～胴部上半	外面：口縁部ナデ、胴部ハケメ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～4.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：橙色 内面：にぶい橙色	良好	
8	K－10 土器集中３	土師器 甕	※23.7 △5.9	口縁部～頸部1/6	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5㎜の白色砂粒	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色	良好	
9	K－10 土器集中３	土師器 甕	※30.0 △5.2	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　2～3㎜の白色・灰色砂粒	外面：橙色～灰黄褐色 内面：橙色～灰褐色	良好	
10	K－10 土器集中３	土師器 甕	※30.1 △7.1	口縁部～胴部上半1/10以下	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～1.0㎜の白色砂粒・暗褐色粒子	外面：にぶい橙色～褐色 内面：にぶい褐色～橙色	良好	
11	K－10 土器集中３	土師器 甕	※30.0 △3.5	口縁部 1/10以下	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	密　0.5～2.0㎜白色砂粒	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	良好	
12	K－10 土器集中３	土師器 甕	※36.0 △6.6	口縁部～胴部上半1/5	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～2.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒	外面：橙色 内面：橙色	良好	
13	k－10 土器集中３	土師器 甕	※23.8 △5.7	口縁部～胴部上半1/9	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	密　0.5～3.0㎜の白色砂粒・赤褐色粒子	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色～灰褐色	良好	黒斑を有する
14	K－10 土器集中３	土師器 甕	－ △3.7	底部	外面：ナデ 内面：ナデ	密　2㎜以下の白色砂粒	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
15	K－10 土器集中３	土師器 甕	－ △22.1	焚口部	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	密　3.0㎜以下の白色砂粒・赤褐色粒子	外面：灰黄褐色～にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色～にぶい黄橙色	良好	
16	K－10 土器集中３	土師器 甑	－ 5.9	把手1/1	外面：ナデ、ユビオサエ　工具痕あり 内面：	密　1.0㎜の白色砂粒・灰色砂粒・雲母	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
17	K－10 土器集中３	土師器 甑	－	把手1/1	外面：ナデ・ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・輝石・石英	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	
1	H－15 北区谷部	土師器 甕	－ △17.0	底部1/5	外面：ハケメ 内面：ハケメ後ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・石英・淡褐色砂粒	外面：浅黄色 内面：黒褐色	良好	
2	K－9 暗褐色土a～b	土師器 甕	－ △10.5	底部1/10	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	密　1.0㎜の白色砂粒・輝石・石英	外面：橙色 内面：橙色	良好	

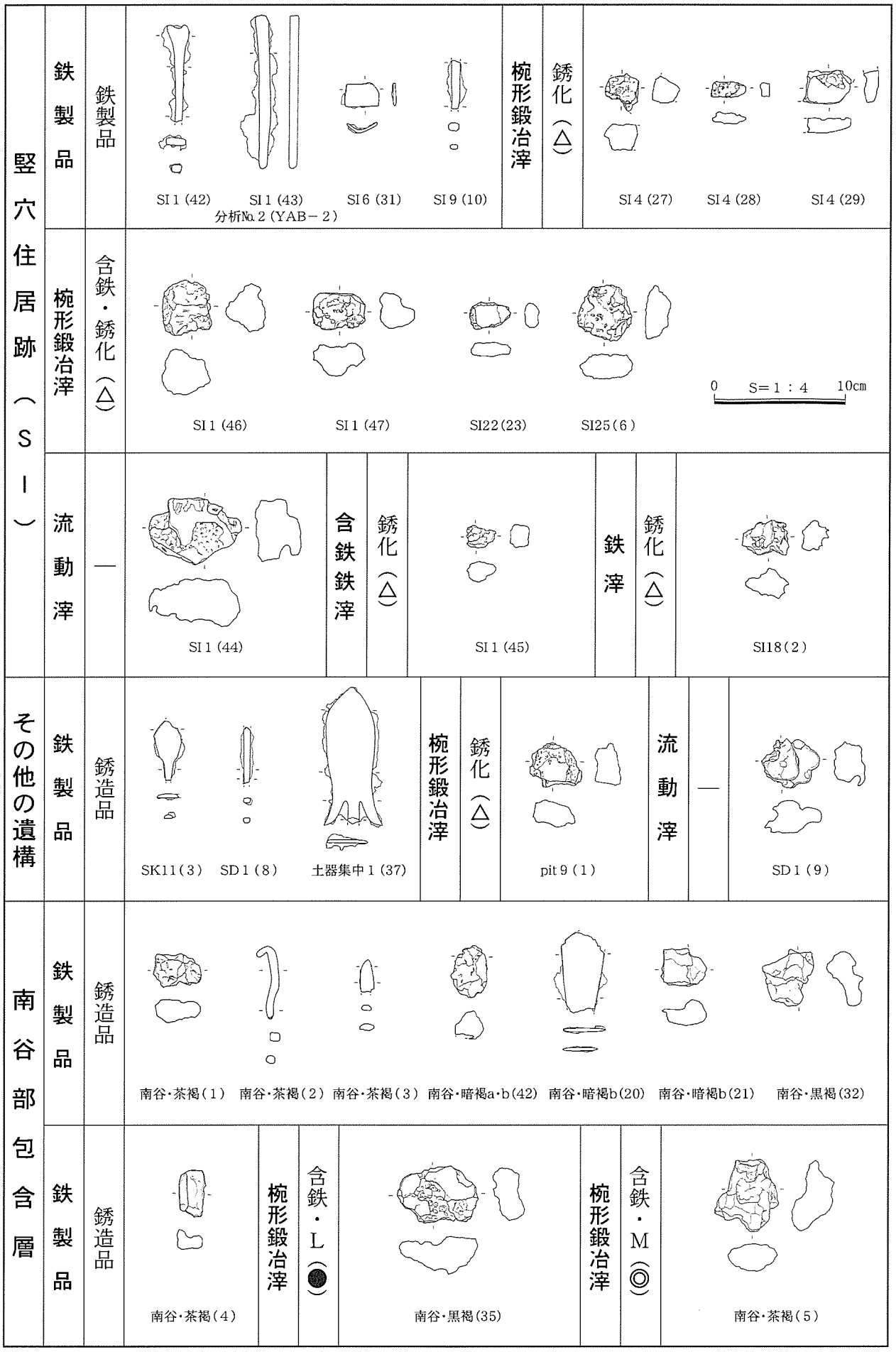
表66　南谷部包含層出土有孔土玉観察表

遺物№	遺構	層位	形態	高さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
14	M－9－d	茶褐色	管状	3.7	3.6	0.6	41.0	粗いナデ	0.5～1.5㎜石英・白色砂粒を含む	淡黄色	良好	
15	K－9	茶褐色	球状	3.2	3.2	0.5	27.8	ナデ	1㎜以下の白色砂粒を含む	にぶい黄色～黒褐色	良好	
16	K－9	茶褐色	球状	3.2	3.1	0.3	26.8	ナデ	1㎜の白色砂粒・輝石を含む	浅黄色～暗灰黄色	良好	
43	N－10－d	暗褐色a	球状	3.4	3.2	0.3	30.4	面取り後、ナデ	0.1㎜以下の輝石・白色砂粒を含む	にぶい黄色～暗灰黄色	良好	
63	K－7－d	暗褐色b	球状	△2.5	△1.2	不明	6.1	ナデ	1～2㎜の赤色砂粒を含む	にぶい黄橙色～褐灰色	良好	1/2欠損
64	M－10－b	暗褐色b	球状	3.2	3.5	0.6	30.8	丁寧なナデ	1㎜以下の白色砂粒・輝石を含む	にぶい黄橙色～褐灰色	良好	
65	K－9－d	暗褐色b	球状	3.2	3.5	0.3	37.0	ナデ	0.5㎜の石英・輝石を含む	にぶい黄色～暗黄褐色	良好	一部欠損
69	K－9	黒褐色	球状	2.3	3.3	不明	12.8	ナデ	0.5mm の輝石を含む	明褐色	良好	1/2欠損
70	K－9－d	黒褐色	球状	2.9	3.2	0.5	27.2	ナデ	0.5㎜の石英・輝石を含む	浅黄色～暗灰黄色	良好	
71	K－9－a	黒褐色	球状	3.0	3.4	0.4	32.6	粗いナデ	0.5㎜の白色砂礫を含む	暗黄灰色	良好	
72	K－9－a	黒褐色	球状	3.1	3.1	0.4	25.6	ナデ	0.5㎜白色砂粒・輝石を含む	浅黄色～暗灰黄色	良好	
73	K－9	黒褐色	球状	3.1	3.3	0.5	28.6	ナデ	0.5～1.0㎜白色砂粒・輝石を含む	にぶい黄色～暗灰黄色	良好	
74	K－9－c	黒褐色	球状	3.2	3.0	0.4	25.6	面取り後、ナデ	0.5㎜の輝石を含む	にぶい黄橙色	良好	
75	J－10－a	黒褐色	球状	3.2	3.2	0.5	30.0	丁寧なナデ	0.5㎜白色砂粒・石英を含む	淡黄色～黄灰色	良好	
76	K－9－c	黒褐色	球状	3.0	3.4	0.5		ナデ	0.5㎜の白色砂粒・輝石を含む	褐灰色	良好	
77	K－9－c	黒褐色	球状	3.0	3.0	0.4	23.2	面取り後、ナデ	0.5㎜の白色砂粒・輝石を含む	褐灰色	良好	
78	K－9－c	黒褐色	管状	2.3	3.5	0.5	29.8	ナデ	0.5㎜の白色砂粒・輝石を含む	浅黄橙色	良好	
79	M－11－a	黒褐色	管状	3.1	2.1	不明	20.2	ナデ	1.0㎜以下の白色砂粒を含む	暗黄灰黄色	良好	
80	K－9－c	黒褐色	球状	3.0	3.3	0.4	32.8	面取り後、ナデ	0.5㎜の白色砂粒含む	暗灰黄色	良好	
81	K－9－d	黒褐色	管状	2.8	3.0	0.5	26.6	面取り後、ナデ	1.0㎜の白色砂粒・輝石を含む	にぶい黄色	良好	
82	K－9	黒褐色	球状	2.3	△1.7	※0.6	12.8	ナデ	0.5mm の輝石を含む	暗黄灰色	良好	
83	K－9－d	黒褐色	管状	3.5	3.1	0.5	37.0	ナデ	0.5㎜の白色砂粒・輝石･石英を含む	明黄褐色	良好	
84	M－11－b	黒褐色	管状	3.9	2.9	0.5	39.2	面取り後、ナデ	0.5～1.0㎜の白色砂粒・雲母片を含む	にぶい黄色～暗灰黄色	良好	
8	土集ブロック2	黒褐色	球状	2.7	3.3	0.6	28.8	ナデ	1.0㎜の白色砂粒・石英･雲母を含む	浅黄色～暗黄灰色	良好	
18	土集ブロック3	黒褐色	球状	3.0	4.0	0.6	40.0	面取り後、ナデ	1.0㎜の白色砂粒・輝石を含む	暗灰黄色	良好	
3	D－14	撹乱	球状	3	3	0.6	29.6	面取り後、ナデ	1.0㎜の輝石を含む	浅黄橙色～黒褐色	良好	
4	J－11	撹乱	球状	△2.4	3.4	0.5	22.6	面取り後、ナデ	1.0㎜の輝石を含む	黒褐色	良好	
5	J－11	撹乱	管状	3.1	3.3	0.4	28.6	ナデ	1.0㎜の白色砂粒を含む	浅黄色	良好	
6	J－11	撹乱	管状	3.0	3.7	0.4	39.0	ナデ	1.0㎜の白色砂粒・輝石を含む	暗黄灰色	良好	
7	B－13	撹乱	管状	5.1	1.3	0.4	8.0	ナデ	1.0mm の白色砂粒・輝石を含む	明赤褐色	良好	
8	B－13	撹乱	管状	4.8	1.3	0.4	7.6	ナデ	1.0mm の白色砂粒・輝石を含む	明赤褐色	良好	
9	出土地点不明	不明	管状	4.2	1.0	0.4	3.8	ナデ	0.5mm の白色砂粒・輝石を含む	明赤褐色	良好	

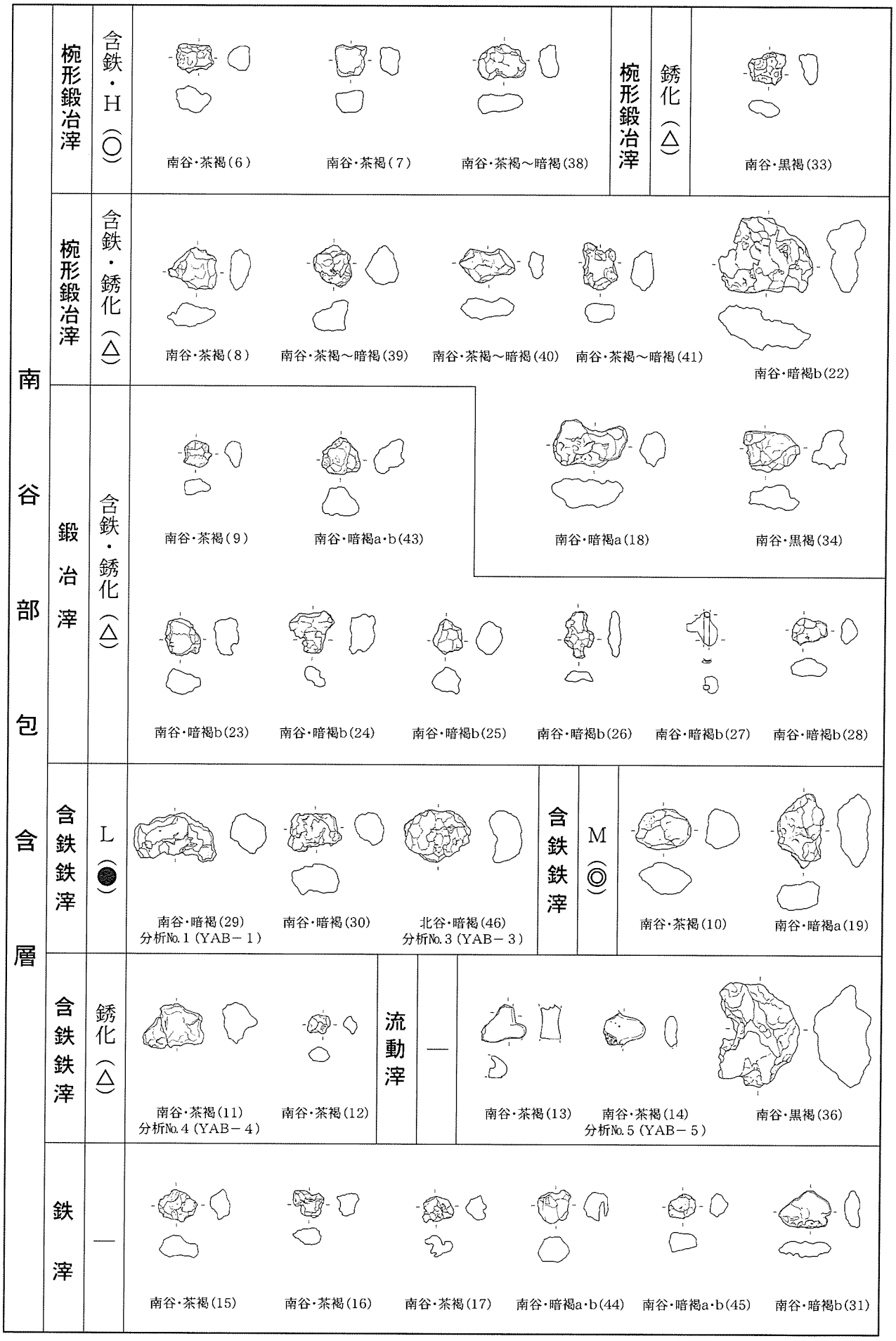
表67　南谷部包含層出土石器観察表

遺物№	出土位置	層位	器種	石材	法量				備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
40	I－10－b	暗褐色a	磨石	黒雲母角閃石安山岩	6.6	5.3	5.0	230.0	
41	L－12－c	暗褐色a	磨石	安山岩	△4.8	7.0	5.1	190.0	下面磨面
42	L－11－c	暗褐色a	磨石・敲石	安山岩	10.4	6.3	4.8	430.0	表・下面敲打痕
43	L－10－d	暗褐色a	敲石	安山岩	12.6	6.0	3.5	400.0	上・側・下面敲打痕
44	K－12－d	暗褐色a	砥石	流紋岩	9.3	4.6	3.6	161.0	砥面数3
66	M－10－c	暗褐色b	磨石	紫蘇輝石角閃石安山岩	7.2	6.0	5.7	290.0	
67	L－11－c	暗褐色b	磨石	石英安山岩(デイサイト)	9.2	8.1	6.7	630.0	
68	K－11	暗褐色b	磨石	石英安山岩(デイサイト)	10.8	7.9	6.9	710.0	
69	J－10－a	暗褐色b	敲石	黒雲母角閃石安山岩	17.7	6.2	4.0	670.0	上・側・下面敲打痕

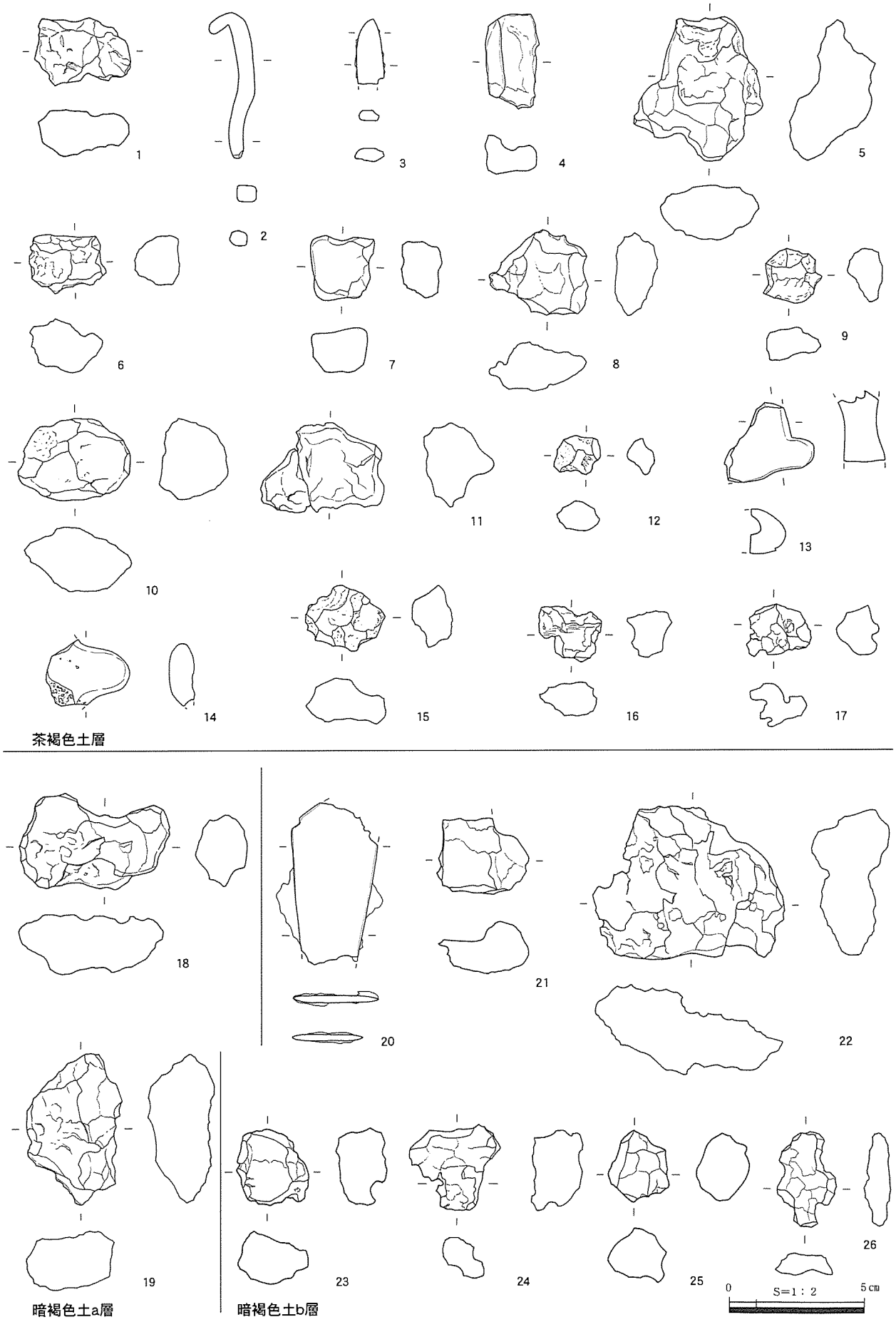
遺物No.	出土位置	層　位	器　種	石　材	法　量				備　　考
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	
70	K－10－a	暗褐色b	敲石	安山岩	12.9	7.1	3.9	520.0	表・裏・側面敲打痕
71	K－12	暗褐色b	敲石	安山岩	△10.0	6.0	4.7	440.0	下面敲打痕
72	K－5－d	暗褐色b	磨石・敲石	安山岩	8.0	7.4	6.0	410.0	表面敲打痕
73	J－12	暗褐色b	敲石	安山岩	14.2	7.6	4.6	680.0	下・側面敲打痕
74	K－7－b	暗褐色b	敲石	安山岩	12.6	10.0	5.8	950.0	上・下面敲打痕
75	M－10－a	暗褐色b	敲石	紫蘇輝石角閃石安山岩	△10.8	9.1	3.1	530.0	下・側面敲打痕
76	K－5－d	暗褐色b	磨石・敲石		8.0	7.4	6.0	410.0	
77	M・L－10	暗褐色b	台石	安山岩	△17.5	13.3	6.4	1860.0	
78	M・L－10	暗褐色b	台石	安山岩	△20.8	10.9	7.5	2650.0	
79	K－9－c	暗褐色b	台石	安山岩	△11.0	11.6	9.4	1410.0	表面擦痕
80	K－5－d	暗褐色b	砥石	角閃石安山岩	5.1	3.0	2.1	32.4	砥面数3
85	K－7－d	黒褐色	敲石	角閃石安山岩	15.9	13.5	5.0	1420.0	表・側面敲打痕
86	L－7－d	黒褐色	磨石・敲石	安山岩	6.8	5.0	4.5	180.0	下面剥離痕
87	L－8－a	黒褐色	敲石	安山岩	16.2	8.5	6.0	1060.0	表・裏・上・下面敲打痕
88	K－7－d	黒褐色	磨石	安山岩	4.7	4.3	4.0	100.0	
89	L－8－a	黒褐色	敲石	安山岩	△10.5	6.2	5.9	560.0	下面敲打痕
90	L－8－a	黒褐色	敲石	安山岩	△9.0	7.7	5.4	530.0	下面敲打痕
91	L－11－b	黒褐色	磨石・敲石	安山岩	5.7	5.5	4.5	140.0	下面剥離痕
92	K－9－b	黒褐色	敲石	安山岩	10.1	5.5	3.8	290.0	表裏・側・上下面敲打痕
93	K－9－d	黒褐色	敲石	安山岩	11.7	6.0	3.8	380.0	表・上・下面敲打痕
94	L－8－a	黒褐色	磨石	安山岩	10.5	9.0	6.7	860.0	側面磨面
95	L－12－b	黒褐色	砥石	流紋岩	10.9	4.8	5.7	330	砥面数2
96	J－10－b	黒褐色	砥石	アプライト	3.6	3.0	1.5	15.8	砥面数4
10	K－14	暗褐色	剥片	黒曜石	4.6	3.5	1.2	11.6	
11	J－10－b	黒褐色	剥片	黒曜石	5.6	3.6	1.1	18.0	
12	K－6－b	黒褐色	打製石斧	板状安山岩	18.3	9.1	3.6	543.0	
13	J－11	茶褐色	棒状石製品	安山岩	△6.7	2.8	2.7	70.5	下面磨面
14	J－10－b	黒褐色	礫石錘	安山岩	6.5	5.3	1.5	72.5	
14	土器集中ブロック1	黒褐色土	敲石	安山岩	15.4	6.2	5.2	730.0	下面敲打痕
15	土器集中ブロック1	黒褐色土	敲石	石英安山岩（デイサイト）	15.2	10.3	7.4	1520.0	表・裏・側面敲打痕
16	土器集中ブロック1	黒褐色土	台石	安山岩	24.3	20.3	7.0	5670.0	表面磨面
17	土器集中ブロック1	黒褐色土	台石	安山岩	21.0	15.2	7.2	2990.0	表面磨面
18	土器集中ブロック3	黒褐色土	敲石	安山岩	14.2	4.6	4.0	390.0	下面敲打痕
19	土器集中ブロック3	黒褐色土	敲石	紫蘇輝石角閃石安山岩	11.8	7.3	4.6	530.0	下面敲打痕
20	土器集中ブロック3	黒褐色土	磨石	紫蘇輝石角閃石安山岩	10.4	7.1	5.2	490.0	



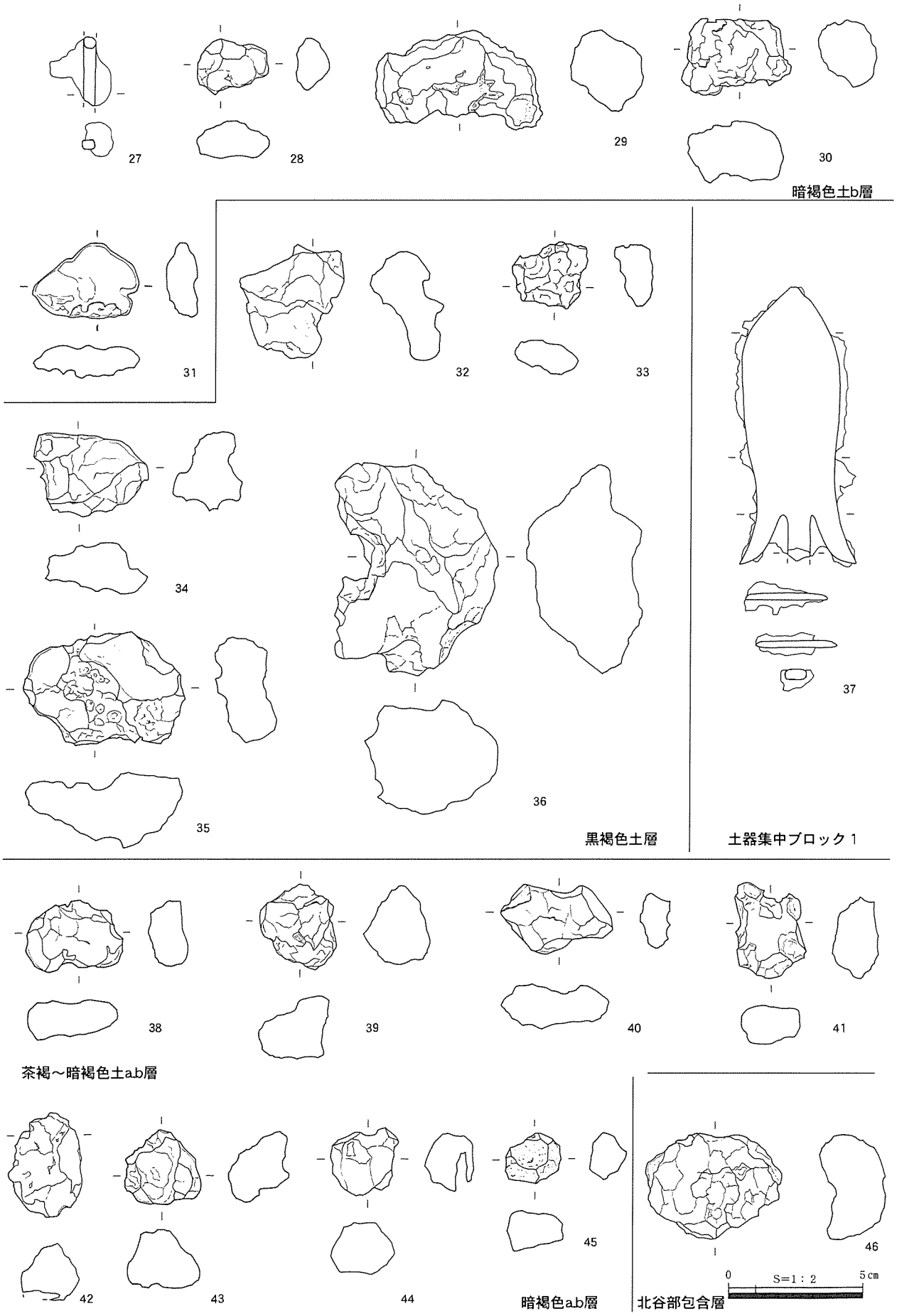
第137図　鉄関連遺物構成図 1



第138図　鉄関連遺物構成図２



第139図　南谷部包含層出土鉄製品・鉄滓（１）



第140図　南・北谷部包含層出土鉄製品・鉄滓（２）

第４節　鉄関連遺物

今回の発掘調査では、６～７世紀を中心とした遺物とともに鉄製品・鉄滓を多数確認した（第137～140図）。そのうち、鉄製品１点と鉄滓４点について理化学的な分析を行っている（第62表、第４章第１節）。なお、磁着度とは、５㎜単位の同心円の中心に鉄滓分類用の標準磁石を吊り下げ、資料との反応度を８段階で表示したものである。数値が大きいほど磁性が強い。またメタル度とは、埋蔵文化財専用の小型金属探知機（メタルチェッカー）を用いて金属鉄の残留の度合いを示したものである。低感度でも反応するＬ（●）からＭ（◎）・Ｈ（○）・錆化（△）までの４段階がある。

鉄製品には、頭折釘・鉄鏃のほか、棒状鉄製品や板状鉄製品などの用途不明品があり、そのほとんどは鍛造品である。ただし、南谷部の第Ｉ層（茶褐色土層）の４のみが鋳造品とみられるが、包含層最上層からの出土だけに後世の遺物が混入した可能性もある。

鉄滓には、椀形鍛冶滓・流動滓・鍛冶滓・含鉄鉄滓・鉄滓などがある。なお、含鉄鉄滓とは、製錬滓か精錬鍛冶滓かの断定が肉眼観察では難しいものをさす。本遺跡の鉄滓は、錆化したものを含めて含鉄の滓が６～７割を占め、単なる椀形鍛冶滓を含む滓群としては特異であり、小形ながらも精錬鍛冶滓的な印象を受けるとの指摘を受けた。また、SI１の44や南谷部第Ⅳ層（黒褐色土層）の36は、精錬鍛冶に伴う流動滓とみられる。さらに、含鉄鉄滓とされた南谷部出土のＹＡＢ－１（第140図－29）や北谷部出土のＹＡＢ－３（第140図46）は、金属学的調査の結果、製錬滓と推定されている（第４章第１節）。このことからも本遺跡では、最終工程の鍛錬鍛冶だけでなく、その前工程の製錬および精錬鍛冶で生成された鉄滓が含まれる可能性が高い。

埋土中から鉄滓が出土した住居跡には、SI１（八橋Ⅸ期）・SI４（八橋Ⅶ期）・SI18（八橋Ⅵ期）・SI22（八橋Ⅶ期）・SI25（八橋Ⅶ期）がある。またSI１では、棒状鉄製品２点とともに、椀形鍛冶滓２点、流動滓１点、含鉄鉄滓１点が含まれており、質・量ともに注目される。

このほか、中～近世に下る時期の鉄滓も存在する。例えばSD１出土の８、茶褐色土層の13・14は、精錬系の炉外流出滓とみられるが、いずれも表面が紫紅色で、地は黒褐色を呈する。こうした特徴は10世紀から15世紀にかけて一般的な特徴とされる。SD１や茶褐色土層では、古墳後期の土師器・須恵器の小破片だけでなく陶磁器が一定量含まれており、溝の掘削年代をうかがううえで参考となる。

今回、鉄滓が少なからず出土したにもかかわらず、鞴羽口や鍛造鉄片・炉・木炭窯などの関連遺物は確認できなかった。ただし、谷を隔てて隣接する別所中峯遺跡（赤碕町）では、精錬鍛冶工程終盤に生成されたとみられる椀形鍛冶滓や、伏焼式木炭窯のSK３（1300±40BP；AD660～790）・SK11（1280±40BP；AD660～810 or AD840～860）が出土している。こうした状況証拠から、八橋第8・9遺跡の周辺で７世紀頃から鉄生産活動が活発した可能性がある。今回出土した関連遺物も、周辺遺跡との関係で把握していく必要性を痛感する。（北島）

【参考文献】
藤尾慎一郎　2003「鉄と出会った日本列島の人々」『近世たたら製鉄の歴史』丸善プラネット株式会社
穴澤　義功　2003「古代製鉄に関する考古学的考察」『近世たたら製鉄の歴史』丸善プラネット株式会社
大野哲二ほか　2004『松谷中峯遺跡・別所中峰遺跡』鳥取県教育文化財団

表68　北・南谷部包含層出土鉄関連遺物観察表

遺物No.	出土地点	層位など	遺物種類		重さ	長さ	幅	厚さ	磁着度	メタル度	備考
1	南谷部	茶褐	鉄製品	鍛造品	12.8	2.5	3.1	1.7	1	錆化（△）	
2	南谷部	茶褐	鉄製品	鍛造品	12.4	5.6	頭幅　1.7 身幅　0.7	0.6	3	錆化（△）	
3	南谷部	茶褐	鉄製品	鍛造品	1.9	鏃身刃部 2.5	刃部幅 1.1	0.4～0.5	2	錆化（△）	
4	南谷部	茶褐	鉄製品	鍛造品	14.8	3.5	1.9	1.5	3	H（○）	
5	南谷部	茶褐	椀形鍛冶滓	含鉄・M（◎）	76.0	5.4	4.8	3.2	3	M（◎）	
6	南谷部	茶褐	椀形鍛冶滓	含鉄・H（○）	18.4	2.2	2.9	2.0	3	H（○）	
7	南谷部	茶褐	椀形鍛冶滓	含鉄・H（○）	19.8	2.4	2.4	1.7	3	H（○）	
8	南谷部	茶褐	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	24.4	3.2	3.6	1.8	3	錆化（△）	
9	南谷部	茶褐	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	5.9	2.0	2.2	1.3	2	錆化（△）	
10	南谷部	茶褐	含鉄鉄滓	M（◎）	49.2	3.0	4.2	2.6	4	M（◎）	
11	南谷部	茶褐	含鉄鉄滓	錆化（△）	91.0	5.1	4.0	2.5	6	錆化（△）	分析No.4（YAB－4）
12	南谷部	茶褐	含鉄鉄滓	錆化（△）	3.1	1.5	1.7	1.1	2	錆化（△）	
13	南谷部	茶褐	流動滓	－	14.0	3.0	3.3	1.6	1	なし	
14	南谷部	茶褐	流動滓	－	13.0	3.1	2.5	0.9	2	なし	分析No.5（YAB－5）
15	南谷部	茶褐	鉄滓	－	15.0	2.5	3.0	1.7	2	なし	
16	南谷部	茶褐	鉄滓	－	7.3	2.1	2.3	1.6	1	なし	
17	南谷部	茶褐	鉄滓	－	6.6	1.9	2.4	1.6	2	なし	
18	南谷部	暗褐a	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	56.0	3.6	5.6	2.2	3	錆化（△）	
19	南谷部	暗褐a	含鉄鉄滓	M（◎）	68.5	5.6	3.5	2.5	3	M（◎）	
20	南谷部	暗褐b	鉄製品	鍛造品	19.2	6.0	3.2	0.2～0.3	3	錆化（△）	
21	南谷部	暗褐b	鉄製品	鍛造品	15.0	2.8	3.4	1.9	2	錆化（△）	
22	南谷部	暗褐b	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	134.0	5.7	7.1	3.2	2	錆化（△）	
23	南谷部	暗褐b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	16.0	2.9	2.6	2.0	2	錆化（△）	
24	南谷部	暗褐b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	19.8	3.2	3.4	1.9	2	錆化（△）	
25	南谷部	暗褐b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	16.0	2.6	2.3	2.0	2	錆化（△）	
26	南谷部	暗褐b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	8.7	3.5	2.3	0.8	2	錆化（△）	
27	南谷部	暗褐b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	4.9	2.6	2.3 （軸幅0.4）	0.3	1	錆化（△）	
28	南谷部	暗褐b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	7.3	2.0	2.7	1.4	1	錆化（△）	
29	南谷部	暗褐b	含鉄鉄滓	L（●）	62.0	6.2	3.8	2.7	7	L（●）	分析No.1（YAB－1）
30	南谷部	暗褐b	含鉄鉄滓	L（●）	34.2	2.8	4.1	2.3	2	L（●）	
31	南谷部	暗褐b	鉄滓	錆化（△）	17.4	2.8	4.0	1.2	2	なし	
32	南谷部	黒褐	鉄製品	鍛造品	39.0	4.3	3.9	2.7	3	M（◎）	
33	南谷部	黒褐	椀形鍛冶滓	錆化（△）	9.3	2.5	2.8	1.5	1	なし	
34	南谷部	黒褐	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	28.8	3.1	4.2	2.5	2	錆化（△）	
35	南谷部	黒褐	椀形鍛冶滓	含鉄・L（●）	70.5	4.2	5.8	2.8	1	なし	
36	南谷部	黒褐	流動滓	－	246.0	7.8	6.1	4.2	1	なし	
37	南谷部	土器集中1	鉄製品	鍛造品	39.4	10.3	3.6	0.2～0.8	3	錆化（△）	
38	南谷部	茶褐～暗褐	椀形鍛冶滓	含鉄・H（○）	18.0	2.5	3.6	1.5	3	H（○）	
39	南谷部	茶褐～暗褐	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	23.4	3.2	2.7	2.4	2	M（◎）	
40	南谷部	茶褐～黒褐	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	23.6	2.6	4.2	1.6	3	M（◎）	
41	南谷部	茶褐～黒褐	椀形鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	19.4	3.6	2.6	1.7	3	H（○）	
42	南谷部	暗褐a・b	鉄製品	鍛造品	23.0	3.9	2.7	2.1	3	錆化（△）	
43	南谷部	暗褐a・b	鍛冶滓	含鉄・錆化（△）	14.4	2.8	2.9	2.2	2	錆化（△）	
44	南谷部	暗褐a・b	鉄滓	－	14.0	2.6	2.5	1.9	2	なし	
45	南谷部	暗褐a・b	鉄滓	－	8.0	1.9	2.1	1.5	1	なし	
46	北谷部	暗褐	含鉄鉄滓	L（●）	48.0	4.5	3.3	2.6	7	L（●）	分析No.3（YAB－3）
1	Ⅰ－12pit9	pit9埋土	椀形鍛冶滓	錆化（△）	45.4	3.2	3.9	2.0	1	なし	